SETSUNAN UNIVERSITY

SYLLABUS

2015 経営学部 授業計画

経営情報学科

経　営　学　部

（学部略号：I）

Faculty of Business Administration

経営情報学科

（学科略号：S）

Department of Business Administration and Information

経営学部　教育目標

社会や組織で活躍できる経営に関する知的専門職業人としての能力を身につけるとともに、幅広い教養と実践力をあわせ持ち、物事を科学的に考え行動できる人材を養成する。

経営学部　経営情報学科　教育目標

経営学部経営情報学科は、経営情報に関する幅広い知識・技術を身につけ、主体的に企業経営の一翼を担うことのできる人材を養成することを目的とする。

授　　業　　計　　画

科目名	担当者	ページ
ア		
アルゴリズムとデータ構造	牧野　純	11
イ		
インターネット概論	針尾大嗣	13
インターンシップ基礎	安久典宏	15
エ		
英語Ⅰa	籔井恵美子	209
英語Ⅰa	西谷継治	210
英語Ⅰa	山本尚子	211
英語Ⅰa	松木園久子	212
英語Ⅰb	大神雄一郎	214
英語Ⅰb	スミザース　理恵	215
英語Ⅰb	曽我直隆	217
英語Ⅰb	中野華子	219
英語Ⅰb	松木園久子	287
英語Ⅰc	籔井恵美子	220
英語Ⅰc	西谷継治	221
英語Ⅰc	山本尚子	222
英語Ⅰc	松木園久子	223
英語Ⅰd	大神雄一郎	225
英語Ⅰd	スミザース　理恵	226
英語Ⅰd	曽我直隆	227
英語Ⅰd	中野華子	229
英語Ⅱa	里井真理子	230
英語Ⅱa	谷脇康子	232
英語Ⅱa	山本尚子	233
英語Ⅱa	中本明子	234
英語Ⅱb	久田　歩	235
英語Ⅱb	抽冬紘和	236
英語Ⅱb	湊　由妃子	237
英語Ⅱb	松井信義	239
英語Ⅱc	里井真理子	240
英語Ⅱc	谷脇康子	242
英語Ⅱc	山本尚子	243
英語Ⅱc	中本明子	244
英語Ⅱd	久田　歩	245
英語Ⅱd	抽冬紘和	246
英語Ⅱd	湊　由妃子	247
英語Ⅱd	松井信義	249
英語基礎会話a	ダニエル　マリンズ	289
英語基礎会話b	ダニエル　マリンズ	291
英語コミュニケーションⅠ	瀧川宏樹	250
英語コミュニケーションⅡ	瀧川宏樹	251
英語で学ぶ工学入門（ものづくり編）	森脇俊道	293
演習Ⅰ	針尾大嗣	17
演習Ⅰ	黒澤敏朗	18
演習Ⅰ	樋口友紀	19
演習Ⅰ	堀井千夏	20
演習Ⅰ	久保貞也	21

科目名	担当者	ページ
演習Ⅰ	武居奈緒子	22
演習Ⅰ	栢木紀哉	23
演習Ⅰ	鶴坂貴恵	24
演習Ⅰ	山本圭三	25
演習Ⅰ	牧野幸志	26
演習Ⅱ	黒澤敏朗	27
演習Ⅱ	樋口友紀	28
演習Ⅱ	堀井千夏	29
演習Ⅱ	久保貞也	30
演習Ⅱ	武居奈緒子	31
演習Ⅱ	針尾大嗣	32
演習Ⅱ	栢木紀哉	33
演習Ⅱ	牧野　純	34
演習Ⅱ	山本圭三	35
演習Ⅱ	牧野幸志	36
エンプロイメントデザインⅠ	石井三恵	399
エンプロイメントデザインⅡ	石井三恵	401
オ		
応用情報処理Ⅰ	藤木健史	37
応用情報処理Ⅱ	藤木健史	38
応用簿記	竹内　淳	39
カ		
海外語学研修	齋藤安以子	252
会社法Ⅰ	高田尚彦	40
会社法Ⅱ	高田尚彦	41
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（A１）	柳沢　学	294
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（A２）	柳沢　学	295
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（C１）	頭井　洋	296
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（C２）	頭井　洋	298
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（E１）	鹿間信介	300
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（E２）	鹿間信介	302
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（M１）	諏訪晴彦	304
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（M２）	岸本直子	306
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（R１）	森山正和	308
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（R２）	竹村明久	310
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（V１）	芳本　忠	312
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（V２）	芳本　忠	314
キ		
企業者史Ⅰ	佐藤正志	42
企業者史Ⅱ	佐藤正志	43
企業簿記	石橋康男	44
企業立地論	内田勝巳	45
基礎演習	黒澤敏朗	46
基礎演習	牧野　純	47
基礎演習	久保貞也	48
基礎演習	牧野幸志	49
基礎演習	針尾大嗣	50
基礎演習	樋口友紀	51
基礎演習	鶴坂貴恵	52

科目名	担当者	ページ
基礎演習	安久典宏	53
北河内学－摂南大学と北河内を知る－	尾山廣	316
基本情報処理Ⅰ	栢木紀哉	54
基本情報処理Ⅱ	栢木紀哉	55
キャリアデザイン	安久典宏	56
キャリアデザイン	安久典宏	58
キャリアデザイン入門	安久典宏	60
キャリアデザイン入門	安久典宏	62
キャリアプラン	石井三恵 水野武 安久典宏 富岡直美	403
教育課程論	大野順子	423
教育経営論	朝日素明	425
教育原理	小山裕樹	427
教育実習Ⅰ	吉田佐治子	429
教育実習Ⅱ	吉田佐治子	430
教育実習Ⅲ	吉田佐治子	432
教職実践演習（中・高）	吉田佐治子	434
教育社会学	大野順子	436
教育心理学	吉田佐治子	438
教育相談	吉田佐治子	439
教育方法論	林茂樹	440
教師論	朝日素明	442
近代文学から学ぶ	橋本正俊	318

ク

科目名	担当者	ページ
くらしと経済	岩坪加紋	319
グローバル世界の倫理	濱良祐	320
グローバルビジネス	鈴木和巳	64

ケ

科目名	担当者	ページ
経営学	庭本佳子	65
経営学特講Ⅴ	仲秀樹	67
経営管理論	庭本佳子	68
経営情報システムⅠ	栢木紀哉	70
経営情報システムⅡ	栢木紀哉	71
経営情報システム論	栢木紀哉	72
経営統計学	栢木紀哉	74
経営統計学Ⅰ	栢木紀哉	75
経営とリスク	久保貞也	76
芸術の理解	中川馨	322
健康科学	藤林真美	323

コ

科目名	担当者	ページ
古典文学から学ぶ	橋本正俊	325
コミュニケーション能力開発	松田剛典	405
コンテンツビジネス	針尾大嗣	77
コンピュータ概論	久保貞也	79
コンピュータ概論	久保貞也 針尾大嗣	81
コンピュータサイエンス	牧野純	84
コンピュータシミュレーション	黒澤敏朗	86
コンピュータネットワーク	堀井千夏	87

サ

科目名	担当者	ページ
サービスマーケティング	萩原貞幸 坂元ますみ	88
サイバービジネスソリューションⅠ	針尾大嗣	90
サイバービジネスソリューションⅡ	針尾大嗣	92

シ

科目名	担当者	ページ
C言語プログラミング	牧野純	94
市場調査実習Ⅰ	山本圭三 樋口友紀 西岡暁廣	95
市場調査実習Ⅱ	山本圭三 樋口友紀 西岡暁廣	96
市場調査入門	金政芸	97
市場調査法	山本圭三	98
システム設計	星山幸子	99
自然科学Ⅰ	松浦哲郎	326
自然科学Ⅱ	竹内健治	327
社会学Ⅰ	山本圭三	328
社会学Ⅱ	山本圭三	329
社会科・公民科教育法Ⅰ	大野順子	444
社会科・公民科教育法Ⅱ	大野順子	446
社会科・地歴科教育法Ⅱ	井上正英	448
社会科・地歴科教育法Ⅰ	井上正英	449
社会と人権	有馬善一 林田敏子 松島裕一	330
就職実践基礎	亀田峻宣	332
就職実践基礎	西座由紀	333
就職実践基礎	橋本朗子	334
就職実践基礎	松田剛典	335
就職実践基礎	西座由紀	336
就職実践基礎	亀田峻宣	337
生涯スポーツ実習	横山喬之	253
生涯スポーツ実習	近藤潤	254
商業科教育法	河合隆廣	451
消費者行動論	武居奈緒子	100
消費者心理	牧野幸志	101
情報科教育法	栢木紀哉	453
情報産業論	谷川周次	102
情報社会論	山本圭三	104
情報と職業	北尾隆夫	105
情報と法	砂金伸一	107
情報ネットワーク	堀井千夏	108
情報法	砂金伸一	109
情報倫理	河俣英美	110
職業指導	水野武	455
職業指導Ⅰ	水野武	457

科目名	担当者	ページ
職業指導Ⅱ	水野　武	458
職業能力開発	福田市朗	111
職業能力開発論Ⅰ	福田市朗	113
職業能力開発論Ⅱ	福田市朗	115
人的資源管理論	羽石寛寿	117
心理学Ⅰ	山本雅代	338
心理学Ⅱ	山本雅代	339

ス

数学基礎Ⅰ	佐々木洋平	255
数学基礎Ⅰ	早石典史	256
数学基礎Ⅰ	安井幸則	257
数学基礎Ⅱ	佐々木洋平	258
数学基礎Ⅱ	早石典史	259
数学基礎Ⅱ	安井幸則	260
数的能力開発	亀田峻宣	406
数的能力開発	岩﨑飛鳥	407
数的能力開発	橋本朗子	408
数的能力開発	西座由紀	409
スポーツ科学実習Ⅰ	横山喬之	261
スポーツ科学実習Ⅱ	横山喬之	262
住まいとデザイン	大髙和香	341

セ

政治学概論Ⅰ	森　康一	342
政治学概論Ⅱ	森　康一	343
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野英一	344
生徒指導論	朝日素明	459
世界の歴史	村上司樹	345
専門基礎演習	黒澤敏朗	119
専門基礎演習	牧野　純	120
専門基礎演習	久保貞也	121
専門基礎演習	牧野幸志	122
専門基礎演習	針尾大嗣	123
専門基礎演習	樋口友紀	124
専門基礎演習	鶴坂貴恵	125
専門基礎演習	安久典宏	126
専門日本語ＦⅠ	中岡樹里	263
専門日本語ＦⅡ	中岡樹里	264

ソ

組織診断	福田市朗	127
組織調査法	山本圭三	129
卒業研究	黒澤敏朗	130
卒業研究	堀井千夏	131
卒業研究	久保貞也	132
卒業研究	武居奈緒子	133
卒業研究	針尾大嗣	134
卒業研究	栢木紀哉	135
卒業研究	牧野　純	136
卒業研究	山本圭三	137
卒業研究	牧野幸志	138

科目名	担当者	ページ
卒業研究	岩坪加紋	139
卒業研究	三木僚祐	140

タ

ダイバーシティとコミュニケーション	石井三恵	346

チ

地域連携教育活動Ⅰ	浅野英一	347
地域連携教育活動Ⅱ	浅野英一	348
チームビルディング	水野　武	349
地誌学	髙﨑章裕	350
知的財産管理論	西岡　泉	141
地理学Ⅰ	笠原俊則	352
地理学Ⅱ	笠原俊則	353

テ

哲学Ⅰ	島田喜行	355
哲学Ⅱ	濱　良祐	356
電子商取引	北尾隆夫	143

ト

道徳教育の研究	小山裕樹	460
特別活動の理論と方法	林　茂樹	462

ニ

日本語会話ＦⅠ	髙井美穂	265
日本語会話ＦⅡ	髙井美穂	266
日本国憲法	大仲淳介	358
日本語上級会話ＦⅠ	髙井美穂	360
日本語上級会話ＦⅡ	髙井美穂	361
日本語上級作文ＦⅠ	中岡樹里	362
日本語上級作文ＦⅡ	中岡樹里	363
日本語上級読解ＦⅠ	古川由理子	364
日本語上級読解ＦⅡ	古川由理子	365
日本語総合ＦⅠ	古川由理子	267
日本語総合ＦⅡ	古川由理子	268
日本語読解ＦⅠ	中岡樹里	269
日本語読解ＦⅡ	中岡樹里	270
日本語能力開発Ⅰ	上島誠司	410
日本語能力開発Ⅰ	髙嶋　藍	411
日本語能力開発Ⅰ	大石真由香	412
日本語能力開発Ⅱ	上島誠司	413
日本語能力開発Ⅱ	髙嶋　藍	414
日本語能力開発Ⅱ	大石真由香	415
日本語表現Ⅰ	上島誠司	366
日本語表現Ⅰ	髙嶋　藍	367
日本語表現Ⅰ	大石真由香	368
日本語表現Ⅱ	上島誠司	369
日本語表現Ⅱ	髙嶋　藍	370
日本語表現Ⅱ	大石真由香	371
日本語表現作文ＦⅠ	中岡樹里	271
日本語表現作文ＦⅡ	中岡樹里	272

科目名	担当者	ページ
日本語文法ＦⅠ	中岡樹里	273
日本語文法ＦⅡ	中岡樹里	274
日本事情ＦⅠ	門脇薫	275
日本事情ＦⅡ	門脇薫	276
日本の歴史	佐伯智広	372
ネ		
ネットビジネス構築演習	久保貞也	145
ネットワーク運用管理	堀井千夏	146
ネットワークプログラミング	堀井千夏	147
ハ		
犯罪被害者と法的救済	小野晃正	373
ヒ		
ビジネスIT演習	久保貞也	148
ビジネスイングリッシュⅠ	有本好一郎	277
ビジネスイングリッシュⅠ	梅田尋道	375
ビジネスイングリッシュⅡ	有本好一郎	278
ビジネスイングリッシュⅡ	梅田尋道	376
ビジネスインターンシップⅠ	安久典宏	149
ビジネスインターンシップⅡ	安久典宏	151
ビジネスゲーミング	福田市朗	153
ビジネスシミュレーション	黒澤敏朗	155
ビジネス情報処理Ⅰ	栢木紀哉	156
ビジネス情報処理Ⅰ	藤木健史	157
ビジネス情報処理Ⅱ	栢木紀哉	158
ビジネス情報処理Ⅱ	藤木健史	159
ビジネス数学	能勢豊一	160
ビジネス数学基礎	能勢豊一	162
ビジネス中国語基礎ａ	欒玉璽	279
ビジネス中国語基礎ｂ	大西紀	280
ビジネス中国語基礎ｃ	兪鳴蒙	281
ビジネス中国語基礎ｄ	大西紀	282
ビジネスデータ分析	針尾大嗣	164
ビジネスネットワーク管理	堀井千夏	166
ビジネスプラン	萩原貞幸	167
ビジネスマナー	富岡直美	377
ビジネスマナーⅠ	富岡直美	416
ビジネスマナーⅡ	石井三恵	418
フ		
武道論	横山喬之	379
ブランド戦略	鶴坂貴恵	168
プログラミング	牧野純	170
プロジェクトマネジメント	若松敏幸	171
文化人類学	西垣有	380
ヘ		
ベンチャービジネス論	安久典宏	172

科目名	担当者	ページ
ホ		
貿易実務	鈴木和巳	174
貿易と金融	杉本篤信	176
法学入門	小島俊朗	381
保健論	内部昭彦	283
マ		
マーケティング演習	鶴坂貴恵	177
マーケティングサイエンス	樋口友紀	178
マーケティングサイエンスⅠ	樋口友紀	179
マーケティングサイエンスⅡ	樋口友紀	180
マーケティング情報解析	樋口友紀	181
マーケティングと歴史	武居奈緒子	382
マーケティング論	武居奈緒子	182
マクロ経済学	杉本篤信	184
マネジメントサイエンス	黒澤敏朗	185
マネジメントサイエンスⅠ	黒澤敏朗	186
マルチメディア処理	堀井千夏	187
マルチメディア処理Ⅰ	堀井千夏	188
マルチメディア処理Ⅱ	堀井千夏	189
ミ		
ミクロ経済学	岩坪加紋	190
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中沼丈晃	383
民法Ⅰ	大川謙蔵	191
民法Ⅱ	大川謙蔵	193
メ		
メディア戦略論	針尾大嗣	195
モ		
ものづくりインターンシップ基礎	奥野竜平	385
ものづくりインターンシップ基礎	川野常夫	387
ものづくりインターンシップ実践	奥野竜平	388
ものづくり海外インターンシップ	川野常夫	390
ヤ		
役立つ金融知力	陸川富盛	392
リ		
リスクマネジメント	久保貞也	197
リテールマーケティング	武居奈緒子	198
流通システム論	若松敏幸	199
流通情報システム	若松敏幸	201
レ		
歴史学Ⅰ	佐伯智広	394
歴史学Ⅱ	村上司樹	395
ロ		
労働法Ⅰ	前田剛志	203

科目名	担当者	ページ
労働法Ⅱ	前　田　剛　志	205

専　　門　　科　　目

科目名	アルゴリズムとデータ構造	科目名（英文）	Algorithm and Data Structure
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野　純
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「プログラミング」の授業ではプログラミング言語の学習をしたが，それだけでは良いプログラムは作成できない。まず，対象となるデータをどう表現し，問題をどう解くのか，つまり，データ構造やアルゴリズムを決定しなければならない. この授業では，コンピュータの構造と動作について理解し，代表的なアルゴリズムやデータ構造について，C 言語による実際のプログラミングを通して理解する.
到達目標	コンピュータの中でデータがいかに表現され、処理されるかを理解する。 プログラミングにおいてアルゴリズムの選択がいかに重要かを理解する。
授業方法と留意点	内容の解説と演習による．欠席や遅刻は授業の理解を著しく妨げる. 「プログラミング」程度の C 言語の知識を仮定する.
科目学習の効果（資格）	基本情報技術者試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	・アルゴリズムとは ・データ構造とは ・C のデータ型 ・コンピュータを理解しよう	課題１
2	コンピュータの構成と動作	・コンピュータの構成 ・コンピュータの動作 ・ビットとデジタル化	課題２
3	２進法	・２進法 ・符号無し整数型 ・符号無し整数演算のオーバーフロー	課題３
4	２の補数表現	・符号付き整数型 ・２の補数表現 ・符号付き整数演算のオーバーフロー	課題４
5	浮動小数点法	・実数型 ・浮動小数点法 ・実数の表現誤差	課題５
6	乱数生成	・乱数とは ・C の標準乱数 ・線形合同法	課題６
7	計算量	・計算量とは ・0 記法 ・CPU 時間の測定	課題７
8	入出力	・入出力の切り替え ・データの入出力 ・文字の入出力 ・行の入出力	課題８
9	基本的な計算	・総和・カウント・平均値 ・最大値・最小値	課題９
10	探索	・線形探索法 ・二分探索法	課題１０
11	文字列の探索	・素朴な方法 ・ボイヤー・ムーア法	課題１１
12	単純なソート	・バブルソート ・単純選択ソート ・単純挿入ソート	課題１２
13	速いソート	・クイックソート ・マージソート	課題１３
14	スタックとキュー	・スタックとは ・配列を用いたスタック ・キューとは ・環状バッファを用いたキュー	課題１４
15	線形リスト	・線形リストとは ・構造体による線形リストの表現 ・線形リストの操作	課題１５

関連科目	この授業を履修する前に「プログラミング」の授業を修得しておくこと.

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中に課せられる課題の提出（５０％）と，随時実施する小テスト（５０％）で評価する.
学生へのメッセージ	アルゴリズムとデータ構造の，考え方と実際の手順を十分に理解した上で，実際にプログラムコードを作成してみます．理解なくしてプログラムを入力しても，ほとんど何も身に付かないでしょう．頭を働かせてアルゴリズムの面白さを味わいましょう.

担当者の研究室等	11 号館 7 階（牧野（純）教授室）
備考	

科目名	インターネット概論	科目名（英文）	Introduction to the Internet
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾　大嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	本講義では、現代ビジネスを支える重要な技術基盤であるインターネットの基本的な仕組みと実際のビジネスにおける活用事例について解説する。前半は、インターネットの歴史、産業の IT 化、中盤は、インターネット通信の仕組みと技術用語、後半は、インターネットを活用した企業のマーケティング事例について取り上げる。本講義の目的は、IT がこれからの企業経営に与える影響の大きさとその可能性を理解させることである。また 2 年次以降に履修する科目内容の基本的理解を可能とすることである。到達目標は、受講生が関心を持ったインターネットサービスの要素技術と仕組みについて基本的な解説が可能な知識を習得することである。
到達目標	・インターネットの歴史および基本的仕組みを説明できる。 ・現代マーケティングにおける情報通信技術の役割について説明できる。
授業方法と留意点	講義は、プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行う。定期的に小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	ＩＴパスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに重要な科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットが社会にもたらしたもの ・本講義の進め方	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
2	インターネットの歴史	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットの歴史	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	未来の情報社会	この回では、主に以下について解説する。 ・次世代情報通信技術	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	インターネットのサービス類型	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットを基盤とした各種サービス	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	インターネット･ビジネスの市場と動向	この回では、主に以下について解説する。 ・情報通信産業の規模，市場動向	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	マーケティングと IT（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・マーケティングとメディア ・これからのマーケティングと情報通信技術	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	マーケティングと IT（2）	前回の続きと中間テスト	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	インターネットの仕組み（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・コンピュータの基本構造 ・インターネットの基本的仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	インターネットの仕組み（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットの要素技術	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	モバイル通信の仕組み（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・移動体情報通信とは ・携帯電話で通話できる仕組み ・モバイルキャリア	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	モバイル通信の仕組み（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・無線 LAN ・データ通信 ・スマートフォン	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	ソーシャル・メディア（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・ソーシャルメディアサービスの事例紹介	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	ソーシャル・メディア（2）	の回では、主に以下について解説する。 ・ソーシャルメディアサービスの事例紹介	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	情報セキュリティ	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットのリスクと対策 ・情報セキュリティ技術各種	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

	15	まとめ	ーーーーーーーーーーーーーー	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

関連科目	コンピュータ概論、メディア戦略論、コンテンツビジネス

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間・期末テスト（80%）、小テスト・レポート（20%）で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	受け身の姿勢では何も身につきません。目的意識を持って積極的に講義に参加してください。
担当者の研究室等	１１号館７階（針尾准教授室）
備考	シラバスの内容については、受講生の理解の程度、関心に合わせて適時調整する。 【教職科目】教科に関する科目（高等学校　情報） 【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理（実習を含む。） 【履修区分】必修

科目名	インターンシップ基礎	科目名（英文）	Introduction to Internship
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安久　典宏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業概要：キャリアデザインの授業内容を基礎に、さらに自己理解や社会に対する見識を深めるためのキャリア形成科目です。 目　　的：企業の仕事現場や仕事に関連するミュージアムなどを見学（取材）することで仕事や社会に対する理解を深める。
到達目標	前期のキャリアデザインで学んだ自己理解をさらに深め、グループワークなどを通じて自ら発信できるコミュニケーション能力を高め、コンセンサスが取れる能力を養う。 インターンシップ体験について学ぶことで、社会に対する見聞をさらに広め、職業観を養う。
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的・自律的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れたものにする。
科目学習の効果（資格）	「ビジネスインターンシップⅡ」の就業体験を有意義に行うための基礎的な考え方や社会の理解を深めるのに役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 【9月15日】	・授業ガイダンス ・インターンシップとは	予習：インターンシップの意味を調べてきてください。 （安久、高尾）
2	SPI試験対策 【9月29】	・SPI模擬試験	予習：SPI試験の問題集などで事前に対策をしておいてください。 （安久、高尾）
3	コミュニケーション① 【10月6日】	・コミュニケーションの目的 ・「傾聴」とは	予習：「傾聴」の意味を調べてきてください。 （安久、高尾）
4	経営学部で有利な資格等を考える 【10月20日】	・資格の解説と対策講座の紹介 ・SPI模擬試験結果の解説	予習：自分が興味を持っている分野の仕事に役立つ資格が何があるかを考えてきてください。 （安久、高尾）
5	コミュニケーション② 【10月27日】	・第一印象について再確認 ・「伝え方」について考える	予習：相手に話をきちんと聞いてもらうためには、どんな点に配慮したらいいかを考えてきてください。 （安久、高尾）
6	コミュニケーション③ 【11月10日】	・「ロジックシンキング」とは ・「三角ロジック」とは	予習：「ロジックシンキング」の意味と、なぜ大切だといわれるのかを考えてきてください。 （安久、高尾）
7	コミュニケーション④ 【11月17日】	・グループごとのコンセンサストレーニング	予習：チームでコンセンサス（合意形成）を図るためには、どんなこと配慮しないといけないかを考えてきてください。 （安久、高尾）
8	社会人基礎力① 【11月24日】	・「社会人基礎力」とは ・働くことについて再確認	予習：「社会人基礎力」について調べてきてください。 （安久、高尾）
9	社会人基礎力② 【12月1日】	・社会人基礎力診断の実施 ・目標達成意欲度診断の実施	予習：自分にとって「社会人基礎力」のどの部分が足りないのかを考えてきてください。 （安久、高尾）
10	自己分析 【12月8日】	・自分自身の振り返り ・心の中にいる5人の私について考える	予習：自分の行動の癖（特性）を一言でいうと、どんなタイプなのかを考えてきてください。 （安久、高尾）
11	インターンシップ体験に備えて 【12月15日】	・インターンシップのスケジュールと内容について考える	予習：インターンシップの体験内容について調べてきてください。 （安久、高尾）
12	インターンシップ体験をした先輩に学ぶ 【12月22日】	・インターンシップを体験した先輩の報告（予定）	予習：インターンシップで何を学びたいかを考えてきてください。 （安久、高尾）
13	履歴書の書き方を学ぶ 【1月5日】	・履歴書の書き方のポイントを学ぶ ・自分の履歴書を書いてみる	予習：履歴書を見る立場になって、どんな点を注意してみるか（ポイント3つ）を考えてきてください。 （安久、高尾）
14	会社や見学（取材）先を探そう① 【1月12日】	・グループや個人で見学（取材）先を探してみよう ・見学（取材）計画を立てよう	予習：「工場見学」（昭文社）などの書籍から自分が見学したい事業所などをリストアップしてきてください。 （安久、高尾）
15	会社や見学（取材）先を探そう② 【1月19日】	・見学（取材）計画のまとめ ・見学（取材）計画書の提出	予習：電話でのアポの取り方などを考えてきてください。 （安久、高尾）

関連科目	・「キャリアデザイン（前期）」と「インターンシップ基礎（後期）」は通年でカリキュラム構成しているので、通年受講することが望ましい。 ・「ベンチャービジネス論」の講義は関連が深く、受講しておくことが社会に対する理解を深めることに役立ちます。 ・インターンシップの就業体験を希望する者は、「インターンシップ基礎」を履修（合格）しておくことが望ましい。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / キャリアデザイン / 安久典宏、羽石寛寿 / 清風出版 2 /	
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 /	
評価方法（基準）	原則、講義レポートの内容（50%）と定期期末試験結果（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	・毎回、講義レポートや提出物で授業の習熟度の確認をします。欠席をしないように。 ・グループワークを取り入れます積極的に参画し発言してください。 ・グループ学習などでは、他人に迷惑を（遅刻・欠席）をかけないように。 ・企業見学等は、授業終了後の補講・特別教育機関の間に実施予定です。 ・授業の進捗状況で一部内容や進め方を変更することがあります。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　安久研究室
備考	※補講・特別教育期間中（1 月 21 日木～27 日水）に見学（取材）計画書をもとに、各自行動すること。 ※報告レポートを 1 月 27 日（水）までに提出すること。

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	針尾　大嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	演習では、主に以下の２つの内容について学ぶ。 １．企業のマーケティング活動におけるメディア戦略 ２．コンピュータとデータ解析ソフトを使った消費者行動・心理情報の分析 これらの学習を通じて、インターネットや情報端末を使った企業の IT マーケティングに関する取り組み及びネットワーク技術に詳しくなり、同時に高度なデータ解析技術を習得していく。
到達目標	・メディア（特にソーシャルメディア）を用いた企業の競争戦略の基本的考え方を身につける。 ・代表的な多変量解析法およびそれらを活用したデータ分析力ならびに、そのための SPSS 操作方法を習得する。
授業方法と留意点	【すすめ方】 ・グループワークによる資料作成、発表が中心（グループ作業に必要な基本的設備については研究室にて準備） ・前半は、企業の WebCM を制作、後半は、メディア戦略理論の学習を行う。 ・他学年ゼミ生を含めた合同演習（年２回予定）とゼミ合宿を実施し、ゼミ学生間の交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	主に以下の内容に取り組む。 前期：ウェブ CM 制作と企業のウェブ戦略 後期：SPSS を用いた多変量解析 加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席状況、参加姿勢（発言，資料準備）、提出物
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	黒澤　敏朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ゼミでは「データに基づく合理的な経営・管理」を行うための種々の経営管理に関する技術・技法についての研究・教育を行います。これにはマーケティングや経営に役立つ各種ＩＴ技法も含まれます。 企業の活動でとくに重要なものは、付加価値をつける行動（オペレーション）のことで、ハードウェアの製造だけでなく、ソフトウェアや販売・物流・観光などの各種サービスやマーケティング機能も対象に含まれます。演習や卒業研究を通じて、このような活動を合理的に行い、ＩＴを活用した高い生産性をあげるためのさまざまな理論や手法を学び、企業で活躍できるための基礎力を養います。
到達目標	ＩＴを活用した高い生産性をあげるためのさまざまな理論や手法を理解し、企業で活躍できるための基礎力を身につけること。
授業方法と留意点	グループ対抗で「ビジネスゲーム」を１年間にわたり実施しますので、休まないようにしてください。長期休暇期間などに行う事業所や工場などの見学にも積極的に参加してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	２年次の演習では、まず経営活動の全体像を理解してもらうことに重点をおきます。具体的には、中規模・中程度の複雑さ・難しさの「ビジネスゲーム」をグループ対抗で１年間にわたり実施し、その結果を分析することで、経営に必要なさまざまな基礎知識に加えて集団意思決定や経営分析の方法を学びます。さらに、長期休暇期間などを活用して各種の事業所や工場などの見学も行います。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	まずは出席し、ビジネスゲームの意思決定に参加すること。次に、結果の分析を行い、発表すること。そして見学などを含んだ最終レポートを提出すること。以上の３つで総合的に評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館７階　黒澤教授室
備考	

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樋口　友紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本ゼミでは、マーケティングを基本的なテーマとして扱います。マーケティングの基礎知識を習得した後、マーケティング戦略についての考察や事例研究の実施に加え、マーケティングデータを用いた分析手法を習得します。その他、学生の希望によりテーマなどを選択し、適宜扱います。 ゼミでは学生の自主性を尊重します。講義中、講義外を問わず、やりたいことがある場合は積極的に意見するようにしてください。
到達目標	卒業論文作成時に必要となる、マーケティング及びマーケティング・リサーチ技術の習得を目指します。
授業方法と留意点	教科書の輪読とプレゼンテーションを中心に進めます。この期間に、マーケティングや、マーケティング・リサーチなどに関する基礎知識を習得してもらいます。ゼミ生中心にまとめ、発表をしてもらうことになりますので、出来る限り欠席は避けるようにしてください。 講義で使用する教科書、参考書は適宜指示します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本ゼミでは、マーケティングおよびマーケティング・リサーチをテーマとして扱います。 演習Ⅰでは、指示した教科書の輪読を中心に進めます。この期間に、マーケティングや、マーケティング・リサーチなどに関する基礎知識を習得してもらいます。ゼミ生中心にまとめや発表をしてもらうことになりますので、欠席を避け、発表などゼミ内で課した課題は必ず行うようにしてください。 また、講義内で、研究に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育します。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マーケティングリサーチの論理と技法　（後期に使用予定）	上田拓治	日本評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席率、授業態度、発表の内容などにより、総合的に判断します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　樋口研究室
備考	

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	堀井　千夏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	経営分野で活用する情報技術をテーマとして取り上げて演習を行っていく。　情報化社会で活躍するために必要な実践的な情報活用能力や技術を習得していくことが目的である。
到達目標	卒業論文の制作に向けて、その土台となる技術や知識を習得する。
授業方法と留意点	資料はPDFファイルで配布する。主に課題の演習やディスカッション形式で行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営分野における情報技術をテーマとして演習課題を与え、取り組んだ結果を議論する。主な授業内容は以下である。 (1) 情報化社会におけるインターネットの活用技術 (2) ネットビジネスを取り巻く情報技術の基礎知識 (3) 効果的なプレゼンテーション方法 加えて、情報処理分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	出席状況(100%)で評価する。ただし、授業への参加態度や演習課題が未提出な者、中間発表を行わない者については減点する場合も有る。
学生へのメッセージ	特に予備知識は必要としないが、理解に必要なことは授業で順を追って説明するので、毎回出席を心掛けて欲しい。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保　貞也
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。 演習Ⅰでは、プレゼンテーションの実習や、関連する文献の分析、文章作成のルールについて学ぶ。 演習 II の前半では、研究テーマに関する調査や課題設定、および、その解決策の検討や実習を行い、協調作業の重要性や研究活動の意義を学ぶ。
到達目標	演習Ⅰでは次の事柄を目標とします。 （1）興味のある事柄に関する情報収集を適切に行える （2）プレゼンテーションを時間通りに行える （3）自ら学習する目的を立てられる
授業方法と留意点	授業は学生参画型であり、予習・復習は必須である。自発的に学ぶ姿勢で出席すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期は、経営情報全般、プログラミング、TeX、プレゼンテーションなどについてゼミ生自らが参考書を選び学習する。後期は、研究という行為がどのようなものなのか、議論とはどのようになされるのかについて学ぶために、各自が演習Ⅰで発表するテーマについて選定する。テーマは､「経営」か「情報」に関るものとする。発表は、原則として前期１回、後期１回、計２回おこなう。発表に際しては、Ａ４用紙２枚のレジュメを準備する。レジュメは、TeX を用いて作成するものとし、事前に、文章チェックを受ける。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習中の発表内容、議論での積極性と内容を中心に評価する。 発表内容 70%、その他 30%
学生へのメッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。
担当者の研究室等	久保准教授室（11 号館 7 階）
備考	

専門科目

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	武居　奈緒子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	近年の成熟市場環境下における企業間競争の激化によって、マーケティングの重要性がますます高まっています。この演習では、企業の存続・成長にとって必要不可欠なマーケティングについて研究します。マーケティングは、身近な学問なので、どこからでも課題の研究が始められます。この演習を通じて、マーケティングの基本的知識とマーケティングを学ぶことの楽しさを理解してもらいたいと思います。
到達目標	マーケティングの理論と実践面での活用を目指します。
授業方法と留意点	演習で与えられた問題・課題について、真摯に取り組み、充実した大学生活にしていきましょう。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	マーケティング、マーケティングの基本的概念について学習します。ケーススタディのアプローチ。 ゼミで与えられた課題には、真摯に取り組むように。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度、授業への参加度・貢献度などにより総合的に評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高度情報化社会と言われる社会への ICT（情報通信技術）の積極的な導入によって、産業や生活環境がどのように変化してきたのかを考え、これからの IT の在り方について探っていく。コンピュータやインターネットに代表される ICT が、生活のあらゆる場面で取り入れられるようになり、生活が豊かになるとともに、情報セキュリティなどの新たな課題も生じてきている。ICT の良い点・悪い点を理解した上で、社会の様々な分野でどのように取り入れられ活用されているのかを学びながら、新しい活用の可能性を見出していく。
到達目標	経営情報学の分野に関連する文献や資料を使ったゼミでの活動を通して、基礎的な知識・技術の習得を目指す。また、プログラム課題の制作を通して、プログラミングに求められる論理的思考ができるようになることを目指す。 ゼミ活動に積極的に参加することはもちろん、他のゼミ生と積極的に討論する姿勢を身につける。
授業方法と留意点	主にパソコンを使った実習形式で進めて行く。同じゼミに属する学生同士でグループを作って、他のゼミ生と協力しながら講義や実習で学んだことの理解を深める。活動としては、経営情報学の分野に関係のある文献や資料を読みながら、文章を読み解く力、まとめ上げる力の習得を目指すとともに、プレゼンテーションを通して、高いコミュニケーション能力を身につけることを目指す。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営情報学の分野に関連した文献や資料を読みながら、文章を読み解く力、考えをまとめる力の習得を目指すとともに、プログラム課題の制作やプレゼンテーションを通して ICT に関する基礎的な技能を身につける。 週 1 回のゼミの時間だけでなく、各自で自習学習を進めるのはもちろんのこと、他のゼミ生と協力しながら作業することも必要になる。また、工場見学などの学外での活動では、他のゼミ生と協力しながら計画の実現を目指す。 加えて、経営情報学の分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。
関連科目	演習Ⅱ、卒業研究

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート課題、プログラム課題、作成した Web ページ等（50%）、演習への参加状況（50%） 演習が中心となるため、欠席・遅刻は演習内容や成績評価に影響する。
学生へのメッセージ	ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。技能の習得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（栢木准教授室）
備考	教科書や参考書については、演習の中で適宜紹介する。 必要に応じて書籍を購入してもらう場合がある。

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	鶴坂　貴恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	マーケティングのゼミである. マーケティングの基礎的知識をしっかりと身に着けることが大切であり、その定着を目指す。 そのために、フィールドワークを行い、課題発見、解決方法の策定、実行などに取り組んでもらい、マーケティングの知識の不足部分を補ってもらう。 これらを通じて、マーケティング的な視点で事象をとらえることができることを目的とする。 さらに学生自らが主体的にゼミを運営することでポジティブな姿勢を身に着けることを目的とする。
到達目標	マーケティングの基礎的知識がしっかりと身につく。 フィールドワークを通じて、マーケティングの知識を応用できる力が身につく。 チームで活動することで、自分の役割を認識し果たすことで、チームの成果を最大化する力が身に付く。 コミュニケーション能力の向上を図り、主体性が身に付く。
授業方法と留意点	講義と実習，レポーターによる発表とそれに対する質疑応答の両形式で進める.
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	[授業テーマ] マーケティング論の定着と応用 [内容] ゼミとしてのチームビルディングを行い、相互理解や自己理解・他者への配慮の大切さを学ぶ。 グループごとの作業を通じ、チームで目的を達成することの実際を体験し、その重要性を学ぶ。 マーケティングの基礎的な知識を課題を通じて検討する。 フィールドワークを通じて、マーケティング課題の把握と解決策の構築等を行う。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常の取組姿勢、学習状況，報告内容，レポートなどにより総合的に評価する.
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 基本チームで動きますので、欠席をするとほかのメンバーに迷惑がかかります。そのためには必ずゼミやゼミで取り組むことには参加をしてください。 ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。 さらにチームのなかのひとりに負担が偏らないように、他者への配慮を忘れず自分の役割を果たすことを心掛けてください。 これらができないと、ゼミ自体の運営に支障をきたしますので、自覚の上、授業を受けてください。

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	山本　圭三
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本ゼミでは、大きく２つのテーマに沿って学習していく。１つは「仕事、労働、職業を主題とした社会学的研究」である。なぜ人は働くのか、働くことは人々にとってどのような意味をもつのか、などについてじっくり考えていく。もう１つは「社会調査に関わる種々の知識・技術」である。様々な場面で求められる「調査」の能力の獲得を目指す。
到達目標	正確な知識に基づき、論理的な思考ができる。物事を多面的に理解し豊かな発想で議論できる。
授業方法と留意点	テキスト等の読解（要約の報告、それをもとにした全体での議論） データ収集や分析の実習 論文やレポートの書き方についての指導 学生の希望があれば学外でのフィールドワークも設ける
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【テーマ・内容】 社会学一般および社会調査の基礎知識 今後の研究の土台となる知識の獲得を目指す。 【方法】 担当者による報告、全体での議論 【事前・事後課題】 適宜指示する 【補足】 演習内では、社会科学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況（出席、発言、資料）50%、提出物 50%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	「物事をじっくり考える」姿勢をもち、積極的に参加してほしい。

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野　幸志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理を学ぶゼミである。演習Ⅰでは，基本的な心理学の知識を身につける。教科書の内容をまとめて，発表しながら担当者と一緒に演習を行う。経営に関する消費者心理，組織の中の人間関係などの基礎を学ぶことを目的とする。
到達目標	経営における心理の基礎知識を身につけ，心理学の研究法について学ぶ。その後，自分自身でテーマを探し，心理学の研究手法を身につける。
授業方法と留意点	演習Ⅰでは，心理学の基礎知識を身につける。前期は心理学の概論書を使って担当者と一緒に演習を行う。演習の方法は，毎回担当者が PP による資料を作成し，発表を行う。後期は専門書の内容をまとめて PP で発表を行なう。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ・内容：社会における人間関係と消費者心理について 方法：担当者がパワーポイントを用いてプレゼンを行う。 事前・事後課題：事前に予習，事後に復習をする。 さらに，心理学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ，指導・教育する。
関連科目	「消費者心理」を受講しておくことが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミニマムエッセンス社会心理学	和田実	北大路書房
2	男と女の対人心理学	和田実	北大路書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習中の発表(50%)，授業態度(20%)，発表課題(30%)の評価などで総合的に判断する。
学生へのメッセージ	演習Ⅰには必ず出席し，積極的に発言すること。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　牧野(幸)准教授室
備考	牧野(幸)ゼミは，経営学部で心理学を学ぶゼミである。特別な情報の技術(プログラミングなど)は必要としないが，確率統計の知識は必要となる。また，プレゼンテーションを行うことが多いため，Word，Excel，PowerPoint などが普通に使える必要がある。何よりも人としての心理を大切にするゼミであるので，“あいさつをする，時間を守る，約束を守る，授業中私語をしない，寝ない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	黒澤　敏朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ゼミでは「データに基づく合理的な経営・管理」を行うための種々の経営管理に関する技術・技法についての研究・教育を行います。これにはマーケティングや経営に役立つ各種ＩＴ技法も含まれます。 企業の活動でとくに重要なものは、付加価値をつける行動（オペレーション）のことで、ハードウェアの製造だけでなく、ソフトウェアや販売・物流・観光などの各種サービスやマーケティング機能も対象に含まれます。演習や卒業研究を通じて、このような活動を合理的に行い、ＩＴを活用した高い生産性をあげるためのさまざまな理論や手法を学び、企業で活躍できるための基礎力を養います。
到達目標	ＩＴを活用した高い生産性をあげるためのさまざまな理論や手法を理解し、企業で活躍できるための基礎力を身につけること。
授業方法と留意点	３年次のゼミでは、個人あるいはグループで、マーケティング機能やＩＴ技術を活用した「企業の付加価値創造のプロセス」について調査し、順次発表するというステップを１年間にわたり実施します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	３年次の演習では、個人あるいはグループごとに対象となる企業数社を選び、それらの企業のマーケティング機能やＩＴ技術を活用した「付加価値創造のプロセス」について調査し、順次発表するというステップを１年間にわたり実施します。それらを通じて生産やサービスのマネジメントに関わるさまざまな知識や方法を学びます。さらに、キャリア形成に向けて、長期休暇期間などを活用して各種の事業所や工場などの見学も行います。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	まずは調査・研究し、その結果を発表することが必要です。そして見学などを含んだ最終レポートを提出することとあわせて総合的に評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館７階　黒澤教授室
備考	

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樋口　友紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本ゼミでは、マーケティングを基本的なテーマとして扱います。 前期では演習Ⅰで習得したマーケティング及びマーケティング・リサーチに関する知識を元に、実際にデータを用いた分析手法を習得していきます。 また、後期には各自卒業論文のテーマを決定し、それに基づいた学習、データ分析などを実施する予定です。 その他、学生の希望によりテーマなどを選択し、適宜扱います。
到達目標	卒業論文作成時に必要となる、マーケティング及びマーケティング・リサーチ技術の習得を目指します。 また、卒業論文の完成に向け、適宜必要な知識を学びます。
授業方法と留意点	ゼミ生を中心として、教科書のまとめ・発表・演習を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにしてください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本ゼミでは、マーケティングおよびマーケティング・リサーチをテーマとして扱います。 演習Ⅱでは、演習Ⅰにて習得した知識を基に、データの分析方法を習得します。前半では、パソコン演習を通してデータ分析方法を学びます。 また、後半からは各自卒業論文のテーマを選定し、その構成を詰めながら必要なデータを収集してゆきます。 随時ゼミ生中心にまとめや発表を行いますので、欠席を避け、発表などゼミ内で課した課題は必ず行うようにしてください。 また、研究に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも、引き続き努めます。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / SPSS でやさしく学ぶアンケート処理　第４版 / 石村 貞夫 / 東京図書 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	出席率、授業態度、発表の内容などにより、総合的に判断します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	堀井　千夏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	21 世紀は、コンピュータとインターネットを始めとするＩＴ（情報技術）が 社会活動全般にわたって革命的な変化を起す時代である。このＩＴ時代の実社会で活躍するには「情報リテラシー(情報活用能力)」を磨くことが必要不可欠である。本演習では、実践に向けた情報活用能力を養うための情報技術や理論を習得する。ここでいう情報活用能力とは、情報機器を操作する能力だけでなく、情報ネットワークを活用して必要な情報を効率よく収集・整理・加工・管理・伝達し、さらには新たな情報を発信する能力を指す。
到達目標	卒業論文の制作に向けて、その土台となる技術や知識を習得する。
授業方法と留意点	資料は PDF ファイルで配布する。主に課題の演習やディスカッション形式で行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営分野における情報技術をテーマとして演習課題を与え、取り組んだ結果を議論する。主な授業内容は以下である。 (1) ネットビジネスのプランニングと試作システム (2) インターネットと WEB 統合技術 (3) コンピュータネットワークの基礎知識 加えて、情報処理分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席状況(100%)で評価する。ただし、授業への参加態度や演習課題が未提出な者、中間発表を行わない者については減点する場合も有る。
学生へのメッセージ	特に予備知識は必要としないが、理解に必要なことは授業で順を追って説明するので、毎回出席を心掛けて欲しい。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保　貞也
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。 演習 II の前半では、研究テーマに関する調査や課題設定、および、その解決策の検討や実習を行い、協調作業の重要性や研究活動の意義を学ぶ。 日頃から経営や情報に関する情報収集に努め、ディスカッションでの発言を増やすことが重要である。 後半は、前半の経験を活かして、さらなる研究テーマの追究と卒業研究の準備として必要な調査、議論を行う。
到達目標	演習 II での目標は以下のとおりです。 （1）正確な意見表明ができる文章能力の修得 （2）社会貢献を意識した課題の設定 （3）研究倫理の必要性の理解
授業方法と留意点	地域での実践や外部の評価を受けることを念頭に置いて、調査活動や製作活動を行う。また、活動の内容を正確に伝えるための文章力やプレゼンテーション能力の充実を図る。 卒業研究のテーマにつなげる学習を展開し、専門科目への興味を高めることも目的に含まれる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	演習 II では、卒業研究で取り扱うテーマを選定したり、実践的な課題に挑戦するための技術的な学習のためにグループによる輪読やプログラミング実習、および、発表を前半で行う。研究の技術を身に付けた上で、卒業研究を遂行するために必要となる専門知識の修得を目指す。後半は、個人、グループにわかれて、卒業研究のテーマを選定し、研究の背景・意義・計画について、発表、議論を行う。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	演習中の発表内容、議論での積極性と内容を中心に評価する。 発表内容や活動内容 70%、その他 30%
学生へのメッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。
担当者の研究室等	久保准教授室（11 号館 7 階）
備考	

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	武居　奈緒子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	マーケティングについて、理論面と実態面の両側面から理解を深めることを目的とする。２回生で習得した専門用語、概念をさらに深化させていくとともに、実態分析にも力をそそいでいく。
到達目標	マーケティングの応用面での知識を深めていくことを目指します。
授業方法と留意点	演習で与えられた問題・課題について、真摯に取り組み、充実した大学生活にしていきましょう。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	マーケティング、企業の成功要因について分析します。ケーススタディのアプローチ。 ゼミで与えられた課題には、真摯に取り組むように。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度、授業への参加度・貢献度などにより総合的に評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	針尾　大嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	演習では、主に以下の２つの内容について学ぶ。 １．企業のマーケティング活動におけるメディア戦略 ２．コンピュータとデータ解析ソフトを使った消費者行動・心理情報の分析 これらの学習を通じて、インターネットや情報端末を使った企業の IT マーケティングに関する取り組み及びネットワーク技術に詳しくなり、同時に高度なデータ解析技術を習得していく。
到達目標	・それぞれの関心業界における企業のメディア戦略について説明できる ・卒業研究テーマの設定と方法を明確にする
授業方法と留意点	【すすめ方】 ・グループワークによる資料作成、発表が中心（グループ作業に必要な基本的設備については研究室にて準備） ・前半は、企業の WebCM を制作、後半は、メディア戦略理論の学習を行う。 ・他学年ゼミ生を含めた合同演習（年２回予定）とゼミ合宿を実施し、ゼミ学生間の交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	主に以下の内容に取り組む。 前期：企業によるコミュニケーション戦略の事例学習 後期：卒業研究に向けた基礎調査・学習 加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き務める。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	出席状況、参加姿勢（発言，資料準備）、提出物
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	引き続き、高度情報化社会と言われる社会への IT（情報技術）の積極的な導入によって、産業や生活環境がどのように変化してきたのかを考え、これからの IT の在り方について探っていく。活動としては、卒業研究に結び付く研究テーマを決定し、研究テーマに関する事例研究、課題設定、解決方法の提案を行う。類似の研究テーマを持つ学生同士でグループを形成し、グループによる共同活動を通して、より深い洞察力と客観的な視点を身につけることを目指す。
到達目標	社会人となるための準備段階として、様々なテーマについて自主的に判断し、行動できることを目指す。また、データ分析などを通して、伝えたいことを論理的に説明・表現できるようになることを目指す。さらに、他のゼミ生との活動を通して、互いの知識・経験を高めあうことで、自己実現のための力を身につける。
授業方法と留意点	引き続き、パソコンを使った実習形式を中心とした活動を行う。同じゼミに属する学生同士でグループを作って、他のゼミ生と協力しながら講義や実習で学んだことの活用方法について討論を行う。活動としては、卒業研究に繋げるテーマを見つけ出し、他のゼミ生との協同学習やプレゼンテーションを通して、高いコミュニケーション能力を身につけることを目指す。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業研究に結び付く研究テーマを決定し、研究テーマに関する事例研究、課題設定、解決方法の提案を行う。類似の研究テーマを持つ学生同士でグループを形成し、グループによる共同活動を通して、より深い洞察力と客観的な視点を身につけることを目指す。 加えて、経営情報学の分野に関連する不正防止のための研究倫理についても引き続き務める。
関連科目	演習Ⅰ、卒業研究
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	レポート課題、プログラム課題、演習での成果物等（50%）、演習への参加状況（50%） 演習が中心となるため、欠席・遅刻は演習内容や成績評価に影響する。
学生へのメッセージ	ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。技能の習得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（栢木准教授室）
備考	教科書や参考書については、演習の中で適宜紹介する。 必要に応じて書籍を購入してもらう場合がある。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野　純
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	［授業概要］ 　コンピュータサイエンスのゼミである． 　コンピュータは人類の英知の結晶とも言えるもので，パソコン１台の中にも，実にさまざまなアイデアが生かされている．こうしたアイデアを開発し，応用していくのがコンピュータサイエンスである． 　このゼミではコンピュータのハードウェア・ソフトウェアを通じて幅広い知識を習得し，プログラミング等の技能を身につけると同時に，こうしたアイデアを正しく理解する． ［目的］ 　コンピュータ・情報技術のエキスパートを目指す．
到達目標	コンピュータと情報に関する基礎的な知識と技能を習得するとともに、発表と質疑応答を通してコミュニケーション能力を高める。
授業方法と留意点	講義と実習，レポーターによる発表とそれに対する質疑応答の両形式で進める．
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	［授業テーマ］ 　コンピュータと情報に関する基礎的な知識と技能を習得する． ［内容］ 　Java の学習を通じて，コンピュータ全般に関して学習を進め，卒業研究の準備をする． 加えて、経営情報学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き努める。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	平常の学習状況，報告内容，レポートなどにより総合的に評価する．
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 　プログラミングは作曲や，楽器の演奏，絵を描いたりするのと同様な知的創造活動です．皆さんにもプログラミングの喜びを知ってほしいと思います．ただし，楽器の練習と同様，基礎的な技能をコツコツと高めていく必要があります． 　また，ゼミでは全員が積極的に議論に参加し，意見等を述べることが求められます．そのためにはレポーターだけでなく，全員が十分な準備をしてゼミに臨む必要があります．

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	山本　圭三
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本ゼミでは、大きく２つのテーマに沿って学習していく。１つは「仕事、労働、職業を主題とした社会学的研究」である。なぜ人は働くのか、働くことは人々にとってどのような意味をもつのか、などについてじっくり考えていく。もう１つは「社会調査に関わる種々の知識・技術」である。様々な場面で求められる「調査」の能力の獲得を目指す。
到達目標	正確な知識に基づき、論理的な思考ができる。物事を多面的に理解し豊かな発想で議論できる。
授業方法と留意点	テキスト等の読解（要約の報告、それをもとにした全体での議論） データ収集や分析の実習 論文やレポートの書き方についての指導 学生の希望があれば学外でのフィールドワークも設ける
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【テーマ・内容】 仕事・労働・職業に関する社会学的研究 古典研究 【方法】 担当者による報告、全体での議論 【事前・事後課題】 適宜指示する 【補足】 社会科学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても、演習Ⅰに継続して指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況（出席、発言、資料）50%、提出物 50%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	卒業研究において自らの関心に基づいた研究を存分におこなえるよう、十分な知識を獲得したい。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野　幸志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理を学ぶゼミである。演習Ⅰでは，基本的な心理学の知識を身につける。教科書の内容をまとめて，発表しながら担当者と一緒に演習を行う。経営に関する消費者心理，組織の中の人間関係などの基礎を学ぶことを目的とする。
到達目標	演習Ⅱでは自分でテーマを決め，文献を購読し，その後，実際に心理学の基礎研究を行うことを目標とする。
授業方法と留意点	PPによる発表形式で行う。演習Ⅱでは，経営に関する心理の基礎知識を身につける。前期は自分で文献を選んで購読し，発表する。後期は経営と心理に簡単な研究計画を立て，実施してみる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ・内容：経営における心理とマーケティング 方法：文献を購読し，その内容をまとめて発表する。 事前・事後課題：事前に予習，事後に復習 さらに，心理学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き務める。
関連科目	「消費者心理」を受講済あるいは受講中であること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習中の発表(50%)，授業態度(20%)，発表課題(30%)の評価などで総合的に判断する。
学生へのメッセージ	演習Ⅱには必ず出席し，積極的に参加すること。
担当者の研究室等	11号館7階　牧野(幸)准教授室
備考	牧野(幸)ゼミは，経営学部で心理学を学ぶゼミである。特別な情報の技術(プログラミングなど)は必要としないが，確率統計の知識は必要となる。また，プレゼンテーションを行うことが多いため，Word，Excel，PowerPoint などが普通に使える必要がある。何よりも人としての心理を大切にするゼミであるので，“あいさつをする，時間を守る，約束を守る，授業中私語をしない，寝ない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。

科目名	応用情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Applied Information Processing Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	プレゼンテーションソフトは、研究成果や調査結果の報告、商品企画の発表など、様々な用途で用いられており、コンピュータ社会において重要なツールである。本講義では、プレゼンテーションソフトを応用的に活用するスキルを学ぶ。
到達目標	毎回の授業テーマごとに課す練習問題および課題を提出することで、プレゼンテーションソフトを応用的に活用するスキルを得ることを目標とする。
授業方法と留意点	毎回コンピュータによる実習を行い、関連する演習課題に取り組む。 習熟度合いに応じ、講義内容は適宜変更する場合がある。
科目学習の効果（資格）	ビジネスシーンを想定したスライド作成スキル以外に、簡易的な画像処理技術、ポスター制作スキルなども習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法の説明	特になし
2	PowerPoint 基本操作	基本操作の復習する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
3	PowerPoint 図の活用１	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
4	PowerPoint 図の活用２	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
5	PowerPoint　動画の活用	PowerPoint で動画を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
6	PowerPoint　画像処理１	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
7	PowerPoint　画像処理２	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
8	PowerPoint　画像処理３	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
9	PowerPoint　応用 1_図形の合成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
10	PowerPoint　応用 2_名刺の作成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
11	PowerPoint　実践１_スライドの作成	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
12	PowerPoint　実践２_スマートアートの活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
13	PowerPoint　実践３_アニメの有効活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
14	提出課題の発表	各自作成した課題を発表する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
15	まとめ	まとめ、およびフォローアップを行う	特に困難な箇所の確認と復習

関連科目	情報処理基礎、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回授業時に出す課題（100%）をもとに評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、可能な限り欠席や遅刻をしないようにしましょう。欠席するとそれ以降の授業の理解が困難となります。もし万一欠席したときには周りの友人などに授業内容・課題を聞いたりしておくとよいでしょう。
担当者の研究室等	11 号館 6 階　経営学部事務室
備考	

専門科目

科目名	応用情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Applied Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木　健史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義では，これまで学習してきたExcelの知識を基礎とし，より大規模なデータを扱うことのできるデータベースソフトAccessを用いてデータベースの基礎知識および基本操作を習得する．本講義ではデータベースの概念や，テーブルの作成，データの挿入等のデータベース作成および検索等の操作について学習する．
到達目標	例としてハンバーガーショップ運営に関するデータベースを取り上げるが、Access を用いてデータベースの構築から報告書の作成までを行えるようにする。
授業方法と留意点	演習中心の授業方式．各時間毎に演習結果をファイル，グラフ，レポート等の形で提出する．習熟度合いに応じて，授業内容は適宜変更する場合がある．
科目学習の効果（資格）	基本情報技術者試験，Microsoft Office Specialist (Access)等の基礎となる

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	データベースとは	データベースの基本的な概念	データベースがどれほど現代社会に用いられているかをWeb等を利用して調べる
2	Access の基本操作	データベースソフト Access の基本操作方法 基本用語の学習	Access操作方法の復習
3	テーブル検索１	最も基本的なデータ検索	Access操作方法の復習
4	テーブル検索２	複雑なデータ検索方法の学習	Access操作方法の復習
5	データの読み込み	Excelやテキストファイルからデータを読み込む	Access操作方法の復習
6	データの挿入	テーブルに新しいデータを追加する手法の学習	Access操作方法の復習
7	画像データの入力とフォームの活用	画像データを取り込むフィールドの作成 フォームによるデータ入力の効率化	Access操作方法の復習
8	クエリ操作１	選択クエリ	Access操作方法の復習
9	クエリ操作２	クエリを用いた集計	Access操作方法の復習
10	クエリ操作３	アクションクエリ(テーブル作成,更新,追加，削除クエリ)	Access操作方法の復習
11	SQL 文法	Access で作成されたクエリが SQL で記述されていることの確認 SQL文法	Access操作方法の復習
12	データベースの設計１	新しいテーブルの挿入 リレーションシップの設定	Access操作方法の復習
13	データベースの設計２	リレーション設定を活用したクエリ	Access操作方法の復習
14	レポート作成	レポート機能を利用した報告書の作成	Access操作方法の復習
15	まとめ	これまでの復習	特に困難な箇所の確認と復習

関連科目	情報処理基礎，応用情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回授業時に出す課題（100%）をもとに評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので,欠席や遅刻をしないこと.欠席するとそれ以降の授業の理解は困難となる.もし万一欠席したときには各自の責任で授業課題を自習しておくこと.
担当者の研究室等	11号館6階（経営学部事務室）
備考	

科目名	応用簿記	科目名（英文）	Applied Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹内　淳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義では、実務的な事案を例にとり「わかりやすい講義」をモットーとします。
到達目標	簿記の目的は;一定時における財政状態を示すために資産、負債、資本の変動を秩序正しく計算すること、;一会計期間の正しい経営成績を計算してその原因と結果を明らかにすることの２点に要約されます。本講義では、これらの目的をしっかり理解して、実務に役立つ知識を修得することを目標とします。
授業方法と留意点	テーマごとに説明を行った後、演習問題の時間を設け、その後解説を行います。受講者は必ず電卓を持参すること。
科目学習の効果（資格）	簿記検定２級の商業簿記について、合格水準までの実力をつける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	簿記の基本	簿記一巡の手続き	テキストで予習・授業での小テストを再考
2	特殊商品売買	予約・試用・割賦・未着・委託・受託品販売	テキストで予習・授業での小テストを再考
3	商品の評価	商品の期末評価	テキストで予習・授業での小テストを再考
4	固定資産Ⅰ	固定資産の売却・買換え・廃棄・除却時の処理	テキストで予習・授業での小テストを再考
5	固定資産Ⅱ	減価償却・資本的支出と収益的支出等	テキストで予習・授業での小テストを再考
6	資金調達と利益処分	株式・社債発行時および利益処分時にかかる諸々の処理	テキストで予習・授業での小テストを再考
7	当座預金と有価証券	当座預金と有価証券にかかる諸々の処理	テキストで予習・授業での小テストを再考
8	引当金	貸倒・退職給与・修繕・商品保証引当金	テキストで予習・授業での小テストを再考
9	手形	裏書・割引手形	テキストで予習・授業での小テストを再考
10	保険と税金	保険金の請求時と受領時の処理、法人税等の引当処理と消費税の処理	テキストで予習・授業での小テストを再考
11	帳簿等の締切	伝票・帳簿組織の集計、帳簿の締切と合計転記	テキストで予習・授業での小テストを再考
12	決算処理	決算整理事項、財務諸表の作成	テキストで予習・授業での小テストを再考
13	本支店会計	支店開設時の処理、本支店間取引、本支店会計の決算処理	テキストで予習・授業での小テストを再考
14	総合問題	総合問題の解説	テキストで予習・授業での小テストを再考
15	総合問題	総合問題の解説	テキストで予習・授業での小テストを再考

関連科目	企業簿記、財務会計論、原価計算論等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布プリント		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布プリント		
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験の結果を６０％、講義中の小テストの結果を４０％としこれを基準に評価する。
学生へのメッセージ	できるだけ簿記の基本を理解してから受講してください。実務に密着した「わかりやすい講義」を行うつもりです。
担当者の研究室等	１１号館６階（経営学部事務室）
備考	授業時間外の質問は、講師控室のメールボックスで対応します。

科目名	会社法Ⅰ	科目名（英文）	Corporate Law　Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田　尚彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）【施行規則に定める科目区分】「商業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	会社法Ⅰでは、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解する。 そのうえで、株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解する。 その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果（資格）	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験（法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など）の対策となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。会社法の概要。	教科書 p. 1～p. 5 を読んでおくこと。
2	会社法総論	会社の概念、会社の種類、会社法総則。	教科書 p. 5～p. 19 を読んでおくこと。
3	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p. 20～p. 36 を読んでおくこと。
4	株式（1）	株式総説、株主名簿。	教科書 p. 37～p. 45 を読んでおくこと。
5	株式（2）	株式の譲渡、自己株式。	教科書 p. 45～p. 52 を読んでおくこと。
6	株式（3）	株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p. 52～p. 60 を読んでおくこと。
7	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p. 60～p. 66 を読んでおくこと。
8	株式会社の機関（1）	株式会社の機関総説。	教科書 p. 66～p. 69 を読んでおくこと。
9	株式会社の機関（2）	株主総会、種類株主総会。	教科書 p. 69～p. 83 を読んでおくこと。
10	株式会社の機関（3）	役員等の選任および終任、取締役、取締役会。	教科書 p. 83～p. 106 を読んでおくこと。
11	株式会社の機関（4）	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p. 106～p. 114 を読んでおくこと。
12	株式会社の機関（5）	指名委員会等設置会社、執行役、監査員会設置会社。	教科書 p. 114～p. 127 を読んでおくこと。
13	株式会社の機関（6）	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟。	教科書第 p. 127～p. 146 を読んでおくこと。
14	計算、定款の変更	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更。	教科書 p. 147～p. 160 を読んでおくこと。
15	解散、清算、会社法Ⅰまとめ	解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算、会社法Ⅰ総括。	教科書 p. 160～p. 164 を読んでおくこと。

関連科目	会社法Ⅱ、民法、企業論、企業簿記。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新会社法の基礎（第3版）	加藤徹、相原隆、伊勢田道仁編	法律文化社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の結果によって評価する（80%）。 その他講義中の発言も加味する（20%）。
学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。最新版六法を必携のこと。
担当者の研究室等	11号館6階　法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp　まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	会社法Ⅱ	科目名（英文）	Corporate Law　II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田　尚彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）【施行規則に定める科目区分】「商業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	会社法Ⅱでは、会社法Ⅰで習得した知識をもとに、組織再編を中心に会社法の講義を行います。株式会社の合併・分割・事業譲渡について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	株式会社の機関についての理解を前提として、具体的な会社再編の方法・手続・問題点などを理解する。 そのうえで、実際の会社再編事例を分析・検討し、理解する。 その際には、必ず、条文を参照すること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果（資格）	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験（法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など）の対策となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。会社法の概要。	教科書 p. 1～p. 5 を読んでおくこと。
2	会社法Ⅰまとめ（1）	会社法総論、株式会社の設立について、会社法Ⅰのまとめ。	教科書 p. 5～p. 36 を読んでおくこと。
3	会社法Ⅰまとめ（2）	株式、新株予約権について、会社法Ⅰのまとめ。	教科書 p. 37～p. 66 を読んでおくこと。
4	会社法Ⅰまとめ（3）	株式会社の機関、計算について、会社法Ⅰのまとめ。	教科書 p. 66～p. 164 を読んでおくこと。
5	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p. 165～p. 183 を読んでおくこと。
6	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p. 184～p. 194 を読んでおくこと。
7	組織再編（1）	組織再編総説	事前に配布する補足資料を読んでおくこと。
8	組織再編（2）	合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化。	教科書 p. 195～p. 206 を読んでおくこと。
9	組織再編（3）	会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p. 207～p. 213 を読んでおくこと。
10	組織再編（4）	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え。	教科書 p. 213～p. 216 を読んでおくこと。
11	組織再編（5）	株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え。	前回の授業の復習をしておくこと。
12	組織再編（6）	事業譲渡・事業の譲受け	教科書 p. 216～p. 219 を読んでおくこと。
13	組織再編（7）	組織変更の意義、株式会社から持分会社への組織変更、持分会社から株式会社への組織変更。	教科書 p. 219～p. 221 を読んでおくこと。
14	外国会社・雑則	外国会社、会社の解散命令、公告。	教科書 p. 222～p. 230 を読んでおくこと。
15	会社法Ⅱまとめ	会社法Ⅱ総括	会社法Ⅱで学習したことを見直しておくこと。

関連科目	会社法Ⅰ、民法、企業論、企業簿記。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新会社法の基礎（第3版）	加藤徹、相原隆、伊勢田道仁編	法律文化社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の結果によって評価する（80%）。 その他講義中の発言も加味する（20%）。
学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。最新版六法を必携のこと。
担当者の研究室等	11号館6階　法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	企業者史Ⅰ	科目名（英文）	History of Entrepreneurs Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐藤　正志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	戦前期における日本経済・産業の発展過程をたどりながら、各時代を代表する企業者（家）を取り上げ、その経営活動と経営理念を分析します。企業者の形成過程を経済の発展段階との関連をふまえて考察し、これからの企業者像を考えていきます。
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握することができる力をつけます。
授業方法と留意点	資料の配付、ビデオ視聴などを行いながら、講義形式で実施します。
科目学習の効果（資格）	企業経営に関する基本的事項を歴史的観点から、また企業者の行動や考えを通して学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	戦間期の経済発展と企業家（1）	大衆消費社会の形成と都市型産業の発展	大衆消費社会とは何か、事前に学習し、事後にまとめる。
2	戦間期の経済発展と企業家（2）	阪急・小林一三（1）	小林一三の経歴について、事前に学習し、事後にまとめる。
3	戦間期の経済発展と企業家（3）	阪急・小林一三（2）	小林一三の経営理念について、事前に学習し、事後にまとめる。
4	重化学工業の発展と新興コンツェルン（1）	新興コンツェルンとは何か	財閥とは何か、事前に学習し、事後にまとめる。
5	重化学工業の発展と新興コンツェルン（2）	日窒・野口遵	新興財閥の特色について、事前に学習し、事後にまとめる。
6	重化学工業の発展と新興コンツェルン（3）	理化学研究所・大河内正敏	新興財閥と植民地との関連について、事前学習をし、事後にまとめる。
7	日本自動車産業の先駆者（1）	戦前における日本の自動車産業の発展	日本の自動車産業の発展史を、事前に学習し、事後にまとめる。
8	日本自動車産業の先駆者（2）	日産・鮎川義介（1）日産の歴史と「公衆持株会社」論	鮎川義介の履歴について、事前に学習し、事後にまとめる。
9	日本自動車産業の先駆者（3）	日産・鮎川義介（2）満洲重工業の設立と挫折	鮎川の経営理念、満重が挫折に至る過程を事前に学習し、事後にまとめる。。
10	日本自動車産業の先駆者（4）	トヨタ（1）豊田佐吉から喜一郎へ	トヨタ自動車の現状について、事前に学習し、事後にまとめる。
11	日本自動車産業の先駆者（5）	トヨタ（2）豊田喜一郎「自動車国産化」	豊田喜一郎がなぜ「国産化」を志向したか、事前に学習し、事後にまとめる。
12	大衆消費社会と企業家（1）	日本企業におけるマーケティング活動の展開	マーケティングとは何か、事典等で調べて、事前に学習し、事後にまとめる。
13	大衆消費社会と企業家（2）	サントリー・鳥井信治郎と森永製菓・森永太一郎	サントリーと森永のマーケティング活動について、事前に調べて、講義後まとめる。
14	大衆消費社会と企業家（3）	ミキモト・御木本幸吉のブランド戦略	ブランド概念を事前に学習し、事後にまとめる。
15	まとめ	――――	練習問題

関連科目	企業者史Ⅱ;、経営史Ⅰ・Ⅱ(D科科目)

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験結果(90%)、授業への積極的な参加態度、姿勢（10%）評価。
学生へのメッセージ	授業内容に関する不明点、疑問は遠慮なく質問してください。紹介する参考文献はできるだけ目をとおして、より理解を深めていただきたい。
担当者の研究室等	１１号館８階（佐藤研究室）
備考	

科目名	企業者史Ⅱ	科目名（英文）	History of Entrepreneurs II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤　正志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	第２次大戦後の日本経済・産業の発展過程をたどりながら、各時代を代表する企業者（家）を取り上げ、その経営活動と経営理念を分析します。企業者の形成過程を、経済の発展段階との関連をふまえて考察し、これからの企業者像を考えていきます。
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握することができる力をつけます。
授業方法と留意点	資料の配付やビデオ視聴を行いながら講義形式で実施します。
科目学習の効果（資格）	企業経営に関する基本的事項を歴史的観点から、また企業者の行動や考えを通して学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	戦後の経済発展の枠組みと企業家（1）	戦後復興の過程	第２次大戦後の経済の流れについて予習し、講義後にまとめる。
2	戦後の経済発展の枠組みと企業家（2）	高度経済成長の要因と企業家	戦後を代表する経営者を事前にリストアップし、講義後その共通点について、まとめる。
3	高度経済成長と企業家（1）	「経営の神様」・松下幸之助（1）	松下幸之助の履歴について予習し、講義後にまとめる。
4	高度経済成長と企業家（2）	「経営の神様」・松下幸之助（2）　「水道哲学」	松下「水道哲学」とな何か、について予習し、講義後にまとめる。
5	高度経済成長と企業家（3）	ホンダ・本田宗一郎	本田と藤沢武夫のパートナーシップについて予習し、講義後にまとめる。
6	高度経済成長と企業家（4）	ソニー・井深大	井深と盛田昭夫のパートナーシップについて予習し、講義後にまとめる。
7	流通革命と企業家（1）	戦後・流通産業の展開	戦後の流通業の変化を事前に調べて、講義後まとめる。
8	流通革命と企業家（2）	中内・ダイエー（1）　経営理念と発展	中内の「流通革命論」を事前に調べて、講義後まとめる。
9	流通革命と企業家（3）	中内・ダイエー（2）　挫折と「流通革命」の後継者	ダイエーの経営の失敗について、その要因を調べて、まとめる。また、中内の「流通革命」の成果は現在どのような形で引き継がれているのかを考える。
10	流通革命と企業家（4）	セブンイレブン・鈴木敏文	鈴木敏文による小売業の革新は、海外においても通用するか、まとめる。
11	IT 革命の進展と企業家（1）	インターネットの発展と企業経営の変容	インターネットの歴史を調べて、まとめる。
12	IT 革命の進展と企業家（2）	ソフトバンク・孫正義	孫正義の経営理念を事前に調べて、講義後まとめる。
13	IT 革命の進展と企業家（3）	テレビゲームの攻防	テレビゲーム開発の歴史と現状を調べて、まとめる。
14	IT 革命の進展と企業家（4）	山内・任天堂の戦略	任天堂の経営戦略を事前に調べて、講義後まとめる。
15	まとめ	――――	練習問題

関連科目	企業者史Ⅰ、経営史Ⅰ（D科科目）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験結果(90%)、授業への積極的な参加姿勢、態度（10%）で評価。
学生へのメッセージ	講義内容に対する不明点や疑問は遠慮なく質問してください。また、紹介する参考文献にはできる限り目を通してください。
担当者の研究室等	１１号館８階（佐藤研究室）
備考	

科目名	企業簿記	科目名（英文）	Book keeping
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石橋　康男
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）【施行規則に定める科目区分】「商業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	この講義では、仕訳帳の記入から始まり精算表の作成を経て、損益計算書・貸借対照表を作成するという簿記手続きの全体像、すなわち、簿記の基本構造を理解し、中級以上の簿記や、簿記を技術的基礎とする会計関連科目に発展的に取り組むために最低必要な株式会社簿記の基本について解説する。
到達目標	日商簿記3級検定試験の合格を目的とはせず、あくまでも簿記の基礎を習得することを目的とする。
授業方法と留意点	簿記は実務に直結する科目でもあるため、実務的な視点からも説明する。簿記の習得には、頭で考えるだけでなく手を動かす、即ち練習問題を実際に解いていくことが重要である。そのため、ただ講義を聴くだけでなく、与えられた練習問題を必ず解いていくこと。 テキストを中心に解説し、その後練習問題をその都度配布する。
科目学習の効果（資格）	会計関連科目を学ぶためには必ず習得しておかなければならない科目である。また日本商工会議所簿記検定試験並びに公認会計士、税理士、中小企業診断士などの資格試験への第一歩となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記とは、会計期間など	教科書P2～P4
2	簿記の基礎②	貸借対照表と損益計算書	教科書P3～P9
3	日常の取引①	勘定、仕訳、転記	教科書P10～P21
4	日常の取引②	仕訳帳、総勘定元帳、試算表	教科書P21～P33
5	商品売買①	三分法、掛けによる売買	教科書P34～P39
6	商品売買②	返品・値引き、諸掛り	教科書P40～P46
7	商品売買③	売掛金元帳、買掛金元帳、商品有高帳、収益と費用の諸勘定	教科書P47～P55
8	現金	現金の受け払い、現金過不足の処理	教科書P56～P61
9	当座預金	当座預金の受け払い、当座借越	教科書P62～P69
10	小口現金	小口現金の制度、小口現金の処理、小口現金出納帳	教科書P70～P77
11	手形①	約束手形、為替手形	教科書P78～P85
12	手形②	手形の裏書、手形の割引、受取手形記入帳、支払手形記入帳	教科書P86～P93
13	その他の期中取引①	貸付金、借入金、手形貸付金、手形借入金、未収金、未払金、前払金、前受金	教科書P94～P104
14	その他の期中取引②	仮払金、仮受金、立替金、預り金、商品券、他店商品券	教科書P105～P115
15	その他の期中取引③	固定資産、有価証券	教科書P116～P123
16	その他の期中取引④	租税公課、引出金、総勘定元帳と補助簿	教科書P124～P131
17	試算表の種類	合計試算表、残高試算表、合計残高試算表	教科書P132～P143
18	決算の手続き①	決算とは、簿記一巡の手続き、決算整理、精算表	教科書P144～P149
19	決算の手続き②	有価証券の評価替え、現金過不足の整理、消耗品の整理	教科書P150～P158
20	決算の手続き③	売上原価の計算	教科書P159～P165
21	決算の手続き④	固定資産の減価償却、固定資産の売却	教科書P166～P173
22	決算の手続き⑤	貸倒れ、貸倒引当金の見積り、貸倒引当金の設定	教科書P174～P179
23	決算の手続き⑥	費用・収益の繰延べ	教科書P180～P185
24	決算の手続き⑦	費用・収益の見越し	教科書P186～P193
25	決算の手続き⑧	精算表の作成	教科書P194～P197
26	決算の手続き⑨	精算表の作成	教科書P194～P197
27	決算の手続き⑩	勘定の締め切り	教科書P198～P206
28	決算の手続き⑪	財務諸表の作成	教科書P207～P211
29	復習①	重要な項目を再度説明する	教科書
30	復習②	重要な項目を再度説明する	教科書

関連科目	財務会計論、原価計算論、会計情報論等。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	合格テキスト日商簿記3級　Ver.7.0		TAC出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	学期末試験の結果により評価する。 なお小テストを実施する予定であるが、学期末試験が合格点に満たない場合に限り、小テストの結果によっては平常点として考慮する。
学生へのメッセージ	簿記は毎回の授業の積み重ねにより習得していくものです。何らかの理由で受講できなかった単元がある場合、教科書を読むなり又は友人に聞くなどして、必ずその単元を補ってください。
担当者の研究室等	11号館6階(非常勤講師室)
備考	

科目名	企業立地論	科目名（英文）	Location Theory
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内田　勝巳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	日本の地域産業は経済のグローバル化や人口減少社会の進展により構造変化を迫られている。本授業では、グローバル化した世界における産業立地と集積の理論を理解し、日本企業の立地行動について理論的に考察できるようになることを目的とする。
到達目標	産業立地と地域経済に関する理論・実態・政策を有機的に捉え考察する力を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	様々な産業立地と集積の理論を紹介し、日本の産業の現状と課題につき地域産業振興の視点から考察を行う。
科目学習の効果（資格）	公務員試験・資格試験に役立つ知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	産業立地と地域経済	グローバル経済における産業立地と地域経済の関係及び講義の全体的な構成について解説する。	地域経済学の復習と課題の提出
2	農業立地の基礎理論	チューネンの農業立地論について解説する。	前回の復習と課題の提出
3	工業立地の基礎理論	ウェーバーの工業立地論について解説する。	前回の復習と課題の提出
4	商業・サービス業立地の基礎理論	クリスタラーとレッシュの中心地理論について解説する。	前回の復習と課題の提出
5	現代の立地理論	寡占間競争、複数工場の立地理論、空間価格理論について解説する。	前回の復習と課題の提出
6	立地調整論	工場の増強や縮小、工場の移転や閉鎖について解説する。	前回の復習と課題の提出
7	グローバル化と地域経済論	世界経済空間の理論及びグローバルとローカルの関係論について解説する。	前回の復習と課題の提出
8	産業のグローバル化	貿易、対外直接投資、海外現地生産の現状について解説した後、小テストを実施する。	前半の復習と課題の提出
9	多国籍企業の立地論	ヴァーノン等の多国籍企業の理論及び立地論について解説する。	前回の復習と課題の提出
10	オフィスの立地と世界都市論	情報・知識の地理的流動とハイマー等の世界都市の理論について解説する。	前回の復習と課題の提出
11	産業集積論	マーシャルとウェーバーの集積論とその系譜について解説する。	前回の復習と課題の提出
12	新経済地理論	クルーグマンの産業集積論について解説する。	前回の復習と課題の提出
13	産業クラスター論	ポーターの競争優位論と産業クラスターについて解説する。	前回の復習と課題の提出
14	グローバルな立地環境の整備	プライベート・ファイナンス・イニシアティブ（PFI）及び官民連携（PPP）による社会資本整備について解説する。	前回の復習と課題の提出
15	地域主義	地域主義の概念と、一村一品運動、社会起業家による地域イノベーション、企業の CSR 活動について解説する。	前回の復習と課題の提出

関連科目	地域経済入門、都市経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 10%、期末試験 60%、授業での課題提出及び授業態度 30%の割合で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	グローバル化した世界における地域産業について、課題提出を通じて考えながら学びます。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　内田教授室（経済学部）
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	黒澤　敏朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧野　純
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久保　貞也
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧野　幸志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	針尾　大嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	平常点で評価する。具体的には、授業への参加（50%）とその他（課題への取組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容など）（50%）により評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樋口　友紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂　貴恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安久　典宏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

科目名	基本情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Basic Information Processing Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを自身の目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識・技術を習得する。本講義では、Word を用いたビジネス文書の作成、Excel を用いたビジネスデータの処理についての技能習得を目指す。また、コンピュータネットワークを利用する上で必要となるマナー・モラルについて理解する。
授業方法と留意点	履修に際して予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
2	インターネットの利用と情報検索	インターネット環境と情報の検索方法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	文書作成ソフトウェア（1）	Word の基礎知識、文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	文書作成ソフトウェア（2）	文書の書式設定、レイアウト変更	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	文書作成ソフトウェア（3）	表の作成・編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
6	文書作成ソフトウェア（4）	表現力を高める文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
7	文書作成ソフトウェア（5）	応用文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
8	表計算ソフトウェア（1）	Excel の基礎知識、データの入力・編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
9	表計算ソフトウェア（2）	罫線による表の作成・編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	表計算ソフトウェア（3）	基本的なグラフ作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	表計算ソフトウェア（4）	応用的なグラフ作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	表計算ソフトウェア（5）	相対参照と絶対参照	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	表計算ソフトウェア（6）	データベース入門、データの並べ替え・検索	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	表計算ソフトウェア（7）	データの集計、データの解析	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	まとめ	Word と Excel の応用利用、全体のまとめ	全体の内容を整理しておく

関連科目	コンピュータ概論、インターネット概論、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30 時間アカデミック　情報リテラシー　Office2013	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（40%）、レポート課題（30%）、小テスト（20%）、授業への参加度（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階(栢木准教授室)
備考	

科目名	基本情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Basic Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題およびレポートの作成やプレゼンテーションに必要となる情報活用能力を習得する。Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな技能を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を習得する。本講義では、Excel を用いたビジネスデータの分析、マクロの基礎、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料の作成についての技能習得を目指す。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、ビジネス情報処理Ⅰの復習	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
2	データベースの利用（１）	ピボットテーブル・データの解析１	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	データベースの利用（２）	ピボットテーブル・データの解析２	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	データベースの活用（３）	演習課題の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	Excel によるマクロの利用（１）	マクロの作成・実行１	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
6	Excel によるマクロの利用（２）	マクロの作成・実行２	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
7	Excel によるマクロの利用（３）	マクロの作成・実行３	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
8	Excel によるマクロの利用（４）	マクロを使った課題の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
9	プレゼンテーションソフトウェア（１）	PowerPoint の基礎知識	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	プレゼンテーションソフトウェア（２）	プレゼンテーション資料の作成、図やオブジェクトの挿入と編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	プレゼンテーションソフトウェア（３）	画面切り替え効果、アニメーション効果の設定	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	プレゼンテーションソフトウェア（４）	プレゼンテーション資料の作成１	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	プレゼンテーションソフトウェア（５）	プレゼンテーション資料の作成２	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	プレゼンテーションソフトウェア（６）	製作発表	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	まとめ	全体のまとめ	全体の内容を整理しておく

関連科目	コンピュータ概論、インターネット概論、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30 時間アカデミック　情報リテラシー　Office2013	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（40%）、レポート課題（30%）、小テスト（20%）、授業への参加度（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階(栢木准教授室)
備考	

科目名	キャリアデザイン	科目名（英文）	Introduction to Career Design
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安久　典宏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4年間のキャンパス・ライフを有意義に送るための大学生活導入教育です。充実した大学生活が過ごせるどうかどうかは、入学当初の勉学態度にかかっています。そのためキャリアデザインは、必修科目となっています。
到達目標	この講義を通して、 ①主体的に行動するための自己理解を深める。 ②コミュニケーションについて、理解を深める。 ③社会（企業）の変革に対して、自分のワーキングスタイルを今後どう考えるかの理解を深める。 ④大学生活およびライフプラン設計ができるようになる。 を講義の到達目標とします。
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れます。
科目学習の効果（資格）	将来の目標を設定するための情報収集や、目標達成に向けた具体的行動が起こせるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 【9月14日】	・講義の全体的な流れと進め方に関する説明 ・キャリア教育とは ・教育（研究）倫理について	テキストに目を通してから、出席してください
2	キャリア関連科目がなぜ大切なのか 【9月21日】	・「キャリアデザイン」がなぜ必修科目なのかを考える ・講義の到達目標と各自の目標設定	大学に進学して、何がしたいかを整理しておいてください
3	大学4年間で何をするか① 【9月28日】	・大学生活を充実したものに ・4 年間の目標と計画作りの立て方（PDCA）	4年間での3大目標をはっきりと決めてきてください
4	大学4年間で何をするか② 【10月5日】	・4年間の目標と計画作り ・目標達成意欲度診断の実施	学年ごとの目標を具体的に考えてきてください
5	「やる気グラフ」から自分を振りかえろう① 【10月19日】	・行動と気づきの大切さを学ぶ ・やる気グラフの作成	今までに、やる気があった時とそうでなかった時のことをメモ、持参してください
6	「やる気グラフ」から自分を振りかえろう② 【10月26日】	・自分の過去を振りかえり、自分のアピール材料を探す ・自己PRワークをおこなう	アルバムなどを見て、自分の過去の出来事を思い出しておいてください
7	自分発見マップ作り① 【11月2日】	・大学生活のすごし方と将来の目標や夢について、グループワークを通じ発見、確認をする	自分の将来の夢や目標について、考えてきてください
8	自分発見マップ作り② 【11月9日】	・自分発見マップのレイアウトと内容を整理	カードに書き出した内容以外にもエピソードを考えてきてください
9	自分発見マップ作り③ 【11月16日】	・自分の将来像を一枚の絵にまとめる	自分発見マップのワークから見えてきた夢などを整理しながら、一枚の絵と通してどのように表現するかを考えてきてください
10	コミュニケーションとは① 【11月23日】	・コミュニケーションについて再考する ・正確に伝え聞くためのコミュニケーションとは	コミュニケーションの意味について考えてきてください
11	コミュニケーションとは② 【11月30日】	・コミュニケーションワーク	ノンバーバルスキルの意味を調べてきてください
12	コミュニケーションとは③ 【12月7日】	・コミュニケーションワーク	コンセンサスの意味を調べてきてください
13	ワーキングスタイルについて考える① 【12月14日】	・行動適応診断の実施 ・自己発見リファインシートの作成	周り人から自分はどのような行動の特徴があるかを確認しておいてください
14	ワーキングスタイルについて考える② 【12月21日】	・日本企業の大きな変化について ・正社員とフリータ、ニートについて考える ・SPI模擬試験結果の解説	働き方の形態について調べてきてください SPI試験結果を参考に、後期にある2度目の試験に向けて対策をしておいてください。
15	振り返りと新たな目標設定 【1月18日】	・モチベーション理論 ・キャリアスタイル診断の実施 ・これまでの振り返りと新たな目標を設定する	最初に設定した目標がどれだけ実現できたか調べてきてください

関連科目	・「キャリアデザイン」と「インターンシップ基礎（後期）」は通年でカリキュラム構成しているので、2科目履修することが望ましい。 ・「ベンチャービジネス論」の講義は関連が深く、受講しておくことが社会に対する理解を深めることに役立ちます。 ・インターンシップの就業体験を希望する者は、「インターンシップ基礎」を履修（合格）しておくことが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	原則、講義レポートおよび提出課題の内容（50%）と定期期末試験結果（50%）で評価します。
学生への メッセージ	・毎回、講義レポートや提出物等で授業の習熟度の確認をします。欠席をしないように。 ・グループ学習などでは、他人に迷惑（遅刻・欠席）をかけないように。 ・大学生活のスタートとして重要な科目ですので必修となっています。 ・授業の進捗状況で一部内容や進め方を変更することがあります。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　安久研究室
備考	

科目名	キャリアデザイン	科目名（英文）	Introduction to Career Design
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安久　典宏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4年間のキャンパス・ライフを有意義に送るための大学生活導入教育です。充実した大学生活が過ごせるどうかどうかは、入学当初の勉学態度にかかっています。そのためキャリアデザインは、必修科目となっています。
到達目標	この講義を通して、 ①主体的に行動するための自己理解を深める。 ②コミュニケーションについて、理解を深める。 ③社会（企業）の変革に対して、自分のワーキングスタイルを今後どう考えるかの理解を深める。 ④大学生活およびライフプラン設計ができるようになる。 を講義の到達目標とします。
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れます。
科目学習の効果（資格）	将来の目標を設定するための情報収集や、目標達成に向けた具体的行動が起こせるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 【4月7日】	・講義の全体的な流れと進め方に関する説明 ・キャリア教育とは ・教育（研究）倫理について	テキストに目を通してから、出席してください （安久・高尾担当）
2	キャリア関連科目がなぜ大切なのか 【4月14日】	・「キャリアデザイン」がなぜ必修科目なのかを考える ・講義の到達目標と各自の目標設定	大学に進学して、何がしたいかを整理しておいてください （安久・高尾担当）
3	大学4年間で何をするか① 【4月21日】	・大学生活を充実したものに ・4 年間の目標と計画作りの立て方（PDCA）	4年間での3大目標をはっきりと決めてきてください （安久・高尾担当）
4	大学4年間で何をするか② 【4月28日】	・4年間の目標と計画作り ・目標達成意欲度診断の実施	学年ごとの目標を具体的に考えてきてください （安久・高尾担当）
5	「やる気グラフ」から自分を振りかえろう① 【5月12日】	・行動と気づきの大切さを学ぶ ・やる気グラフの作成	今までに、やる気があった時とそうでなかった時のことをメモ、持参してください （安久・高尾担当）
6	「やる気グラフ」から自分を振りかえろう② 【5月19日】	・自分の過去を振りかえり、自分のアピール材料を探す ・自己PRワークをおこなう	アルバムなどを見て、自分の過去の出来事を思い出しておいてください （安久・高尾担当）
7	自分発見マップ作り① 【5月26日】	・大学生活のすごし方と将来の目標や夢について、グループワークを通じ発見、確認をする	自分の将来の夢や目標について、考えてきてください （安久・高尾担当）
8	自分発見マップ作り② 【6月2日】	・自分発見マップのレイアウトと内容を整理	カードに書き出した内容以外にもエピソードを考えてきてください （安久・高尾担当）
9	自分発見マップ作り③ 【6月9日】	・自分の将来像を一枚の絵にまとめる	自分発見マップのワークから見えてきた夢などを整理しながら、一枚の絵と通してどのように表現するかを考えてきてください （安久・高尾担当）
10	コミュニケーションとは① 【6月16日】	・コミュニケーションについて再考する ・正確に伝え聞くためのコミュニケーションとは	コミュニケーションの意味について考えてきてください （安久・高尾担当）
11	コミュニケーションとは② 【6月23日】	・コミュニケーションワーク	ノンバーバルスキルの意味を調べてきてください （安久・高尾担当）
12	SPI試験対策 【6月30日】	・SPI模擬試験	SPI試験の問題などで事前に対策をしておいてください （安久・高尾担当）
13	ワーキングスタイルについて考える① 【7月7日】	・行動適応診断の実施 ・自己発見リファインシートの作成	周り人から自分はどのような行動の特徴があるかを確認しておいてください （安久・高尾担当）
14	ワーキングスタイルについて考える② 【7月14日】	・日本企業の大きな変化について ・正社員とフリータ、ニートについて考える ・SPI模擬試験結果の解説	働き方の形態について調べてきてください SPI試験結果を参考に、後期にある2度目の試験に向けて対策をしておいてください。 （安久・高尾担当）
15	振り返りと新たな目標設定 【?21日】	・モチベーション理論 ・キャリアスタイル診断の実施 ・これまでの振り返りと新たな目標を設定する	最初に設定した目標がどれだけ実現できたか調べてきてください （安久・高尾担当）

関連科目	・「キャリアデザイン（前期）」と「インターンシップ基礎（後期）」は通年でカリキュラム構成しているので、2科目履修することが望ましい。 ・「ベンチャービジネス論」の講義は関連が深く、受講しておくことが社会に対する理解を深めることに役立ちます。 ・インターンシップの就業体験を希望する者は、「インターンシップ基礎」を履修（合格）しておくことが望ましい。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / キャリアデザイン / 安久典宏、羽石寛寿 / 清風出版 2 /	
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 /	
評価方法（基準）	原則、講義レポートおよび提出課題の内容（50%）と定期期末試験結果（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	・毎回、講義レポートや提出物等で授業の習熟度の確認をします。欠席をしないように。 ・グループ学習などでは、他人に迷惑（遅刻・欠席）をかけないように。 ・大学生活のスタートとして重要な科目ですので必修となっています。 ・授業の進捗状況で一部内容や進め方を変更することがあります。
担当者の研究室等	11号館8階　安久研究室
備考	

科目名	キャリアデザイン入門	科目名（英文）	Introduction to Career Design
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安久　典宏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4年間のキャンパス・ライフを有意義に送るための大学生活導入教育です。充実した大学生活が過ごせるどうかどうかは、入学当初の勉学態度にかかっています。そのためキャリアデザインは、必修科目となっています。
到達目標	この講義を通して、 ①主体的に行動するための自己理解を深める。 ②コミュニケーションについて、理解を深める。 ③社会（企業）の変革に対して、自分のワーキングスタイルを今後どう考えるかの理解を深める。 ④大学生活およびライフプラン設計ができるようになる。 を講義の到達目標とします。
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れます。
科目学習の効果（資格）	将来の目標を設定するための情報収集や、目標達成に向けた具体的行動が起こせるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 【9月14日】	・講義の全体的な流れと進め方に関する説明 ・キャリア教育とは ・教育（研究）倫理について	テキストに目を通してから、出席してください
2	キャリア関連科目がなぜ大切なのか 【9月21日】	・「キャリアデザイン」がなぜ必修科目なのかを考える ・講義の到達目標と各自の目標設定	大学に進学して、何がしたいかを整理しておいてください
3	大学4年間で何をするか① 【9月28日】	・大学生活を充実したものに ・4 年間の目標と計画作りの立て方（PDCA）	4年間での3大目標をはっきりと決めてきてください
4	大学4年間で何をするか② 【10月5日】	・4年間の目標と計画作り ・目標達成意欲度診断の実施	学年ごとの目標を具体的に考えてきてください
5	「やる気グラフ」から自分を振りかえろう① 【10月19日】	・行動と気づきの大切さを学ぶ ・やる気グラフの作成	今までに、やる気があった時とそうでなかった時のことをメモ、持参してください
6	「やる気グラフ」から自分を振りかえろう② 【10月26日】	・自分の過去を振りかえり、自分のアピール材料を探す ・自己PRワークをおこなう	アルバムなどを見て、自分の過去の出来事を思い出しておいてください
7	自分発見マップ作り① 【11月2日】	・大学生活のすごし方と将来の目標や夢について、グループワークを通じ発見、確認をする	自分の将来の夢や目標について、考えてきてください
8	自分発見マップ作り② 【11月9日】	・自分発見マップのレイアウトと内容を整理	カードに書き出した内容以外にもエピソードを考えてきてください
9	自分発見マップ作り③ 【11月16日】	・自分の将来像を一枚の絵にまとめる	自分発見マップのワークから見えてきた夢などを整理しながら、一枚の絵と通してどのように表現するかを考えてきてください
10	コミュニケーションとは① 【11月23日】	・コミュニケーションについて再考する ・正確に伝え聞くためのコミュニケーションとは	コミュニケーションの意味について考えてきてください
11	コミュニケーションとは② 【11月30日】	・コミュニケーションワーク	ノンバーバルスキルの意味を調べてきてください
12	コミュニケーションとは③ 【12月7日】	・コミュニケーションワーク	コンセンサスの意味を調べてきてください
13	ワーキングスタイルについて考える① 【12月14日】	・行動適応診断の実施 ・自己発見リファインシートの作成	周り人から自分はどのような行動の特徴があるかを確認しておいてください
14	ワーキングスタイルについて考える② 【12月21日】	・日本企業の大きな変化について ・正社員とフリータ、ニートについて考える ・SPI模擬試験結果の解説	働き方の形態について調べてきてください SPI試験結果を参考に、後期にある2度目の試験に向けて対策をしておいてください。
15	振り返りと新たな目標設定 【1月18日】	・モチベーション理論 ・キャリアスタイル診断の実施 ・これまでの振り返りと新たな目標を設定する	最初に設定した目標がどれだけ実現できたか調べてきてください

関連科目	・「キャリアデザイン」と「インターンシップ基礎（後期）」は通年でカリキュラム構成しているので、2科目履修することが望ましい。 ・「ベンチャービジネス論」の講義は関連が深く、受講しておくことが社会に対する理解を深めることに役立ちます。 ・インターンシップの就業体験を希望する者は、「インターンシップ基礎」を履修（合格）しておくことが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	原則、講義レポートおよび提出課題の内容（50%）と定期期末試験結果（50%）で評価します。
学生への メッセージ	・毎回、講義レポートや提出物等で授業の習熟度の確認をします。欠席をしないように。 ・グループ学習などでは、他人に迷惑（遅刻・欠席）をかけないように。 ・大学生活のスタートとして重要な科目ですので必修となっています。 ・授業の進捗状況で一部内容や進め方を変更することがあります。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　安久研究室
備考	

科目名	キャリアデザイン入門	科目名（英文）	Introduction to Career Design
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安久　典宏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4年間のキャンパス・ライフを有意義に送るための大学生活導入教育です。充実した大学生活が過ごせるどうかどうかは、入学当初の勉学態度にかかっています。そのためキャリアデザインは、必修科目となっています。
到達目標	この講義を通して、 ①主体的に行動するための自己理解を深める。 ②コミュニケーションについて、理解を深める。 ③社会（企業）の変革に対して、自分のワーキングスタイルを今後どう考えるかの理解を深める。 ④大学生活およびライフプラン設計ができるようになる。 を講義の到達目標とします。
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れます。
科目学習の効果（資格）	将来の目標を設定するための情報収集や、目標達成に向けた具体的行動が起こせるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 【4月7日】	・講義の全体的な流れと進め方に関する説明 ・キャリア教育とは ・教育（研究）倫理について	テキストに目を通してから、出席してください （安久・高尾担当）
2	キャリア関連科目がなぜ大切なのか 【4月14日】	・「キャリアデザイン」がなぜ必修科目なのかを考える ・講義の到達目標と各自の目標設定	大学に進学して、何がしたいかを整理しておいてください （安久・高尾担当）
3	大学4年間で何をするか① 【4月21日】	・大学生活を充実したものに ・4 年間の目標と計画作りの立て方（PDCA）	4年間での3大目標をはっきりと決めてきてください （安久・高尾担当）
4	大学4年間で何をするか② 【4月28日】	・4年間の目標と計画作り ・目標達成意欲度診断の実施	学年ごとの目標を具体的に考えてきてください （安久・高尾担当）
5	「やる気グラフ」から自分を振りかえろう① 【5月12日】	・行動と気づきの大切さを学ぶ ・やる気グラフの作成	今までに、やる気があった時とそうでなかった時のことをメモ、持参してください （安久・高尾担当）
6	「やる気グラフ」から自分を振りかえろう② 【5月19日】	・自分の過去を振りかえり、自分のアピール材料を探す ・自己PRワークをおこなう	アルバムなどを見て、自分の過去の出来事を思い出しておいてください （安久・高尾担当）
7	自分発見マップ作り① 【5月26日】	・大学生活のすごし方と将来の目標や夢について、グループワークを通じ発見、確認をする	自分の将来の夢や目標について、考えてきてください （安久・高尾担当）
8	自分発見マップ作り② 【6月2日】	・自分発見マップのレイアウトと内容を整理	カードに書き出した内容以外にもエピソードを考えてきてください （安久・高尾担当）
9	自分発見マップ作り③ 【6月9日】	・自分の将来像を一枚の絵にまとめる	自分発見マップのワークから見えてきた夢などを整理しながら、一枚の絵と通してどのように表現するかを考えてきてください （安久・高尾担当）
10	コミュニケーションとは① 【6月16日】	・コミュニケーションについて再考する ・正確に伝え聞くためのコミュニケーションとは	コミュニケーションの意味について考えてきてください （安久・高尾担当）
11	コミュニケーションとは② 【6月23日】	・コミュニケーションワーク	ノンバーバルスキルの意味を調べてきてください （安久・高尾担当）
12	SPI試験対策 【6月30日】	・SPI模擬試験	SPI試験の問題などで事前に対策をしておいてください （安久・高尾担当）
13	ワーキングスタイルについて考える① 【7月7日】	・行動適応診断の実施 ・自己発見リファインシートの作成	周り人から自分はどのような行動の特徴があるかを確認しておいてください （安久・高尾担当）
14	ワーキングスタイルについて考える② 【7月14日】	・日本企業の大きな変化について ・正社員とフリータ、ニートについて考える ・SPI模擬試験結果の解説	働き方の形態について調べてきてください SPI試験結果を参考に、後期にある2度目の試験に向けて対策をしておいてください。 （安久・高尾担当）
15	振り返りと新たな目標設定 【?21日】	・モチベーション理論 ・キャリアスタイル診断の実施 ・これまでの振り返りと新たな目標を設定する	最初に設定した目標がどれだけ実現できたか調べてきてください （安久・高尾担当）

関連科目	・「キャリアデザイン（前期）」と「インターンシップ基礎（後期）」は通年でカリキュラム構成しているので、2科目履修することが望ましい。 ・「ベンチャービジネス論」の講義は関連が深く、受講しておくことが社会に対する理解を深めることに役立ちます。 ・インターンシップの就業体験を希望する者は、「インターンシップ基礎」を履修（合格）しておくことが望ましい。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / キャリアデザイン / 安久典宏、羽石寛寿 / 清風出版 2 /	
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 /	
評価方法（基準）	原則、講義レポートおよび提出課題の内容（50%）と定期期末試験結果（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	・毎回、講義レポートや提出物等で授業の習熟度の確認をします。欠席をしないように。 ・グループ学習などでは、他人に迷惑（遅刻・欠席）をかけないように。 ・大学生活のスタートとして重要な科目ですので必修となっています。 ・授業の進捗状況で一部内容や進め方を変更することがあります。
担当者の研究室等	11号館8階　安久研究室
備考	

専門科目

科目名	グローバルビジネス	科目名（英文）	Global Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木　和巳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	「企業はなぜ国境をまたぐ国際ビジネス活動を行うのであろうか」の問いに対して一般的に二つの動機があると言われている： ①成長の戦略を実行する動機：（現地での販売拡大、域内販売の拡大、進出企業への部品等の供給）であり、 ②競争戦略の実行動機：（原材料・資源の確保、コスト面での有利、価格競争力の維持、域外販売の拡大、日本への逆輸入） これらの動機に加え、輸送技術や通信技術の飛躍的な進歩が距離感を縮めていき、そして世界中どこでも文化が似かよったものになり、各国の経済が統合され、更に金融の世界においても相互依存が進む傾向がみられる。 グローバルビジネスではグローバル企業の歴史、グローバル企業を作った企業家及びグローバル企業の経営戦略を様々な観点から取り上げ、グローバルビジネス時代に認識すべき基礎的な知識を提供する。
到達目標	グローバルビジネス時代への変遷を的確に理解し、将来に対応出来るための素養を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	各授業でテーマ毎のプリント配布。 課題を与え、グループディスカッションを行うこともある。 授業終了時に、学んだこと・興味を持った点・疑問点を指定用紙に学生に記入依頼し、回収後次回の授業で再度説明あるいは答える。
科目学習の効果（資格）	グローバル企業経営全般について将来学びたい学生にとっての指標となる。 日々報道されている国際ニュース、グローバル企業の活動を理解することが出来る。 就職活動に役立つ実力をつける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、 グローバルビジネスとは何かを考える。 グローバルビジネスで何を学ぶか	プリント１
2	グローバルビジネス経済	グローバルビジネスの現状	プリント２
3	グローバル企業の歴史	初期のグローバル経済 新グローバル経済の動向	プリント３
4	グローバル企業を作った企業家　（１）	代表的な日本企業家　（１）	プリント４
5	グローバル企業を作った企業家　（２）	代表的な日本企業家　（２）	プリント５
6	グローバビジネス戦略	情報技術 市場参入	プリント６
7	グローバル企業の組織	グローバル企業の最適組織	プリント７
8	グローバル企業の人的資源管理	日本型人的管理とグローバル企業の人的管理	プリント８
9	グローバル時代の物流	日本の物流企業のグローバル化	プリント９
10	グローバル企業の財務（１）	資金調達	プリント１０
11	グローバル企業の財務（２）	外国為替リスク管理	プリント１１
12	日本企業のグローバル化（１）	戦前のグローバルビジネス	プリント１２
13	日本企業のグローバル化（２）	戦後のグローバルビジネス	プリント１３
14	外資系グローバル企業の日本進出　（１）	明治時代から現在まで	プリント１４
15	外資系グローバル企業の日本進出　（２）	外国資本にとっての日本市場	プリント１５

関連科目	国際経営学 グローバル経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバルビジネス戦略	小田部正明／クリスチャン・ヘルセン	同文舘出版株式会社
2	グローバルビジネス戦略の革新	諸上茂登他	同文舘出版株式会社
3	国際経営学入門	淵本康方／徐　燕	株式会社創成社

評価方法（基準）	課題を与えてのレポート提出（４０％）と学期末の筆記試験（６０％）で評価する。
学生へのメッセージ	例えば、ユニクロで購入する衣服は１００％Made in Japan ではないことを学生諸君は知っている。 ユニクロは衣服の原材料を何処から調達？、何処で生産・縫製？、デザインは何処の国の人が？、等々の疑問が湧くと思う。 現在一国だけで全てが成り立つことが困難になっている相互依存的なグローバル社会になっている。 このような社会でグローバルスタンダードたり得たものが生き延びる世界になりつつあることを認識して欲しい。 世界の様々な分野でのグローバル化展開に興味のある学生諸君に受講を勧めたい。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	経営学	科目名（英文）	Business Administration
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	庭本　佳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）【施行規則に定める科目区分】「商業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	【授業概要】 本講義では、はじめて経営学に接する学生を対象に、企業経営の仕組みとその運営の仕方について基礎から説明していきます。企業を経営するとは、どういったことをいうのでしょうか。また、企業の経営には何が必要で、企業はどのような仕組みで動いているのでしょうか。こうした問いについて、私たちの日頃の生活とリンクさせつつ経営学領域の色々な側面から考察します。 経営学の基礎的な概念や理論に触れ、経営学に関する基本的な知識を蓄積していきます。 【目的】 はじめて経営学を学ぶ学生が、経営学とは何かについてイメージし経営学を学習する機会を提供することを目的としています。
到達目標	【到達目標】 ①経営学の基本的な概念や用語を理解すること ②具体的な企業の経営現象について、学んだ概念や用語によって説明できるようになること
授業方法と留意点	教科書を中心にした講義を行います。講義の理解を促進するために、数回の中間テストを講義の中で行います。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、販売士、公認会計士

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業についてのガイダンスを行います。	事前にシラバスを読んでおくこと。
2	企業経営入門(1)	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。	教科書第1章の予習と今回のノートの復習
3	企業経営入門（2）	前回の続き	今回のノートの復習
4	企業と社会	社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。	教科書第2章の予習と今回のノートの復習
5	企業形態	企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。	教科書第3章の予習と今回のノートの復習
6	コーポレート・ガバナンス	所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。	今回のノートの復習
7	経営理念	企業は環境の変化に適応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。	教科書第4章の予習と今回のノートの復習
8	企業戦略	前回の続き	今回のノートの復習
9	競争戦略	企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。	今回のノートの復習
10	経営資源	企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。	今回のノートの復習
11	マーケティング	企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。	教科書第 13 章の予習と今回のノートの復習
12	組織形態	企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。	教科書第5章の予習と今回のノートの復習
13	日本企業の組織形態	前回の続き	今回のノートの復習
14	組織間関係	企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。	教科書第6章の予習と今回のノートの復習
15	戦略的提携	前回の続き	今回のノートの復習
16	大量生産システム	企業は製品やサービスを製造・生産しています。とりわけ「モノづくり」の現場において、どのようにコストダウンと品質の向上の両立が追求されてきたのかについて学びます。	教科書第7章の予習と今回のノートの復習
17	日本型生産システム	前回の続き	今回のノートの復習
18	組織構造：分業と調整	「モノづくり」を可能にするのは、組織の構造的な仕組みそこで働く人々の活動です。そうした組織活動の基礎とマネジメントについて学びます。	教科書第8章の予習と今回のノートの復習
19	組織活動	前回の続き	今回のノートの復習
20	モチベーション	モチベーションという概念から働くことの意味について考えます。モチベーションを引き出すリーダーシップという概念についても学んでいきます。	教科書第9章の予習と今回のノートの復習
21	リーダーシップ	前回の続き	今回のノートの復習
22	ケースとレポート課題	これまでの講義で学んだことが具体的なケースにどのように現われているのか考えます。	A4 用紙 1～2 枚程度のレポートの提出
23	雇用システム	企業の雇用管理について学びます。その上で、今日、企業の雇用システムがどのように変化しているのかについて検討します。	教科書第 10 章の予習と今回のノートの復習
24	雇用形態の変化	前回の続き	今回のノートの復習
25	報酬制度	報酬制度にはどのようなものがあるのか概観し、その中でも年功給、職務給、職能給、成果給といった賃金制度について学びます。	教科書第 11 章の予習と今回のノートの復習
26	賃金体系の変化	前回の続き	今回のノートの復習

	27	人材育成	企業は従業員の能力を最大限に活用するために、能力を開発し人材育成に取り組んでいます。人材育成制度とその課題について学んでいきます。	教科書第 12 章の予習と今回のノートの復習
	28	国際経営	日本企業は何を求めてどのように海外に進出し、生産や販売活動を行っているのでしょうか。日本企業の国際経営の方向性について考えます。	教科書第 14 章の予習と今回のノートの復習
	29	会計制度	経営資源の一つである「カネ」について財務諸表の基本的な読み方を理解し、会社の経済状態を把握する方法を説明します。	教科書第 15 章の予習と今回のノートの復習
	30	現代の企業経営	各回の講義の要点をまとめ、グローバル市場下における企業経営の方向性を考えます。	今回のノートの復習

関連科目：経営管理論、経営組織論、経営労務論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄・奥林康司・團　泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林　明	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）：期末試験（６０％）と中間テスト（４０％）の成績により評価します。

学生へのメッセージ：授業は教科書に準じて行いますが、主体的に講義に参加しよく復習するようにしてください。

担当者の研究室等：

備考：

科目名	経営学特講Ⅴ	科目名（英文）	Up-to-date Topics of Business Administration Ⅴ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	仲　秀樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	当授業では、監査の中でも企業会計の監査である財務諸表監査を中心に講義する。監査の本質を理解するために、監査の意義・種類について解説し、監査の基本的概念について検討したい。また実際の財務諸表監査とは、いかなる証拠を収集し、評価するのかなど、監査人の具体的な手続についても見ていくことにする。
到達目標	財務諸表監査の限界と有用性を理解し、受講生が将来、財務諸表を活用するときの勘所を獲得することを目標とする。
授業方法と留意点	教科書にもとづいた講義方式。監査について受講生はイメージを描きにくいと思われるので、具体例を交えながら平易な講義を心がけたい。
科目学習の効果（資格）	監査論の基礎知識を得ることにより、公認会計士試験の初歩的な知識を獲得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	監査のフレームワーク（1）	監査とは何か。監査がなぜ必要とされるのか。その意義について検討する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
2	監査のフレームワーク（2）	監査の生成要因と監査の種類について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
3	監査のフレームワーク（3）	財務諸表監査の特質と監査の経済的機能について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
4	監査制度のフレームワーク	アメリカにおける監査基準の生成と展開を概説し、わが国の商法監査制度および証券取引法監査制度について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
5	監査規範の意義とわが国の監査基準（1）	監査規範の意義と体系について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
6	監査規範の意義とわが国の監査基準（2）	監査基準の生成と展開について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
7	監査規範の意義とわが国の監査基準（3）	監査基準における一般基準、実施基準、報告基準について概説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
8	監査意見形成のプロセス(1)	監査意見形成のプロセスはどのような論理に支えられているか、を説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
9	監査意見形成のプロセス(2)	財務諸表監査における経営者の主張と監査要点について考える。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
10	監査意見形成のプロセス(3)	監査手続と監査技術の関係、および監査技術の詳細につき講義する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
11	リスク・アプローチと監査戦略	リスク・アプローチの意義と監査リスクの構成要素について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
12	リスク評価、実証手続および監査の完了	固有リスクの評価や統制リスクの評価について講義する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
13	監査報告書と情報提供機能	監査業務の最終成果物である監査報告書について、その意義と機能、利害関係者にとっての意味や監査報告書の利用方法について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
14	総論	現在の会計監査の重要性とその将来性について検討する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
15	おわりに	講義のまとめ	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する

関連科目	会計関連科目、とくに財務会計論を履修していることが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ベーシック監査論（六訂版）	伊豫田隆俊、松本祥尚、林隆敏	同文舘出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	評価方法は定期試験が８０%、レポートが２０%として評価する。
学生へのメッセージ	講義中の私語は厳禁。質問は大歓迎です。学生の講義の理解度に応じて講義内容を変更する場合があります。
担当者の研究室等	11 号館 6 階（経営学部事務室）
備考	

専門科目

科目名	経営管理論	科目名（英文）	Business Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	庭本　佳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	【授業概要・目的】 経営管理論は、主として企業が目的を達成し持続的に成長していくための組織と管理に関する理論です。マネジメントの視点から個人、集団、組織それぞれの活動を理解することで、組織の中での自己の役割や意味が見えてきます。組織の中でより良く、時には強く生き抜いていくためにも、現代企業におけるマネジメントの各側面を理解することが重要です。 この講義では、「組織で人が働き、目的を達成していくためには何が必要なのか」ということについて、主要な経営管理論のエッセンスを手掛かりにしながら説明します。また、ケースやDVD学習も取り入れながら、実際の企業におけるマネジメントのイメージを描きます。
到達目標	【到達目標】 ①経営管理の主要な概念、専門用語を理解すること ②学んだ理論をもとに、現実の企業におけるマネジメントを説明できること
授業方法と留意点	基本的には、講義形式になります。講義の理解を促進するために、数回の中間テストを行います。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、販売士

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと
2	経営管理の基礎	組織体が活動を継続して行っていくためには、様々な資源を活用しうまく管理していかなければなりません。経営管理がどういった概念であるのか、それがなぜ必要なのか、そして主要な管理原則について説明します。	教科書序章の予習と今回のノートの復習
3	典型的な労働者像	経営管理の対象の一つである人間はどのような属性を持ち、何を求めているのでしょうか。経済人モデル、社会人モデル、自己実現人モデルを概観し、それぞれを前提としたマネジメントがどのような仕組みをとってきたのかを歴史的に検討します。	今回のノートの復習
4	テイラーと科学的管理法	生産活動に初めて「管理」という概念を導入したテイラーの「科学的管理法」の内容を説明し、20世紀に始まった大量生産システムに対する貢献と意義について検討します。	今回のノートの復習
5	ホーソン実験と人間関係論	大量システムによるアメリカ経済の繁栄の中で看過されてきた人間性を強調し、非公式組織として浮かび上がらせたのがメイヨーやレスリスバーガーらによる人間関係論です。非公式組織を発見する契機となった一連のホーソン実験を説明します。	今回のノートの復習
6	まとめと中間テスト（１）	これまでの講義のまとめと習熟度を把握するためテストを実施します。	教科書序章とこれまでの講義内容を復習しておくこと
7	モチベーション(1)	人は、何らかの欲求に動機づけられたとき努力を傾け仕事をしようとします。いくつかの動機づけモデルを紹介し、個人の内発的動機づけのマネジメントについて説明します。	教科書１、2 章の予習と今回のノートの復習
8	モチベーション(2)	第７回で検討した動機づけ理論が、実践にどのように取り入れられているのかを検討します。特に、目標による管理（MBO）、参加型マネジメント、職務再設計、能力給について具体的な事例を取り上げつつ考察します。	今回のノートの復習
9	集団の意思決定	集団において人はどのように行動し、また集団からどのような影響を受けるのでしょうか。人間関係論が明らかにした非公式組織、グループ・ダイナミクスを概観し、集団の特性と組織の生産性の関係を考察します。	今回のノートの復習
10	コミュニケーション	組織で生じるコンフリクトは、言葉の意味の食い違いや誤解、コミュニケーション伝達経路上の原因から生じることがあります。他方で、コミュニケーションを通していったん生じたコンフリクトから意思決定の質が向上し、創造性や革新性につながる場合もあります。本講義では、組織で行われるコミュニケーションについて説明します。	今回のノートの復習
11	チーム・マネジメント	組織においてチーム活動を経験しないひとはいないでしょう。チームといっても多様な形態が見られますが、いずれもコミュニケーション・ネットワークをよく観察することができます。チーム・マネジメントを実際のケースをもとに考察します。	今回のノートの復習
12	リーダーシップ(1)	組織内のコミュニケーションを調整し、組織を活性化するためにリーダーは大きな役割を果たします。リーダーシップの行動理論、変革型リーダーシップ等のリーダーシップ理論を説明します。	教科書３章の予習と今回のノートの復習
13	リーダーシップ（2）	第 12 回で検討したリーダー行動は、実際の企業経営においてはどのようにあらわれているのでしょうか。実際のケースをもとに考察します。	今回のノートの復習
14	まとめと中間テスト(2)	これまでの講義のまとめと習熟度を把握するためテストを実施します。	第7～13回の講義内容を復習しておくこと
15	ヒトのマネジメント(1)	組織メンバーの動機づけや協働には、人材マネジメントが大きな役割を果たしています。本講義では	今回のノートの復習

		3回に分けて従業員の育成、評価、報酬といった人事諸制度について検討します。	
16	ヒトのマネジメント(2)	年功給、職能給、職務給、成果給といった賃金体系の各要素を検討し、それらがどのように従業員の働く意欲が高めているのかについて説明します。	今回のノートの復習
17	ヒトのマネジメント(3)	従業員の処遇決定、適正な人材配置、人材育成のためには、人事評価が欠かせません。成果、能力、情意、行動という4つの評価基準を検討し、それぞれに存在する問題点を考察します。	今回のノートの復習
18	組織デザイン(1)	分業と協働を促進させる組織デザインの基本形として「機能別組織」を説明します。また、設計のための諸原則と問題点を検討します。	今回のノートの復習
19	組織デザイン(2)	事業規模及び範囲の拡大は、企業に機能別組織から事業部制組織への移行を促します。事業部制組織の設計原理と内容を説明し、そのメリット・デメリットを考察します。	今回のノートの復習
20	組織デザイン(3)	日本企業の事業部制の運営を説明します。ソニーやパナソニック等を例に日本企業の組織デザインの変遷を概観します。	今回のノートの復習
21	まとめと中間テスト(3)	これまでの講義のまとめと習熟度を把握するためテストを実施します。	第 15～20 回の講義内容を復習しておくこと
22	環境のマネジメント(1)	企業は存続と発展のために、自社を取り巻く様々な外部環境の変化に適応していかなければなりません。企業が外部環境をマネジメントするとはどういうことか説明し、経営戦略のイメージを掴みます。	教科書4章の予習と今回のノートの復習
23	環境のマネジメント(2)	企業は勝負する市場をどのように決め、どのように戦略を策定していくのでしょうか。成長ベクトル、SWOT分析等から企業戦略を説明します。	今回のノートの復習
24	環境のマネジメント(3)	企業が進出した市場でどの相手といかにして競争するのか、競争優位を導く競争戦略を説明します。	教科書4章の予習と今回のノートの復習
25	レポート課題	組織デザインの変遷と戦略展開について描かれたケースのDVDを視聴し、第18回～第24回の間に説明した講義内容がどのようにケースに現れているのか考えます。	A4 用紙 1～2 枚程度のレポートを提出すること
26	組織変革(1)	環境の変化を読む、自社のなりたい姿と辿るべき道を明らかにする、実際に組織が活動していく、修正するという4つの段階から組織変革のプロセスを説明します。	教科書6章の予習と今回のノートの復習
27	組織変革(2)	組織の現在の活動の精度を上げる、活動を変更するという組織学習について説明し、なぜ学習の失敗が起きてしまうのか考察します。	教科書8章の予習と今回のノートの復習
28	組織変革(3)	組織変革を促す経営者の役割について説明します。企業にとって必要なビジョンや価値観を創造し企業文化を醸成していく活動について、具体的な例によって検討します。	今回のノートの復習
29	組織変革(4)	トップと現場の結節点となるミドルの試行錯誤から組織変革の方向性を探ります。ミドルによる現場の日常的な管理行動と変革型の管理行動について、ケースを参照しながら説明します。	教科書6章の再読と今回のノートの復習
30	まとめと復習	これまでの講義の要点をまとめます。	今回のノートの復習

関連科目	経営学、経営組織論、経営労務論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営を動かす―その組織と管理の理論―	庭本佳和・藤井一弘編著	文眞堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	期末試験（６０％）と中間テスト（４０％）の成績によって評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	経営情報システムⅠ	科目名（英文）	Management Information Systems Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】情報システム（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	現代の企業経営において、情報システムの活用は業務遂行に欠かせない要素の一つとなっている。講義では、企業における経営情報システムの基本的知識を体系的に身につけることを目指す。情報技術と経営手法がいかにして結びついているのかを中心に講義と演習を行う。
到達目標	企業で使われている情報システムの概念や課題について理解し、コンピュータに関わる職業で求められる基礎的な知識・技術を習得する。
授業方法と留意点	配布資料を中心に講義を行い、プロジェクターを使用しながら解説する。配布資料に含まれる演習問題を解きながら進めることで理解を深める。
科目学習の効果（資格）	企業経営において情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まる。 中小企業診断士試験を受験する援助となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、経営情報システムとは	――――――
2	企業情報システムの概要	企業経営と情報システム、情報システムの意義	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
3	情報システムとコンピュータ	ハードウエア、ソフトウェア、データベース	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
4	情報システムとネットワーク	情報ネットワークの仕組み、仮想化、階層化	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
5	情報システムとセキュリティ	情報化社会の脅威、コンピュータセキュリティの概念と対策技術	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
6	情報社会とコミュニケーション	CMC の種類と事例、e ビジネス、e コマース	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
7	情報システムによる意思決定支援	意思決定支援システム、身近な意志決定支援	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
8	前半のまとめ･学力診断テスト	前半部分のまとめ	テストの解答内容を見直しておく
9	情報システムの開発と導入（１）	システム開発とライフサイクル、各システム設計法の概要	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
10	情報システムの開発と導入（２）	主要なシステム設計の技術とツール	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
11	需要予測	需要予測の方法、時系列分析	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
12	在庫管理	在庫管理の方法、最適発注量、発注システム	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
13	仕入計画	仕入計画の方法、線形計画法	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
14	日程計画	日程計画の方法、PERT 図	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
15	経営情報システム事例、全体復習	情報社会を支える技術・サービス、全体復習	全体復習の内容を整理する

関連科目	経営情報システムⅡ、プログラミング、ビジネスデータ分析

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（40%）、授業中の課題（30%）、小テスト（20%）、授業への参加度（10%）により総合的に評価する。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	経営情報システムについて学ぶことで、ビジネスプロセスと情報技術の結びつきが理解できるようになります。 また、情報技術に対する関心が高まり、将来の業務に生かすことができます。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（栢木准教授室）
備考	必要に応じて資料を配布する

科目名	経営情報システムⅡ	科目名（英文）	Management Information Systems II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】情報システム（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	企業経営において、情報システムの活用は業務遂行に欠かせない要素の一つとなっている。講義では、経営情報システムⅠで学習した情報システムに関する知識を活かしながら、Excel およびAccess を用いて、簡単なデータベースの設計・開発を行う。
到達目標	データベースの設計・管理の基本について理解し、Excel および Access を用いて、簡単なリレーショナルデータベースを設計、開発するための知識・技術を身につける。
授業方法と留意点	配付資料を中心に講義を行い、プロジェクターを使用しながら解説する。随時演習を取り入れながら進めることで理解を深める。
科目学習の効果（資格）	企業経営で情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まると共に、システムの設計・開発に関する技能を習得できる。 中小企業診断士試験を受験する援助となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、経営情報システムⅠの復習、データベースの基本	――――――
2	システム開発の技術（１）	システム開発のプロセス、システム開発モデル	開発のプロセスについて調べる 配付資料を読んでおく
3	システム開発の技術（２）	要求分析と業務分析の手法	要求分析および業務分析とはどのようなものかを考える 配付資料を読んでおく
4	システム開発の技術（３）	業務分析演習	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
5	情報システム設計演習（１）	情報システムの開発環境	開発環境について調べる 配付資料を読んでおく
6	情報システム設計演習（２）	データベースのテーブル作成	テーブルについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
7	情報システム設計演習（３）	データベースのリレーション作成	リレーションについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
8	情報システム設計演習（４）	データベースのフォーム作成１	フォームについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
9	情報システム設計演習（５）	データベースのフォーム作成２	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
10	情報システム設計演習（６）	データベースのレポート作成１	レポートについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
11	情報システム設計演習（７）	データベースのレポート作成２	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
12	情報システム設計演習（８）	データベースのマクロ作成	マクロについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
13	情報システム設計演習（９）	データベースのメニューフォーム作成、システム利用マニュアルの作成・提出	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
14	情報システム設計演習（１０）	プレゼンテーション資料の作成・提出、システム作業報告書の作成	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
15	情報システム設計演習（１１）	プレゼンテーション相互評価、システム作業報告書の作成・提出 全体復習	システムの問題点を自己分析する 作業報告書の作成

関連科目	経営情報システムⅠ、プログラミング、ビジネスデータ分析

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業での成果物（50%）、レポート課題（20%）、小テスト（20%）、授業への参加状況（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	システムの企画・設計・評価など、演習を中心に行うのでできるだけ欠席しないようにしてください。 授業の中で生じた疑問等の自己解決に努めるなど、積極的な参加を心がけて下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（栢木准教授室）
備考	必要に応じて資料を配布する

専門科目

科目名	経営情報システム論	科目名（英文）	Management Information System
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代の企業経営において、情報システムの活用は業務遂行に欠かせない要素の一つとなっている。講義では、企業における経営情報システムの基本的知識を体系的に身につけることを目指す。前半は、情報技術と経営手法がいかにして結びついているのかを中心に講義と演習を行う。後半は、学習した情報システムに関する知識を活かしながら、Excel および Access を用いて、簡単なデータベースの設計・開発を行う。
到達目標	企業で使われている情報システムの概念や課題について理解し、コンピュータに関わる職業で求められる基礎的な知識・技術を習得する。また、データベースの設計・管理の基本について理解し、Excel および Access を用いて、簡単なリレーショナルデータベースを設計、開発するための知識・技術を身につける。
授業方法と留意点	配布資料を中心に講義を行い、プロジェクターを使用しながら解説する。随時演習を取り入れながら進めることで理解を深める。
科目学習の効果（資格）	企業経営において情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まる。 中小企業診断士試験を受験する援助となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、経営情報システムとは	――――
2	企業情報システムの概要	企業経営と情報システム、情報システムの意義	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
3	情報システムとコンピュータ	ハードウエア、ソフトウェア、データベース	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
4	情報システムとネットワーク	情報ネットワークの仕組み、仮想化、階層化	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
5	情報システムとセキュリティ	情報化社会の脅威、コンピュータセキュリティの概念と対策技術	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
6	情報社会とコミュニケーション	CMC の種類と事例、e ビジネス、e コマース	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
7	情報システムによる意思決定支援	意思決定支援システム、身近な意志決定支援	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
8	前半のまとめ・学力診断テスト	前半部分のまとめ	テストの解答内容を見直しておく
9	情報システムの開発と導入（1）	システム開発とライフサイクル、各システム設計法の概要	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
10	情報システムの開発と導入（2）	主要なシステム設計の技術とツール	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
11	需要予測	需要予測の方法、時系列分析	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
12	在庫管理	在庫管理の方法、最適発注量、発注システム	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
13	仕入計画	仕入計画の方法、線形計画法	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
14	日程計画	日程計画の方法、PERT 図	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
15	前期のまとめ	情報社会を支える技術・サービス、前期の復習	前期の内容を整理する 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
16	経営情報システムの具体例	データベースの基本	講義の中で課した演習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
17	システム開発の技術（1）	システム開発のプロセス、システム開発モデル	開発のプロセスについて調べる 配付資料を読んでおく
18	システム開発の技術（2）	要求分析と業務分析の手法	要求分析および業務分析とはどのようなものかを考える 配付資料を読んでおく
19	システム開発の技術（3）	業務分析演習	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
20	情報システム設計演習（1）	情報システムの開発環境	開発環境について調べる 配付資料を読んでおく
21	情報システム設計演習（2）	データベースのテーブル作成	データテーブルについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
22	情報システム設計演習（3）	データベースのリレーション作成	リレーションについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
23	情報システム設計演習（4）	データベースのフォーム作成１	フォームについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
24	情報システム設計演習（5）	データベースのフォーム作成２	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
25	情報システム設計演習（6）	データベースのレポート作成１	レポートについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
26	情報システム設計演習（7）	データベースのレポート作成２	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
27	情報システム設計演習（8）	データベースのマクロ作成	マクロについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
28	情報システム設計演習（9）	データベースのメニューフォーム作成、システム利用マニュアルの作成・提出	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく

	29	情報システム設計演習（１０）	プレゼンテーション資料の作成・提出、システム作業報告書の作成	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
	30	情報システム設計演習（１１）	プレゼンテーション相互評価、システム作業報告書の作成・提出 全体復習	システムの問題点を自己分析する 作業報告書の作成

関連科目	プログラミング、ビジネスデータ分析

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	定期試験（40%）、授業中の課題（30%）、小テスト（20%）、授業への参加度（10%）をもとに総合的に評価する。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	経営情報システムについて学ぶことで、ビジネスプロセスと情報技術の結びつきが理解できるようになります。 また、情報技術に対する関心が高まり、将来の業務に生かすことができます。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（栢木准教授室）
備考	必要に応じて資料を配布する

科目名	経営統計学	科目名（英文）	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問で ある。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。経営統計学では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要となる基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈し活用するための基礎的な知識と技術を習得する。
授業方法と留意点	配布資料を中心に講義を行い、プロジェクターを使用しながら解説する。配布資料に含まれる演習問題を各自関数電卓を使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果（資格）	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要となる科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	――――――
2	統計資料の整理（1）	統計資料の読み方	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
3	統計資料の整理（2）	統計資料の整理方法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
4	データの集計（1）	代表値について、平均、分散、標準偏差	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
5	データの集計（2）	度数分布、ヒストグラム	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
6	データの集約（1）	データの集約、クロス集計	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
7	データの集約（2）	クロス集計の実践	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
8	前半のまとめ･学力診断テスト1	前半部分のまとめ	テストの解答内容を見直しておく
9	データの相関関係（1）	相関関係について、相関係数の算出	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
10	データの相関関係（2）	相関関係と因果関係	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
11	空間と事象（1）	標本空間、ベン図	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
12	空間と事象（2）	和集合、積集合	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学の手法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
14	後半のまとめ･学力診断テスト2	後半部分のまとめ	テストの解答内容を見直しておく
15	統計学の応用	マネジメントに求められる統計学、全体復習	全体復習の内容を整理しておく

関連科目	ビジネス数学、ビジネスデータ分析

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ゼロから学ぶ統計解析	小寺平治	講談社
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（40%）、授業中の課題（30%）、小テスト（30%）の結果により総合的に評価する。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	経営統計学は、数学を基礎とする学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な講義への参加を心がけてください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（栢木准教授室）
備考	必要に応じて資料を配布する

科目名	経営統計学Ⅰ	科目名（英文）	Business Statistics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問で ある。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。経営統計学では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要となる基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈し活用するための基礎的な知識と技術を習得する。
授業方法と留意点	配布資料を中心に講義を行い、プロジェクターを使用しながら解説する。配布資料に含まれる演習問題を各自関数電卓を使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果（資格）	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要となる科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	――――――
2	統計資料の整理（1）	統計資料の読み方	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
3	統計資料の整理（2）	統計資料の整理方法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
4	データの集計（1）	代表値について、平均、分散、標準偏差	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
5	データの集計（2）	度数分布、ヒストグラム	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
6	データの集約（1）	データの集約、クロス集計	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
7	データの集約（2）	クロス集計の実践	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
8	前半のまとめ･学力診断テスト1	前半部分のまとめ	テストの解答内容を見直しておく
9	データの相関関係（1）	相関関係について、相関係数の算出	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
10	データの相関関係（2）	相関関係と因果関係	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
11	空間と事象（1）	標本空間、ベン図	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
12	空間と事象（2）	和集合、積集合	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学の手法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
14	後半のまとめ･学力診断テスト2	後半部分のまとめ	テストの解答内容を見直しておく
15	統計学の応用	マネジメントに求められる統計学、全体復習	全体復習の内容を整理しておく

関連科目	ビジネス数学、ビジネスデータ分析

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ゼロから学ぶ統計解析	小寺平治	講談社
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（40%）、授業中の課題（30%）、小テスト（30%）の結果により総合的に評価する。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	経営統計学は、数学を基礎とする学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な講義への参加を心がけてください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（栢木准教授室）
備考	必要に応じて資料を配布する

専門科目

科目名	経営とリスク	科目名（英文）	Business and Risk
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保　貞也
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）【施行規則に定める科目区分】「商業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	リスクマネジメントは、経営活動において発生するリスクを組織的にマネジメントし、ハザード（危害）の発生、損失などを回避、もしくは、低減させる重要なマネジメント手法です。リスクは変化の激しい現代社会における重要な課題であり、リスクの評価手法、マネジメント体制の構築、その運用、および、個人単位でのリスクマネジメント意識の向上などが含まれます。これらについて、事例や手法を多く学ぶことで、実践力の高い専門職業人としての土台を築きます。
到達目標	この講義によって以下の事柄を修得できることを目標とします。 （1）リスクについての定義を理解している （2）リスクを多面的に評価することができる （3）リスクへの対応について組織面、人間行動の両面から提案ができる
授業方法と留意点	講義形式で行う。適宜、スライドや映像資料を提示するとともに、外部講師による事例紹介やディスカッションなども実施する予定である。 また、必要に応じてインターネットから企業情報、事例などを収集してディスカッションの資料作成を行う。
科目学習の効果（資格）	経営におけるリスクマネジメントの必要性の理解と自律的な対応の心構え

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の狙い、進め方、採点方法など	シラバスを読んでおく
2	リスクマネジメントとは何か	リスクマネジメントの事例紹介	リスクマネジメントの事例の調査
3	リスクマネジメントの必要性	リスクマネジメントのメリット、コストバランスなど	実際のリスクマネジメントの費用対効果を考える
4	リスクマネジメントの実際	部分最適型から全体最適型への変化について	バイト先などのリスク管理について調査する
5	リスクの捉え方	リスクの定義、評価方法など	身近にあるリスクの評価
6	リスクマネジメントの基礎概念（1）	リスクマネジメントの定義、基本計画など	受講内容の実例を探す
7	リスクマネジメントの基礎概念（2）	対策の実施、モニタリング、危機管理など	受講内容の実例を探す
8	リスクマネジメントの体制	推進体制の構築、設計の前提について	マネジメント体制を自ら検討する
9	リスクマネジメントの教育	教育方法、評価方法、育成の視点など	教育方法の比較検討
10	事例紹介	外部講師、もしくは、映像資料などによる事例紹介	これまで受講した内容との関係性の分析
11	ディスカッション	リスクマネジメント担当部署としてのロールプレイ	ディスカッションテーマに関する情報収集
12	事業継続計画	BCP とは何か、災害時の事業継続について	震災時の実例の調査
13	リスクマネジメントの実務（1）	現場でのリスクマネジメントについて	効果的なリスクマネジメントの検討
14	リスクマネジメントの実務（2）	今すぐ始められるリスク管理法について	リスクマネジメントの関連図書を読む
15	まとめ	本講義のまとめ	講義内容の振り返り

関連科目	システム監査、情報倫理、企業倫理、情報法に関する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期テスト 80%、レポート等 20%で評価する。
学生へのメッセージ	リスクマネジメントは組織の安定的な事業遂行のために重要な考え方であり、管理技術でもあります。経営におけるリスク管理の概念を理解し、これからの社会で期待される人財として求められる判断力を磨いて欲しいと思います。
担当者の研究室等	１１号館７階久保准教授室
備考	

科目名	コンテンツビジネス	科目名（英文）	Content Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾　大嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）【施行規則に定める科目区分】「商業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	本講義では、代表的なコンテンツ業界として、放送通信、映画、音楽、出版広告、娯楽・レジャーを取り上げ、それぞれの産業構造、ビジネスモデル、業界の特徴的な慣行等について諸外国の事例もふまえながら解説する。
到達目標	・コンテンツ業界の産業構造とビジネスモデルについて理解する。
授業方法と留意点	講義は、プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行なう。また一部のテーマについては学生による事前の文献調査とその発表をもとにすすめる予定である。なお講義で取り扱うテーマについては、受講生の関心や時の話題に応じて変更する場合もある。
科目学習の効果（資格）	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	――――――――	――――――――
2	コンテンツ産業（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・コンテンツとは ・コンテンツ産業の構造、市場規模	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	コンテンツ産業（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・コンテンツビジネスとは ・コンテンツビジネスの仕組みとそれを支える情報技術 ・知的財産権ほか	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	放送・通信産業（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・放送とは ・放送産業の構造、市場規模 ・放送ビジネスの仕組みとそれを支える情報技術	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	放送・通信産業（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・通信とは ・通信産業の構造、市場規模 ・通信ビジネスの仕組みとそれを支える情報技術 ・放送と通信の融合	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	映画産業（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・映画産業の構造、市場規模 ・映画ビジネスの仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	映画産業（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットで変わる映画ビジネス ・ハリウッドの映画ビジネス	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	映画産業（3）	この回では、教材映像を視聴し日米のコンテンツ制作の違いについて解説する。	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	音楽産業（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・音楽産業の構造、市場規模 ・音楽ビジネスの仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	音楽産業（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットを基盤とする新たな音楽ビジネス ・iPod がもたらしたもの	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	出版・広告産業（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・出版産業の構造、市場規模 ・出版ビジネスの仕組み ・再販売価格維持制度 ・電子書籍端末	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	出版・広告産業（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・広告産業の構造、市場規模 ・広告ビジネスの仕組み ・Google 社の広告ビジネス	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	娯楽・レジャー産業（1）	この回では、主に以下について解説し、事前課題の内容について議論する。 ・ゲーム産業の構造、市場規模 ・ゲームビジネスの仕組み ・モバイルゲームのビジネスモデル	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	娯楽・レジャー産業（2）	この回では、主に以下について解説し、事前課題の内容について議論する。 ・観光産業の現状と市場	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこ

			・情報技術を活用した観光関連サービスの事例	と。
	15	まとめ	――――――――――	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

関連科目	インターネット概論、メディア戦略論、サイバービジネスソリューション１，情報産業論，電子商取引など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	期末テスト（80%）、小テスト・レポート（20%）で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	受け身の姿勢では何も身につきません。目的意識を持って積極的に講義に参加してください。
担当者の研究室等	１１号館７階（針尾准教授室）
備考	

科目名	コンピュータ概論	科目名（英文）	Computer Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保　貞也
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	本講義は、現代社会を支える重要な社会基盤となったコンピュータについて、その機能と仕組みを理解し、利用者として賢く利用していく方法について学ぶことを目的としている。特に企業経営や社会活動においてコンピュータによってもたらされている利便性の向上について考えると共に、情報に関する概念や表現方法、コンピュータの構成要素であるハードウェアやソフトウェアに関する基礎的な知識の習得を目指す。また、急速な勢いで展開される情報サービスの特徴や最新動向およびその利用方法などについて知るために、適時、デモンストレーションや映像教材の視聴を行いながら解説していく。
到達目標	本講義を通じて以下の事柄を達成することが目標です。 （１）現在の経営における情報技術の重要性を説明できる （２）経営情報として必要なハード、ソフトの代表例を説明できる （３）経営学における情報の重要性を理解している
授業方法と留意点	プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行う。定期的に小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	ＩＴパスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに重要な科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(コンピュータ概論(前期)について)	講義の狙い、進め方について	シラバスを読んでおくこと
2	コンピュータの活用（１）	現在のコンピュータ利用についての紹介	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	コンピュータの活用（２）	コンピュータを利用した学習や生活の変化	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	企業の IT 活用（１）	企業における IT 利活用の実状、その必要性について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	企業の IT 活用（２）	情報化社会のビジネスチャンスについて	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	コンピュータの歴史	コンピュータが登場した背景と発展の経緯	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	ソフトウェアの歴史	プログラミング言語の発展からオペレーティングシステムの発展について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	情報の表現（１）	２進数の表現	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：テストの解答内容を見直しておくこと。
9	情報の表現（２）	画像や音声の圧縮について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	ハードウェアの仕組み（１）	システムの構成について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	ハードウェアの仕組み（２）	記憶装置や記録方式について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	ソフトウェアの役割（１）	プログラムの必要性、開発方法について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	ソフトウェアの役割（２）	データベースの設計について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	情報倫理と情報セキュリティ	個人のセキュリティ対策、情報モラルと著作権などについて	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
15	前期のまとめ	----------	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>情報関連科目全般</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>定期テスト80%、レポート等20%で評価する。
私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>受け身の姿勢では何も身につきません。目的意識を持って積極的に講義に参加してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>前期：１１号館７階（久保准教授室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>シラバスの内容については、受講生の理解の程度、関心に合わせて適時調整する。</td></tr>
</table>

科目名	コンピュータ概論	科目名（英文）	Computer Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保　貞也.針尾　大嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）【施行規則に定める科目区分】「情報社会及び情報倫理」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	本講義は、現代社会を支える重要な社会基盤となったコンピュータおよびインターネットについて、その機能と仕組みを理解し、利用者として賢く利用していく方法について学ぶことを目的としている。前期では、コンピュータによってもたらされている現代社会の利便性の向上について考えると共に、情報に関する概念や表現方法、コンピュータの構成要素である論理回路や５大機能、コンピュータを制御するソフトウェアやプログラミング言語など、コンピュータに関する基礎的な知識の習得を目指す。後期では、インターネットの歴史、通信技術の仕組みや急速な勢いで展開される情報サービスの特徴や最新動向およびその利用方法などについて、適時、デモンストレーションや映像教材の視聴を行いながら解説していく。
到達目標	本講義を通じて以下の事柄を達成することが目標です。 （１）現在の経営における情報技術の重要性を説明できる （２）経営情報として必要なハード、ソフトの代表例を説明できる （３）経営学における情報の重要性を理解している
授業方法と留意点	プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行う。定期的に小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	ＩＴパスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに重要な科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション（コンピュータ概論（前期）について）	講義の狙い、進め方について	シラバスを読んでおくこと
2	コンピュータの活用（１）	現在のコンピュータ利用についての紹介	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	コンピュータの活用（２）	コンピュータを利用した学習や生活の変化	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	企業の IT 活用（１）	企業における IT 利活用の実状、その必要性について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	企業の IT 活用（２）	情報化社会のビジネスチャンスについて	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	コンピュータの歴史	コンピュータが登場した背景と発展の経緯	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	ソフトウェアの歴史	プログラミング言語の発展からオペレーティングシステムの発展について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	情報の表現（１）	２進数の表現	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：テストの解答内容を見直しておくこと。
9	情報の表現（２）	画像や音声の圧縮について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	ハードウェアの仕組み（１）	システムの構成について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	ハードウェアの仕組み（２）	記憶装置や記録方式について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	ソフトウェアの役割（１）	プログラムの必要性、開発方法について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	ソフトウェアの役割（２）	データベースの設計について	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	情報倫理と情報セキュリティ	個人のセキュリティ対策、情報モラルと著作権などについて	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
15	前期のまとめ	----------	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。

			復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
16	コンピュータ概論(後期)について	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットが社会にもたらしたもの ・本講義の進め方	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
17	インターネットの歴史	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットの歴史	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
18	未来の情報社会	この回では、主に以下について解説する。 ・次世代情報通信技術	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
19	インターネットのサービス類型	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットを基盤とした各種サービス	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
20	インターネット・ビジネスの市場と動向	この回では、主に以下について解説する。 ・情報通信産業の規模，市場動向	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
21	マーケティングと IT（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・マーケティングとメディア ・これからのマーケティングと情報通信技術	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
22	マーケティングと IT（2）	中間まとめとテスト	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：テストの解答内容を見直しておくこと。
23	インターネットの仕組み（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・コンピュータの基本構造 ・インターネットの基本的仕組み ・HTTP ・メールの送受信と SMTP の仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
24	インターネットの仕組み（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットの要素技術	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
25	モバイル通信の仕組み（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・移動体情報通信とは ・携帯電話で通話できる仕組み ・モバイルキャリア	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
26	モバイル通信の仕組み（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・無線 LAN ・データ通信 ・スマートフォン	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
27	ソーシャルメディア(1)	この回では、主に以下について解説する。 ・ソーシャルメディアサービスの事例紹介	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
28	ソーシャルメディア(2)	この回では、主に以下について解説する。 ・ソーシャルメディアサービスの事例紹介	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
29	メディアリスクと企業対応	この回では、主に以下について解説する。 ・企業のソーシャルメディア活用の失敗と対応事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
30	後期のまとめ	----------	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

関連科目	情報関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	前期：定期テスト 80%、レポート等 20%で評価する。 後期：定期テスト 80%、レポート 20%で評価する。なお出席が 40%に満たない場合は評価の対象としない。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	受け身の姿勢では何も身につきません。目的意識を持って積極的に講義に参加してください。

担当者の 研究室等	前期：１１号館７階（久保准教授室） 後期：１１号館７階（針尾准教授室）
備考	シラバスの内容については、受講生の理解の程度、関心に合わせて適時調整する。

専門科目

科目名	コンピュータサイエンス	科目名（英文）	Computer Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野　純
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）【施行規則に定める科目区分】「情報社会及び情報倫理」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	「プログラミング」の授業ではプログラミング言語の学習をしたが，それだけでは良いプログラムは作成できない。まず，対象となるデータをどう表現し，問題をどう解くのか，つまり，データ構造やアルゴリズムを決定しなければならない. この授業では，コンピュータの構造と動作について理解し，代表的なアルゴリズムやデータ構造について，C 言語による実際のプログラミングを通して理解する.
到達目標	コンピュータの中でデータがいかに表現され、処理されるかを理解する。 プログラミングにおいてアルゴリズムの選択がいかに重要かを理解する。
授業方法と留意点	内容の解説と演習による．欠席や遅刻は授業の理解を著しく妨げる. 「プログラミング」程度の C 言語の知識を仮定する.
科目学習の効果（資格）	基本情報技術者試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	・アルゴリズムとは ・データ構造とは ・C のデータ型 ・コンピュータを理解しよう	課題１
2	コンピュータの構成と動作	・コンピュータの構成 ・コンピュータの動作 ・ビットとデジタル化	課題２
3	２進法	・２進法 ・符号無し整数型 ・符号無し整数演算のオーバーフロー	課題３
4	２の補数表現	・符号付き整数型 ・２の補数表現 ・符号付き整数演算のオーバーフロー	課題４
5	浮動小数点法	・実数型 ・浮動小数点法 ・実数の表現誤差	課題５
6	乱数生成	・乱数とは ・C の標準乱数 ・線形合同法	課題６
7	計算量	・計算量とは ・O 記法 ・CPU 時間の測定	課題７
8	入出力	・入出力の切り替え ・データの入出力 ・文字の入出力 ・行の入出力	課題８
9	基本的な計算	・総和・カウント・平均値 ・最大値・最小値	課題９
10	探索	・線形探索法 ・二分探索法	課題１０
11	文字列の探索	・素朴な方法 ・ボイヤー・ムーア法	課題１１
12	単純なソート	・バブルソート ・単純選択ソート ・単純挿入ソート	課題１２
13	速いソート	・クイックソート ・マージソート	課題１３
14	スタックとキュー	・スタックとは ・配列を用いたスタック ・キューとは ・環状バッファを用いたキュー	課題１４
15	線形リスト	・線形リストとは ・構造体による線形リストの表現 ・線形リストの操作	課題１５

関連科目	この授業を履修する前に「プログラミング」の授業を修得しておくこと.

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中に課せられる課題の提出（５０％）と，随時実施する小テスト（５０％）で評価する.
学生への	アルゴリズムとデータ構造の，考え方と実際の手順を十分に理解した上で，実際にプログラムコードを作成してみます．理解なくしてプログラム

メッセージ	を入力しても，ほとんど何も身に付かないでしょう．頭を働かせてアルゴリズムの面白さを味わいましょう．
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(牧野(純)教授室)
備考	

専門科目

科目名	コンピュータシミュレーション	科目名（英文）	Computer Simulation
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	黒澤　敏朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	マネジメントサイエンスにおける問題解決法の一つにシミュレーション（模擬実験）がある。この科目では、その基本原理を理解し、いくつかの典型的な経営問題のモデルについて、表計算ソフトＥｘｃｅｌを用いて実際に演習を行い、その方法を習得することを目的とする。
到達目標	ビジネスにおけるシミュレーション技法の基礎を理解し、現実の課題への応用の指針を構築できることが到達目標である。
授業方法と留意点	毎回、パソコンを用いた授業を行う。まず、テキストをもとに基本モデルを説明し、次にＥｘｃｅｌの関数を用いてモデル化を行い、いろいろなパラメータ値でシミュレーションを行うことで、経営問題への理解を深めていく。
科目学習の効果（資格）	基本情報処理技術者や中小企業診断士を始め、情報系・経営系の資格取得に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	シミュレーション入門（1）	自動販売機の釣り銭モデルによるシミュレーションの基礎演習	シラバスを再確認しよう。そして、身近にあるシミュレーションの利用事例を探してみよう。
2	シミュレーション入門（2）	確率現象を用いた自動販売機の釣り銭シミュレーションの応用演習	授業中に行った演習課題を復習しよう。
3	変動量と統計（1）	ランダムネスの検定	授業中に行った演習課題を復習しよう。
4	変動量と統計（2）	統計量と確率分布	授業中に行った演習課題を復習しよう。
5	疑似乱数の作成と検定	一様乱数の作成と適合度の検定	授業中に行った演習課題を復習しよう。
6	計画の検討（1）	定期預金の利息のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
7	計画の決定（2）	ローンの利息のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
8	応用課題（1）	定期預金とローンのシミュレーションについての応用課題	授業中に行った演習課題を復習しよう。
9	決定問題（1）	決定の木を用いた中古バイクの売却問題のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
10	決定問題（2）	取引相手の決定についてのシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
11	在庫問題（1）	新聞売り子問題のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
12	在庫問題（2）	定期発注方式のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
13	応用課題（2）	発注点（定量）発注方式のシミュレーションについての応用課題	授業中に行った演習課題を復習しよう。
14	待ち行列	ランダム到着、ランダムサービスの場合のモデル化ととシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
15	まとめ	これまでの学習内容のまとめと専用ソフトを用いた工場や社会システムのシミュレーションの事例紹介	この授業で学んだことを振り返ろう。

関連科目	経営統計学、マネジメントサイエンス、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	シミュレーション（Ｅｘｃｅｌで学ぶ経営科学入門シリーズ４巻）	荒木勉、栗原和夫	実教出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学習内容の性質上、定期試験は行いません。したがって成績は、授業中に行う演習課題のレポート（５０％）と２つ以上の応用課題のレポート（５０％）で評価します。
学生へのメッセージ	毎回、Ｅｘｃｅｌを用いたシミュレーションを行いますので、Ｅｘｃｅｌの関数を使える程度の予備知識は必要です。基本的な技法を繰り返し、かつ積み重ねながら学習することになりますので、できるだけ欠席しないようにしてください。
担当者の研究室等	１１号館７階　黒澤教授室
備考	

科目名	コンピュータネットワーク	科目名（英文）	Computer Network
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	堀井　千夏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義では、社会、産業の重要なインフラストラクチャーであり、IT 革命といわれるほどさまざまな分野に大きな衝撃を与えているコンピュータネットワークについて学習する。特に、ネットワークを構成する基本的な技術を整理し、どのようにして相互にデータのやりとりができるのか、それらの技術がどのように活用されているのかについて平易に解説する。また、LAN やインターネットはもとより、携帯電話や衛星通信などについても、最新の技術動向やトピックスを交え、ネットワークの面白さ、奥深さについて議論する。
到達目標	ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について学ぶ。
授業方法と留意点	この授業は再々履修科目であり、留年生のみが受講する。このため履修者は数名となることから遅刻は 15 分までとし、遅刻または無断欠席の回数が 2 回を超える場合は、受講する意思がないものとみなす。 初回は座席指定を行うため、必ず出席すること。また、私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	以下のテーマで実施する 1 データ通信の仕組みデータ通信の種類とその利用方法 2 アナログ通信とデジタル通信 3 伝送技術変調方式と多重化方式 4 伝送システムデータを伝送する代表的な手順 5 交換システム交換システム(回線交換とパケット交換) 6 通信プロトコル通信プロトコルの役割，ネットワークアーキテクチャ 7 LAN のネットワーク構成ネットワークの種類と特長 8 LAN のプロトコル(1) LAN を利用した通信の仕組み 9 LAN のプロトコル（２） OSI（Open Systems Interconnection）参照モデル 10 講義のまとめ講義（1～9 回）の復習と小テスト 11 無線 LAN(1) 無線 LAN の種類と特徴 12 無線 LAN(2) 無線 LAN の仕組み 13 TCP(1) TCP の特徴 14 TCP(2) TCP の役割 15 TCP(3) TCP と UDP 16 IP(1) IP の役割，ＩＰパケット 17 IP(2) IP アドレス，IP ヘッダー 18 IP(3) ICMP，チェックサム 19 LAN の構成要素ハブ，ルーター，Mac アドレス，Mac フレーム 20 講義のまとめ講義（11～19 回）の復習と小テスト 21 電子メール(1) 電子メールの仕組み，メールクライアントとメールサーバ 22 電子メール(2) メールヘッダーと本文の役割，ＤＮＳサーバ 23 電子メール(3) メールセキュリティ 24 情報社会のセキュリティ(1) 情報セキュリティの基本 25 情報社会のセキュリティ(2) ハッキングとクラッキング 26 情報社会のセキュリティ(3)個人情報保護とプライバシー，情報漏洩 27 コンピュータウィルス(1) コンピュータウィルスの特徴 28 コンピュータウィルス(2) コンピュータウィルスによる被害 29 セキュリティ対策安全性，暗号と認証技術 30 講義のまとめ講義（21～29 回）の復習と小テスト
関連科目	情報処理関連の基礎科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	期末試験（持ち込み不可，100%）により評価する。ただし、遅刻または無断欠席の回数が 2 回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者（寝る、喋る等）は欠席扱いとする。
学生へのメッセージ	「授業方法と留意点」および「評価方法」をよく読んで受講すること。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	サービスマーケティング	科目名（英文）	Services Marketing
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原　貞幸.坂元　ますみ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	物が溢れている現代、サービスという無形あるいは消滅性であるものを、いかに付加価値として提供できるかを模索している企業は多い。その解決策のひとつがサービス・マーケティングである。 本講座ではマーケティングの基本を学び、企業におけるサービス・マーケティングの事例を取り上げて考察、さらに様々な業種業態において有効なサービス・マーケティング手法を探る。 これにより、受講生のマーケティング知識とセンスを磨くことを目的とする。
到達目標	世界において競争力のある商品・サービスの構築方法を習得する。
授業方法と留意点	スライド、レジュメを使用した解説および演習によって講義を進める。 知識や既存の理論の習得に留まらず、それらをいかに実際のビジネスに活用できるか掘り下げて取り組むことで、実践的なマーケティング手法を身に付けていく。
科目学習の効果（資格）	あらゆる業種業態への就業、または起業や商品・サービス企画に不可欠なマーケティングの基本を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マーケティングとは？	マーケティングが生まれた背景 マーケティングがもたらす影響 様々なマーケティング理論の紹介 （坂元）	身近にあるマーケティングについて考える （坂元）
2	サービスの定義	サービス・マーケティングで取り扱われるサービスの定義 ・サービスの特性 ・サービスの分類 （坂元）	自分が受けるサービスについての特性や分類について考える （坂元）
3	サービスと顧客マネジメント	企業におけるサービス、顧客マネジメントの実例をもとに、サービスと顧客マネジメントの実際を考察する （坂元）	様々な業種業態におけるサービスと顧客マネジメントの実例に目を向ける （坂元）
4	提供できるサービスの価値	身近にある様々な商品・サービスにおいてそのサービスの価値を考察する （坂元）	顧客、消費者目線でサービスの価値をはかりながらマーケティングセンスを磨く （坂元）
5	ターゲティング	提供できるサービスを最も高く評価してくれる顧客は誰なのか 商品・サービスをより高価格で、またはより多く売るためのターゲティングについて考察する （坂元）	様々な商品・サービスのターゲティングについて考える（提出課題を課す） （坂元）
6	ニーズの段階	提供できるサービスを最も高く評価してくれる顧客は何を求めているのか 商品・サービスをより高価格で、またはより多く売るためのニーズの段階について考察する （坂元）	身の回りの商品・サービスがどのようなニーズの段階の顧客に採用されているか考える （坂元）
7	サービス・マーケティング理論	・マーケティングの４P ・サービス・マーケティングの７P （坂元）	身近な商品・サービスについて、４Pを考える。また、自社商品・サービスであればどのような7Pを定義するか考える。 （坂元）
8	付加価値としてのサービスの構築	・ターゲティングに対する付加価値の提供 ・ニーズの段階に応じた付加価値の提供 ・理論に則した付加価値の提供 （坂元）	自分が受けるサービスの付加価値に対するプライスを考える（提出課題を課す） （坂元）
9	顧客満足と顧客対応の実際	企業における顧客対応の実例をもとに、顧客満足と顧客対応の実際を考察する ・消費者行動 ・顧客接点と CRM ・顧客満足と顧客対応の実際 （坂元）	顧客・消費者の目線で顧客満足と顧客対応について考える （坂元）
10	サービス・マーケティング実習	サービス・マーケティングを取り入れた新しい商品・サービスを企画する ・コンセプトづくり ・分析と規定 （坂元）	講義で学んだマーケティング手法を使って新しい商品・サービスを企画する （坂元）
11	サービス・マーケティング実践（１）	経営におけるマーケティング戦略の位置付けについて知る （萩原）	企業経営においてマーケティング戦略が重要であることを認識する
12	サービス・マーケティング実践（２）	中小企業、ベンチャー企業の戦略に有効とされるランチェスター法則について学習する （萩原）	ベンチャー企業のサービス・マーケティングについて考えてみる
13	サービス・マーケティング実践（３）	企業が実践しているランチェスター法則、ＮＯ．１づくりについてみる （萩原）	広告やＣＭでうたわれている「ＮＯ．１」について調べてみる
14	サービス・マーケティング実践（４）	・ランチェスター法則のまとめ ・ランチェスター法則のＷＥＢ活用、大	中小企業のとりうるサービス・マーケティング戦略と大企業のとりうるサービス・マーケティング戦略

			企業での活用についても考えてみる（萩原）	について理解を深める
	15	レポート作成	レポートは、当日講義時間中に完成させ提出。評価の対象とする 既存あるいは新しい商品・サービスについて有効なマーケティング戦略を策定し、提案する（萩原）	サービス・マーケティングのポイントを理解し、重要語句とその意味を覚える

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート（講義中に作成し提出する場合と講義後提出する場合とがあります。）の評価（１００％）。 この評価の内訳は、坂元担当分が６７％、萩原担当分が３３％
学生へのメッセージ	今やマーケティングは、なにも、大手企業のマーケティング部や企画部だけのものではなくなりました。書店へ行けばマーケティングを語る書籍は山のようにあります。しかし、その、全ての書籍が、正解であり、間違いでもあります。それは、ビジネスに、「誰にでもあてはまるたったひとつの成功法則」などないからです。 この講座は、「あなただけの成功法則」を見つけ、どんな業種業態においても有効なマーケティング手法を身につけることを目指します。そして、将来、日本のみならず、世界の中で競争力のある商品・サービスを構築できる力をつけて欲しいと願っています。
担当者の研究室等	なし
備考	

科目名	サイバービジネスソリューションⅠ	科目名（英文）	Cyber Business Solution Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾　大嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	携帯電話やスマートフォンといった移動体情報通信技術の急速な発展と普及により企業と消費者が情報通信ネットワークを介して結ばれたことで、現在、その関係が大きく変わりつつある。企業は、消費者個人の嗜好や行動情報をもとに新たな需要を掘り起こし、消費者はそれらの情報の提供することで、パーソナル且つタイムリーで利便性の高いサービスを求めるようになる。すなわちこれは、従来の企業を中心とする産業社会から消費者を主体とする消費社会への移行を意味し、今後のビジネスにおいて消費者を理解することが益々重要性を増してくる。そこで本講義では、今日の消費活動の主要な場となりつつあるWebコミュニティや消費行動の傾向や特徴から現代消費者を捉えるとともに、それを支える要素技術及びこれらに関する企業側の取り組みについて、特にマーケティング活動の点から解説する。
到達目標	・メディア戦略の基本的考え方を理解する。 ・マーケティング戦略におけるIT活用の先端的取り組みとその目的について理解する。
授業方法と留意点	講義は、プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行なう。また一部のテーマについては学生による事前の文献調査とその発表をもとにすすめる予定である。なお講義で取り扱うテーマについては、受講生の関心や時の話題に応じて変更する場合もある。
科目学習の効果（資格）	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この回では、主に以下について解説する。 ・本講義の進め方 ・マーケティングの変遷	――――――――
2	メディア戦略とは	この回では、主に以下について解説する。 ・メディア戦略・戦術の基本的考え方	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	メディア戦略の理論（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・消費者購買行動モデル ・顧客接点とメディア	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	メディア戦略の理論（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・プロダクトライフサイクル ・競争戦略	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	メディア戦略の理論（3）	この回では、主に以下について解説する。 ・参入戦略 ・製品市場戦略	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	メディア戦略の理論（4）	この回では、主に以下について解説する。 ・PR戦略 ・顧客コミュニケーション戦略	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	メディア戦略の基盤技術（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネット広告の種類 ・インターネット広告の仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	メディア戦略の基盤技術（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・モバイル通信の仕組み ・モバイル広告配信の仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	メディア戦略の基盤技術（3）	この回では、主に以下について解説する。 ・ソーシャルメディアの種類 ・ソーシャルメディアの仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	メディア戦略の基盤技術（4）	この回では、主に以下について解説する。 ・クラウドコンピューティング ・ビッグデータ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	企業のメディア活用事例（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・強者のメディア戦術事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	企業のメディア活用事例（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・弱者のメディア戦術事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	企業のメディア戦略事例（3）	この回では、主に以下について解説する。 ・集客・販売のメディア戦術事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	企業のメディア戦略事例（4）	この回では、主に以下について解説する。 ・優良顧客化のメディア戦術事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
15	まとめ	――――――――	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこ

	と。
関連科目	インターネット概論、経営情報システム論，電子商取引など
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 配布資料 / / 2 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	期末テスト（80%）、小テスト・レポート（20%）で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生への メッセージ	受け身の姿勢では何も身につきません。目的意識を持って積極的に講義に参加してください。
担当者の 研究室等	１１号館７階（針尾准教授室）
備考	

専門科目

科目名	サイバービジネスソリューションⅡ	科目名（英文）	Cyber Business Solution II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾　大嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義では、代表的なコンテンツ業界として、放送通信、映画、音楽、出版広告、娯楽・レジャーを取り上げ、それぞれの産業構造、ビジネスモデル、業界の特徴的な慣行等について諸外国の事例もふまえながら解説する。
到達目標	・コンテンツ業界の産業構造とビジネスモデルについて理解する。
授業方法と留意点	講義は、プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行なう。また一部のテーマについては学生による事前の文献調査とその発表をもとにすすめる予定である。なお講義で取り扱うテーマについては、受講生の関心や時の話題に応じて変更する場合もある。
科目学習の効果（資格）	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	――――――	――――――
2	コンテンツ産業（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・コンテンツとは ・コンテンツ産業の構造、市場規模	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	コンテンツ産業（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・コンテンツビジネスとは ・コンテンツビジネスの仕組みとそれを支える情報技術 ・知的財産権ほか	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	放送・通信産業（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・放送とは ・放送産業の構造、市場規模 ・放送ビジネスの仕組みとそれを支える情報技術	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	放送・通信産業（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・通信とは ・通信産業の構造、市場規模 ・通信ビジネスの仕組みとそれを支える情報技術 ・放送と通信の融合	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	映画産業（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・映画産業の構造、市場規模 ・映画ビジネスの仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	映画産業（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットで変わる映画ビジネス ・ハリウッドの映画ビジネス	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	映画産業（3）	この回では、教材映像を視聴し日米のコンテンツ制作の違いについて解説する。	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	音楽産業（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・音楽産業の構造、市場規模 ・音楽ビジネスの仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	音楽産業（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネットを基盤とする新たな音楽ビジネス ・iPod がもたらしたもの	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	出版・広告産業（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・出版産業の構造、市場規模 ・出版ビジネスの仕組み ・再販売価格維持制度 ・電子書籍端末	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	出版・広告産業（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・広告産業の構造、市場規模 ・広告ビジネスの仕組み ・Google 社の広告ビジネス	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	娯楽・レジャー産業（1）	この回では、主に以下について解説し、事前課題の内容について議論する。 ・ゲーム産業の構造、市場規模 ・ゲームビジネスの仕組み ・モバイルゲームのビジネスモデル	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	娯楽・レジャー産業（2）	この回では、主に以下について解説し、事前課題の内容について議論する。 ・観光産業の現状と市場 ・情報技術を活用した観光関連サービス	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>の事例</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>15</td><td>まとめ</td><td>――――――――――</td><td>予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。
復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="4">インターネット概論、メディア戦略論、サイバービジネスソリューション１，情報産業論，電子商取引など</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="4"><table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>配布資料</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="4"><table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td colspan="4">期末テスト（80%）、小テスト・レポート（20%）で評価する。
私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td colspan="4">受け身の姿勢では何も身につきません。目的意識を持って積極的に講義に参加してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td colspan="4">１１号館７階（針尾准教授室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

専門科目

科目名	C言語プログラミング	科目名（英文）	C Programming
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牧野　純
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	コンピュータを理解するためにはプログラミングの学習が欠かせない．この授業では，C言語を用いた基礎的なプログラミングを通して，コンピュータの構造と動作について理解を深めることを目的とする．
到達目標	C言語の文法の基礎的な部分をマスターし，簡単なプログラムが自由に書けるようにする．
授業方法と留意点	内容の解説と演習による．欠席や遅刻は授業の理解を著しく妨げる．
科目学習の効果（資格）	基本情報技術者試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Cによるプログラミング	プログラミングの流れ，コンパイルとは、プログラムの構造、プログラムの書き方	プリント（1）の練習問題
2	文字列の表示	文字列、拡張表記、コメント	プリント（2）の練習問題
3	整数の計算と表示	整数値の表示、文字%の表示、整数値のいろいろな表示、整数の四則計算	プリント（3）の練習問題
4	実数の計算と表示	実数、実数値の表示、実数値のいろいろな表示、実数の四則演算	プリント（4）の練習問題
5	変数	型、変数、代入、変数の初期化	プリント（5）の練習問題
6	scanf 関数	キーボードからの読み込み	プリント（6）の練習問題
7	if 文（その１）	if 文、条件を表す式	プリント（7）の練習問題
8	if 文（その２）	if 文の入れ子、ブロック	プリント（8）の練習問題
9	while 文	while 文、while 文の特徴	プリント（9）の練習問題
10	do 文	do 文、do 文の特徴	プリント（１０）の練習問題
11	制御変数	制御変数と繰り返し、増分演算子と減分演算子、複合代入演算子	プリント（１１）の練習問題
12	for 文	for 文、for 文の特徴	プリント（１２）の練習問題
13	制御文の組み合わせ	for 文の中で if 文を使う、if 文の中で for 文を使う	プリント（１３）の練習問題
14	多重ループ	二重ループ，多重ループ	プリント（１４）の練習問題
15	break 文と continue 文と goto 文	break 文，continue 文，goto 文	プリント（１５）の練習問題
16	switch 文と条件演算子	switch 文，条件演算子	プリント（１６）の練習問題
17	配列	配列，配列要素，添字，配列の初期化	プリント（１７）の練習問題
18	多次元配列	2 次元配列，多次元配列	プリント（１８）の練習問題
19	関数（その１）	標準ライブラリ関数の呼び出し，関数定義と関数呼び出し，関数プロトタイプ宣言	プリント（１９）の練習問題
20	関数（その２）	返却値のない関数，変数の有効範囲と寿命	プリント（２０）の練習問題
21	関数演習	関数を作成し，利用するプログラムの練習	プリント（２１）の練習問題
22	マクロ	オブジェクト形式マクロ，関数形式マクロ	プリント（２２）の練習問題
23	ポインタ	アドレス演算子，ポインタ変数，間接参照演算子	プリント（２３）の練習問題
24	関数とポインタ(その１)	関数に変数を渡したい	プリント（２４）の練習問題
25	関数とポインタ(その２)	複数の値を戻したい	プリント（２５）の練習問題
26	配列とポインタ	ポインタとしての配列名，配列を関数に渡したい	プリント（２６）の練習問題
27	文字と文字列	char 型と文字定数，文字の入出力，文字列と文字列リテラル，文字配列の初期化，文字列の入出力	プリント（２７）の練習問題
28	文字列とポインタ	配列を用いた文字列の表現，ポインタを用いた文字列の表現，関数に文字列を渡す，関数から文字列を受け取る	プリント（２８）の練習問題
29	文字と文字列の標準ライブラリ関数	文字処理関数，文字列処理関数	プリント（２９）の練習問題
30	構造体	構造体，構造体の配列とポインタ	プリント（３０）の練習問題

関連科目	「コンピュータサイエンス」の受講には，「プログラミング」が履修済みであることが前提となる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	授業中に課せられる課題の提出（５０％）と，随時実施する小テスト（５０％）で評価する．
学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので，欠席や遅刻をしないこと．欠席するとそれ以降の授業の理解は困難となる．
担当者の研究室等	11 号館 7 階(牧野(純)教授室)
備考	

科目名	市場調査実習Ⅰ	科目名（英文）	Practice in Marketing Research Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　圭三.樋口　友紀.西岡　暁廣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは「大学生の社会生活と職業意識」を予定している。 市場調査実習Ⅰでは、各自の関心に基づいて仮説を設定し、調査票を作成した後実際に配布・回収をおこなうまでの作業が中心になる。
到達目標	計量的調査をおこなう際に必要となる知識を獲得する。データ分析をおこなうためのスキルを獲得する。計量的なデータを用いた論文が書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、学生が実際に作業をおこなう実習形式でおこなわれる。出席が大前提になるため、よほどの事情がない限り欠席は認めない。
科目学習の効果（資格）	社会調査を実施する際の全過程を体験する。 「社会調査士」資格取得に必要な科目（G科目）である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の全体的な流れ、授業の進め方など	配布資料に基づく予習
2	基本的な統計量	平均値・中央値・分散・標準偏差	配布資料等を用いた復習と予習
3	2変数間の関係を探る	相関係数・クロス表・平均の差	配布資料等を用いた復習と予習
4	推測統計の考え方	推測統計の基本的な発想	配布資料等を用いた復習と予習
5	統計的仮説検定	カイ2乗検定、相関係数の検定、T検定	配布資料等を用いた復習と予習
6	多変量解析1	分散分析、重回帰分析	配布資料等を用いた復習と予習
7	多変量解析2	主成分分析	配布資料等を用いた復習と予習
8	調査テーマ・サブテーマの検討1	問いと仮説の設定	各自で問いや仮説を検討する
9	調査テーマ・サブテーマの検討2	問いと仮説の設定	各自で問いや仮説を検討する
10	調査項目・質問文案の検討1	各自の仮説に対応した質問項目、質問文案の作成	各自で質問項目・質問文案を検討する
11	調査項目・質問文案の検討2	各自の仮説に対応した質問項目、質問文案の作成	各自で質問項目・質問文案を検討する
12	データ収集方法・作業分担の検討	調査対象者・サンプリング方法の選定	配布資料等を用いた復習と予習
13	プリテスト	仮調査票を用いたプリテストと調査票の修正	調査票の修正案を作成
14	調査票・コードブックの作成	調査票・コードブックを完成させる	調査票・コードブックの修正案を作成
15	実査	調査票の配布と回収	配布・回収に関わる事前準備

関連科目	市場調査入門、市場調査法、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、情報社会論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み度20%、提出物80%
学生へのメッセージ	特定の単位を取得していないと履修できませんので注意してください。また、出席が大前提になるので、よほどの事情がない限り欠席は認めません。
担当者の研究室等	山本：11号館7階　山本講師室 樋口：11号館8階　樋口准教授室 西岡：11号館6階　講師控室
備考	

専門科目

科目名	市場調査実習Ⅱ	科目名（英文）	Practice in Marketing Research II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　圭三.樋口　友紀.西岡　暁廣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは「大学生の社会生活と職業意識」を予定している。 市場調査実習Ⅱでは、データセットの作成、データ分析、報告書の執筆といった作業が中心になる。
到達目標	計量的調査をおこなう際に必要となる知識を獲得する。データ分析をおこなうためのスキルを獲得する。計量的なデータを用いた論文が書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、学生が実際に作業をおこなう実習形式でおこなわれる。出席が大前提になるため、よほどの事情がない限り欠席は認めない。
科目学習の効果（資格）	社会調査を実施する際の全過程を体験する。 「社会調査士」資格取得に必要な科目（G科目）である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	データ入力・コーディング1	データの入力とコーディング	データ入力方法等について学習しておく
2	データ入力・コーディング2	データの入力とコーディング	データ入力方法等について学習しておく
3	エラーチェック	入力ミスのチェック、ロジカルエラーチェック	エラーチェック方法等について学習しておく
4	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法1	SPSS を用いて単純集計、クロス表、カイ2乗検定をおこなう	テキスト・配布資料を用いた予習と復習
5	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法2	SPSS を用いて相関係数の検定、T検定をおこなう	テキスト・配布資料を用いた予習と復習
6	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法3	SPSS を用いて分散分析、重回帰分析をおこなう	テキスト・配布資料を用いた予習と復習
7	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法4	SPSS を用いて主成分分析、尺度構成をおこなう	テキスト・配布資料を用いた予習と復習
8	基礎集計	基礎集計項目の検討、基礎集計表の作成	基礎集計表の作成
9	データ分析と仮説の再検討1	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	仮説検証のためのデータ分析
10	データ分析と仮説の再検討2	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	仮説検証のためのデータ分析
11	データ分析と仮説の再検討3	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	仮説検証のためのデータ分析
12	データ分析と仮説の再検討4	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	仮説検証のためのデータ分析
13	報告書執筆1	分析結果をまとめた報告書の作成	報告書の執筆
14	報告書執筆2	分析結果をまとめた報告書の作成	報告書の執筆
15	報告書完成	分析結果をまとめた報告書の作成	報告書の執筆

関連科目	市場調査入門、市場調査法、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、情報社会論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み度20%、期末レポート80%
学生へのメッセージ	特定の単位を取得していないと履修できませんので注意してください。また、出席が大前提になるので、よほどの事情がない限り欠席は認めません。
担当者の研究室等	山本：11号館7階　山本講師室 樋口：11号館8階　樋口准教授室 西岡：11号館6階　講師控室
備考	

科目名	市場調査入門	科目名（英文）	Introduction to Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金　政芸
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	社会調査の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義がなされる。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。
到達目標	社会調査の基礎を理解する。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義をおこなう。
科目学習の効果（資格）	社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち「【 A 】 社会調査の基本的事項に関する科目」に対応。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要について。	授業の流れについて理解する。
2	社会調査とは	社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。	レジュメを読んで復習する。
3	社会調査の歴史	社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。	レジュメを読んで復習する。
4	社会調査の種類	さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。	レジュメを読んで復習する。
5	調査倫理	調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。	レジュメを読んで復習する。
6	量的調査と質的調査――それぞれの特徴	量的調査と質的調査の特徴と違いについて。	レジュメを読んで復習する。
7	官庁統計1――官庁統計の利用と統計法	行政機関がおこなう社会調査には何があるか。統計法とは何か。	レジュメを読んで復習する。
8	官庁統計2――官庁統計による諸研究	官庁統計のデータを用いた研究の紹介。	レジュメを読んで復習する。
9	量的調査1――統計学と質問紙調査（1）	質問紙調査の概要について。統計学との関係。	レジュメを読んで復習する。
10	量的調査2――統計学と質問紙調査（2）	質問紙調査の方法について。	レジュメを読んで復習する。
11	量的調査3――質問紙調査による諸研究	質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。	簡単な質問紙調査をしてみる。
12	質的調査1――聞き取り調査	聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。	簡単な聞き取り調査をしてみる。
13	質的調査 2――参与観察	参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。	レジュメを読んで復習する。
14	質的調査3――ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。	レジュメを読んで復習する。
15	まとめ	社会調査の基礎的な知識を身につけることができたかを確認。	レジュメを読んで復習する。

関連科目	.

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度と提出課題（４０％）と期末試験（６０％）で評価する。
学生へのメッセージ	市場調査を含む社会調査全般について学ぶ講義です。
担当者の研究室等	.
備考	

科目名	市場調査法	科目名（英文）	Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　圭三
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例をとりあげつつ解説していく。
到達目標	調査研究の全体的な流れを理解する。質問紙調査をおこなう際の諸問題を理解する。
授業方法と留意点	配布資料を用いた講義が中心であるが、実習形式での学習も適宜おこなう。
科目学習の効果（資格）	社会調査の全体的な流れが理解できる。 「社会調査士」資格取得に必要な科目（B 科目）である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか。	配布資料を用いた復習と予習
2	社会調査の全体的な流れ	研究の企画から報告書の執筆までの流れ	配布資料を用いた復習と予習
3	調査を始める（1）	問いと仮説の設定、概念の明確化	配布資料を用いた復習と予習
4	調査を始める（2）	調査方法の種類	配布資料を用いた復習と予習
5	調査票を作成する（1）	ワーディング	配布資料を用いた復習と予習
6	調査票を作成する（2）	回答選択肢の作成	配布資料を用いた復習と予習
7	調査票を作成する（3）	調査票全体の設計	配布資料を用いた復習と予習
8	調査の実施（1）	調査票の配布と回収の方法	配布資料を用いた復習と予習
9	調査の実施（2）	全数調査と標本調査、標本数の決定	配布資料を用いた復習と予習
10	調査の実施（3）	サンプリングの諸方法	配布資料を用いた復習と予習
11	データの作成（1）	コードブックの作成と入力作業	配布資料を用いた復習と予習
12	データの作成（2）	コーディング・エディティング・データクリーニング	配布資料を用いた復習と予習
13	データ分析の基礎（1）	度数分布、代表値	配布資料を用いた復習と予習
14	データ分析の基礎（2）	変数間の関係の分析	配布資料を用いた復習と予習
15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	配布資料を用いた復習

関連科目	社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、市場調査入門、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、市場調査実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度 10%、提出物および定期試験 90%
学生へのメッセージ	社会調査の知識は、今やどこに行っても必要とされるものです。関心のある学生はぜひ受講して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　山本講師室
備考	

科目名	システム設計	科目名（英文）	System Design
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	星山　幸子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	情報化社会においては、「問題を発見し、目的を設定して、解決するためのシステムを実現する」ためにコンピュータは極めて有用である。それがシステム設計の大きな意味付けとなる。例えば、「オリジナルなソフトウェアを作りたい」という希望が芽生えたとき、それをパソコンで実現する方法を構想し、パソコンを用いて作る手順がシステム設計である。それを推し進めると社会で利用されている情報処理システムを設計するという目標につながる。
到達目標	就職活動においてアピールできる、経営管理に有用なシステム構築スキルの獲得を目標とする。
授業方法と留意点	配布資料とパソコンを用いて、ExcelVBA を使用した演習で授業を進める。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。時間内に課題を完成できない場合、次回までに提出することが求められる。出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	毎回の演習課題をこなすことにより、前半は入出力設計基礎演習、計算ドリル・請求書管理システムの作成を通して、システム設計の基本を学習する。後半では、販売管理システム、ゲームの作成をプログラムすることで、1.設計の方法と全体イメージの確認、2.コード化確認と実行、コード化の具現化、3.ファイル操作方法確認と実行、4.コードバリエーションの考察等を確認し、評価・検証・問題点の洗い出し能力を身につけるものとする。それにより、経営分野で必要とされるプログラミング能力を獲得し、就職活動にアピールできるスキルを身につけるものとする。
関連科目	プログラミング基礎、基本情報処理Ⅰ、Ⅱ、経営情報システム論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ExcelVBA のプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本―最初からそう教えてくれればいいのに	立山秀利	秀和システム
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点 20%、課題提出 20%、習得度確認演習および試験（授業にて実施）60%を総合して評価する。80%以上の出席率を要求する。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	

科目名	消費者行動論	科目名（英文）	Consumer Behavior
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	近年、マーケティングの中で、消費行動研究の重要性が高まっています。この講義では、マーケティングの視角から、消費行動について基本的知識を身につけ体系的な理解を与えることを目的としています。日常の消費行動も、マーケティング的にみると新しい発見があるかもしれません。
到達目標	消費者行動論の基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義が中心ですが、ビデオも活用し、企業と消費行動の関連を追及していきます。
科目学習の効果（資格）	消費行動をマーケティング的発想で考えることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	消費者行動論の全体像を示します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	マーケティングとは	マーケティングの内容について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	マーケティング志向	企業のマーケティング志向について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	マーケティングと消費行動	マーケティングにおける消費行動の位置づけについて、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	消費行動の心理学的アプローチ	消費者行動を心理学的に考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	消費行動と百貨店ー大丸松坂屋百貨店の歴史的展開ー	外部講師による講演	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	消費行動とプロセス	消費者の購買意思決定過程について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチから、消費者のニーズを探る方策を考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	顧客満足	企業の顧客満足への対応について取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	STP アプローチと消費行動	消費者のニーズと STP アプローチについて、考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	高付加価値化と消費行動	高付加価値化と消費行動の関連について取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	市場細分化と消費行動	市場細分化と消費行動の関係について取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	製品ライフサイクルと消費行動	製品ライフサイクルと消費行動の関係について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	消費行動の歴史的変遷	消費行動の歴史的変遷過程をマクロの視点から考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目	マーケティング論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の研究室等	１１号館８階（武居教授室）
備考	

科目名	消費者心理	科目名（英文）	Consumer Psychology
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野　幸志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	現代社会における消費者の心理と行動を解説していく。社会における消費者の心理と行動について科学的に理解することを目的とする。
到達目標	マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して，多面的に消費心理を捉える能力を養うことを目標とする。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自，ノートを取ること。授業中に発言を求めることもある。第１回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。
科目学習の効果（資格）	高等学校教員免許（商業）と関連する。消費者の心理と行動を理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・消費者心理の位置づけ	授業内容，授業方法について説明します。 消費者心理とは？	授業内容の復習
2	消費行動と社会心理学	消費行動とは何か？購買行動と消費行動	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
3	消費行動におけるブランド選択	商品選択と消費者心理	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
4	消費者の価値意識	ライフスタイルと商品選択	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
5	消費行動における個人内過程	消費者の非計画購買過程	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
6	消費者の価格判断	心的ものさしと商品の価格づけ	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
7	消費者間相互作用と購買意思決定	口コミによるマーケティング戦略	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
8	インターネットを利用した消費者間コミュニケーション	インターネットの利用により消費行動は変わるのか？	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
9	比較広告と消費行動	比較広告の効果と課題	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
10	広告媒体の種類と広告の効果	広告の内容分析とその効果	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
11	テレビ広告における内容分析とその効果	テレビ広告における内容分析と購買効果	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
12	悪質商法と消費者	悪質商法の手口と対策	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
13	企業のリスク・コミュニケーションと消費者	リスクを伝える工夫とリスク・マネジメント	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
14	サービスと消費者心理	接客サービスの効果と接客での問題点	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
15	消費者心理と消費行動の今後	消費者はこれからどのような商品，サービスを選んでいくのか？	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習

関連科目	消費者行動論と関連する。合わせて受講してほしい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費行動の社会心理学	竹村和久著	北大路書房
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費者心理のわかる本―マーケティングの成功原則55	梅澤伸嘉著	同文舘出版
2			
3			

評価方法（基準）	授業内課題(40%)，定期試験(60%)の合計得点で評価します。
学生へのメッセージ	私たちは，毎日いろいろなものを消費しています。では，なぜその商品を買ったのでしょう？なぜ，そのサービスを選んだのでしょう？値段だけでしょうか？消費者の心の動きについて，具体例を交えながら，解説していきます。
担当者の研究室等	11 号館 7 階(牧野(幸)准教授室)
備考	他人の迷惑となる行為(遅刻，私語，居眠り，内職，スマホ，携帯電話の使用など)はすべて禁止とします。

科目名	情報産業論	科目名（英文）	Computer and Information Industry
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷川　周次
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	「産業の情報化」の進展の中で、情報産業はその中心的担い手として、発展を続けています。　情報産業はそれ自体の産業規模に留まらず、情報サービスの提供を通じ他産業の発展にも大きく貢献してきました。　今後の情報産業に求められるのは、情報の高度活用を通じて、産業の高付加価値化を進めていく先導的な役割です。　本講義では、情報産業の誕生から発展の歴史をたどると共に、情報産業の役割、課題を実例を交えながら解説します。
到達目標	今日に於ける情報産業の役割、課題の理解を深めると共に、情報産業で働く技術者、コンサルタントなどの業務内容を理解しつつ、産業としての発展可能性を探ることができるレベルへの到達を目標とします。
授業方法と留意点	講師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画を促す目的で、レポートやその発表を多く取り入れたものにします。　授業全体を通じ、その時々の社会情勢を中心に、プリントやパワーポイントにより新しい動向を紹介し、全員で考えながら授業を進めます。また、毎回ではありませんが、課題を出し次講義で発表いただく場合もあります。　毎回講義内容を復習しておいてください。
科目学習の効果（資格）	情報産業に関する知識は、特定の業界や企業の問題ではなく、社会で働く上で情報活用は必須条件であり、あらゆる仕事において役立つと考えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに　ー情報産業とはー	（1）講義ガイダンス 講義の概要、進め方、評価方法、注意事項などについての説明 （2）序論 コンピュータと情報について	シラバスをよく読んでおいてください。
2	情報産業の歴史　Ⅰ	情報産業の誕生からメインフレーム(汎用機)の時代に至る経緯を解説します。 コンピュータ開発の歴史、コンピュータの産業での活用、情報産業の誕生を踏まえ、その歴史と特徴を説明します。	メインフレームコンピュータとは何かを調べておいてください。
3	情報産業の歴史　Ⅱ	パソコン芽生えの時代からインターネット活用の時代までの進展の歴史と特徴を説明します。	どの様なことにインターネットを活用しているかを整理しておいてください。
4	情報産業の歴史　Ⅲ	パソコンの普及からユビキタスの時代までの歴史と特徴を説明します。	ユビキタスとはどの様な意味かを調べておいてください。
5	従来型情報産業の動向	コンピュータメーカ、ソフトウエア開発、通信など従来型情報産業の動向と企業特性による分類と今後の動向等を説明します。	ハードウェアとソフトウェアの違いを調べておいてください。
6	新情報産業の登場　Ⅰ	エレクトリックコマース(EC)、モバイル、コンテンツなどの新情報産業の登場を紹介し、インターネットの発展により登場した新たなタイプの情報産業について、その特徴と動向を解説します。	インターネットでの物品購入などで疑問に思うことを整理しておいてください。
7	新情報産業の登場　Ⅱ	従来型教法産業と新情報産業との違いを知り、両者の産業構造の違いを理解していただきます。 放送局などの情報提供と、新情報産業の一部であるコンテンツ提供サービスの違いを解説すると共に、クラウド・コンピューティングとはどの様な意味があるのかに言及します。	コンテンツとは何かを調べておいてください。
8	情報産業の将来展望	情報産業の今後の発展を、６つの局面から検討し、その可能性を探ります。	情報産業というものを、どの様に理解したかを整理しておいてください。
9	企業経営の観点での情報統制	情報担当役員(CIO)の役割と事例研究。 企業などで情報システムや情報の流通を統括する情報統括役員（CIO）の役割とその重要性を解説します。　また、中小企業で、CIO の役割を代行する IT コーディネイターの役割への理解を深めます。	企業経営における情報の重要性について考えておいてください。
10	企業内情報システム部門の役割	情報産業の仕事内容を知るために、情報システム開発の事例を一緒に検討します。 企業内で情報システム開発管理を行う情報システム部門の役割や、情報システムのライフサイクルについて言及します。	ライフサイクルという言葉の意味を調べておいてください。
11	情報システムの開発	システム開発の流れ、作業内容、開発方法などについて理解していただきます。 システム開発に不可欠なプロジェクト管理の重要性などについての理解を深めていただきます。	プロジェクトとは、どの様なものを指すのかを調べておいてください。
12	情報システムで働く人の環境	情報産業の中心的担い手である高度情報専門家の職種、業務内容と求められるスキルの体系や業務内容について解説します。　特に、プロジェクト・マネジャーの仕事内容を紹介します。	知りうる、または想像する情報システム関係の仕事を整理しておいてください。
13	中小企業での情報システム	中小企業における情報システム開発の課題を紹介し、情報システム部門が存在	中小企業の経営の厳しさについて、知りうることを整理しておいてください。

			しない実態や、情報処理に投資できる金額にも限りがあるという厳しい現状を認識していただきます。	
	14	講義のまとめ(前編)	これまでの講義全体の復讐と、学期末試験を意識したポイントを整理します。 また、そのための模擬テストの実施、Q＆A対応を行います。	全体のまとめをするので、過去に配布した講義資料を全部持って来てください。　また、質問事項を整理しておいてください。
	15	講義のまとめ(後編)	これまでの講義全体の復讐と、学期末試験を意識したポイントを整理します。 また、そのための模擬テストの実施、Q＆A対応を行います。	全体のまとめをするので、過去に配布した講義資料を全部持って来てください。　また、質問事項を整理しておいてください。

関連科目	情報工学／情報処理入門／情報産業の歴史 etc.

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全体評価は、平常評価（40%）と学期末試験評価（60%）により行います。 平常評価は、課題レポートまたは小テスト、授業ごとの感想レポートにより行い、学期末試験評価は、文章力向上、自己表現力向上の目的も兼ねて論述中心の試験を実施し評価します。 また、レポート課題および学期末試験の設問は、到達目標に纏わる内容とし、その結果で達成評価を行います。
学生へのメッセージ	情報産業は、本来、時代の最先端を走り、種々の産業をリードする役割を担っていると考えます。　長年、情報産業に身を置く講師の経験も踏まえて、情報産業の魅力と責任を受講生に伝えたい。 ・　毎回出席をとります〔連絡カード配付〕。　遅刻をしないようにしてください。 ・　座席は前から詰めて着席してください〔座席は指定しません〕。 ・　授業中の私語は謹んでください〔真面目な受講者の弊害となる場合は退場戴く場合もあります〕。 教科書・・特段、教科書の設定は行いません。　授業は配布プリントとパワーポイントによるプレゼンテーションにより進めます。 参考書・・参考資料も、毎回の授業のテーマに沿って必要なものを配布します。 また、授業の参考になる書籍、ビジネス雑誌、更にはインターネット情報を紹介し、授業の一助に供します。
担当者の研究室等	11 号館 6 階（経営学部事務室、講師控え室）
備考	

科目名	情報社会論	科目名（英文）	Information Society
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　圭三
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】情報社会及び情報倫理　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	社会の情報化が進むにつれ、一方では携帯電話やインターネットの普及に見られるように生活がより便利になっていくが、他方ではネット犯罪や個人情報の漏洩など社会問題も多くなっていく。この講義では、情報と情報化とは何かということから始めて、情報化社会の特質と問題を幅広い視点から考察していく。
到達目標	情報化社会における諸問題を、社会学的な発想で理解できる。
授業方法と留意点	特定のテキストは用いず、配布レジュメをもとにした講義形式で授業を進める。
科目学習の効果（資格）	情報化の利点だけでなく問題点に関しても目を向けられるようになることは、情報化社会で生きる我々にとって欠かすことのできない教養になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	―――――	―――――
2	1　情報と情報化社会	情報化社会をとらえる視点	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
3	1　情報と情報化社会	コンピュータ、インターネットの発達史	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
4	1　情報と情報化社会	メディアの発達と情報化の進展の様子	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
5	1　情報と情報化社会	メディア発達による人々の変化	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
6	2　情報化に関わる社会問題	情報化社会の裏側で（1） ――デジタル・ディバイド	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
7	2　情報化に関わる社会問題	情報化社会の裏側で（2） ――個人情報保護と情報漏洩	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
8	2　情報化に関わる社会問題	情報化社会の裏側で（3） ――著作権問題	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
9	2　情報化に関わる社会問題	情報化社会の裏側で（4）	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
10	3　情報化とコミュニケーション	コミュニケーションの様々なありよう（1） ――匿名掲示板・ブログ・SNS	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
11	3　情報化とコミュニケーション	コミュニケーションの様々なありよう（2） ――web2.0	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
12	3　情報化とコミュニケーション	コミュニケーションに関わる問題	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
13	4　情報化社会と経済	ビジネスにおける新しい可能性	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
14	5　情報化社会における人々のありよう	連帯の新しい可能性	授業内容の復習と配布レジュメに基づく予習
15	まとめ	―――――	―――――

関連科目	社会学Ⅰ、社会学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度 10%、レポートおよび定期試験 90%
学生へのメッセージ	情報の洪水とも言える状況の中で我々は生活しています。これに流されるのか、逆に、それを活かすのかは私たちの心構え一つで変わっていきます。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　山本講師室
備考	

科目名	情報と職業	科目名（英文）	Information and Career
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北尾　隆夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）【施行規則に定める科目区分】「情報社会及び情報倫理」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	情報化の進展は、社会に巣立って行く学生諸氏にとって以下の２つの課題を突き付けています。 （1）社会人としての就労において、情報活用やその手段としての情報機器の活用 （2）日常生活においての情報活用と情報機器に対する最低限度の知識の保有 これらの課題にどの様に取り組めば良いか、更には情報社会における職業観や勤労観の変化の留意点などについて講義します。 特に、職業人としての情報活用能力の必要性や社会的役割および責任、組織人としてのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の重要性について探求します。
到達目標	本教科の目的を３つに絞り、それぞれの観点において以下の内容を理解していただきます。 （1）企業活動に於ける情報活用の目的や意味の理解 （2）情報化社会の意味と、我々の日常生活の関わり合いの理解 （3）以上の内容を通じて、情報に関する教員免許として要求されている「情報と職業」の内容についての理解
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れたものにします。　また、授業途中での理解度確認のための小テストを実施ます。 必要に応じてプリントやパワーポイントにより新しい動向を紹介します。
科目学習の効果（資格）	教員免許(情報)を取得するためには、この科目が必修となっています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに　　－職業開発と情報化の意義－	・授業ガイダンス ・教育免許法施行規則での位置づけについて解説します。	シラバスをよく読んできてください。
2	情報社会の概念	・情報社会とは、どの様なことを指すのかを説明すると同時に、情報社会への対応策について解説します。	新聞から情報社会についての記事を探して持ってきてください。
3	情報社会における職業観や勤労観	・わが国の産業界の特徴について解説します。 ・職業観と職業生活に対する意識について解説します。	情報産業についてどのようなものがあるか調べてください。
4	情報化社会と私たちの暮らし　Ⅰ	・情報化社会における危機管理について解説します。 ・高齢化社会と社会保障について解説します。	高齢化社会の問題について調べてください。
5	情報化社会と私たちの暮らし　Ⅱ	・高学歴社会と自己学習力について解説します。 ・労働時間の短縮と余暇の利用について解説します。	余暇の使い方について考えてください。
6	情報社会と高等教育	・情報社会で活躍する人材について解説します。 ・情報通信技術遠隔学習について解説します。	生涯学習の意味を調べてください。
7	情報技術と社会の改革　Ⅰ	・情報と情報通信技術について解説します。 ・情報化社会と IT 革命について解説します。	ＩＴ革命とは何でしょう、調べてください。
8	情報技術と社会の改革　Ⅱ	・企業組織の情報化について解説します。 ・政府・電子自治体の情報化について解説します。	電子決済について調べてください。
9	情報技術と人材育成　Ⅰ	・企業活動と人材育成について解説します。 ・公的資格と社会認知について解説します。	皆さんに関係する資格を書き出してください。
10	情報技術と人材育成　Ⅱ	・情報技術を利用した企業教育について解説します。 ・情報産業における職制と職種について解説します。	企業における教育の必要性について考えてください。
11	情報産業と国際化　Ⅰ	・情報技術革命とは何かについて解説します。 ・インターネット革命と日本企業について解説します。	情報社会における企業の姿について考えてください。
12	情報産業と国際化　Ⅱ	・情報産業における国際規格について解説します。 ・情報産業におけるビジネスモデルと情報倫理について解説します。	情報と国際化について、今後の姿を考えてください。
13	情報と職業についての課題検討と質疑応答	情報が職業開発に及ぼす影響につ いてのプレゼンテーションに基づく課題検討を行います。	授業を受けてのまとめをしてください。　質問事項の整理をしておいてください。
14	情報と職業のまとめ	レポートの発表　または　小テストの実施を行います。	レポートの発表準備、小テストに備えての復習をしておいてください。
15	情報と職業全体のまとめ	①講義全体の復習 ②重要なポイントの整理 ③説明不足な点のレビュー	情報と職業の全体のまとめをしてください。

関連科目	情報科学関連や職業開発に関する講義を受講しておくことが理解を深めることに役立ちます。

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>情報と職業</td><td>近藤勲編著</td><td>丸善株式会社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>情報時代の社会・経営</td><td>熊田三喜男編著</td><td>学文社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>全体評価は、平常評価（３５％）と学期末試験評価（６５％）により行います。
平常評価は、課題レポート、小テスト、および授業ごとの感想レポートにより行い、学期末試験評価は、文章表現力向上の目的も兼ねて論述に重きを置いた試験を実施し評価します。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・毎回出席をとります〔連絡カード配付〕。　遅刻をしないようにしてください。
・座席は前から詰めて着席してください〔座席は指定しません〕。
・授業中の私語は謹んでください〔真面目な受講者の弊害となる場合は退場戴くこともあります〕。
・不明な事柄は放置せず、積極的に質問してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 6 階(経営学部事務室)</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	情報と法	科目名（英文）	Information and Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	砂金　伸一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	・授業概要：今日の高度情報化社会における法律的な諸問題について概観する。 ・目的：今日の高度情報化社会においては、情報に関する法律（情報法）の知識は、万人の教養となってきている。情報化社会における被害者および加害者にならないように、情報法の基礎的知識の習得を目指す。
到達目標	・到達目標：企業人、市民として今日のネット社会を支える知識の習得および判断力を育成する。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果（資格）	情報産業に就職する際には役立つであろう。 また、情報法化社会における被害者や加害者とならない基礎的知識が習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	情報法の概要の説明等	―――――
2	個人情報保護	個人情報保護法を概説し、個人情報取扱事業者等の法的義務について取り扱う。	教科書（18～24 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
3	プライバシー侵害	まず、プライバシー権の内容を説明する。次に、具体例（裁判例）を通じて、インターネットにおけるプライバシー侵害を考える。	教科書（26～27 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
4	名誉毀損、誹謗中傷	インターネットにおける名誉毀損、誹謗中傷事件について取り扱う。	教科書（28～29 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
5	著作権法（１）	著作権法を概説し、いかなるものが著作権の対象となるか（例えば、小説のタイトルは著作権で保護されるか）、自由に著作物を利用出来る場合について説明する。	教科書（34～37 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
6	著作権法（２）	デジタル著作権（インターネット上での不正コピーの流通等）を説明する。	教科書（38～41 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
7	産業財産権（１）	産業財産権（特許権、実用新案権、意匠権、商標権）を概説し、特許権（ソフトウェア特許など）を詳述する。	教科書（32～33 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
8	産業財産権（２）	実例（例えば、インターネット上での偽ブランド品販売）を通じて、インターネットにおける商標権侵害を説明する。	商標権侵害事件にはどのようなものがあるかを調べてから授業に臨むこと。授業後は偽ブランド品を購入しないように気をつけることを考える。
9	プロバイダー責任制限法	プロバイダーの責任（どのような場合に書き込み削除義務を負うか）について取り扱う。	教科書（150 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
10	電子商取引	電子商取引（e-Commerce）法制について取り扱う。	教科書（68～71 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
11	サイバー犯罪（１）	サイバー犯罪の類型（通常 3 つに分類される）を説明し、それらのうちの 2 つ（「コンピュータ対象犯罪」と「ネットワーク利用犯罪」）について説明する。	教科書（134～135 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
12	サイバー犯罪（２）	サイバー犯罪の第 3 類型である「不正アクセス」を素材に、法律と技術の関係を考える。	教科書（136～139 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
13	消費者保護法制	ネットの悪徳商法、消費者保護の手段について取り扱う。	教科書（140～143 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
14	情報法制の概要	情報手段（コンピュータとネット）を規律する法制はどのような構造体系になっているかを概説する。	教科書（188～193 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
15	知識のまとめ	これまでの講義で扱ったテーマについて総合的に捉え直す。	第 2 回～第 14 回の授業内容を見直して授業に臨むこと。

関連科目	情報倫理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インターネットの光と影　Ｖｅｒ．５	情報教育学研究会	北大路書房
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インターネットと法　第４版	高橋和之　松井茂記　鈴木秀美	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 50%、レポート(1 回)30%、中間試験(1 回)20%により評価する。
学生へのメッセージ	経営学部生・経営情報学部生であっても、情報法（インターネットに関係する法律）の知識は、今日の情報化社会では不可欠となっています。これはフィッシング詐欺事件、著作物の違法コピー事件等、インターネットに関する事件（犯罪）が報道の多さから分かると思います。「法律は関係ない」と思わず、情報法に関心をもって受講して頂きたいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 6 階 経営学部事務室
備考	授業時間外での質問は下記メールを使用すること nihsoy2@yahoo.co.jp

科目名	情報ネットワーク	科目名（英文）	Information Networks
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀井　千夏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】情報通信ネットワーク（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	本講義では、社会、産業の重要なインフラストラクチャーであり、さまざまな分野で欠かせないコンピュータネットワークについて学習する。特に、ネットワークを構成する基本的な技術を整理し、どのようにして相互にデータのやりとりができるのか、それらの技術がどのように活用されているのかについて平易に解説する。また、LANやインターネットはもとより、携帯電話や衛星通信などについても、最新の技術動向やトピックスを交え、ネットワークの面白さ、奥深さについて議論する。
到達目標	ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について学ぶ。
授業方法と留意点	初回に授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。
科目学習の効果（資格）	ITパスポート試験や基本情報技術者試験など、コンピュータやネットワークに関連する資格取得に関連した科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	データ通信の仕組み	データ通信の種類とその利用方法	練習問題(1)
2	伝送技術と伝送システム	変調方式と多重化方式，データを伝送する代表的な手順	練習問題(2)
3	交換システム	交換システム(回線交換とパケット交換)	練習問題(3)
4	通信プロトコル	通信プロトコルの役割，ネットワークアーキテクチャ	練習問題(4)
5	LANのネットワーク構成	ネットワークの種類と特長	練習問題(5)
6	LANのプロトコル	LANを利用した通信の仕組み，OSI（Open Systems Interconnection）参照モデル	練習問題(6)
7	LANの構成要素	ハブ，ルーター，Macアドレス，Macフレーム	練習問題(7)
8	講義のまとめと小テスト	講義前半の復習と小テスト	練習問題(8)
9	無線LAN	無線LANの種類と特徴	練習問題(9)
10	電子メール(1)	電子メールの仕組み，メールクライアントとメールサーバ	練習問題(10)
11	電子メール(2)	メールヘッダーと本文の役割，ＤＮＳサーバ，メールセキュリティ	練習問題(11)
12	情報社会のセキュリティ(1)	情報セキュリティの基本	練習問題(12)
13	情報社会のセキュリティ(2)	ハッキングとクラッキング	練習問題(13)
14	コンピュータウィルス	コンピュータウィルスの特徴と被害	練習問題(14)
15	講義のまとめと小テスト	講義後半の復習と小テスト	練習問題(15)

関連科目	情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（20%）、小テスト（20%）、期末試験（60%）により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の1/3回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者（寝る、喋る等）は欠席扱いとする。
学生へのメッセージ	ネットワークは、多くの技術的要素を含んでいるため難しいと思われるが、本講義では、ネットワークのしくみやその使われ方を分かりやすく説明する。前回までの授業内容をよく理解しておくこと。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	情報法	科目名（英文）	Information Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	砂金　伸一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	・授業概要：今日の高度情報化社会における法律的な諸問題について概観する。 ・目的：今日の高度情報化社会においては、情報に関する法律（情報法）の知識は、万人の教養となってきている。情報化社会における被害者および加害者にならないように、情報法の基礎的知識の習得を目指す。
到達目標	・到達目標：企業人、市民として今日のネット社会を支える知識の習得および判断力を育成する。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果（資格）	情報産業に就職する際には役立つであろう。 また、情報法化社会における被害者や加害者とならない基礎的知識が習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	情報法の概要の説明等	――――
2	個人情報保護	個人情報保護法を概説し、個人情報取扱事業者等の法的義務について取り扱う。	教科書（18～24 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
3	プライバシー侵害	まず、プライバシー権の内容を説明する。次に、具体例（裁判例）を通じて、インターネットにおけるプライバシー侵害を考える。	教科書（26～27 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
4	名誉毀損、誹謗中傷	インターネットにおける名誉毀損、誹謗中傷事件について取り扱う。	教科書（28～29 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
5	著作権法（１）	著作権法を概説し、いかなるものが著作権の対象となるか（例えば、小説のタイトルは著作権で保護されるか）、自由に著作物を利用出来る場合について説明する。	教科書（34～37 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
6	著作権法（２）	デジタル著作権（インターネット上での不正コピーの流通等）を説明する。	教科書（38～41 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
7	産業財産権（１）	産業財産権（特許権、実用新案権、意匠権、商標権）を概説し、特許権（ソフトウェア特許など）を詳述する。	教科書（32～33 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
8	産業財産権（２）	実例（例えば、インターネット上での偽ブランド品販売）を通じて、インターネットにおける商標権侵害を説明する。	商標権侵害事件にはどのようなものがあるかを調べてから授業に臨むこと。授業後は偽ブランド品を購入しないように気をつけることを考える。
9	プロバイダー責任制限法	プロバイダーの責任（どのような場合に書き込み削除義務を負うか）について取り扱う。	教科書（150 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
10	電子商取引	電子商取引（e-Commerce）法制について取り扱う。	教科書（68～71 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
11	サイバー犯罪（１）	サイバー犯罪の類型（通常 3 つに分類される）を説明し、それらのうちの 2 つ（「コンピュータ対象犯罪」と「ネットワーク利用犯罪」）について説明する。	教科書（134～135 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
12	サイバー犯罪（２）	サイバー犯罪の第 3 類型である「不正アクセス」を素材に、法律と技術の関係を考える。	教科書（136～139 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
13	消費者保護法制	ネットの悪徳商法、消費者保護の手段について取り扱う。	教科書（140～143 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
14	情報法制の概要	情報手段（コンピュータとネット）を規律する法制はどのような構造体系になっているかを概説する。	教科書（188～193 ページ）に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同個所を読み直すこと。
15	知識のまとめ	これまでの講義で扱ったテーマについて総合的に捉え直す。	第 2 回～第 14 回の授業内容を見直して授業に臨むこと。

関連科目	情報倫理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インターネットの光と影　Ｖｅｒ．５	情報教育学研究会	北大路書房
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インターネットと法　第４版	高橋和之　松井茂記　鈴木秀美	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 50%、レポート(1 回)30%、中間試験(1 回)20%により評価する。
学生へのメッセージ	経営学部生・経営情報学部生であっても、情報法（インターネットに関係する法律）の知識は、今日の情報化社会では不可欠となっています。これはフィッシング詐欺事件、著作物の違法コピー事件等、インターネットに関する事件（犯罪）が報道の多さから分かると思います。「法律は関係ない」と思わず、情報法に関心をもって受講して頂きたいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 6 階 経営学部事務室
備考	授業時間外での質問は下記メールを使用すること nihsoy2@yahoo.co.jp

科目名	情報倫理	科目名（英文）	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河俣　英美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】情報社会及び情報倫理　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	技術と経済最優先の現代情報社会において、一般市民が可能な限り自律的に豊かな人生をおくるための基礎的な理解を得る。 情報社会に生起している諸問題のうち、一般市民の生活の立場から問題となる諸領域についての現状を提示した後、ありうる考え方の道筋について考察する。
到達目標	生活者として、情報ならびに情報システムの管理に最低限必要な情報社会の法制と倫理を身につける。 将来社会人となった際にも職業上の対応を可能とするための基礎的知識を身につける。
授業方法と留意点	板書講義形式　但し、授業の理解を深めるため、授業内に課題、レポート等の提出を求めることがある。
科目学習の効果（資格）	高等学校情報科教員免許状取得に必要。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の概要、評価の方法について解説します。	新聞の社会面、特にサイバー犯罪や個人情報漏えいなど情報倫理関連の記事に目を通す習慣を身につけてください。
2	情報社会の光と影	・ネットワーク・コンピュータ問題分析の視角	ネットワークの仕組みについて調べてみてください。
3	不正競争	・ドメインネーム、デジタルデバイド、ルックアンドフィールなど	デジタルデバイドの実態について調べて考えてみてください。
4	電子商取引	・電子認証、電子署名法など	電子商取引のしくみについて調べてみてください。
5	消費者保護	・ネットオークション、通信販売、消費者契約法など	売買トラブルの実態について調べてみてください。
6	サイバー犯罪	・不正アクセス、電子計算機関連犯罪など	不正アクセスの実態について調べてみてください。
7	情報政策	・ＰＫＩ、情報基本法、情報公開法など	暗号化のしくみについて、テキストを読んでまとめてみてください。
8	プライバシー	・住基ネット、プライバシー権、プライバシーマークなど	プライバシー権侵害に関連する記事を探してまとめてみてください。
9	誹謗中傷、名誉毀損	・フレーミング、プロバイダ責任法など	誹謗・中傷関連の記事を探して、問題点を考察してください。
10	監視社会	・監視カメラ、携帯電話、電子通信傍受ソフト、チップ埋め込み、盗聴法など	身近な監視の実態を調べて考えてみてください。
11	セキュリティ	・セキュリティポリシー、利用規定など	情報セキュリティについて調べてまとめてください。
12	個人情報保護	・個人情報保護法、OECD プライバシー・ガイドラインなど	個人情報漏洩に関する記事を見つけて問題点を考えてみてください。
13	知的財産権	・知的財産基本法、産業財産権、著作権、中古販売など	違法コピーの実態について調べて考えてみてください。
14	知的財産権（２）	・著作権法、著作隣接権など	著作権侵害の記事を調べて考えてみてください。
15	健全な情報社会	・健全な情報社会の構築に向けての考察	健全な情報社会を構築するため方策について、自分自身の意見をまとめてみてください。

関連科目	情報処理基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インターネットの光と影　Ver.5	情報教育研究会　　情報倫理教育研究グループ	（株）北大路書房
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を主とし、授業内での提出物（課題レポート等）を含めて、総合的に評価する。 【定期試験 80%、授業内での提出物 20%】
学生へのメッセージ	情報倫理学、情報法学は、企業社会で経営情報学を基本から支える分野である。生活上で、身を守る基本的な知識でもあるので身につけておこう。
担当者の研究室等	11 号館 6 階(経営学部事務室)
備考	

科目名	職業能力開発	科目名（英文）	Human Resources Development
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	福田　市朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	【目的】正しい思考に基づいた意思決定力の向上を図る 社会人・職業人に求められる意思決定力と実践力を高めるために、ビジネスにおける様々な課題に対する解決をはかるための論理的な思考力、また、目標達成をはかる発想力の向上を目指す。 【概要】 心理学の視点から人間に特有な知的な能力を理解し、抽象的な思考の特徴とその役割を理解する。 学問の成立とその歴史を振り返り、学問の意義を学ぶとともに、論理的思考法と科学的思考法の基本を学ぶ。
到達目標	１．人間の３大精神機能を理解する ２．人間の知的な精神活動を知る。 ３．シンボル操作＜言葉と数の活用＞を知る ４．学問の発達と論理的思考の仕組みを知る ５．科学の発達と数学的思考の仕組みを知る ６．合理的な意思決定法の理念を知る
授業方法と留意点	授業は配布資料とスライドに基づいて行われる。講義内容をよりよく理解するために、具体的な練習問題を提出する。自ら考えて答えを出すように心掛けてください。他人に答えを聞くな！まず自分で答えを出すように心がけなさい。
科目学習の効果（資格）	論理的な思考法や科学的な思考法を理解し、活用することができる。SPI などで測られる思考力の向上が期待できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	「考え抜く力」が求められている社会的背景について解説する。ビジネスに必要な職業能力について解説する。	キャリアアップに必要な能力とは何かについて考えてみよう。
2	人間の知性（１）：３大精神機能と人間の知性	知・情・意という人間の３大精神機能について解説し、意志決定における知性の役割について述べる。	人間の知性が他の動物より高いとされる根拠について考えなさい。
3	人間の知性（２）：知能の心理学的研究	人間の知性に関する心理学の研究を紹介し、人間に特有な知能の仕組みについて解説する。	知的な能力は遺伝か、それとも経験や努力によって形成されるものか、考えてみよう。
4	人間の知性（３）：概念的思考の形成	人間に特有なカテゴリーによる世界の認識法を解説し、悟性の役割について理解する。	私たちは物事をどのように認識しているのか、その仕組みについて考えてみよう。
5	学問の世界（１）：古代の学問	古代ギリシャの学問を概観し、ソクラテス・プラトン・アリストテレスによって学問が体系化された経緯について解説する。	学問の意義とその必要性について考えてみよう。
6	学問の世界（２）：近世の学問	ルネサンス期の学問を概説し、知識を持つことの重要性と理性主義の背景について学ぶ。	理性主義あるいは啓蒙主義とはどのような思想なのか、調べてみよう。
7	学問の世界（３）：科学の誕生	自然科学における科学的思考法とはどのようなものか、また、その基本的な考え方について解説する。	ガリレオの科学的発見を支えた思考法を考えてみよう。
8	言語的思考（１）：３つの思考様式	正しい結論を導く「論理的思考」、観察を通して新たなアイディアや発見を求める「帰納的思考」や「発想法的思考」について解説する。	人間は考えることが好きな動物である。考えることの利点を挙げてみよう。
9	言語的思考（２）：論理法則	「命題論理」と「述語論理」における論理法則について解説し、思考における誤謬の出現について考える。	文章題や論理問題などを解きながら、論理法則の要点をまとめてみよう。（ＳＰＩ対策となる）
10	数学的思考（１）：数量化と図解化	数を扱う能力や図形を扱う能力について解説し、数学的思考力の特徴を述べる。	なぜ数学の好きな人と数学の嫌いな人がいるのか、文系と理系の違いはどこにあるのか、考えてみよう。
11	数学的思考法（２）：不確実性と確率判断	確からしさの推理と判断を取り上げ、確率的な思考法とは何かを解説する。	ビジネスにおける数学的な素養とは何かを知るために、練習問題を出します。（ＳＰＩ対策）
12	意思決定と思考（１）：意思決定の基本	正しい合理的な決定とは何かについて解説する。併せて、人々の意志決定を左右する心理的要因について述べる。	様々な選択場面での人々の決定方法を取り上げ、その巧拙を考えてみよう。
13	意思決定と思考（２）：価値判断	意思決定における価値判断の仕組みについて、経済学および心理学の視点から解説する。	複数の目的を有する複雑な決定場面で人々はどのような決定を下しているのか、考えてみよう。
14	意思決定と思考（３）：確率判断	期待値および期待効用について概説し、規範的意思決定の合理性について考える。併せて、人々の確率的思考法の心理的な特徴を解説する。	人々の決定が期待値理論に反することがある。その理由について考えてみよう。
15	講義のまとめ	意思決定における思考の役割と再確認する。	ビジネスに必要な思考力と決定力について、自分なりにまとめてみよう。

関連科目	キャリア能力の向上を目指す科目と連動する。自立とは自ら考えて答えを出すことである。そのためにはまず自分の頭で考えること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は指定しないが、授業の中で多くの参考図書を紹介する。		
2			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法（基準）	期末定期試験の成績（70%）。授業後の小レポート課題の成績（30%）。これらの成績をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入退室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。
担当者の研究室等	11 号館 7 階「福田研究室」
備考	講義に関する質問には積極的に対応します。

科目名	職業能力開発論Ⅰ	科目名（英文）	Human Resources Development Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	福田　市朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

【目的】経営における心理学の役割について学ぶ
企業などの組織の運営や管理における心理学的な課題を理解することによって、企業で働くことの意義を自覚し、併せて、組織行動に必要な知識やスキルの向上を図る。
【概要】
企業の存在価値および存続価値を理解し、経営の基本が人であることを学ぶ。組織管理における人間理解や労働の意義を理解するために、まず、リーダーシップ機能などの組織管理、人事管理における心理学的な課題を学習し、次に、企業の社会的貢献など企業の社会的価値について学習する。

到達目標

1．人間の生き方と人間の社会的知性の特徴を知る
2．労働に関する一般的な理解を得る
3．ホーソン研究など、組織管理論の変遷を知る
4．人的資源管理と労働意欲の関係を知る
5．労働者に対する「安全配慮義務」と「労災問題」を知る
6．市場調査における心理学的研究法を知る

授業方法と留意点

授業はプリントおよびスライドを用いて行う。配布資料はなくさないように。また、授業内容に即した参考図書を適宜紹介する。

科目学習の効果（資格）

企業経営における心理学的な課題に関心を持つことによって、心理学の視点から企業を知ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス:講義の構成と受講上の注意	講義の目的と目標、具体的な学習内容、講義の進め方および成績評価について説明する。	経営における心理学的な課題について考えてみよう。
2	経営と人間行動	経営学における心理学の課題を概説する。本講義で学習する内容の見取り図を示し、心理学の有用性について解説する。	企業における人々の組織行動について考えてみよう。
3	組織管理と心理学（1）:「ホーソン実験」の心理学的価値	「ホーソン実験」の成果を踏まえ、“産業能率”と“労働効率”の関係について解説する。	組織における「人間的な要素」について考えてみよう。
4	組織管理と心理学（2）:組織論の変遷	テイラーの科学的管理論から始まる組織論の変遷を解説する。併せて、組織設計の意義について述べる。	人々はどんな時に懸命に働くのか、考えてみよう。
5	組織管理と心理学（3）:リーダーとリーダーシップ	トップマネジメントの重要性とリーダーの特性およびリーダーシップ機能について心理学の視点から解説する。	様々な経営者の役割について調べてみよう。
6	人的資源管理と心理学（1）:労働意欲と労働効率	組織の“良さ”を判断するための労働効率を解説し、労働意欲を向上させる諸条件について解説する。	人事考課や勤務評定はなぜ必要か？考えてみよう。
7	人的資源管理と心理学（2）:モチベーションおよび報酬と罰	労働におけるモチベーションについて解説する。併せて、労働における報酬と罰の効果について解説する。	仕事における報酬と罰の効果について考えてみよう。
8	人的資源管理と心理学（3）:労働者の「安全配慮義務」	仕事における疲労とストレスを取り上げ、健康に働くための対処法について解説する。	過労死や過労自殺が発生する原因について考えてみよう。
9	職業選択と心理学（1）:職業選択とミスマッチ	職業の適性診断とその心理学的技法について解説する。職業適性論は職業選択の決め手となるかについて考える。	自分にあう仕事とは何か、考えてみよう。
10	職業選択と心理学（2）:職業教育と職業発達	職業発達理論を概観し、職業における人格的発達について述べる。	仕事を通して人は成長すると言われる理由を考えてみよう。
11	職業能力と心理学（1）:社会人基礎力	企業の求めている「社会人基礎力」について解説する。	企業が求める人材について考えてみよう。
12	職業能力と心理学（2）:組織開発と思考	「考える能力」と「チームワーク力」の関係について解説し、組織的決定の優位性について述べる。	合意形成と協働に必要なことは何か、考えてみよう。
13	マーケッティングと心理学（1）:消費者心理	市場の変化と購買心理の関係について解説する。併せてメディアの広告効果について説明する。	スーパー・コンビニ・デパートにおける売り上げの違いを調べてみよう。
14	マーケッティングと心理学（2）:市場調査と心理学	マーケッティング・リサーチにおける心理学的な手法について解説し、併せて心理学的な実験や調査の活用法を概観する。	学生の購買行動を明らかにするための調査を実践してみよう。
15	講義のまとめ	経営学における心理学の役割と心理学の有効性について振り返る。	講義内容から最も関心があったところをまとめておこう。

関連科目

キャリア教育科目と関係が深い。また、組織管理や人的資源管理などの学習内容と重なり合うところがある。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は指定しない。ただし、参考図書を紹介するので読むこと。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			
評価方法（基準）	期末定期試験の成績（70%）。小レポートの成績（30%）。小レポートは授業終了時に実施する。2 つの成績をもとに総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入退室厳禁。スマホ・携帯の使用厳禁。 これらに違反した学生には退室を命ずることがある。			
担当者の研究室等	11 号館 7 階「福田研究室」			
備考	授業における質問などに対して、積極的に対応します。			

科目名	職業能力開発論Ⅱ	科目名（英文）	Human Resources Development II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	福田　市朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	【目的】正しい思考に基づいた意思決定力の向上を図る 社会人・職業人に求められる意思決定力と実践力を高めるために、ビジネスにおける様々な課題に対する解決をはかるための論理的な思考力、また、目標達成をはかる発想力の向上を目指す。 【概要】 心理学の視点から人間に特有な知的な能力を理解し、抽象的な思考の特徴とその役割を理解する。 学問の成立とその歴史を振り返り、学問の意義を学ぶとともに、論理的思考法と科学的思考法の基本を学ぶ。
到達目標	１．人間の３大精神機能を理解する ２．人間の知的な精神活動を知る。 ３．シンボル操作＜言葉と数の活用＞を知る ４．学問の発達と論理的思考の仕組みを知る ５．科学の発達と数学的思考の仕組みを知る ６．合理的な意思決定法の理念を知る
授業方法と留意点	授業は配布資料とスライドに基づいて行われる。講義内容をよりよく理解するために、具体的な練習問題を提出する。自ら考えて答えを出すように心掛けてください。他人に答えを聞くな！まず自分で答えを出すように心がけなさい。
科目学習の効果（資格）	論理的な思考法や科学的な思考法を理解し、活用することができる。SPI などで測られる思考力の向上が期待できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	「考え抜く力」が求められている社会的背景について解説する。ビジネスに必要な職業能力について解説する。	キャリアアップに必要な能力とは何かについて考えてみよう。
2	人間の知性（１）：３大精神機能と人間の知性	知・情・意という人間の３大精神機能について解説し、意志決定における知性の役割について述べる。	人間の知性が他の動物より高いとされる根拠について考えなさい。
3	人間の知性（２）：知能の心理学的研究	人間の知性に関する心理学の研究を紹介し、人間に特有な知能の仕組みについて解説する。	知的な能力は遺伝か、それとも経験や努力によって形成されるものか、考えてみよう。
4	人間の知性（３）：概念的思考の形成	人間に特有なカテゴリーによる世界の認識法を解説し、悟性の役割について理解する。	私たちは物事をどのように認識しているのか、その仕組みについて考えてみよう。
5	学問の世界（１）：古代の学問	古代ギリシャの学問を概観し、ソクラテス・プラトン・アリストテレスによって学問が体系化された経緯について解説する。	学問の意義とその必要性について考えてみよう。
6	学問の世界（２）：近世の学問	ルネサンス期の学問を概説し、知識を持つことの重要性と理性主義の背景について学ぶ。	理性主義あるいは啓蒙主義とはどのような思想なのか、調べてみよう。
7	学問の世界（３）：科学の誕生	自然科学における科学的思考法とはどのようなものか、また、その基本的な考え方について解説する。	ガリレオの科学的発見を支えた思考法を考えてみよう。
8	言語的思考（１）：３つの思考様式	正しい結論を導く「論理的思考」、観察を通して新たなアイディアや発見を求める「帰納的思考」や「発想法的思考」について解説する。	人間は考えることが好きな動物である。考えることの利点を挙げてみよう。
9	言語的思考（２）：論理法則	「命題論理」と「述語論理」における論理法則について解説し、思考における誤謬の出現について考える。	文章題や論理問題などを解きながら、論理法則の要点をまとめてみよう。（ＳＰＩ対策となる）
10	数学的思考（１）：数量化と図解化	数を扱う能力や図形を扱う能力について解説し、数学的思考力の特徴を述べる。	なぜ数学の好きな人と数学の嫌いな人がいるのか、文系と理系の違いはどこにあるのか、考えてみよう。
11	数学的思考法（２）：不確実性と確率判断	確からしさの推理と判断を取り上げ、確率的な思考法とは何かを解説する。	ビジネスにおける数学的な素養とは何かを知るために、練習問題を出します。（ＳＰＩ対策）
12	意思決定と思考（１）：意思決定の基本	正しい合理的な決定とは何かについて解説する。併せて、人々の意志決定を左右する心理的要因について述べる。	様々な選択場面での人々の決定方法を取り上げ、その巧拙を考えてみよう。
13	意思決定と思考（２）：価値判断	意思決定における価値判断の仕組みについて、経済学および心理学の視点から解説する。	複数の目的を有する複雑な決定場面で人々はどのような決定を下しているのか、考えてみよう。
14	意思決定と思考（３）：確率判断	期待値および期待効用について概説し、規範的意思決定の合理性について考える。併せて、人々の確率的思考法の心理的な特徴を解説する。	人々の決定が期待値理論に反することがある。その理由について考えてみよう。
15	講義のまとめ	意思決定における思考の役割と再確認する。	ビジネスに必要な思考力と決定力について、自分なりにまとめてみよう。

関連科目	キャリア能力の向上を目指す科目と連動する。自立とは自ら考えて答えを出すことである。そのためにはまず自分の頭で考えること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は指定しないが、授業の中で多くの参考図書を紹介する。		
2			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法（基準）	期末定期試験の成績（70%）。授業後の小レポート課題の成績（30%）。これらの成績をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入退室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。
担当者の研究室等	11 号館 7 階「福田研究室」
備考	講義に関する質問には積極的に対応します。

科目名	人的資源管理論	科目名（英文）	Human Resources Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	羽石　寛寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業概要：日本企業の人的資源管理の仕組みと課題を、わかりやすく解説します。 人的資源管理の理論とともに日本企業の人事管理の実例を紹介しながら理解を深めます。 特に従来から日本的人事管理の特徴とも言われてきた、年功序列や終身雇用の変容や崩壊、 そして今後の人事管理についての方向性についても解説します。 授業目的：経営における人的資源管理の大切さと人的資源管理の概要についての理解。
到達目標	到達目標：経営における人的資源管理の重要性が理解できること。 社会保険労務士の試験内容において、人事管理部門の内容が理解できること。
授業方法と留意点	講義を主としますが、必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても解説します。 この授業を受講するには経営学の基礎を理解していることが望まれます。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士や社会保険労務士の受験に有効です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人的資源管理の概要	人的資源管理の果たす役割，経営環境の変化との関係を解説します。	シラバスを読んできて下さい。
2	人的資源管理の発生と変遷	科学的管理法，人間関係論などの人的資源管理の歴史を解説します。	経営学の発達について調べておいてください。
3	日本の人的資源管理の特徴	終身雇用，年功序列，企業内組合などの 1970 年代以降の特徴と課題を述べて，日本的経営と人的資源管理の特徴を解説します。	日本の雇用の実態について新聞等で調べてください。
4	人事計画と要員計画	人事情報のシステム化，人的資源管理の計画，特に人員計画のつくり方に重点をおいて解説します。	人事管理や労務管理の意味を調べてください。
5	職能資格制度について	日本企業の人事管理制度の柱である職能資格制度について解説します。	職能資格について教科書を読んでおいてください。
6	昇進・昇格管理について	昇進・昇格管理の解説とその方法について解説します。	昇進と昇格の意味はどう違いますか考えてください。
7	人事考課について	能力主義管理のひとつのツールである人事考課について解説します。	仕事ぶりを評価すると言うことはどういうことでしょうか、調べてください。
8	賃金の支払いと決め方	賃金の基本的な考え方とその決定方法について解説します。	給与明細には何が書いてあるか調べてください。
9	賃金体系の意味	職能給と年齢給からなる日本の賃金体系について解説します。	賃金とはどのようなものか考えてください。
10	能力開発と教育訓練	企業における能力開発とOJTなどの教育訓練について解説します。	なぜ、企業において教育が必要なのでしょうか、考えてください。
11	福利厚生について	企業における福利厚生について解説します。	福利厚生の意味を調べてください。
12	労働関係法について	労働基準法などに関する法律について解説します。	労働法には、どのような法律があるか調べてください。
13	演習課題についての発表Ⅰ	演習課題についての発表をして頂きます。	レポートについて発表の準備をしておいてください。
14	演習課題についての発表Ⅱ	演習課題についての発表をして頂きます。	レポートについてパワーポイントで発表できる準備をしておいてください。
15	人事管理のまとめ	前期で学んだことをまとめます。	レポートを必ず提出して頂きます。
16	モラールとモチベーション	仕事への意欲(モラール)と動機づけ（モチベーション）を解説します。	頑張る、一生懸命とはどういうことでしょうか、調べてください。
17	モチベーションの理論について	マズロー、マグレガーの動機づけ理論いついて解説します。	やる気が出るとはどういうことでしょうか調べてください。
18	ハーズバーグのM－H 理論とM－R－H理論	ハーズバーグの動機づけ理論とM－R－H理論について解説します。	仕事をとおしての楽しみつらさとはどういうことでしょうか考えてください。
19	モラールサーベイと労務関係調査	職場のモラールと労務管理施策を調査し問題点を把握する方法について解説します。	仕事を通しての満足はどのように計測すればよいでしょうか、考えてください。
20	個人属性の診断について	職場ごとの個人の目標達成意欲度診断を行う方法について解説する。	あなたは仕事（課題）に対してどのような気持ちで向かい合っていますか考えてください。
21	組織風土診断について	職場の組織的な雰囲気を調査しその特徴を把握する診断方法について解説する。	組織の雰囲気はどうあるべきと思いますか考えてください。
22	リーダーシップの診断について	管理者のリーダーシップを調査し、その特徴を把握する診断方法について解説する。	リーダーシップの意味を調べてください。
23	組織診断の総合演習	組織診断、意識調査のレポート作成の解説をします。	演習のデータを取るところを考えておいてください。
24	年功型賃金体系から成果・能力型賃金体系への改善事例Ⅰ	企業の事例における、年功型から成果・能力型賃金への改善事例について演習します。	賃金体系について、あなたの考えをまとめておいてください。
25	年功型賃金体系から成果・能力型賃金体系への改善事例Ⅱ	賃金制度の設計方法など演習を行います。	成果・能力主義の賃金について、あなたの考えを発表できるように準備してください。
26	年功型賃金体系から成果・能力型賃金体系への	新賃金制度はどのように移行されていくのかについて解説します。	賃金体系のモデルを作成してください。

		改善事例Ⅲ		
	27	組織診断調査の事例Ⅰ	個人属性、組織風土の診断について事例を用いて解説します。	組織診断の演習をして頂きます。準備をしてください。
	28	人的資源管理の総合演習	人的資源管理における総合診断の方法について解説します。	人的資源管理の総合演習をして頂きます、準備してください。
	29	総合演習の発表	総合演習の発表についてパワーポイントを使用して発表して頂きます。	発表の準備をしてください。
	30	人的資源管理のまとめ	後期の授業についてまとめをします。	パワーポイントで発表をして頂きます、準備をしてください。

関連科目	経営学、経営管理論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人と組織のマネジメント	羽石寛寿	清風出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい人事労務管理	佐藤博樹　他	有斐閣
2	経営押木診断の理論と技法	羽石寛寿、地代憲弘　他	同友館

評価方法 （基準）	ミニッツ・レポート（30%）、レポート（30%）、期末テスト（40%）で評価します。
学生への メッセージ	人的資源管理は，経営管理を理解する上で重要な分野です。 皆さんが就職する企業における皆さん方への管理の方法が学べます。 特に将来管理者や監督者を希望する皆さんには大切な科目ですから必ず履修しましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階(羽石教授室)
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	黒澤　敏朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧野　純
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	平常点で評価する。具体的には、授業への参加（50%）とその他（課題への取組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容など）（50%）により評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久保　貞也
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧野　幸志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	針尾　大嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	樋口　友紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点で評価する。具体的には、授業への参加（50%）とその他（課題への取組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容など）（50%）により評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂　貴恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安久　典宏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

科目名	組織診断	科目名（英文）	Organizational Analysis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	福田　市朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	【目的】 企業の経済的・社会的な役割を認識し、「ヒト・モノ・カネ・情報」などの内部資源を活用し、組織が社会に与える影響を多面的に分析し、社会の発展に貢献する企業の全体像を理解する。 【概要】 本講義は、これまで学んできた専門的な知識を再確認し、かつ、実際の企業活動の実態に触れることによって、より深く企業＜会社＞について理解できるように、実務家の方々をお招きして行われるリレー式の講義である。教室は職場であり、また、学生は職業人であると想定している。従って、職場における遅刻や居眠りが厳禁であることは言うまでもない。
到達目標	1．経営理念、トップリーダーの使命を知る 2．組織管理、組織設計と組織管理・運営の理念と実態を知る 3．組織運営、リーダーシップとマネジメント、組織文化、モラールについて知る 4．組織改革、組織診断の技法とその導入法を知る 5．企業の存在価値、企業の社会的責任、顧客満足と従業員満足について知る
授業方法と留意点	本講義は、企業経営に携わっている経営者、企業経営のコンサルティングを仕事とされている実務家をお招きし、具体的な事例を通して、企業分析のための実践的な知識を得ることを目的としたリレー式の講義である。学外から来られた先生方に失礼とならないよう、心掛けてください。
科目学習の効果（資格）	組織の管理と運営に関する具体的な仕事内容と企業の抱える現実的な課題を学ぶことができ、就活の良き手引きになると期待される。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス:講師の紹介と講義の進め方	講義担当者を紹介し、本講義の目的・目標および授業の進め方や成績評価法について説明する。(掛谷・前川・河内・根岸・福田)	新聞をよく読み、企業を取り巻く社会や経済・産業の動向について関心を深めよう。
2	企業の経営理念（1）:経営理念と経営者の役割	優秀企業を紹介し、企業経営における理念の重要性を解説するとともに、経営者の役割について説明する。(掛谷)	『経営者の条件』小倉昌男著　　『夢を力に』本田宗一郎著
3	企業の経営理念（2）:トップマネジメントとリーダーシップ	経営者の思想や行動様式を解説し、トップリーダーの取るべき役割と組織管理について解説する。(掛谷)	『経営はロマンだ』小倉昌男著
4	企業の組織管理（1）:組織設計と組織戦略	会社の仕組みを知るために、組織設計と組織戦略の理論と現実について解説する。（前川武彦:前川技術士事務所　代表)	新聞をよく読み、時代の変化を企業のあり方について考えてみよう。
5	企業の組織管理（2）:組織の機能と効率、指揮と命令	産業能率の観点から、組織の機能と効率について概説するとともに、組織における指揮と命令系統について講述する。(前川)	新聞をよく読み、今日の企業が抱えている問題点を考えてみよう。
6	企業の組織管理（3）:権限委譲と行動規範	組織における権限委譲と組織行動について解説し、仕事をすることの意味について考える。(前川)	組織の抱える問題を明らかにし、解決するための方法について考えてみよう。
7	企業の組織運営（1）:組織の原理と原則	組織の原理・原則を具体的に解説し、組織運営に関する課題について考える。(河内弘茂:河内経営技術コンサルティング代表)	会社はどのように動いているのか、会社における人的側面について考えてみよう。
8	企業の組織運営（2）:マネジメント理論とリーダーシップ理論	組織におけるリーダーシップ機能とリーダーの資質について考える。併せて、現代企業のマネジメント理論について言及する。(河内)	組織集団を機能的に動かすためのリーダーの役割について考えてみよう。
9	企業の組織運営（3）:組織文化と人材育成	組織の非公式的な側面を取り上げる。特に、組織文化の役割を解説し、その形成と人材育成の方法について解説する。(福田)	企業経営における企業文化の必要性について考えてみよう。
10	企業の組織診断（1）:機能組織体、企業経営と付加価値	企業組織の捉え方を解説し、企業の存在意義について述べる。(根岸紘一：根岸経営支援事務所)	会社はどのように利益を生み出しているのか。“付加価値創造”の意味を理解してほしい。
11	企業の組織診断（2）:組織診断の理論と方法	組織を診断する 4 つの要素と企業診断の可視化について解説する。(根岸)	企業分析を多面的に行う技法について理解を深めること。
12	企業の組織診断（3）:運命共同体的組織	組織診断の全体像を捉えるための組織診断技法を解説する。　併せて、付加価値の重要性について解説する。(根岸)	優秀企業と言われる理由を考えてみよう。
13	企業の組織改善（1）:コーポレート・ガヴァナンス	企業は誰のものか、企業を動かす力は何かなど、企業統治におけるコーポレート・ガバナンスの理念と課題について解説する (掛谷)	時代とともに変化する企業のあり方について考えてみよう。
14	企業の組織改善（2）:従業員満足、顧客満足と社会的責任	企業が公器であるという認識のもと、社会のニーズに応え、社会の維持と発展に貢献する企業とは何かについて解説する。(掛谷)	社会に貢献する企業のイノヴェーションについて考えてみよう。
15	授業のまとめ	企業で働くための心構えについて、講師の先生方と意見交換する。(掛谷・前川・河内・根岸・福田)	企業研究の方法や企業訪問における心構えなど、講師への質問を用意すること。

関連科目	企業経営コースのすべての科目と関係する。特に、組織論や人的資源管理論との関係は深い。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1 教科書はない。しかし、講義の中で多くの参考図書を紹介します。できるだけ多くの本を読んでください。 2
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法（基準）	リレー式の講義であり、毎回小レポート課題が課せられます。レポート評価点を合計して、成績を判定します。したがって、期末試験は実施しません。各レポートは８点満点で評価します。欠席は８点のマイナスとなります。
学生へのメッセージ	講師の先生は現場で仕事をしている実務家です。ビジネスでは遅刻や私語は厳禁です。また、中途の入室退室も厳禁ですし、居眠りは失礼です。公私を弁えて、マナーに反しないように心掛けてください。
担当者の研究室等	11 号館７階(福田研究室)および６階経営学部事務室
備考	授業時間外の質問や相談は授業担当者の一人である福田が受け付けます。遠慮せず、福田研究室（11 号館７階）まで。

科目名	組織調査法	科目名（英文）	Methodology of Organization Survey
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　圭三
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例をとりあげつつ解説していく。
到達目標	調査研究の全体的な流れを理解する。質問紙調査をおこなう際の諸問題を理解する。
授業方法と留意点	配布資料を用いた講義が中心であるが、実習形式での学習も適宜おこなう。
科目学習の効果（資格）	社会調査の全体的な流れが理解できる。 「社会調査士」資格取得に必要な科目（B 科目）である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか。	配布資料を用いた復習と予習
2	社会調査の全体的な流れ	研究の企画から報告書の執筆までの流れ	配布資料を用いた復習と予習
3	調査を始める（1）	問いと仮説の設定、概念の明確化	配布資料を用いた復習と予習
4	調査を始める（2）	調査方法の種類	配布資料を用いた復習と予習
5	調査票を作成する（1）	ワーディング	配布資料を用いた復習と予習
6	調査票を作成する（2）	回答選択肢の作成	配布資料を用いた復習と予習
7	調査票を作成する（3）	調査票全体の設計	配布資料を用いた復習と予習
8	調査の実施（1）	調査票の配布と回収の方法	配布資料を用いた復習と予習
9	調査の実施（2）	全数調査と標本調査、標本数の決定	配布資料を用いた復習と予習
10	調査の実施（3）	サンプリングの諸方法	配布資料を用いた復習と予習
11	データの作成（1）	コードブックの作成と入力作業	配布資料を用いた復習と予習
12	データの作成（2）	コーディング・エディティング・データクリーニング	配布資料を用いた復習と予習
13	データ分析の基礎（1）	度数分布、代表値	配布資料を用いた復習と予習
14	データ分析の基礎（2）	変数間の関係の分析	配布資料を用いた復習と予習
15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	配布資料を用いた復習

関連科目	社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、市場調査入門、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、市場調査実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度 10%、提出物および定期試験 90%
学生へのメッセージ	社会調査の知識は、今やどこに行っても必要とされるものです。関心のある学生はぜひ受講して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　山本講師室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	黒澤　敏朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ゼミでは「マーケティングにおけるデータに基づく合理的な経営・管理」を行うための種々の経営管理に関する技術・技法についての研究・教育を行います。 卒業研究を通じて、企業のマーケティング活動において、ＩＴやデータ解析法を活用した高い成果をあげるためのさまざまな理論や手法、そして各種の優れた事例を学び、卒業論文にまとめます。
到達目標	卒業研究を通じて、マーケティングに関するさまざまな理論、手法や事例を学び、卒業論文にまとめて提出し、その概要をゼミ生の前で報告できること。
授業方法と留意点	卒業研究では、個人あるいはグループで「企業におけるマーケティング活動」について調査し、順次発表するというステップを１年間にわたり実施し、最終的に卒業研究論文として完成させます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業研究では、個人あるいはグループで「企業におけるマーケティング活動」について調査し、順次発表するというステップを１年間にわたり実施し、最終的に卒業研究論文として完成させます。ＨＰに掲載されているデータを用いるだけでなく、実際に企業を訪問・見学して得られたデータや、ゼミの仲間などからのアンケートによるデータなどを積極的に収集・活用することを期待します。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	まずは調査・研究し、その結果を発表することが必要です。そのようなプロセスと最終的に提出された卒業論文と報告（プレゼン）をあわせて総合的に評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館７階　黒澤教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	堀井　千夏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門分野の研究において「情報収集(サーベイ)」、「情報の加工(構造化)」、「情報の発信(デザイン化)」といった情報の活用は欠かせない。卒業研究では、高度情報化社会の現状を把握して実社会をモデルにした研究テーマを取り上げ、このテーマを題材に情報活用能力を発揮する演習を行っていく。最終的にはこの演習結果を卒業論文としてまとめ、プレゼンテーションやディスカッションの場を利用して情報発信能力を高めていく。
到達目標	演習Ｉおよび演習ＩＩを土台として卒業研究を実施し、この結果を卒業論文としてまとめる。
授業方法と留意点	卒業論文の作成と就職活動について個別に指導していく。卒研生は不正防止のための研究倫理を十分に踏まえた上で卒業論文を作成すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	演習Ｉおよび演習 II で取り組んだ問題をさらに専門的な視点から解析する。この結果を卒業論文としてまとめる。卒業論文作成に当たっては、不正防止のための研究倫理について指導・教育する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業論文(100%)で評価する。ただし、卒業論文の添削を受けない者については減点する。
学生へのメッセージ	卒業研究は卒業要件に関係するため、卒業論文の制作や提出に遅れが生じないように注意すること。
担当者の研究室等	
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保　貞也
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。 卒業研究において、大学４年間で学んだ知識や技術に裏付けられた主張を示し、研究論文、または、卒業制作としてまとめる。 ゼミでは、研究という最高の知的活動を通じて、人としての成長を遂げることを目的としている。
到達目標	卒業研究においては以下の到達目標を設定する。 （１）研究テーマに対する説明責任を果たす （２）QCD を意識したプロジェクト管理を行える （３）研究倫理を十分に理解した研究活動の実施
授業方法と留意点	適宜、全員進捗状況を報告する。中間報告、経過報告での議論とブラッシュアップを重視すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	大学における学びの集大成として、卒業研究もしくは卒業制作をおこなう。演習Ⅰ・演習 II を通じて身に付けた専門知識を体系化し、自らが定めたテーマに関して研究を進める。研究、制作の成果は、卒業研究発表会において報告し、卒業研究論文を作成する。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	卒業研究論文の内容（中間報告、発表会、報告書のすべてを満たしていることが条件） 研究内容 80%、その他 20%
学生へのメッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。
担当者の研究室等	久保准教授室（11 号館 7 階）
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	武居　奈緒子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	４年間の集大成である卒業論文を作成していくことを目的とします。
到達目標	完成度の高い卒業論文の作成を目指します。
授業方法と留意点	進捗状況をゼミで発表してもらいます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業論文を作成し、提出するまでについて指導します。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業論文とその途中経過により評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	針尾　大嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	演習では、主に以下の２つの内容について学ぶ。 １．企業のマーケティング活動におけるメディア戦略 ２．コンピュータとデータ解析ソフトを使った消費者行動・心理情報の分析 これらの学習を通じて、インターネットや情報端末を使った企業の IT マーケティングに関する取り組み及びネットワーク技術に詳しくなり、同時に，高度なデータ解析技術を習得していく。
到達目標	・卒業論文の作成
授業方法と留意点	【授業内容】 1）各自が定めたテーマについて研究し、その発表を行う 2）卒業論文を執筆する
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	各自の卒業研究テーマについて取り組む。 なお卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を踏まえて卒業論文を執筆すること。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出物、発表内容
学生へのメッセージ	就職活動と合わせて計画的にすすめてください。
担当者の研究室等	１１号館７F
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	経営情報学の分野に関するテーマでの研究活動をさらに突き詰め、卒業論文としてまとめる。テーマは個別に設定し、個人の責任のもとで研究を進める。定期的にゼミの中で研究経過を相互に報告し、意見交換しながら卒業論文を完成させる。
到達目標	社会人になるための準備として、自らの判断で意思決定し行動できるようになることを目指す。また、研究内容について、知識・理解を深め、論理的に説明できるようになることを目指す。活動では、他のゼミ生とも協力しながら、相互に高め合うことを目指す。並行して行う就職活動では、自分の将来について目標を持って取り組む。
授業方法と留意点	研究経過を定期的に報告することで、進捗状況を自己管理しながら計画的に研究を進める。他のゼミ生の意見を参考にしながら、相互に協力し合い、他のゼミ生の知識・経験を高めることにも協力する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	各自が定めた研究テーマに基づいて、文献調査を行いながら研究内容を絞り込み、卒業論文にまとめる。その際、演習Ⅰ・Ⅱを通じて身につけた専門知識を取り入れながら、各自工夫しながら計画的に研究を進める。就職活動も伴うため、効率良い作業を求める。 なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。
関連科目	演習Ⅰ、演習Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	レポート課題、卒業論文等（60%）、演習への参加状況（40%） 演習が中心となるため、欠席・遅刻は演習内容や成績評価に影響します。
学生へのメッセージ	ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。技能の習得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。
担当者の研究室等	11号館8階（栢木准教授室）
備考	教科書や参考書については、演習の中で適宜紹介する。 必要に応じて書籍を購入してもらう場合もある。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野　純
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	［授業概要］ コンピュータサイエンスのゼミである． コンピュータは人類の英知の結晶とも言えるもので，パソコン１台の中にも，実にさまざまなアイデアが生かされている．こうしたアイデアを開発し，応用していくのがコンピュータサイエンスである． このゼミではコンピュータのハードウェア・ソフトウェアを通じて幅広い知識を習得し，プログラミング等の技能を身につけると同時に，こうしたアイデアを正しく理解する． ［目的］ コンピュータ・情報技術のエキスパートを目指す． 情報技術の発展は目覚しく，今日の知識も明日は古くなっているかも知れないという状況である．したがって，情報技術のエキスパートは，常に自分の知識や技能を更新し，高めていく必要がある．その際に必要なのが個々の知識や技術を有機的に関連付け，統合する能力であり，それは背景にあるアイデアの理解によってはじめて得られる． このゼミでは，コンピュータ・情報技術に関する個々の「知識」や「技能」の習得に止まらず，それらを統合的に捉え，発展させていくために必要な「理解」を得ることを目的とする．
到達目標	各自の選択したテーマについて研究を進め，卒業論文を作成する．
授業方法と留意点	卒業研究は、中間発表とそれに対する質疑応答の形式で進める．
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	［授業テーマ］ コンピュータと情報に関する基礎的な知識と技能を習得する． ［内容］ 各自の選択したテーマについて研究を進め，卒業論文を作成する． なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	卒業論文と、平常の学習状況・報告内容・レポートなどにより総合的に評価する．
学生へのメッセージ	［学生へのメッセージ］ プログラミングは作曲や，楽器の演奏，絵を描いたりするのと同様な知的創造活動です．皆さんにもプログラミングの喜びを知ってほしいと思います．ただし，楽器の練習と同様，基礎的な技能をコツコツと高めていく必要があります． また，ゼミでは全員が積極的に議論に参加し，意見等を述べることが求められます．そのためにはレポーターだけでなく，全員が十分な準備をしてゼミに臨む必要があります．
担当者の研究室等	
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	山本　圭三
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本ゼミにおける目標は、社会学に関するさまざまな知識を習得することと、各自で卒業論文を仕上げることである。 本ゼミでは、3 年次までの学習内容をふまえて、各自の関心に基づいた研究テーマを選択する。それぞれの研究テーマに沿って、もっとも適切な研究方法を選択し、それに基づいて分析をおこなう。分析を通して新たな知見を得て、それをまとめるかたちで論文を仕上げていく。
到達目標	独力で論文が書ける。必要なデータを独力で収集できる。
授業方法と留意点	ゼミ生は、それぞれの研究の進捗状況を授業時間内に報告する。ゼミ生は、報告に対して教員や他のゼミ参加者などから出される意見を手がかりに、よりよいものに仕上げていく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	3 年次までの学習内容などに基づき、卒業論文を完成させる。自身が設定した問題に関連する文献を幅広く参照すること、それをふまえ独自の分析をおこない、得られた知見をまとめて論文に仕上げる。 なお、卒業論文の作成にあたっては、配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。受講生は修得した研究倫理を十分にふまえて卒業論文を作成する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	研究の着眼点、研究方法の適切さ、分析と成果のまとめ方の正確さ、卒業論文内容および報告内容
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	他のゼミ生の報告内容から自分自身の研究のヒントを得ることもあるので、発表担当以外の日にも参加すること。無断欠席は厳禁とする。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野　幸志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理を学ぶゼミである。卒業研究では，各自の興味に応じて研究テーマを決定し，卒業研究を実施していく。研究をまとめ，論文の書き方を学ぶことを目的とする。
到達目標	卒業研究では，経営における心理，消費者心理，人間関係などに関するテーマを自分で決め，前期は研究計画を立てる。後期は，テーマに関する研究を実験，調査，面接などの手法を用いて実施していく。
授業方法と留意点	卒業研究では，毎回担当者が卒業研究の途中経過の発表を行う。6月くらいにはテーマを決定し，9月には卒業研究を実施していく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ・内容：経営における心理，消費者心理，マーケティングなど 方法：各自のテーマの文献を購読し，研究計画を立て，研究を進める。 事前・事後課題：事前に予習，事後に復習 なお，卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。
関連科目	卒業研究を受講するまでに「消費者心理」を受講しておくこと。
教科書	
参考書	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習中の発表(50%)，卒業研究(50%)の評価などで総合的に判断する。
学生へのメッセージ	必ず出席し，卒業研究を着実に進めること。
担当者の研究室等	11号館7階　牧野(幸)研究室
備考	牧野(幸)ゼミは，経営学部で心理学を学ぶゼミである。特別な情報の技術(プログラミングなど)は必要としないが，確率統計の知識は必要となる。また，プレゼンテーションを行うことが多いため，Word，Excel，PowerPoint などが普通に使える必要がある。何よりも人としての心理を大切にするゼミであるので，“あいさつをする，時間を守る，約束を守る，授業中私語をしない，寝ない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪　加紋
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	2008 年の金融危機は米国のサブプライムローンという住宅ローンに端を発している。巨大国家米国とはいえ、住宅ローンの一部に過ぎないサブプライムローン問題が、世界のあらゆる国の経済に損失をもたらした。この問題を通して我々はいかに金融が身近な存在であるのかを改めて痛感させられた。 本演習では主として金融問題を扱い、学生諸君自身がこれらを解き明かす、“探求する”ことを目的とする。扱うテーマは、例えば資金の借り手としての企業や貸し手としての銀行、また証券会社、格付け機関といった金融市場のプレイヤーから、株式・債券市場といったマクロ的な金融市場を取り上げても良い。また、金融政策やプルーデンス政策など政策的観点からテーマを選んでも良い。 ただし、本演習の論文作成においては、論理・理論に基づくことは言うまでもないが、さらにそれらを支えるデータや統計学的手法、同時にパソコンを駆使する傾向が強くなる。したがって本演習を希望する学生には、入門水準で良いので、できうる限りこれらの知識を習得しておいて欲しい。そして何より、ヤル気や積極性が重要である。テーマ選定や演習の運営については学生諸君に任せるという意味で自由だがその反面、積極的な参加姿勢が求められると思っておいて欲しい。
到達目標	金融を中心とした経済・経営問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること
授業方法と留意点	演習２で作成した原稿をもとに卒論の完成を目指す。学生による発表形式で進める。発表の準備をする人はいうまでもないが、聞き手の学生にも積極性を求める。問題意識に沿って資料収集と仮説設定を行い、他の学生との討論を通して問題解決の“コツ”を掴んで欲しい。易きに流されれば、そのツケは必ず自分に跳ね返ってくると肝に銘じること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業論文の完成に向けて、個人別に指導していく。年度末には学部主催の報告会があるので、それに向けた準備も行う。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	日頃の学習状況や最終論文を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	就職状況に応じて個別指導が中心となる。人によっては、少々キツイかもしれない。その点、覚悟願う。
担当者の研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木　僚祐
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業では、演習Ⅰおよび演習Ⅱで学んだことを踏まえて、管理会計領域の卒業研究論文を作成してもらう。論文の作成過程で、管理会計に対する理解を深める。
到達目標	問題発見能力、論理的思考力および問題解決能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	毎回の授業において、資料を作成の上、各自の研究の進捗状況について報告してもらう。報告後、研究の進め方について議論を行う。 最初の授業の日までに、卒業研究論文の論題、目次までを各自決めておくこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	夏休み明けまでには、一通り論文を書き上げてもらい、後期は、論文の細かい修正を行っていく。また、卒業研究論文完成後、その内容について発表会を行う。な。卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業態度、授業中の発言、卒業論文の内容などを総合的に考慮して評価する。
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにしましょう。
担当者の研究室等	
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	知的財産管理論	科目名（英文）	Intellectual Properties Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西岡　泉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】情報社会及び情報倫理　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	事業経営において知的財産はますます重要になった。「知的財産をうまく使う者が勝ち、そうでない者は負ける」と言われている。これからは経営情報学科の学生でも知的財産の基礎は必要であり、この授業は経営情報学科における唯一の知的財産の授業として貴重な学習機会である。到達目標は、これからの企業で必要な知的財産の基本的な知識を習得する事にある。
到達目標	企業活動に必要な知的財産の基本を習得し、応用できること。
授業方法と留意点	大阪工大大学院知的財産研究科の企業出身の教員が授業を進める。大きく分類して（１）知的財産の基礎関係、（２）;知的財産の活用関係、（３）事業・研究開発・知財の戦略関係の３つについて授業を行う。毎回、授業の終わりに小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	企業出身の教員から学ぶので実際的知的財産知識が習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、ルール等について解説する。併せて、世界の中で日本が置かれた知的財産の状況について説明する。	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
2	知財戦略とは	知財戦略の基本について考え、議論する。 教科書＜ヒント　その１＞の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
3	特許は生き残れるか	特許制度のあり方について考え、議論する。 教科書＜ヒント　その２＞の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
4	技術に値段を付けられるか	技術の金額評価について考え、議論する。 教科書＜ヒント　その４＞の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
5	やがて哀しきノウハウ	特許とノウハウについて考え、議論する。 教科書＜ヒント　その７＞の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
6	開発するということ	企業の研究開発における知財部門の役割について考え、議論する。 教科書＜ヒント　その８＞の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
7	特許の不思議なところ	特許の独占権について考え、議論する。 教科書＜ヒント　その９＞の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
8	小括	これまでの授業で学び、議論したことをまとめてレポートする。	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
9	特許が消える？	特許の「消尽論」を踏まえた知財戦略について考え、議論する。 教科書＜ヒント　その１２＞の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
10	スピードが命	特許の新規性、進歩性、先願主義について考え、議論する。 教科書＜ヒント　その１３＞の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
11	正露丸と懐中電灯と販売戦略	判例から、企業の販売戦略と知財戦略の関係について考え、議論する～その１～。 教科書＜ヒント　その１５＞の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
12	コカコーラはえらい	判例から、企業の販売戦略と知財戦略の関係について考え、議論する～その２～。 教科書＜ヒント　その１６＞の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
13	Think Globally Act Locally	外国に特許を出願する意味と目的について考え、議論する。 教科書＜ヒント　その１８＞の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
14	特許の怪物	知財制度の新しいあり方について考え、議論する。 教科書＜ヒント　その２１＞の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
15	ケーススタディ	教員が実際に経験した特許裁判の事例を発表し、特許裁判の企業経営に与える影響について議論する。	これまでの授業全体を総括する事。

関連科目

民法 I
民法 II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	誰も書かなかった知的財産論　22 のヒント－未来の知財のために－	西岡　泉	静岡学術出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回小テストを実施し合計点で評価する。ただし、欠席が５回未満であることを条件とする。
学生への メッセージ	小テストの評価、レポートの評価を厳正に行う。真に知的財産権について学ぶ強い意思を持った学生のみ受講すること。
担当者の 研究室等	１１号館６階（経営学部事務室）
備考	教科書は必須です。教科書を読みながら授業を進めます。

科目名	電子商取引	科目名（英文）	E-Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北尾　隆夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	インターネッを使ったネットビジネスの波が日本にも波及しつつあり、今後、ネットビジネスが日本の産業の分野に拡大して行くことは明らかです。　従って、ネットビジネスの歴史、ビジネス・モデルの現状、方向性を知ることはこれからの社会に巣立つ学生諸氏にとっては重要であると考えます。 本講義では、コンピュータ発展の歴史を振り返りながら、 （1）ネットワークやインターネットの概念 （2）ＥＤＩ、ＥＣ（電子商取引）を構成する要素とそのビジネス・モデル （3）そこに用いられている理論 について丁寧に解説し、ネットビジネスの現状と課題を理解していただきます。
到達目標	受講者諸氏が、ネットワークビジネスの現状や方向性を理解されることが到達目標です。　具体的な内容は、 （1）コンピュータ発展の歴史とネットワーク技術 （2）企業におけるＥＣと日常生活におけるＥＣ （3）情報セキュリティを中心とした情報化社会における留意点 が、そのポイントです。
授業方法と留意点	講師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画を促す目的で、レポートやその発表を多く取り入れたものにします。　授業全体を通じ、その時々の社会情勢を中心に、プリントやパワーポイントにより新しい動向を紹介し、全員で考えながら授業を進めます。 また、毎回ではありませんが、課題を出し次講義で発表いただく場合もあります。　毎回講義内容を復習しておいてください。
科目学習の効果（資格）	ネットビジネスの仕組みや活用方法、課題を習得し、実社会に活用できる知識を身につけて戴けます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに　＝EC の定義・分類・発展について＝	（1）講義ガイダンス 講義の概要、進め方、評価方法、注意事項などについての説明 （2）「ＥＣ」とは何か EC の定義・分類・発展について、その概要を解説します。	シラバスをよく読んでおいてください。
2	EC を取り巻く環境	ネットビジネスとは何か、また、「情報化」とはどの様なことを指すのかを解説します。	テキスト第 1 章、第 2 章を読んでおいてください。
3	企業における情報技術の活用	無意識に遣り過ごしてしまいがちな「サービスの価値化」を理解いただき、情報処理とコンピュータの関係について解説します。	テキスト第 3 章、第 4 章を読んでおいてください。
4	インターネットとＷｅｂ	インターネットの機能と、Ｗｅｂの仕組みについて解説すると共に、パソコンやスマホでのインターネット活用を考えます。	テキスト第 5 章、第 6 章を読んでおいてください。
5	ビジネスモデル	インターネットでのビジネスモデル、それに纏わる収益モデルを理解いただくと共に、その変化について解説します。	テキスト第 9 章を読んでおいてください。
6	インターネットマーケティング	Web によるマーケティング戦略、インターネットの活用についての理解を深めていただきます。	テキスト第 11 章を読んでおいてください。
7	企業間での電子商取引　Ⅰ	企業間での電子商取引の戦略と事例（EDI）について解説します。	テキスト第 8 章を読んでおいてください。
8	企業間での電子商取引　Ⅱ	企業間での電子商取引の戦略と事例（e マーケットプレイス、サプライチェーンマネジメント）を解説し、電子商取引のメリット、デメリットに言及します。	企業間での電子商取引の事例を調べておいてください。
9	企業と一般消費者間での電子商取引	企業と一般消費者間での電子商取引の市場や課題について解説します。	経験したことがある一般消費者での電子商取引の具体例を整理しておいてください。
10	自治体との電子商取引、一般消費者間での電子商取引	自治体が行う電子商取引の事例を解説します。　また、そこにおける問題点などにもふれます。 一方、消費者同士がネット上で取引を行う場合の諸課題に触れ、そこに潜む問題点を、一緒に考えます。	一般消費者間取引の場合の事例について整理しておいてください。
11	（1）オンライン・オークション （2）バーチャル・コミュニティ	（1）オンライン・オークションと関連ビジネスについて解説します。 （2）バーチャル・コミュニティとモバイルビジネスについて解説します。	テキスト第 10 章を読んでおいてください。
12	ＥＣの環境	EC に関する法律、倫理を解説し、我々の日常ネット利用に関わる問題点を検証します。	テキスト第 14 章を読んでおいてください。
13	EC のセキュリティ	ＥＣを提供する側のセキュリティ、ＥＣを利用する側のセキュリティに触れ、実際に発生する危険性に対し、企業なり、我々一般消費者が留意すべきことを一緒に考えます。	テキスト第 13 章を読んでおくこと
14	EC の決済	決済とはどの様なことをいうのかを理解いただき、ＥＣにおける決済手段を解説します。	「決済」という言葉の意味を調べておいてください。　また、テキスト第 12 章を読んでおいてください。
15	まとめ	これまでの講義全体の復讐と、学期末試	教科書、配付資料の全てを持参ください。

			験を意識したポイントを整理します。 また、そのための模擬テストの実施、Q＆A対応を行います。	

関連科目：情報セキュリティ、情報産業論　他

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネットビジネス進化論	中村忠之	中央経済社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ｅビジネスの教科書　第４版	幡鎌博	創成社
2	Electronic Commerce	Gary Schnaider	Course Technology
3			

評価方法（基準）：全体評価は、平常評価（３５％）と学期末試験評価（６５％）により行います。
平常評価は、課題レポート、小テスト、および授業ごとの感想レポートにより行い、学期末試験評価は、文章表現力向上の目的も兼ねて一部論述式とします。　また、学期末試験への教材持ち込みは禁止します。

学生へのメッセージ：コンピュータとネットワークが作り出すＥＣは、もうすでに新しい流れを生み出しています。　今見える多くの話題から将来を想起して欲しいと考えています。

・毎回出席をとります〔連絡カード配付〕。　遅刻をしないようにしてください。
・座席は前から詰めて着席してください〔座席は指定しません〕。
・授業中の私語は謹んでください〔真面目な受講者の弊害となる場合は退場戴く場合もあります〕。
・不明な事柄は放置せず、積極的に質問してください。

担当者の研究室等：１１号館６階　経営学部事務室、講師控え室

備考：

科目名	ネットビジネス構築演習	科目名（英文）	Practice of Net-Business Construction
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保　貞也
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	情報社会の重要なビジネススタイルである IT を駆使したビジネスについて、特にネットショップに着目して、その設計、構築、さらに運用に関する演習を行う。具体的には、実際のネットショップの分析を行い、次に、仮想店舗のコンセプトの提案、商品ページの設計、ウェブサイト全体のデザインを実習する。さらに、契約、決済などを現在の法制度に基づいて検討するとともに、コンテンツマネジメントシステムの利用を前提とした構築実習を行う。
到達目標	この講義によって以下の事柄を達成することが目標です。 （1）ネットショップを構成する技術の説明ができる （2）ネットショップの企画からページ作りまでを一貫して行うことができる （3）ネットショップの運営に際しての法的な課題について概説できる
授業方法と留意点	演習は毎時間情報処理室で行う。演習課題を実行しながら、現在のネット環境の理解を進める。
科目学習の効果（資格）	情報技術を活用した経営の総合的な理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本演習の狙い、評価方法についてなど	シラバスを読んでおくこと
2	既存ネットショップの分析（1）	実在するネットショップを調査し、傾向を分析する。	ネットショップの事例を探しておく
3	既存ネットショップの分析（2）	ネットショップの必要事項を把握する。	各自が構築を目指すネットショップのイメージを考える
4	コンセプトの検討	構築するネットショップのコンセプトを明確にする。	既存のネットショップに対する位置付けを確認する
5	商品群の企画	ネットショップのコンセプトに適した商品のデータを集める。	数多くの商品データの収集方法を検討する
6	商品ページのデザイン	商品を提示する際の画面デザイン、説明文の規定などを検討する。	商品ページのデザインを分析しておく
7	ウェブサイトの設計	商品郡を魅力的に見せるための構成方法の検討を行なう。	情報のまとめ方、アクセスしやすいウェブサイトの要件を調べる
8	取引書類の検討	免責事項、配送基準などの契約書類を作成する。	現在の法制度に基づく契約書類の調査
9	CMS 実習	コンテンツマネジメントの利用方法を学ぶ。	現在の CMS の利用可能性の把握
10	構築実習（1）	ネットショップの内容を CMS に登録する。	CMS の利用方法の予習・復習
11	構築実習（2）	ネットショップの内容を CMS に登録する。	CMS の利用方法の予習・復習
12	グループ発表	各自が構築したネットショップを相互評価する。	既存のネットショップとの比較
13	キャンペーン計画	ネットショップの活性化を考慮したイベントの企画を行う。	実在のネットショップのキャンペーンを調べる
14	最新技術動向	これからのネットショップに用いられる技術動向の検討	インターネット技術の最新動向の調査
15	本演習のまとめ	本演習で学んだことの振り返り	本演習で作成した課題の見直し

関連科目	プログラミング基礎、Web デザイン、コンピュータネットワーク

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期テスト 80%、レポート等 20%で評価する。
学生へのメッセージ	この演習では、情報技術をいかに効果的に活用して新しいビジネスを立ち上げるかを体験しようと思っています。プログラミングが苦手でも大丈夫ですので、楽しく受講してください。
担当者の研究室等	１１号館７階久保准教授室
備考	

科目名	ネットワーク運用管理	科目名（英文）	Network Operations and Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井　千夏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）【施行規則に定める科目区分】「情報社会及び情報倫理」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	この授業では、ネットビジネスを効果的に運用するために必要なウェブ解析の方法をEXCELを用いた演習で学んでいく。具体的には、ウェブページの本文やリンクの解析方法、更には販売促進のための分析や販売予測などについて講義していく。
到達目標	ウェブ情報の解析手法を通じて、データの整理や現象の本質を見抜く力を養う。
授業方法と留意点	授業には必ず教科書を持参すること。また、授業中に理解できなかったことは次の授業までに復習しておくこと。
科目学習の効果（資格）	情報処理関連の基礎科目に関連した科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ネットビジネスの運用としくみ	ガイダンス，ウェブ解析の基本	練習問題(1)
2	ウェブページのデータ整理(1)	データ整理の基本(1)（ヒストグラム，平均）	練習問題(2)
3	ウェブページのデータ整理(2)	データ整理の基本(2)（分散，標準偏差）	練習問題(3)
4	演習(1)	EXCELによる解析演習(1)	練習問題(4)
5	アクセスデータの解析	ウェブコンサルタントの業務内容，ウェブマーケティング	練習問題(5)
6	データの分布特性(1)	正規分布	練習問題(6)
7	データの分布特性(2)	標準正規分布と確率	練習問題(7)
8	講義のまとめと小テスト	講義前半の復習と小テスト	練習問題(8)
9	演習(2)	EXCELによる解析演習(2)	練習問題(9)
10	ウェブデータの関連性を調査	ウェブページにおけるデータの相関関係を調査	練習問題(10)
11	顧客満足度調査とアンケート分析	相関係数，アンケート分析法	練習問題(11)
12	顧客ニーズの推定	標本，点推定，区間推定	練習問題(12)
13	ネット・メール広告とスパムメールの統計的解釈	ネット・メール広告，スパムメール	練習問題(13)
14	演習(3)	EXCELによる解析演習(3)	練習問題(14)
15	講義のまとめと小テスト	講義後半の復習と小テスト	練習問題(15)

関連科目	情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	実践的なデータ解析のための確率統計学入門	堀井仙松・小寺千夏著	(株)文化書房博文社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（20%）、小テスト（20%）、期末試験（60%）により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の1/3回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者（寝る、喋る等）は欠席扱いとする。
学生へのメッセージ	この授業は、ウェブ情報をEXCELを用いて解析する。このため、基本的なコンピュータの操作が可能であることが望ましい。また、解析には統計の考え方を用いる。統計については教科書を参照しながら進めるので覚える必要はないが、毎回教科書を持参すること。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	ネットワークプログラミング	科目名（英文）	Network Programming
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井　千夏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、ネットビジネスを効果的に運用するために必要なウェブ解析の方法を EXCEL を用いた演習で学んでいく。具体的には、ウェブページの本文やリンクの解析方法、更には販売促進のための分析や販売予測などについて講義していく。
到達目標	ウェブ情報の解析手法を通じて、データの整理や現象の本質を見抜く力を養う。
授業方法と留意点	授業には必ず教科書を持参すること。また、授業中に理解できなかったことは次の授業までに復習しておくこと。
科目学習の効果（資格）	情報処理関連の基礎科目に関連した科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ネットビジネスの運用としくみ	ガイダンス，ウェブ解析の基本	練習問題(1)
2	ウェブページのデータ整理(1)	データ整理の基本(1)（ヒストグラム，平均)	練習問題(2)
3	ウェブページのデータ整理(2)	データ整理の基本(2)（分散，標準偏差)	練習問題(3)
4	演習(1)	EXCEL による解析演習(1)	練習問題(4)
5	アクセスデータの解析	ウェブコンサルタントの業務内容，ウェブマーケティング	練習問題(5)
6	データの分布特性(1)	正規分布	練習問題(6)
7	データの分布特性(2)	標準正規分布と確率	練習問題(7)
8	講義のまとめと小テスト	講義前半の復習と小テスト	練習問題(8)
9	演習(2)	EXCEL による解析演習(2)	練習問題(9)
10	ウェブデータの関連性を調査	ウェブページにおけるデータの相関関係を調査	練習問題(10)
11	顧客満足度調査とアンケート分析	相関係数，アンケート分析法	練習問題(11)
12	顧客ニーズの推定	標本，点推定，区間推定	練習問題(12)
13	ネット・メール広告とスパムメールの統計的解釈	ネット・メール広告，スパムメール	練習問題(13)
14	演習(3)	EXCEL による解析演習(3)	練習問題(14)
15	講義のまとめと小テスト	講義後半の復習と小テスト	練習問題(15)

関連科目	情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	実践的なデータ解析のための確率統計学入門	堀井仙松・小寺千夏著	(株)文化書房博文社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（20%)、小テスト（20%)、期末試験（60%）により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の 1/3 回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者（寝る、喋る等）は欠席扱いとする。
学生へのメッセージ	この授業は、ウェブ情報を EXCEL を用いて解析する。このため、基本的なコンピュータの操作が可能であることが望ましい。また、解析には統計の考え方を用いる。統計については教科書を参照しながら進めるので覚える必要はないが、毎回教科書を持参すること。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	ビジネス IT 演習	科目名（英文）	Practice in Business IT
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保　貞也
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）【施行規則に定める科目区分】「情報社会及び情報倫理」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	情報社会の重要なビジネススタイルである IT を駆使したビジネスについて、特にネットショップに着目して、その設計、構築、さらに運用に関する演習を行う。具体的には、実際のネットショップの分析を行い、次に、仮想店舗のコンセプトの提案、商品ページの設計、ウェブサイト全体のデザインを実習する。さらに、契約、決済などを現在の法制度に基づいて検討するとともに、コンテンツマネジメントシステムの利用を前提とした構築実習を行う。
到達目標	この講義によって以下の事柄を達成することが目標です。 （1）ネットショップを構成する技術の説明ができる （2）ネットショップの企画からページ作りまでを一貫して行うことができる （3）ネットショップの運営に際しての法的な課題について概説できる
授業方法と留意点	演習は毎時間情報処理室で行う。演習課題を実行しながら、現在のネット環境の理解を進める。
科目学習の効果（資格）	情報技術を活用した経営の総合的な理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本演習の狙い、評価方法についてなど	シラバスを読んでおくこと
2	既存ネットショップの分析（1）	実在するネットショップを調査し、傾向を分析する。	ネットショップの事例を探しておく
3	既存ネットショップの分析（2）	ネットショップの必要事項を把握する。	各自が構築を目指すネットショップのイメージを考える
4	コンセプトの検討	構築するネットショップのコンセプトを明確にする。	既存のネットショップに対する位置付けを確認する
5	商品群の企画	ネットショップのコンセプトに適した商品のデータを集める。	数多くの商品データの収集方法を検討する
6	商品ページのデザイン	商品を提示する際の画面デザイン、説明文の規定などを検討する。	商品ページのデザインを分析しておく
7	ウェブサイトの設計	商品郡を魅力的に見せるための構成方法の検討を行なう。	情報のまとめ方、アクセスしやすいウェブサイトの要件を調べる
8	取引書類の検討	免責事項、配送基準などの契約書類を作成する。	現在の法制度に基づく契約書類の調査
9	CMS 実習	コンテンツマネジメントの利用方法を学ぶ。	現在の CMS の利用可能性の把握
10	構築実習（1）	ネットショップの内容を CMS に登録する。	CMS の利用方法の予習・復習
11	構築実習（2）	ネットショップの内容を CMS に登録する。	CMS の利用方法の予習・復習
12	グループ発表	各自が構築したネットショップを相互評価する。	既存のネットショップとの比較
13	キャンペーン計画	ネットショップの活性化を考慮したイベントの企画を行う。	実在のネットショップのキャンペーンを調べる
14	最新技術動向	これからのネットショップに用いられる技術動向の検討	インターネット技術の最新動向の調査
15	本演習のまとめ	本演習で学んだことの振り返り	本演習で作成した課題の見直し

関連科目	プログラミング基礎、Web デザイン、コンピュータネットワーク

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期テスト 80%、レポート等 20%で評価する。
学生へのメッセージ	この演習では、情報技術をいかに効果的に活用して新しいビジネスを立ち上げるかを体験しようと思っています。プログラミングが苦手でも大丈夫ですので、楽しく受講してください。
担当者の研究室等	１１号館７階久保准教授室
備考	

科目名	ビジネスインターンシップⅠ	科目名（英文）	Business Internship Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安久　典宏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業概要：夏季休暇中に実施するインターンシップ実習に参加するための事前指導科目です。 目　　的：自分がどのような行動特性を持っており、それを社会のどのような環境や業種の中で活かしていけるかを考え、将来に対するライフプランを明確にしていく。
到達目標	①組織人に求められる社会的役割および責任、仕事への情熱等を身につけ、主体的に発言できるプレゼンテーション能力の開発。 ②インターンシップ体験や就職活動などを積極的にアプローチし、かつ、臨機応変な対応ができるバランスのとれた人格の形成。
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参加方式の授業のため、演習や発表を多く取り入れたものにする。
科目学習の効果（資格）	将来の職業選択意識を高め適切に行動できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 【4月7日】	・授業の全体的な流れと進め方に関する説明 ・インターンシップの狙いと重要性について	予習：自分がなぜ、インターンシップに参加したいのかを考え、整理しておいてください （安久・高尾）
2	やりたい仕事を探してみよう 【4月14日】	・自分がやりたい仕事についてワークを通じて考える ・自分の行動特性を考える ・行動適応診断の実施	予習：自分のやりたい職種を3つ考えてきてください （安久・高尾）
3	アルバイトと正社員の違いについて考える 【4月21日】	・仕事の内容から求められる能力や資質について考える ・目標達成意欲度診断の実施	予習：アルバイトと正社員との違いを比較表にしてまとめてきてください （安久・高尾）
4	職種から求められる資質と行動・考え方 【4月28日】	・職種から求められる資質と行動・考え方 ・インターンシップ先希望調査	予習：職種から求められる資質はどのようなものがあるのかを考えてきてください （安久・高尾）
5	自分のキャリアスタイルを考える 【5月12日】	・キャリアスタイルの分析を通じて、自分の行動特性をチェックする ・キャリアスタイル診断の実施	予習：自分の長所と短所を3つづつ考えてきてください （安久・高尾）
6	インターンシップの狙いと重要性 【5月19日】	・インターンシップの狙いと重要性 ・インターンシップの目的を明確にする	予習：インターンシップに参加する目的を整理しておいてください （安久・高尾）
7	社会人基礎力について① 【5月26日】	・先輩たちの就業体験報告（PPT）から学ぶ ・採用企業と学生の認識の違いについてグループワーク	予習：社会人基礎力について調べてきてください （安久・高尾）
8	社会人基礎力について② 【6月2日】	・採用企業と学生の認識の違いについてグループ発表	予習：企業は社会人基礎力の中のどの能力を優先するかを考えてきてください （安久・高尾）
9	社会人基礎力について③ 【6月9日】	・社会人基礎力診断の実施 ・履歴書の書き方の再確認 ・インターンシップ実習についての事務連絡	予習：履歴書の書き方で気になることを整理しておいてください （安久・高尾）
10	企業の求める人材像 【6月16日】	・企業管理者による講演会（予定）	予習：事前に講演者の企業情報を調べ、積極的に質問できるようにしておくこと （安久・高尾）
11	事前訪問事業所の調査 【6月23日】	・事業所への事前訪問（電話応答から訪問まで）のシナリオを考える ・グループで考えたシナリオを使ってロールプレイ	予習：事前訪問事業所の情報をWebページで調べておいてください （安久・高尾）
12	業界研究 【6月30日】	・インターン先の業界が同種のグループごとに特徴や課題をブレストする ・課題等をKJ法を使ってまとめグループごとに発表する	インターンシップ先が属する業界について調べてきてください （安久・高尾）
13	マナーについて知ろう 【7月7日】	・社会人としての基本的なマナーについて考える ・挨拶、席次、敬語、名刺交換など	マナーとエチケットの違いについて調べてきてください （安久・高尾）
14	事前訪問の準備 【7月14日】	・事前訪問先でのマナーや面談応答のロールプレイ	予習：名刺を作成し、それと名刺ケースを持参してください （安久・高尾）
15	まとめ 【7月21日】	・インターンシップに参加するための目的を再度、明確にする ・インターンシップに参加した先輩との意見交換（予定）	なぜ、インターンシップに参加するかを明確にし、200字程度の文章にまとめてください （安久・高尾）

関連科目	「ビジネスインターンシップⅡ」（企業等での就業体験実習）を希望する学生は、必ずこの科目を同時履修すること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			
評価方法（基準）	原則、講義レポートの内容（50%）と定期期末試験結果（50%）で評価します。			
学生へのメッセージ	インターンシップの流れ（予定） 4 月下旬に事業所リスト公開→5 月上旬に希望事業所の絞り込み→5 月下旬に受け入れ可能かの回答→7 月上旬に事前訪問→8 月 12 日（水）～9 月 7 日 （月）の間（夏季休暇期間中）に、原則 2 週間（実質 10 日以上）のインターンシップ実習に参加すること。			
担当者の研究室等	11 号館 8 階　安久研究室			
備考	授業の進捗状況により一部内容や進め方を変更することがあります。			

科目名	ビジネスインターンシップⅡ	科目名（英文）	Business Internship II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	安久　典宏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業概要：夏季休暇中に実施するインターンシップ実習(10日間以上）のための集中（土曜日午前2コマ連続）科目です。 目　　的：職業人としての社会的役割および責任、仕事への情熱と意欲、組織人としての在り方等について自ら学習できる学生の育成。
到達目標	インターンシップを通して「企業とは」「組織とは」「仕事とは」について学び、就職に対する心構えを養い、自ら責任を自覚して主体的に発言・行動ができるバランスのとれた人格の形成を目指す。
授業方法と留意点	①「事前指導（講義)」「インターンシップ（実習・研修)」「事後指導（就業体験の発表)」すべてに出席（参加）すること。 ②無断欠席は絶対にしないこと。必ず事前連絡を担当教員か経営学部事務室（11号館6階）にすること。 ③事前に授業のある土曜日のスケジュール（以下の「授業テーマ」内に明記）は、確保しておくこと。 ④全学部代表による発表会を11月14日（土曜日）に予定しているので、全員リクルートスーツ着用で出席のこと。 ⑤体験報告書のゼミ担当教員氏名欄には署名と押印がされたものを、期日までに提出のこと。 ⑥「ビジネスインターンシップ」実習記録簿は、毎日実習日誌を書き、受け入れ先担当者のコメントと署名押印をもらい、インターンシップ終了後は、所定の必要事項を記入しゼミ担当教員氏名欄に署名、押印されたものを、期日までに提出のこと。 ⑦実習期間は、実質10日間以上でないと単位履修したことにはならないので、くれぐれも注意すること。
科目学習の効果（資格）	①就業体験を通して、実社会への足掛かりをつかむ。 ②職業意識を高め、職業選択を適切に行い、就職活動への意欲を高める。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前教育　6月27日(土) 1限目	・インターンシップの心構え、体験報告書等について ・マナー講座　（学外講師を含む）	・ビジネスマナーについて考える ★スーツ着用で参加してください （安久・高尾）
2	事前教育　6月27日(土) 2限目	・マナー講座　（学外講師を含む） ★授業終了後、インターンシップ先が同一の他学部の学生との顔合わせを行います	正しい電話のかけ方を考える ★次回の授業前に「履歴書」と体験実習先での「目的（テーマ）と実習内容」をまとめたレポートを提出してください （安久・高尾）
3	事前教育　7月25日(土) 1限目	・パソコン講習Ⅰ（情報センター職員を含む）	学んだことを実習先で活用できるように機能などをマスターしておいてください （安久・高尾）
4	事前教育　7月25日(土) 2限目	・パソコン講習Ⅱ（情報センター職員を含む）	学んだことを実習先で活用できるように機能などをマスターしておいてください （安久・高尾）
5	インターンシップ(就業体験実習)	・夏期休暇期間中の8月12日（水）～9月7日（月）の間、原則2週間（実質10日間以上）の実習を行う	事前に企業等の理念や事業内容について調べ、ノートにまとめておいてください （安久・高尾）
6	インターンシップ(就業体験実習)	・夏期休暇期間中の8月12日（水）～9月7日（月）の間、原則2週間（実質10日間以上）の実習を行う	インターンシップのテーマ（ねらい、目的）を明確にしたうえで参加してください （安久・高尾）
7	体験報告書の作成	・体験報告書の作成指導	報告書の書き方を熟読してください （安久・高尾）
8	体験報告書のゼミ教員指導	・ゼミの先生による体験報告書のチェックと指導（署名、押印）	誤字・脱字がないか確かめてから指導を受けてください （安久・高尾）
9	報告書の提出	・インターンシップ担当教員による体験報告書のチェックと指導 ★担当教員への提出と教務課へ電子データを9月17日（木）までに提出〈期日厳守〉	「インターンシップ体験報告集」に掲載されますので、何度も読み返して報告書の内容を推敲してください （安久・高尾）
10	事後指導　9月19日(土)　1限目	・「インターンシップに参加して」① ・インターンシップ終了学生によるグループ発表と選抜	・ゼミ担当教員の指導を受けチェックされた体験報告書の提出 ・7分間で体験報告ができるように各自まとめて出席してください （時間が短かったり、長すぎないように注意してください） （安久・高尾）
11	事後指導　9月19日(土)　2限目	・「インターンシップに参加して」② ・グループ代表の選抜 ・目標達成意欲度、キャリアスタイル、社会人基礎力診断の実施	7分間で体験報告ができるように各自まとめて出席してください （時間が短かったり、長すぎないように注意してください） （安久・高尾）
12	事後指導　9月26日(土)　1限目	・「インターンシップに参加して」③ ・グループ代表による発表 ★発表者は、当日までにパワーポイントでの発表を準備してください	グループ代表者は12分で報告できるようパワーポイントにまとめてください （パワーポイントは、文字の大きさや見やすさに気を配ってください）

				（安久・高尾）
	13	事後指導　9 月 26 日(土))2 限目	・「インターンシップに参加して」④ ・グループ代表による発表と選抜選抜 ★発表者は、当日までにパワーポイントでの発表を準備してください	グループ代表者は 12 分で報告できるようパワーポイントにまとめてください （パワーポイントは、文字の大きさや見やすさに気を配ってください） （安久・高尾）
	14	事後指導　10 月 24 日（土）1 限目	・「インターンシップに参加して」⑤ ・学部代表報告　発表 ★学生代表者は、当日までにパワーポイントでの発表を準備してください ★授業開始前までに体験報告書と実習記録簿を提出すること	学生代表者はパワーポイントで報告してください（15 分程度） （安久・高尾）
	15	事後指導⑥　10 月 24 日(土) 2 限目	・「インターンシップに参加して」⑥ ・学部代表報告　発表と全学代表者の選抜 ★学生代表者は、当日までにパワーポイントでの発表を準備してください	★参加者全員、リクルートスーツ着用 ★報告会の感想をレポートにまとめ提出してください （安久・高尾）

関連科目	教養科目「ビジネスインターンシップⅠ」を必ず合格していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則、事前指導（20%）、インターンシップ-受け入れ事業所の評価および実習記録簿、報告書の提出を含む-（30%）、事後指導（50%）のすべての受講態度、提出物等により決定します。インターンシップだけの参加では、単位認定はできません。
学生へのメッセージ	①「ビジネスインターンシップⅠ・Ⅱ」を履修申請するためには、3 月 25 日（水）の履修ガイダンスに出席することが必須となりますので、履修希望者は必ず出席し、「ビジネスインターンシップⅠ、Ⅱ事前許可申請書」を提出すること。やむを得ない理由により参加できない場合は、速やか（事前に）に安久（研究室：11 号館 8 階）まで申し出ること。 ②「ビジネスインターンシップⅠ」を同時履修すること。 ③3 年次で履修するのが望ましい。 ④11 月 14 日（土）午前は、全学部の各代表による報告会を予定しています。当日はスーツ着用。 ⑤履修希望者が多い場合は、選考する場合がある。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　安久研究室
備考	授業の進捗状況により一部内容や進め方を変更することがある。

科目名	ビジネスゲーミング	科目名（英文）	Business Gaming for Society
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	福田　市朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	目的：ビジネスに必要な社会的思考力の向上を図る 概要：多様な人間関係を維持するための社会的知性の特性を学び、人間社会の複雑な利害関係を解消する戦略的な思考力の向上を目指す。まず、経済学で研究されてきたゲーム理論の基本を学び、合理的な意思決定法を学習する。併せて、様々な利害対立や葛藤を対処する戦略的な思考特性について心理学の視点から検討する。
到達目標	1．社会的知性および社会的思考の心理学的な特性を知る 2．人々の経験する多様な対立の種類について学ぶ 3．利害解決行動を理解するための実験法やシミュレーション技法などを学ぶ 4．ゲーム理論＜ゼロ和ゲーム理論と非ゼロ和ゲーム理論＞の基本を学ぶ 5．ゲームを用いた社会行動の分析手法を学ぶ
授業方法と留意点	多様な対立を分類し、個々の対立について自ら考え、答を出してみよう。本講義は自ら答えを出すという実践的な理解を求めている。授業後の復習に力を注ぎ、疑問点は必ず質問し、解決するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	合理的な意思決定法を理解することによって、利害対立の合理的な処理力と社会的スキルの向上が期待される。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義概要：「ビジネスゲーミング」の講義目標と学習指針	講義の目的・方法および成績評価について説明する。ゲーミング技法の導入意義やゲーム理論の活用法などを簡単に紹介する。	ビジネスにおける様々な種類の利害関係を取り上げてみよう。
2	ビジネスゲームの技法（1）：ゲーム・シミュレーションの導入意義	ビジネスを理解するために用いられる様々なビジネスゲームの理念と活用法について解説する。	梶井厚志著、『戦略的思考の技術』（中公新書）を読んでみよう。
3	ビジネスゲームの技法（2）：ゲーム理論による社会行動の分析	戦略決定における合理性、論理性、倫理性を説明し、ゲーム理論の目的やシミュレーションゲームの教育的意義について解説する。	「公共財ゲーム」を授業開始時に毎回実施します。ゲーム記録用紙は後日回収します。
4	社会的思考法（1）：社会的知性としての戦略的思考法	様々な対立や葛藤を取り上げ、これらを解消する合理的な思考法を解説する。	説得や交渉が成立するための条件について考えてみよう。
5	社会的思考法（2）：ゲーム理論の目的と課題	戦略論として発展したゲーム理論について解説する。併せて、戦略的意思決定における合理的な思考法を学ぶ。	ボードゲームにおける合理的な戦略について考えてみよう。
6	ゲーム理論の紹介：ゲーム理論の成立とその思考法	ゲーム理論を構成する基本用語を解説する。併せて、展開型ゲーム理論と行列型ゲーム理論の相違点を解説する。	ゲームの必勝法が存在する条件について、考えてみよう。
7	ゼロ和ゲームの世界（1）：ゼロ和ゲームの基本	ゼロ和ゲームに関する理論とその解法を解説する。また、ミニマックス戦略とマックスミニ戦略などの基本概念を学ぶ。	じゃんけんゲームをゼロ和ゲーム理論の視点から考えてみよう。
8	ゼロ和ゲームの世界（2）：混合戦略と期待値	じゃんけんゲームを解説し、混合戦略と期待値の関係を述べる。また、合理的なゲームの解を求める計算方法を学ぶ。	練習課題を出します。期末試験の問題となります。
9	ゼロ和ゲームの世界（3）：ゼロ和ゲームの活用	ゼロ和ゲーム理論と心理学の関係について解説する。じゃんけんにおけるでたらめ戦略の有効性を考える。	「専制者ゲーム」や「最後通牒ゲーム」の心理社会的な特徴を考えてみよう。
10	非ゼロ和ゲームの世界（1）：非ゼロ和ゲームの基本	「囚人のジレンマゲーム」を用いて利害関係の合理的な解決方法を考える。併せて、約束が成立する心理的要素について解説する。	ゲームの利得表を理解すること。試験問題となるので要注意！
11	非ゼロ和ゲームの世界（2）：非協力型ゲームと協力型ゲーム	ナッシュ均衡を解説し、合理的な交渉の進め方について説明する。特に、プレイヤー間でのコミュニケーションが可能なゲームの成立について解説する。	松原望著、『ゲームとしての社会戦略』（丸善ライブラリ）を読んでみよう。
12	非ゼロ和ゲームの世界（3）：非ゼロ和ゲームの活用法	「チキンゲーム」や「異文化対立ゲーム」などを紹介し、それらの特徴と心理学的課題について解説する。	具体的な戦略的場面を取り上げて分析してみよう。
13	ゲームによる社会行動分析（1）：ゲーム理論と社会行動	「公共財ゲーム」や「共有地の悲劇ゲーム」の解説を通して、社会行動における公正や正義について考える。	「公共財ゲーム」の結果についてレポートを提出（義務）。
14	ゲームによる社会行動分析（2）：社会的合意と報酬分配	ゲーム理論の観点から、合意の形成や社会的ルールの成立について解説する。併せて、協力行動と報酬分配について学ぶ。	「共有地の悲劇」が起こらないためのルールを考えなさい。
15	講義のまとめ	ビジネス場面における様々な利害対立を取り上げて、価値ある有意義な解決を図るための思考法を振り返る。	戦略的思考を考えるための必要な用語を正しく理解すること。

関連科目	ミクロ経済学、職業能力開発、経営戦略論などの意思決定に関係する科目を併せて受講すると内容をより理解することができる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は指定しないが、読んでほしい参考図書を随時紹介する。		
2			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 戦略的思考の技術 - ゲーム理論を実践する / 梶井厚志 / 中公新書 2 / ゲームとしての社会戦略 / 松原望 / 丸善ライブラリー 3 / ゲームとしての交渉 / 草野耕一 / 丸善ライブラリー
評価方法 （基準）	小レポートの成績（30%）と期末定期試験の成績（70%）を合算し、総合的に評価する。小レポートは授業内容と関係するので、誠実に回答すること。
学生への メッセージ	遅刻厳禁！居眠り厳禁！ 私語を慎み、中途退室は避けること。 講義中のスマホ・携帯の使用禁止。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階（福田研究室）
備考	現実は理論通りにはならない。しかし、理論を知ることは重要である。 授業を通して、理論と実践の相違点を理解するとともに、社会的な思考術を身につけてほしい。

科目名	ビジネスシミュレーション	科目名（英文）	Business Simulation
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	黒澤　敏朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）【施行規則に定める科目区分】「情報社会及び情報倫理」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	マネジメントサイエンスにおける問題解決法の一つにシミュレーション（模擬実験）がある。この科目では、その基本原理を理解し、いくつかの典型的な経営問題のモデルについて、表計算ソフトＥｘｃｅｌを用いて実際に演習を行い、その方法を習得することを目的とする。
到達目標	ビジネスにおけるシミュレーション技法の基礎を理解し、現実の課題への応用の指針を構築できることが到達目標である。
授業方法と留意点	毎回、パソコンを用いた授業を行う。まず、テキストをもとに基本モデルを説明し、次にＥｘｃｅｌの関数を用いてモデル化を行い、いろいろなパラメータ値でシミュレーションを行うことで、経営問題への理解を深めていく。
科目学習の効果（資格）	基本情報処理技術者や中小企業診断士を始め、情報系・経営系の資格取得に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	シミュレーション入門（1）	自動販売機の釣り銭モデルによるシミュレーションの基礎演習	シラバスを再確認しよう。そして、身近にあるシミュレーションの利用事例を探してみよう。
2	シミュレーション入門（2）	確率現象を用いた自動販売機の釣り銭シミュレーションの応用演習	授業中に行った演習課題を復習しよう。
3	変動量と統計（1）	ランダムネスの検定	授業中に行った演習課題を復習しよう。
4	変動量と統計（2）	統計量と確率分布	授業中に行った演習課題を復習しよう。
5	疑似乱数の作成と検定	一様乱数の作成と適合度の検定	授業中に行った演習課題を復習しよう。
6	計画の検討（1）	定期預金の利息のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
7	計画の決定（2）	ローンの利息のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
8	応用課題（1）	定期預金とローンのシミュレーションについての応用課題	授業中に行った演習課題を復習しよう。
9	決定問題（1）	決定の木を用いた中古バイクの売却問題のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
10	決定問題（2）	取引相手の決定についてのシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
11	在庫問題（1）	新聞売り子問題のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
12	在庫問題（2）	定期発注方式のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
13	応用課題（2）	発注点（定量）発注方式のシミュレーションについての応用課題	授業中に行った演習課題を復習しよう。
14	待ち行列	ランダム到着、ランダムサービスの場合のモデル化ととシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
15	まとめ	これまでの学習内容のまとめと 専用ソフトを用いた工場や社会システムのシミュレーションの事例紹介	この授業で学んだことを振り返ろう。

関連科目	経営統計学、マネジメントサイエンス、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	シミュレーション（Ｅｘｃｅｌで学ぶ経営科学入門シリーズ４巻）	荒木勉、栗原和夫	実教出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学習内容の性質上、定期試験は行いません。したがって成績は、授業中に行う演習課題のレポート（５０％）と２つ以上の応用課題のレポート（５０％）で評価します。
学生へのメッセージ	毎回、Ｅｘｃｅｌを用いたシミュレーションを行いますので、Ｅｘｃｅｌの関数を使える程度の予備知識は必要です。基本的な技法を繰り返し、かつ積み重ねながら学習することになりますので、できるだけ欠席しないようにしてください。
担当者の研究室等	１１号館７階　黒澤教授室
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Business Information Processing Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを自身の目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識・技術を習得する。本講義では、Word を用いたビジネス文書の作成、Excel を用いたビジネスデータの処理についての技能習得を目指す。また、コンピュータネットワークを利用する上で必要となるマナー・モラルについて理解する。
授業方法と留意点	履修に際して予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
2	インターネットの利用と情報検索	インターネット環境と情報の検索方法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	文書作成ソフトウェア（1）	Word の基礎知識、文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	文書作成ソフトウェア（2）	文書の書式設定、レイアウト変更	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	文書作成ソフトウェア（3）	表の作成・編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
6	文書作成ソフトウェア（4）	表現力を高める文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
7	文書作成ソフトウェア（5）	応用文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
8	表計算ソフトウェア（1）	Excel の基礎知識、データの入力・編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
9	表計算ソフトウェア（2）	罫線による表の作成・編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	表計算ソフトウェア（3）	基本的なグラフ作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	表計算ソフトウェア（4）	応用的なグラフ作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	表計算ソフトウェア（5）	相対参照と絶対参照	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	表計算ソフトウェア（6）	データベース入門、データの並べ替え・検索	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	表計算ソフトウェア（7）	データの集計、データの解析	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	まとめ	Word と Excel の応用利用、全体のまとめ	全体の内容を整理しておく

関連科目	コンピュータ概論、インターネット概論、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30 時間アカデミック　情報リテラシー　Office2013	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（40%）、レポート課題（30%）、小テスト（20%）、授業への参加度（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階(栢木准教授室)
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Business Information Processing Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＥＦＧＨ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな技能を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	Office「Word」「Excel」の基本操作をマスターする。
授業方法と留意点	履修に際して予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自復習すること。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
2	インターネットの利用と情報検索	インターネット環境と情報の検索方法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	文書作成ソフトウェア（1）	Word の基礎知識、文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	文書作成ソフトウェア（2）	文書の書式設定、レイアウト変更	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	文書作成ソフトウェア（3）	表の作成・編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
6	文書作成ソフトウェア（4）	表現力を高める文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
7	文書作成ソフトウェア（5）	応用文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
8	表計算ソフトウェア（1）	Excel の基礎知識、データの入力・編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
9	表計算ソフトウェア（2）	罫線による表の作成・編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	表計算ソフトウェア（3）	基本的なグラフ作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	表計算ソフトウェア（4）	応用的なグラフ作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	表計算ソフトウェア（5）	相対参照と絶対参照	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	表計算ソフトウェア（6）	データベース入門、データの並べ替え・検索	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	表計算ソフトウェア（7）	データの集計、データの解析	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	まとめ	Word と Excel の応用利用、全体のまとめ	全体の内容を整理しておく

関連科目	コンピュータ概論、インターネット概論、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回授業時に出す課題（100%）をもとに評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	１１号館６階（経営学部事務室）
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題およびレポートの作成やプレゼンテーションに必要となる情報活用能力を習得する。Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな技能を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を習得する。本講義では、Excel を用いたビジネスデータの分析、マクロの基礎、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料の作成についての技能習得を目指す。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、ビジネス情報処理Ⅰの復習	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
2	データベースの利用（1）	ピボットテーブル・データの解析1	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	データベースの利用（2）	ピボットテーブル・データの解析2	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	データベースの活用（3）	演習課題の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	Excel によるマクロの利用（1）	マクロの作成・実行1	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
6	Excel によるマクロの利用（2）	マクロの作成・実行2	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
7	Excel によるマクロの利用（3）	マクロの作成・実行3	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
8	Excel によるマクロの利用（4）	マクロを使った課題の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
9	プレゼンテーションソフトウェア（1）	PowerPoint の基礎知識	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	プレゼンテーションソフトウェア（2）	プレゼンテーション資料の作成、図やオブジェクトの挿入と編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	プレゼンテーションソフトウェア（3）	画面切り替え効果、アニメーション効果の設定	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	プレゼンテーションソフトウェア（4）	プレゼンテーション資料の作成1	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	プレゼンテーションソフトウェア（5）	プレゼンテーション資料の作成2	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	プレゼンテーションソフトウェア（6）	製作発表	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	まとめ	全体のまとめ	全体の内容を整理しておく

関連科目	コンピュータ概論、インターネット概論、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30 時間アカデミック　情報リテラシー　Office2013	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（40%）、レポート課題（30%）、小テスト（20%）、授業への参加度（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階(栢木准教授室)
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＥＦＧＨ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木　健史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな技能を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	Office 「Powerpoint」の基本操作　および　「Excel」の応用的活用をマスターする。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法	特になし
2	データベースの利用（1）	ピボットテーブル・データの解析（1）	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	データベースの利用（2）	ピボットテーブル・データの解析（2）	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	データベースの活用（3）	演習課題の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	Excel によるマクロの利用（1）	マクロの作成・実行（1）	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
6	Excel によるマクロの利用（2）	マクロの作成・実行（2）	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
7	Excel によるマクロの利用（3）	マクロの作成・実行（3）	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
8	Excel によるマクロの利用（4）	マクロの作成・実行（4）	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
9	Excel によるマクロの利用（5）	マクロを使った課題の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
10	プレゼンテーションソフトウェア（1）	PowerPoint の基礎知識	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	プレゼンテーションソフトウェア（2）	プレゼンテーション資料の作成、図やオブジェクトの挿入と編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	プレゼンテーションソフトウェア（3）	画面切り替え効果、アニメーション効果の設定	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	プレゼンテーションソフトウェア（4）	プレゼンテーション資料の作成（1）	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	プレゼンテーションソフトウェア（5）	プレゼンテーション資料の作成（2）	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	プレゼンテーションソフトウェア（6）	製作発表	特になし

関連科目	コンピュータ概論、インターネット概論、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回授業時に出す課題（100%）をもとに評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	１１号館６階（経営学部事務室）
備考	

専門科目

科目名	ビジネス数学	科目名（英文）	Business Mathematics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	能勢　豊一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	経営や情報システムに関する専門教科を修得するためには、ある程度の数学的な論理思考と基礎知識を身につけておくことが必要不可欠です。しかし、これまで数学を学習してきたにもかかわらず、十分に理解できていなかった人も少なくないと思います。そのために本講義では、数学の必要性を感じながら数学になじめない人や、数学を基礎から改めて学習し直したいと思っている人などを主な対象に、実社会で使われている具体的な事例を取り上げながら数学の基礎を解説します。
到達目標	ﾋﾞｼﾞﾈｽに役立つ数学を，統計手法とコンピュータ・アプリケーションを活用することでマスターすることを目標とする． 総合的な理解度，満足度を３．０以上を目指す．
授業方法と留意点	授業は、配布プリント、プロジェクタを用いて、授業内演習を中心に時にはパソコンを用いて行います。授業内容の理解を確認する小テスト、例題解説、類似問題のレポートで確実に理解を促進します。
科目学習の効果（資格）	経営・経済・情報処理分野の資格試験の一助となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネス数学の役割	・現象をとらえ、現象から因子をとらえること ・因子からデータを採取し、データから情報を創出すること ・情報から仮説を立案し、ビジネスに存在する法則を見える化すること 以上を理解してもらいます	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
2	ビジネスをとらえる確率・統計の役割	・不確実性が増大するビジネス社会 ・確率と分布による不確実事象の把握	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
3	乱数による確率モデルの表現	・シミュレーションによる不確実事象の把握 ・乱数を活用した数学モデルの表現	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
4	経営計画と利益計画	散布図による売上高と費用分析 最小自乗法による売り上げと費用の分関 損益分岐点の算出 資本回収点の算出	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
5	データの関係を知る（1）	ピアソンの相関、スペアマンの順位相関、クラメールの関連指数、相関比	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
6	データの関係を知る（2）	潜在需要と相関のある因子を発見し、ビジネスモデルにする法則を発見する方法を解説する	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
7	日程計画（1）	PERT による日程計画と管理	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
8	日程計画（2）	前回、PERT によって説いた問題を、DP（動的計画法）により、定式化し、解答を導く	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
9	生産計画(1)	LP（線形計画法）によって目的関数、制約条件式を定式化し、生産計画を立案する	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
10	生産計画(2)	・需要の不確実性を正規分布によってとらえた場合の生産計画を立案する ・分布を考慮した安全在庫の理論を導入する	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
11	在庫管理	・在庫理論の変遷：2 ビン法、発注点法、定期発注法、s-S 法、MRP ・需要が確率分布に従う場合の在庫管理の定式化と最適化	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
12	取り換え問題	・レンタルか買取りか ・設備の買替え ・故障部品の取換え	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
13	AHP 法	感覚データの数値化とその評価	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
14	DEA 法	数値データのグループ化とその評価	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
15	ベイズ流の意思決定	ベイズの定理	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、前回と今回の講義内容をチェックするレポートを作成する

関連科目	経営学、経営情報システム

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	レポート・小テスト５０％、期末テスト５０％			
学生への メッセージ	本講義の各々の領域で学ぶ数学は、一度は講義の中でそのメカニズムに触れておくだけで十分です。実際の社会でこれらの数学を説明することはあまり重要ではありません。多くの場合、ソフトウエア化されたものが世の中に出回っていますので、むしろ、その理論や式、モデルが適切な条件と環境の下に使用することができるかということの方が重要です。			
担当者の 研究室等	金曜日：摂南大学１１号館６階(経営学部事務室) その他の曜日：大阪工業大学９号館４階（経営情報システム研究室）			
備考				

専門科目

科目名	ビジネス数学基礎	科目名（英文）	Basic Business Mathematics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	能勢　豊一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	経営や情報システムに関する専門教科を修得するためには、ある程度の数学的な論理思考と基礎知識を身につけておくことが必要不可欠です。しかし、これまで数学を学習してきたにもかかわらず、十分に理解できていなかった人も少なくないと思います。そのために本講義では、数学の必要性を感じながら数学になじめない人や、数学を基礎から改めて学習し直したいと思っている人などを主な対象に、実社会で使われている具体的な事例を取り上げながら数学の基礎を解説します。
到達目標	ﾋﾞｼﾞﾈｽに役立つ数学を，統計手法とコンピュータ・アプリケーションを活用することでマスターすることを目標とする． 総合的な理解度，満足度を３．０以上を目指す．
授業方法と留意点	授業は、配布プリント、プロジェクタを用いて、授業内演習を中心に時にはパソコンを用いて行います。授業内容の理解を確認する小テスト、例題解説、類似問題のレポートで確実に理解を促進します。
科目学習の効果（資格）	経営・経済・情報処理分野の資格試験の一助となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネス数学の役割	・現象をとらえ、現象から因子をとらえること ・因子からデータを採取し、データから情報を創出すること ・情報から仮説を立案し、ビジネスに存在する法則を見える化すること 以上を理解してもらいます	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
2	ビジネスをとらえる確率･統計の役割	・不確実性が増大するビジネス社会 ・確率と分布による不確実事象の把握	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
3	乱数による確率モデルの表現	・シミュレーションによる不確実事象の把握 ・乱数を活用した数学モデルの表現	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
4	経営計画と利益計画	散布図による売上高と費用分析 最小自乗法による売り上げと費用の分関 損益分岐点の算出 資本回収点の算出	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
5	データの関係を知る（１）	ピアソンの相関、スペアマンの順位相関、クラメールの関連指数、相関比	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
6	データの関係を知る（２）	潜在需要と相関のある因子を発見し、ビジネスモデルにする法則を発見する方法を解説する	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
7	日程計画（１）	PERT による日程計画と管理	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
8	日程計画（２）	前回、PERT によって説いた問題を、DP（動的計画法）により、定式化し、解答を導く	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
9	生産計画(1)	LP（線形計画法）によって目的関数、制約条件式を定式化し、生産計画を立案する	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
10	生産計画(2)	・需要の不確実性を正規分布によってとらえた場合の生産計画を立案する ・分布を考慮した安全在庫の理論を導入する	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
11	在庫管理	・在庫理論の変遷：2 ビン法、発注点法、定期発注法、s-S 法、MRP ・需要が確率分布に従う場合の在庫管理の定式化と最適化	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
12	取り換え問題	・レンタルか買取りか ・設備の買替え ・故障部品の取換え	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
13	AHP 法	感覚データの数値化とその評価	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
14	DEA 法	数値データのグループ化とその評価	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、次回の冒頭にチェックするレポートを作成しますので、準備しておくこと
15	ベイズ流の意思決定	ベイズの定理	授業内容がノートに記載されているかどうかについて、前回と今回の講義内容をチェックするレポートを作成する

関連科目	経営学、経営情報システム

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	レポート・小テスト５０％、期末テスト５０％			
学生への メッセージ	本講義の各々の領域で学ぶ数学は、一度は講義の中でそのメカニズムに触れておくだけで十分です。実際の社会でこれらの数学を説明することはあまり重要ではありません。多くの場合、ソフトウエア化されたものが世の中に出回っていますので、むしろ、その理論や式、モデルが適切な条件と環境の下に使用することができるかということの方が重要です。			
担当者の 研究室等	金曜日：摂南大学１１号館６階(経営学部事務室) その他の曜日：大阪工業大学９号館４階（経営情報システム研究室）			
備考				

科目名	ビジネスデータ分析	科目名（英文）	Business Data Analysis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾　大嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	統計学は、入手したデータから有用な情報を得るために量的データを要約する方法を学ぶ学問である。経営分野では、企業経営におけるリスクの評価や意思決定を支援するためのデータ解析の手法として用いられており、生産、財務、マーケティングなど、その応用範囲は広い。本講義では、統計学の基礎的知識を持つ学生を対象に、統計学の応用としてコンピュータを用いた統計解析に重点を置き学んでいく。
到達目標	・コンピュータを使った基本的な統計分析を行うことができる。 ・データ解析のためのソフトウェア（SPSS）の基本的な操作方法を身につける。
授業方法と留意点	データ解析のためのソフトウェア（SPSS）と教材データを用いて統計解析を行う。定期的に小テストを実施する。 本講義では、コンピュータの基本的使い方（起動、シャットダウン、ファイル保存等）と統計学の基礎については説明しない。そのため情報処理系の講義、経営統計学といった関連講義で学ぶ程度の知識は身につけておく必要が有る。
科目学習の効果（資格）	社会調査士

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の概要、統計学の基礎力テスト	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
2	統計基礎	基本統計	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	相関分析（１）	2 変数の関係を探る方法	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	相関分析（２）	相関係数を用いた分析	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	確率（１）	条件付き確率	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	確率（２）	ベイズの定理	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	確率分布（１）	離散的確率分布（二項分布、ポアソン分布）	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	確率分布（２）	連続的確率分布（正規分布、指数分布、カイ二乗分布、F 分布）	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	前半内容のまとめと中間テスト	前半内容のまとめとテスト	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	推定（１）	母集団と標本	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	推定（２）	母平均の区間推定、母比率の区間推定、標本の大きさ	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	検定（１）	検定の手順、母比率の検定、独立性の検定、適合度の検定	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	検定（２）	検定、カイ二乗検定	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	多変量解析に向けて	回帰分析を用いて売上を予測する	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
15	後半内容のまとめと総復習	後半内容のまとめと総復習	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>経営統計学</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>配布資料</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>中間・期末テスト（80%）、小テスト・レポート（20%）にて評価する。
私語、携帯の使用など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意してください。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>社会調査士の資格取得に必要な科目です。この講義を理解するには経営統計学の知識が必要となります。しっかり勉強しておいて下さい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１１号館７階（針尾准教授室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>各回で使用するデータは、基本的に前回において受講生が加工したものを使用します。従って欠席した場合は、各自で欠席回の分析作業を進めておかなければなりません。</td></tr>
</table>

科目名	ビジネスネットワーク管理	科目名（英文）	Business Network Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀井　千夏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】情報通信ネットワーク（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	本講義では、社会、産業の重要なインフラストラクチャーであり、さまざまな分野で欠かせないコンピュータネットワークについて学習する。特に、ネットワークを構成する基本的な技術を整理し、どのようにして相互にデータのやりとりができるのか、それらの技術がどのように活用されているのかについて平易に解説する。また、LANやインターネットはもとより、携帯電話や衛星通信などについても、最新の技術動向やトピックスを交え、ネットワークの面白さ、奥深さについて議論する。
到達目標	ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について学ぶ。
授業方法と留意点	初回に授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。
科目学習の効果（資格）	ITパスポート試験や基本情報技術者試験など、コンピュータやネットワークに関連する資格取得に関連した科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	データ通信の仕組み	データ通信の種類とその利用方法	練習問題(1)
2	伝送技術と伝送システム	変調方式と多重化方式，データを伝送する代表的な手順	練習問題(2)
3	交換システム	交換システム(回線交換とパケット交換)	練習問題(3)
4	通信プロトコル	通信プロトコルの役割，ネットワークアーキテクチャ	練習問題(4)
5	LANのネットワーク構成	ネットワークの種類と特長	練習問題(5)
6	LANのプロトコル	LANを利用した通信の仕組み，OSI（Open Systems Interconnection）参照モデル	練習問題(6)
7	LANの構成要素	ハブ，ルーター，Macアドレス，Macフレーム	練習問題(7)
8	講義のまとめと小テスト	講義前半の復習と小テスト	練習問題(8)
9	無線LAN	無線LANの種類と特徴	練習問題(9)
10	電子メール(1)	電子メールの仕組み，メールクライアントとメールサーバ	練習問題(10)
11	電子メール(2)	メールヘッダーと本文の役割，ＤＮＳサーバ，メールセキュリティ	練習問題(11)
12	情報社会のセキュリティ(1)	情報セキュリティの基本	練習問題(12)
13	情報社会のセキュリティ(2)	ハッキングとクラッキング	練習問題(13)
14	コンピュータウィルス	コンピュータウィルスの特徴と被害	練習問題(14)
15	講義のまとめと小テスト	講義後半の復習と小テスト	練習問題(15)

関連科目	情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（20%）、小テスト（20%）、期末試験（60%）により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の1/3回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者（寝る、喋る等）は欠席扱いとする。
学生へのメッセージ	ネットワークは、多くの技術的要素を含んでいるため難しいと思われるが、本講義では、ネットワークのしくみやその使われ方を分かりやすく説明する。前回までの授業内容をよく理解しておくこと。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	ビジネスプラン	科目名（英文）	Business Plan
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原　貞幸
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	社会経済が激動する昨今、キャリアプランを考える際に「起業」が一つの選択肢になりつつあります。起業は自らの価値観にあった働き方であり、ひいては経済に活力を与える源泉であるといえます。 そこで「ビジネスプラン」の講義では、起業環境を認識し、そして起業する際に必要とされるものの学習をはじめ、起業成功確率を高める「ビジネスプラン」の書き方、作り方学びます。また「ビジネスプラン」を実行する際の経営戦略法、市場戦略手法についても解説します。
到達目標	ビジネスプランの書き方・作り方を習得する。
授業方法と留意点	レジメ（プリント）を用い講義し、起業・ビジネスプラン・経営戦略に関する知識の習得だけでなく、実際の起業現場において、どのようなビジネスプランが作成されているのかを体験します。
科目学習の効果（資格）	ビジネス系資格取得のプラス知識になります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	起業・起業環境を知る	起業の現状と課題 日本経済社会の現状とこれからを考える	「生きる」「仕事をする」ことについて考える機会を得る
2	「働くということ」を考える	自分のキャリアプランを考える	自分の人生について考えてみる
3	起業家の条件	起業を成功させるためのポイント	自分自身の「起業家」に向いている部分について考えてみる
4	ビジネスプランとは？	ビジネスプランの目的・必要性・ポイント	ビジネスをはじめるということについて考える
5	ビジネスアイデアとビジネスモデル	ビジネスアイデアによるビジネスモデルの違い	同業態企業であってもアイデアによってビジネスモデルが違っている その違いを分析してみる
6	ビジネスアイデア	ビジネスアイデア発想とビジネスとしての採算性	ビジネスを発想してみる そしてその採算性について検討しビジネスとして成立するかどうかを考える
7	ビジネスモデルの構築	ビジネスモデルとは何か、またそのポイントを知る	知っている企業のビジネスモデルについて考える
8	起業とＳＮＳマーケティング	ＳＮＳを活用したマーケティングを知る	ＳＮＳを体験してみる
9	ビジネスプランの書き方･作り方	ビジネスプランの書き方について学ぶ	ビジネスプランを書いてみる
10	ビジネスプランの構成と経営戦略	ビジネスプランの構成を学び、実行する際の経営戦略について考える	知っている企業の戦略について考える
11	ビジネスプラン作成実習（１）	起業家になったつもりで自分の考えていることを、ビジネスプランとして明文化する	いろいろな業種業態について考えてみる
12	ビジネスプラン作成実習（２）	フリー時代にマッチしたビジネスプランを作成する	フリー時代の生き方について考えてみる
13	ビジネスプランのプレゼンテーション	ビジネスプランを完成させ、表現する	作成したビジネスプランをプレゼンテーションしてみる
14	実践現場のビジネスプラン	実際のビジネスプランをみてみる	実際の起業や新規事業において、どんなビジネスプランが作られているかを知る
15	ビジネスプランのまとめ	ビジネスプラン作成のポイントをおさえる	ビジネスプランのポイントを覚える

関連科目	「ベンチャービジネス論」「ビジネスインターンシップⅠ・II」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポートと試験　（レポートの評価５０％、試験の評価５０％） （レポートは４回提出、試験は後期試験期間中に実施）
学生へのメッセージ	起業・事業創業は生きがいを求める人生へのチャレンジ。 今後のキャリアプランにおいて「起業」という選択肢を用意しておいた方がいいです。 また、会社員であっても　これからはますます新しい思考、アイデアが求められる時代　ビジネスプランとしてアウトプットできる能力が必要です。
担当者の研究室等	11 号館 6 階(経営学部事務室) 11 号館 8 階(羽石教授室)
備考	

科目名	ブランド戦略	科目名（英文）	Brand Strategy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂　貴恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	マーケティング論のなかでも近年はブランドに注目が集まっている。我々の生活を見渡しても、商品としてのブランド、企業のブランド、地域のブランドなど多様である。本授業がブランドがなぜここまで注目を浴びる存在となったのかを明らかにし、ブランドの種類や機能、ブランド価値を向上させるためのマーケティング戦略について具体的事例を交えながら解説する。マーケティング論におけるブランドの意義やブランド戦略を理解することを目的とする
到達目標	ブランドの働きなどブランドに関する基本的知識が身に付く。 組織のマーケティング戦略と「ブランド」を関係づけて考察する能力が身に付く。 「ブランド」価値を高める戦略について多角的に分析、評価、構築することができるようになる。
授業方法と留意点	講義が中心だが、一部グループワークを行う。
科目学習の効果（資格）	ブランド・マネジメント能力が身に付く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マーケティングにおける製品戦略	マーケティング論の復習を行い、マーケティングにおけるブランドの位置づけを行う。	教科書の該当か所を理解する。
2	製品開発とブランド	ブランドが本当に必要となのかを考えてみる。	教科書の該当か所を理解する。
3	ブランドの登場	ブランドの起源と歴史、ブランドの種類、構成要素（ブランド名、ロゴ、シンボル、キャラクター、パッケージ、スローガン等）からブランドをとらえる	教科書の該当か所を理解する。
4	ブランドの価値と機能	ブランドの価値の評価、育成、マーケティング活動への活用をブランドが持つ機能から考える。	教科書の該当か所を理解する。
5	ブランド・イメージ	ブランド・イメージの重要性とどのように形成されるかを学ぶ。	教科書の該当か所を理解する。
6	サービスのブランド戦略	サービス提供組織のブランド戦略について解説する。	教科書の該当か所を理解する。
7	ブランドと経験価値	経験価値の概念をブランドに導入して考察する。	教科書の該当か所を理解する。
8	ブランド構築と組織能力	ブランド価値を生み出す仕組みとブランディングの枠組みを解説し、ブランド構築に必要な組織能力について検討する。	教科書の該当か所を理解する。
9	ブランド・マネジメント組織の現状と課題	ブランド・マネージャー制の解説とその現状と課題について検討する。	教科書の該当か所を理解する。
10	ブランド戦略の実際　演習１	これまでの復習を行い、演習のための解説を行う。	教科書の復習。関連する２次データの検索を行い理解する。
11	ブランド戦略の実際　演習２	イタリアンレストラン「ＣＯＨＡＬ」オーナー神道氏から、サービス業におけるブランディング、およびマーケティング戦略についての課題を伺う	関連するデータや記事などを検索し理解する。
12	ブランド戦略の実際　演習３	「ＣＯＨＡＬ」オーナーからの話を伺ったことをベースとして、「ＣＯＨＡＬ」のブランド価値を上げるための戦略をグループ単位で議論する。	グループでの意見をまとめる。
13	ブランド戦略の実際　演習４	グループ単位で議論したものをプレゼンテーション資料としてまとめる。	グループでの意見をまとめプレゼンテーション資料を作成する
14	ブランド戦略の実際　演習５	グループ単位で発表し、「ＣＯＨＡＬ」オーナー神道氏にも審査をしていただく。	他の班の発表内容と比較し、自分のグループの発表内容のよい点、改善点を考える。
15	ブランドの統合的理解	組織のマーケティング活動のなかのブランドの果たす意義を確認し、今後、ブランドが果たす役割はどのように変わるのかを検討する。	半年間の授業内容をふりかえる。

関連科目	マーケティング論 マーケティング演習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	製品・ブランド戦略	青木幸弘・恩蔵直人	有斐閣
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（５０％）グループワーク・小テスト・授業の参加度（５０％）
学生への	日ごろ、身近にあるブランドを意識しながら授業に積極的に参加されたい。またブランド関係のニュースや記事などにも触れてほしい。

メッセージ	
担当者の 研究室等	鶴坂貴恵研究室
備考	

科目名	プログラミング	科目名（英文）	Programming
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野　純
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）　【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	コンピュータを理解するためにはプログラミングの学習が欠かせない．この授業では，Ｃ言語を用いた基礎的なプログラミングを通して，コンピュータの構造と動作について理解を深めることを目的とする．
到達目標	Ｃ言語の文法の基礎的な部分をマスターし，簡単なプログラムが自由に書けるようにする．
授業方法と留意点	内容の解説と演習による．欠席や遅刻は授業の理解を著しく妨げる．
科目学習の効果（資格）	基本情報技術者試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Ｃによるプログラミング	プログラミングの流れ，コンパイルとは、プログラムの構造、プログラムの書き方	プリント（１）の練習問題
2	文字列の表示	文字列、拡張表記、コメント	プリント（２）の練習問題
3	整数の計算と表示	整数値の表示、文字%の表示、整数値のいろいろな表示、整数の四則計算	プリント（３）の練習問題
4	実数の計算と表示	実数、実数値の表示、実数値のいろいろな表示、実数の四則演算	プリント（４）の練習問題
5	変数	型、変数、代入、変数の初期化	プリント（５）の練習問題
6	scanf 関数	キーボードからの読み込み	プリント（６）の練習問題
7	if 文（その１）	if 文、条件を表す式	プリント（７）の練習問題
8	if 文（その２）	if 文の入れ子、ブロック	プリント（８）の練習問題
9	while 文	while 文、while 文の特徴	プリント（９）の練習問題
10	do 文	do 文、do 文の特徴	プリント（１０）の練習問題
11	制御変数	制御変数と繰り返し、増分演算子と減分演算子、複合代入演算子	プリント（１１）の練習問題
12	for 文	for 文、for 文の特徴	プリント（１２）の練習問題
13	制御文の組み合わせ	for 文の中で if 文を使う、if 文の中で for 文を使う	プリント（１３）の練習問題
14	多重ループ	二重ループ，多重ループ	プリント（１４）の練習問題
15	break 文と continue 文と goto 文	break 文，continue 文，goto 文	プリント（１５）の練習問題
16	switch 文と条件演算子	switch 文，条件演算子	プリント（１６）の練習問題
17	配列	配列，配列要素，添字，配列の初期化	プリント（１７）の練習問題
18	多次元配列	2 次元配列，多次元配列	プリント（１８）の練習問題
19	関数（その１）	標準ライブラリ関数の呼び出し，関数定義と関数呼び出し，関数プロトタイプ宣言	プリント（１９）の練習問題
20	関数（その２）	返却値のない関数，変数の有効範囲と寿命	プリント（２０）の練習問題
21	関数演習	関数を作成し，利用するプログラムの練習	プリント（２１）の練習問題
22	マクロ	オブジェクト形式マクロ，関数形式マクロ	プリント（２２）の練習問題
23	ポインタ	アドレス演算子，ポインタ変数，間接参照演算子	プリント（２３）の練習問題
24	関数とポインタ(その１)	関数に変数を渡したい	プリント（２４）の練習問題
25	関数とポインタ(その２)	複数の値を戻したい	プリント（２５）の練習問題
26	配列とポインタ	ポインタとしての配列名，配列を関数に渡したい	プリント（２６）の練習問題
27	文字と文字列	char 型と文字定数，文字の入出力，文字列と文字列リテラル，文字配列の初期化，文字列の入出力	プリント（２７）の練習問題
28	文字列とポインタ	配列を用いた文字列の表現，ポインタを用いた文字列の表現，関数に文字列を渡す，関数から文字列を受け取る	プリント（２８）の練習問題
29	文字と文字列の標準ライブラリ関数	文字処理関数，文字列処理関数	プリント（２９）の練習問題
30	構造体	構造体，構造体の配列とポインタ	プリント（３０）の練習問題

関連科目	「コンピュータサイエンス」の受講には，「プログラミング」が履修済みであることが前提となる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	授業中に課せられる課題の提出（５０％）と，随時実施する小テスト（５０％）で評価する．
学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので，欠席や遅刻をしないこと．欠席するとそれ以降の授業の理解は困難となる．
担当者の研究室等	11 号館 7 階(牧野(純)教授室)
備考	

科目名	プロジェクトマネジメント	科目名（英文）	Project Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	若松　敏幸
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	どのような組織にも特定の事業目的のための活動がある。プロジェクトマネジメントは、そのような活動の成果を効果的に計画、実行、コントロールするための技法である。講義では、プロジェクト・マネジメントの基本知識の習得と、事例や主な管理ツールを通してその活用法を学習する。
到達目標	プロジェクト計画を立案する能力を身につけ、プロジェクト・リーダーになるための基本スキルを身につけることを目標にする。
授業方法と留意点	テキスト及び配布資料を中心に講義を行う。随時演習を取り入れる。
科目学習の効果（資格）	高度情報処理技術者試験にプロジェクトマネージャーの資格がある。また国際的な民間資格にＰＭＰがある。将来実務経験を積んだ後に、これらの資格取得に役立つ基礎知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスおよびプロジェクトマネジメントの概要	講義の進め方、概要、評価方法など	――――
2	ＰＭＢＯＫに関する基礎知識	プロジェクトマネジメントの体系、ＰＭＢＯＫ基本用語	教科書の該当部分を読んでおくこと。演習問題に解答。
3	プロジェクトのスコープ定義	プロジェクト･スコープ･マネジメント、ＷＢＳ	教科書の該当部分を読んでおくこと。演習問題に解答。
4	スケジュールの作成	プロジェクト・タイム・マネジメント	教科書の該当部分を読んでおくこと。演習問題に解答。
5	予算の作成	プロジェクト・コスト・マネジメント、コストの見積り法	教科書の該当部分を読んでおくこと。演習問題に解答。
6	品質管理	プロジェクト品質マネジメント、ＱＣ７つ道具	教科書の該当部分を読んでおくこと。演習問題に解答。
7	要員の調達と育成、コミュニケーション管理	プロジェクト人的資源マネジメント、プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント	教科書の該当部分を読んでおくこと。演習問題に解答。
8	リスク管理	プロジェクト・リスク・マネジメント	教科書の該当部分を読んでおくこと。演習問題に解答。
9	調達管理	プロジェクト調達マネジメント	教科書の該当部分を読んでおくこと。演習問題に解答。
10	ＰＭＢＯＫを利用したプロジェクトマネジメント実践（１）	計画フェーズ 個人別演習（プロジェクト概要、スコープ定義、WBS、体制）	教科書の該当部分を読んでおくこと。レポートの作成。
11	ＰＭＢＯＫを利用したプロジェクトマネジメント実践（２）	要件定義フェーズ 個人別演習（プロジェクト予算、スケジュール）	教科書の該当部分を読んでおくこと。レポートの作成。
12	ＰＭＢＯＫを利用したプロジェクトマネジメント実践（３）	設計・開発フェーズ グループ演習（チーム編成、計画書作成）	教科書の該当部分を読んでおくこと。レポートの作成。
13	ＰＭＢＯＫを利用したプロジェクトマネジメント実践（４）	テスト・移行フェーズ グループ演習（リスク管理と変更管理）	教科書の該当部分を読んでおくこと。レポートの作成。
14	ＰＭＢＯＫを利用したプロジェクトマネジメント実践（５）	運用・保守フェーズ グループ演習（モニタリング、成果発表）	教科書の該当部分を読んでおくこと。レポートの作成。
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業で学習した内容を整理する

関連科目	経営管理論、リスクマネジメント、システム設計、コミュニケーション論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プロジェクトマネジメント標準PMBOK入門　PMBOK第５版	広兼修	オーム社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マンガでわかるプロジェクトマネジメント	広兼修	オーム社
2			
3			

評価方法（基準）	授業において演習課題やレポートの提出を求めます。その提出課題、レポートおよび学期末試験の結果により評価します。（期末試験を６割、理解度テストを４割の割合。） また、授業での質問や意見表明など積極的な学習姿勢も評価します。
学生へのメッセージ	会社、地域社会、家庭などあらゆる場面で、様々な問題を解決し、目的を効果的に達成することが求められます。また、学生生活においても、リーダーとしての役割が求められることが多々あるはずです。そうした経験を踏まえて、プロジェクトマネジメントのスキルを身につけることの有用性を理解してください。
担当者の研究室等	１１号館６階（経営学部事務室）
備考	第10回～第14回は情報処理室での演習を予定していますが、グループ討議によって共同の成果物の提出を求めます。授業欠席があるとグループに迷惑がかかるので、欠席しないように注意してください。

科目名	ベンチャービジネス論	科目名（英文）	Venture Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安久　典宏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	授業概要：大学を卒業しても就職することだけが目的ではなく、自分自身で起業（ベンチャー企業）してみるのも一つの方法です。　ベンチャービジネスとは何か、どうすれば起業できるのかについて、わかりやすく解説します。 目　　的：この授業では起業を目指す学生だけではなく、就職する学生にとってもベンチャースピリットがいかに大切かについて学習します。
到達目標	豊富な社会経験を積んだ多くの講師から、働き方についての幅広い知識や知恵などを学び、その中でベンチャースピリットの重要性についての理解を深める。
授業方法と留意点	授業方法： （1）専門家によるリレー講義です。 （2）経験豊富な実務家の貴重なビジネス体験談が受講できます。 （3）毎回、レジュメ（プリント）が配布されます。事前にファイリングするフォルダー（2 穴）などを準備すること。 留意点：重要な点をきちんとメモして、提出レポートに反映させること。また、聴講のマナーを厳守すること。
科目学習の効果（資格）	経験豊富なさまざまな専門家（起業家）の体験談を直接聞き学ぶことで、社会に対する認識と仕事選択に対する考え方や選択肢を広げることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「ベンチャービジネス論」開講の意義、受講できる専門科目との関連性 【4 月 9 日】	・「ベンチャービジネス論」の摂南大学のキャリア教育との関係について ・「ベンチャービジネス論」開講の意義 安久典宏、鶴坂貴恵	予習：ベンチャービジネスについての意味を調べてきてください。
2	ベンチャービジネス　概説 【4 月 16 日】	・ベンチャービジネスの歴史と定義・今日的な時代要請 鶴坂貴恵、安久典宏	予習：ベンチャービジネスについて雑誌またはホームページで調べてみましょう。
3	ベンチャービジネス　方法論（1） 【4 月 23 日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法 -従業員採用における基礎知識- 総合事務所ネクスト　所長　特定社会保険労務士　小西　勝 安久典宏、鶴坂貴恵	予習：従業員を募集・採用する時の注意点について調べてきてください。
4	ベンチャービジネス　方法論（2） 【4 月 30 日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法 -創業と政府系金融機関の役割- 日本政策金融公庫大阪創業支援センター 所長　永井俊二 安久典宏、鶴坂貴恵	予習：政府系金融機関の役割について調べてきてください。
5	ベンチャービジネス　現状論（1） 【5 月 7 日】	・ベンチャービジネス分野別の現状と課題〈小売業〉-食品小売業界- AKR 共栄会　事務局長　大西基裕 安久典宏、鶴坂貴恵	予習：食品小売業界について雑誌またはホームページで調べてきてください。
6	ベンチャービジネス　現状論（2） 【5 月 14 日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法 -ファッション、アパレルのネット販売事業の今後- 夢展望株式会社　代表取締役社長　岡隆宏 安久典宏、鶴坂貴恵	予習：アパレル系ネット販売の仕組みについて調べてきてください。
7	ベンチャービジネス　現状論（3） 【5 月 21 日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法 -投資育成の実践- 株式会社ファンドファンクション　代表取締役 萩原貞幸、安久典宏、鶴坂貴恵	予習：投資育成についてホームページで調べてきてください。
8	ベンチャービジネス　方法論（3） 【5 月 28 日	・ベンチャービジネス展開に関する手法 -設計製造分野での IT 活用①- キャディック株式会社　代表取締役 筒井真作 安久典宏、鶴坂貴恵	「キャディック株式会社」について調べてきてください。
9	ベンチャービジネス　現状論（4） 【6 月 4 日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法 -我が国の経営史に名を残す起業家の DVD を視聴し、彼らから起業家精神とは何かを考察する-鶴坂貴恵、安久典宏	復習：DVD に登場した会社のホームページなどを調べておいてください。
10	ベンチャービジネス　現状論（5） 【6 月 11 日】	・国による中小・ベンチャー企業支援と東日本大震災の復興支援-震災復興事業のコンサルティングについて- （独）中小企業基盤整備機構　震災復興支援部　復興支援課 担当課長（商業支援、販路）地域活性化伝道師（内閣府）長坂泰之 安久典宏、鶴坂貴恵	予習：東日本大震災の復興の現状について調べてきてください。
11	ベンチャービジネス　現状論（6） 【6 月 18 日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法 -バリ島との国際交流事業- 株式会社　ミレーノ　取締役部長　上田　豊 安久典宏、鶴坂貴恵	予習：バリ島について調べてきてください。
12	ベンチャービジネス　現状論（7）	・ベンチャービジネス展開に関する手法 -交野市活性化企画「おりひめ大学」「交	予習：交野市の「おりひめ大学」の活動について調べてきてください。

		【6 月 25 日】	野カンヴァス」のプロデュースと地域と大学との関係性- クリエイティブディレクション　代表　甲斐　健 安久典宏、鶴坂貴恵	
	13	ベンチャービジネス　現状論（8） 【7 月 2 日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-NPO 法人による社会救済支援- グッド・サマリタン・チャーチ　牧師　金子道仁 安久典宏、鶴坂貴恵	予習：NPO 法人による社会救済支援活動がどのようなものか調べてきてください。
	14	ベンチャービジネス　現状論（9） 【7 月 9 日】	特定非営利活動法人週刊ひがしおおさか代表 前田寛文 安久典宏、鶴坂貴恵	予習：「週刊ひがしおおさか」の活動を Web ページで調べてきてください。
	15	ベンチャービジネス論　まとめ 【7 月 16 日】	・まとめ ・モチベーションと行動特性の変化の確認（セルフチェック診断） 安久典宏、鶴坂貴恵	予習：今までの講義の資料を持参ください。

関連科目	ビジネスプラン、経営学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則、講義レポートの内容（50%）と定期期末試験結果（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	ベンチャービジネスの専門家と直接話し合って見ませんか。 皆さんの将来に対する夢が膨らみます。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　安久研究室 11 号館 7 階　鶴坂研究室
備考	※追加授業【7 月 23 日】4 限目　情報処理室 ベンチャービジネス　方法論（4） ・ベンチャービジネス展開に関する手法-設計製造分野での IT 活用②- キャディック株式会社　代表取締役　筒井真作、安久典宏、鶴坂貴恵 予習：グーグルのメールアドレスを取得しておいてください。

科目名	貿易実務	科目名（英文）	Trading Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木　和巳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）【施行規則に定める科目区分】「商業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	①貿易は広く世界を相手にする非常に魅力のある分野である。 ②言葉・文化・法律・通貨制度が全く違う未知なる国、相手方との交渉であり、常にリスクが存在するといえる。 ③この異なるものとの商取引のルールを知ることが、貿易実務の学習です。 ④更に、経済・金融のグローバル化が学生達の現在・将来の生活環境にどの様な影響を及ぼすのか、彼ら・彼女らに考える機会をも提供する。
到達目標	貿易・国際金融全体を理解できる人材を育成する。
授業方法と留意点	①各授業でテーマ毎のプリント配布。 ②課題を与え、グループディスカッションを行うこともある。 ③授業終了時に、興味を持った点・疑問点・理解出来なかった点を指定用紙に学生に記入依頼し、回収後次回の授業で再度説明あるいは答える。
科目学習の効果（資格）	①貿易実務検定への挑戦 ②国際金融市場、外国為替市場の基本を学ぶことで、貿易に与える影響を把握する ③就職活動に役立つ実力つける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、 貿易とは何かを考える、 貿易実務で何を学ぶか	プリント　１
2	貿易とは何か？	貿易はなぜ必要なのか？ 現在の経済と貿易、等	プリント　２
3	貿易専門用語（１）	貿易実務専門用語　（１） 日本語・英語	プリント　３
4	貿易専門用語（２）	貿易実務専門用語　（２） 日本語・英語	プリント　４
5	貿易（商品貿易、売買）における「商流」、「物流」と「金融」　（１）	「商流」：取引先の選択 市場調査、信用調査、取引関係の形成 輸出入取引の交渉、等　（１）	プリント　５
6	貿易（商品貿易、売買）における「商流」、「物流」と「金融」　（２）	「商流」：取引先の選択 市場調査、信用調査、取引関係の形成 輸出入取引の交渉、等　（２）	プリント　６
7	貿易取引の手段 信用状　（１）	信用状、外国為替手形、船積書類、等（１）	プリント　７
8	貿易取引の手段 信用状　（２）	信用状、外国為替手形、船積書類、等（２）	プリント　８
9	貿易をめぐる国際的枠組み	MF を中心とする国際通貨体制　ブレトンウッズ体制、GATT、等	プリント　９
10	直接投資の増大と貿易	世界的に拡大する直接投資、貿易構造の変遷、等	プリント　１０
11	国際金融とは 「リスクの多様性？」 「国際間には中央銀行が存在しない？」	国際金融取引の特色、異種通貨の売買―外国為替取引の発生、リスクの多様性、等 為替の意義、原理、仕組み、 外国為替の意義、外国為替取引の特質、等	プリント　１１
12	外国為替市場 固定相場と変動相場 外国為替リスク管理 「トヨタの為替リスク管理は？」 外国為替相場の決定理論	外国為替市場の構成者、外国為替相場の発生、等 先物相場と先物為替予約、先物相場の決まり方、為替リスク管理の意義と種類 為替相場は需要と供給の均衡点で決まってくるが、為替の需要と供給は、どのように決定されるのだろうか、等	プリント　１２
13	アジア通貨危機	１９９７年７月２日　タイ　管理為替制度の放棄？発生要因、 日本の金融機関への影響	プリント　１３
14	カントリーリスク	「日本企業とカントリーリスク」、 「カントリーリスクの定義」	プリント　１４
15	２００８年末金融危機	サブプライムローン問題・リーマンショック、等と貿易への影響	プリント　１５

関連科目：国際金融

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・貿易実務	椿　弘次	日本経済新聞出版社
2	「国際金融の基礎知識」　第２版	桜井錠治郎	中央経済社
3	「国際商取引入門」　第２版	亀田尚己他	文眞堂

評価方法：課題を与えてのレポート提出（４０％）と学期末の筆記試験（６０％）で評価する。

（基準）	
学生への メッセージ	学生諸君が生まれた 1995 年の春頃に日本は急激な円高・ドル安の進行に見舞われ、対ドルの為替レートが 85 円前後の円高になった。その結果、国内産業の海外移転が始まり「産業の空洞化」が一層進行した。 このような時代を含め日本が現在までどのような道を歩んだのかを貿易及び大きな枠組みの国際金融の世界での出来事を通じて知ることが出来る。 貿易、国際ビジネス、国際金融、更にグローバルな展開に一つでも興味のある学生諸君に受講を勧めたい。
担当者の 研究室等	特になし
備考	

科目名	貿易と金融	科目名（英文）	Trade and Finance
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉本　篤信
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）【施行規則に定める科目区分】「商業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	本講義のテーマは、まず、外国為替市場取引の仕組みを理解し、為替レートの決定理論を理解することである。そしてマクロ的な政策の効果は、マクロ経済学のモデルにおいて説明される。さらに国際金融市場の現状と役割について説明する.
到達目標	経済の国際的側面を理論的に理解し、説明できる。
授業方法と留意点	テキストに従った講義形式。必要に応じてプリントなどを配布.
科目学習の効果（資格）	公務員試験・経済学検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	グローバル経済論とは	国際経済の現状	テキストを事前に読む、配布プリントを復習
2	国際貿易の基本構造（1）	貿易の発生する理由、比較生産費説	テキストの第1章
3	国際貿易の基本構造（2）	ヘクシャー=オーリン理論	テキストの第1章
4	国際貿易の基本構造（3）	産業内貿易、その他の貿易理論、	テキストの第1章
5	国際貿易システム	WTO、自由貿易協定	テキストの第2章
6	経常収支とマクロ経済（1）	国際収支表、経常収支、資本収支	テキストの第3章
7	経常収支とマクロ経済（2）	資金過不足と貯蓄・投資バランス、双子の赤字	テキストの第3章
8	為替レートの理論（1）	外国為替市場、為替レートの変動による影響	テキストの第3章
9	為替レートの理論（2）	購買力平価説	テキストの第3章
10	為替レートの理論（3）	アセットアプローチ	テキストの第3章
11	為替レートの理論(4)	ファンダメンタルズとバブル、為替レート変動のリスク	テキストの第3章
12	金融のグローバル化と国際通貨システム(1)	ブレトンウッズ体制、ドル本位制	テキストの第4章
13	金融のグローバル化と国際通貨システム(2)	デリバティブ取引、国際金融市場のこれから	テキストの第4章
14	グローバル化と経済開発	貧困問題と市場経済機能、政府の役割	テキストの第5章
15	まとめ	――――	――――

関連科目	マクロ経済学、ミクロ経済学、ベンチャーファイナンス、グローバルビジネス、経済発展論Ⅰ,Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバル・エコノミー	岩本武和他	有斐閣
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 75% 平常点（レポート、小テストなど）25%
学生へのメッセージ	現在の日本経済を理解するのには、不可欠の知識となるであろう。普段から、新聞やテレビを通じて、現実の経済の動向には興味を持っておくこと。また、マクロ経済学、ミクロ経済学の理解が必要なので、並行して履修して下さい。
担当者の研究室等	11号館6階(杉本研究室) sugimoto@kjo.setsunan.ac.jp
備考	

科目名	マーケティング演習	科目名（英文）	Practice in Marketing
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂　貴恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	これまで学んできたマーケティングに関する知識を活用しながらケーススタディの課題を検討することでマーケティングの総合力を身に付けることを目的とします。 本授業ではグループでケーススタディを理解し、メンバーで議論しながら、設問に対する妥当解を導き、皆の前で発表する形式をとります。
到達目標	マーケティング論の知識を応用し課題解決方法を検討する能力が身につきます。 グループワークを通じて、考え方の異なるメンバーと相互理解を深めるためのコミュニケーション能力が身に付きます。
授業方法と留意点	グループワークと講義で構成します。 毎回ふりかえりシートを記載してもらいます。 またケーススタディを４つ行いますがそれぞれレポートの提出を求めます。
科目学習の効果（資格）	マーケティングの総合力が身に付きます

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティング論のふりかえりとグループ分けを行います。	マーケティング論の復習を行うこと。グループのメンバー間で連絡がとれるようにしておくこと。
2	コミュニケーション演習	グループのメンバーで準備的な演習を行います。	演習において自分の果たした役割や参画した程度などをふりかえる。
3	ケースⅠの導入	内容の解説行った上とグループメンバーで問題の共有化を図ります。	ケーススタディの内容をしっかり理解しておくこと。
4	ケースⅠの検討	各グループで課題に対する回答を議論します。	議論の内容を理解し、時間内でまとまらない場合は適宜グループで集まり議論すること。
5	ケースⅠの取りまとめ	グループ毎にとりまとめを行い、グループ案を提出します。	各自の案を持ち寄り、１つにまとめる。自分の案を説明できるようにしておく。
6	ケースⅡの導入	問題を共有したのち、企画書の書き方を解説します。	ケーススタディの内容をしっかり理解しておくこと。
7	ケースⅡの検討	企画書を各自パワーポイントを使って作成します （情報処理室利用）	議論の内容を理解し、時間内でまとまらない場合は適宜グループで集まり議論し、発表できるように準備を行う。
8	ケースⅡの検討	各自の企画書から班の案にまとめる作業を行います。 （情報処理室利用）	自分の案をしっかりとまとめておく。他のメンバーの考え方とどのように異なるか理解し、班の意見についてプレゼンテーションできるようにしておく。
9	ケースⅡの発表	各班の発表をみんなで評価する	自分の班の案をプレゼンできるようにしておく
10	ケースⅢに導入	ケースの内容を共有します	議論の内容を理解し、時間内でまとまらない場合は適宜グループで集まり議論し、発表できるように準備を行う。
11	ケースⅢの検討	グループ毎に課題を検討します。	他の班の発表を聞いたうえで、自分の班の解答はどうだったか、また議論の方法やあり方はどうだったかを考察し、レポートにまとめる。
12	ケースⅢの取りまとめ	グループ内の意見をまとめます。	ケーススタディの内容をしっかり理解しておくこと。
13	ケースⅢの発表	グループごとに発表をし、みんなで評価します。	自分の班の発表ができるようにしておくこと。 他の班との違いを理解すること。
14	ケースⅣの導入・検討	課題を共有し検討をします。	ケースの内容を理解すること。
15	ケースⅣの議論・取りまとめ	班のとりまとめを行います。	この授業でどのような力がついたかの振り返りをすること。

関連科目	マーケティング論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート（50%）、ふりかえりシート（20%）授業の参加度（30%）
学生へのメッセージ	積極的にグループワークに参加することでかなりの力がつきます。そのためには課題に真摯に取り組む姿勢が求められます。
担当者の研究室等	鶴坂准教授室（11 号館 7 階）
備考	

科目名	マーケティングサイエンス	科目名（英文）	Marketing Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口　友紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）【施行規則に定める科目区分】「商業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	近年、ビジネスにおいてマーケティングは欠かすことのできないツールとなった。商品を生産すれば売れた時代とは違い、現在では多様化する消費者ニーズに的確に対応することが、企業にとって市場で生き残っていくためのカギとなっている。 本講義では、マーケティング戦略を立案する上で必要不可欠となるデータの扱い方を紹介し、各自でリサーチを実行してもらう。市場の動向を読むための技術を身につけることは非常に重要である。
到達目標	マーケティング・リサーチ手法について学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング手法について身近に理解できるようになる。
授業方法と留意点	教員からの講義の他に、講義内容に関連した実際の問題について学生自身にも考え、発表してもらう。これは、学生の発想力と創造力を伸ばすためでもある。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスーマーケティング・リサーチとはー	授業の進め方、マーケティング・リサーチの歴史と実行手順について	配布プリントの復習
2	二次データの収集	仮説の立案と二次データの整理	配布プリントの復習
3	一次データの収集	一次データの収集方法と質問票の設計について	配布プリントの復習
4	データ分析(1)	質問票データの入力方法と、基礎統計について	配布プリントの復習
5	データ分析(2)	仮説検定と回帰・重回帰分析	配布プリントの復習
6	データ分析(3)	重回帰分析による予測	配布プリントの復習
7	データ分析(4)	指数平滑法による予測、平均値差による検定	配布プリントの復習
8	データ分析(5)	分散分析、数量化Ⅰ類について	配布プリントの復習
9	データ分析(6)	SPSS の使用方法、判別分析、数量化Ⅱ類について	配布プリントの復習
10	データ分析(7)	クラスター分析、コレスポンデンス分析	配布プリントの復習
11	データ分析(8)	主成分分析、因子分析	配布プリントの復習
12	マーケティング・リサーチ演習(1)	これまでの講義内容をふまえ、各自でマーケティング・リサーチを実行してもらいます。	リサーチ内容を計画し、適切な分析手法を選択することができるように、講義内容について復習し、情報収集を心がけてください。
13	マーケティング・リサーチ演習(2)	設計したリサーチ内容を発表資料としてまとめていきます。	考案したリサーチ内容について、プレゼンテーションができるように掘り下げて考えて下さい。また、リサーチに必要な情報を収集し、まとめてください。
14	マーケティング・リサーチ演習とプレゼンテーション	考案・設計したリサーチ内容を発表資料としてまとめ、発表してもらいます。また、他の学生の考案したリサーチ内容について分析を加えます。	リサーチ内容について掘り下げて考えるよう心掛けてください。
15	講義まとめ	授業に関する質問に回答します。	半年間の復習をしておいてください。

関連科目	マーケティング論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内課題 70%、期末試験 30%
学生へのメッセージ	日ごろ自分達がどのように考え、どういった商品を購入しているかを思い浮かべつつ、講義に臨んでもらいたい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階、樋口研究室
備考	学生の理解度により、適宜講義内容を変更する場合がある。

科目名	マーケティングサイエンスⅠ	科目名（英文）	Marketing Science Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口　友紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	近年、ビジネスにおいてマーケティングは欠かすことのできないツールとなった。商品を生産すれば売れた時代とは違い、現在では多様化する消費者ニーズに的確に対応することが、企業にとって市場で生き残っていくためのカギとなっている。 本講義では、マーケティング戦略を立案する上で必要不可欠となるデータの扱い方を紹介し、各自でリサーチを実行してもらう。市場の動向を読むための技術を身につけることは非常に重要である。
到達目標	マーケティング・リサーチ手法について学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング手法について身近に理解できるようになる。
授業方法と留意点	教員からの講義の他に、講義内容に関連した実際の問題について学生自身にも考え、発表してもらう。これは、学生の発想力と創造力を伸ばすためでもある。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスーマーケティング・リサーチとはー	授業の進め方、マーケティング・リサーチの歴史と実行手順について	配布プリントの復習
2	二次データの収集	仮説の立案と二次データの整理	配布プリントの復習
3	一次データの収集	一次データの収集方法と質問票の設計について	配布プリントの復習
4	データ分析(1)	質問票データの入力方法と、基礎統計について	配布プリントの復習
5	データ分析(2)	仮説検定と回帰・重回帰分析	配布プリントの復習
6	データ分析(3)	重回帰分析による予測	配布プリントの復習
7	データ分析(4)	指数平滑法による予測、平均値差による検定	配布プリントの復習
8	データ分析(5)	分散分析、数量化Ⅰ類について	配布プリントの復習
9	データ分析(6)	SPSS の使用方法、判別分析、数量化Ⅱ類について	配布プリントの復習
10	データ分析(7)	クラスター分析、コレスポンデンス分析	配布プリントの復習
11	データ分析(8)	主成分分析、因子分析	配布プリントの復習
12	マーケティング・リサーチ演習(1)	これまでの講義内容をふまえ、各自でマーケティング・リサーチを実行してもらいます。	リサーチ内容を計画し、適切な分析手法を選択することができるように、講義内容について復習し、情報収集を心がけてください。
13	マーケティング・リサーチ演習(2)	設計したリサーチ内容を発表資料としてまとめていきます。	考案したリサーチ内容について、プレゼンテーションができるように掘り下げて考えて下さい。また、リサーチに必要な情報を収集し、まとめてください。
14	マーケティング・リサーチ演習とプレゼンテーション	考案・設計したリサーチ内容を発表資料としてまとめ、発表してもらいます。また、他の学生の考案したリサーチ内容について分析を加えます。	リサーチ内容について掘り下げて考えるよう心掛けてください。
15	講義まとめ	授業に関する質問に回答します。	半年間の復習をしておいてください。

関連科目	マーケティング論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内課題 70%、期末試験 30%
学生へのメッセージ	日ごろ自分達がどのように考え、どういった商品を購入しているかを思い浮かべつつ、講義に臨んでもらいたい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階、樋口研究室
備考	学生の理解度により、適宜講義内容を変更する場合がある。

科目名	マーケティングサイエンスⅡ	科目名（英文）	Marketing Science II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口　友紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	近年、マーケティング戦略の立案などに際し、市場調査が頻繁に利用されている。市場調査により収集されたマーケティング・データは、企業の意思決定において様々な形で利用される。ただし、これらのデータはそのままの形では有効に利用することが難しい。よって、種々の分析手法をもって、まずは有益な情報に変換されることとなる。本講義では、このようなマーケティング・データを扱うためのデータ分析手法について、多変量解析を中心に学習する。
到達目標	マーケティング・リサーチの手法とデータの扱い方を習得することで、各種マーケティング上の課題に対処する力を身につける。
授業方法と留意点	本講義ではExcel、SPSSを利用する。この点を理解の上履修すること。 また、毎回の講義中に、講義内容に関連する課題を課す。
科目学習の効果（資格）	「社会調査士」の資格取得のため必須科目。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マーケティング・リサーチとデータ分析の関係について	配布プリントの復習
2	リサーチの流れとデータの役割	マーケティング・リサーチの基本知識、実行手順などについて	配布プリントの復習
3	基礎統計	データ入力と整理	配布プリントの復習
4	仮説検定(1)	無相関検定	配布プリントの復習
5	仮説検定(2)	カイ二乗検定	配布プリントの復習
6	仮説検定(3)	平均値の差による検定	配布プリントの復習
7	多変量解析(1)	回帰・重回帰分析	配布プリントの復習
8	多変量解析(2)	時系列解析手法	配布プリントの復習
9	多変量解析(3)	数量化理論Ⅰ類	配布プリントの復習
10	多変量解析(4)	分散分析	配布プリントの復習
11	多変量解析(5)	判別分析・数量化理論Ⅱ類	配布プリントの復習
12	多変量解析(6)	クラスター分析	配布プリントの復習
13	多変量解析(7)	コレスポンデンス分析	配布プリントの復習
14	多変量解析(8)	主成分分析・因子分析	配布プリントの復習
15	講義まとめ	半年間の講義のまとめと復習、質問への対応など	半年間の復習をしておいてください。

関連科目	経営統計学、ビジネスデータ分析、市場調査法、市場調査実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内課題70%、期末試験30%
学生へのメッセージ	講義内容の復習を各自で出来るだけ行うこと。
担当者の研究室等	11号館8階、樋口研究室
備考	学生の理解度などにより、適宜講義内容を変更する場合がある。

科目名	マーケティング情報解析	科目名（英文）	Marketing Information Analysis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口　友紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	近年、マーケティング戦略の立案などに際し、市場調査が頻繁に利用されている。市場調査により収集されたマーケティング・データは、企業の意思決定において様々な形で利用される。ただし、これらのデータはそのままの形では有効に利用することが難しい。よって、種々の分析手法をもって、まずは有益な情報に変換されることとなる。本講義では、このようなマーケティング・データを扱うためのデータ分析手法について、多変量解析を中心に学習する。
到達目標	マーケティング・リサーチの手法とデータの扱い方を習得することで、各種マーケティング上の課題に対処する力を身につける。
授業方法と留意点	本講義では Excel、SPSS を利用する。この点を理解の上履修すること。 また、毎回の講義中に、講義内容に関連する課題を課す。
科目学習の効果（資格）	「社会調査士」の資格取得のため必須科目。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マーケティング・リサーチとデータ分析の関係について	配布プリントの復習
2	リサーチの流れとデータの役割	マーケティング・リサーチの基本知識、実行手順などについて	配布プリントの復習
3	基礎統計	データ入力と整理	配布プリントの復習
4	仮説検定(1)	無相関検定	配布プリントの復習
5	仮説検定(2)	カイ二乗検定	配布プリントの復習
6	仮説検定(3)	平均値の差による検定	配布プリントの復習
7	多変量解析(1)	回帰・重回帰分析	配布プリントの復習
8	多変量解析(2)	時系列解析手法	配布プリントの復習
9	多変量解析(3)	数量化理論Ⅰ類	配布プリントの復習
10	多変量解析(4)	分散分析	配布プリントの復習
11	多変量解析(5)	判別分析・数量化理論Ⅱ類	配布プリントの復習
12	多変量解析(6)	クラスター分析	配布プリントの復習
13	多変量解析(7)	コレスポンデンス分析	配布プリントの復習
14	多変量解析(8)	主成分分析・因子分析	配布プリントの復習
15	講義まとめ	半年間の講義のまとめと復習、質問への対応など	半年間の復習をしておいてください。

関連科目	経営統計学、ビジネスデータ分析、市場調査法、市場調査実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内課題 70%、期末試験 30%
学生へのメッセージ	講義内容の復習を各自で出来るだけ行うこと。
担当者の研究室等	11 号館 8 階、樋口研究室
備考	学生の理解度などにより、適宜講義内容を変更する場合がある。

科目名	マーケティング論	科目名（英文）	Marketing Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	武居　奈緒子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	近年の成熟市場環境下における企業間競争の激化によって、マーケティングの重要性が高まっています。マーケティング活動の内容が、企業の成否を決するといっても過言ではないでしょう。 マーケティング論の講義では、マーケティングの諸問題について解説していきます。初めてマーケティングを学習する人を対象としていて、マーケティングの基本的概念、枠組みを理解することを目指します。この講義を通じて、マーケティングの楽しさ・面白さを伝えていきたいと思っています。
到達目標	マーケティングの基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義が中心ですが、企業の実態にそったマーケティングを理解していきます。
科目学習の効果（資格）	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティング論の全体像を示します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	マーケティングとは	マーケティングの概略について、説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	マーケティングの誕生	マーケティングがいかに誕生したのかについて、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	製品政策（1）	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	製品政策（2）	製品政策について、企業の具体的事例を取り上げて、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	価格政策（1）	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	価格政策（2）	価格政策について、企業の具体的事例を取り上げて、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	流通チャネル政策（1）	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	流通チャネル政策（2）	流通チャネル政策について、企業の具体的事例を取り上げて、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	マーケティングと広告	外部講師による講演	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	マーケティングのＳＴＰアプローチ（1）	市場細分化戦略について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	マーケティングのＳＴＰアプローチ（2）	製品のポジショニングについて、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	マーケティングのダイナミクス	製品ライフサイクル戦略について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	中間的まとめ	前半部分のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
16	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスの諸手段について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
17	トータル・マーケティング	消費者を起点とするトータル・マーケティングについて考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
18	消費行動（1）	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
19	消費行動（2）	消費行動の歴史的変遷について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
20	消費行動（3）	顧客満足とブランドロイヤルティについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
21	競争の３角形	戦略論の基礎である競争の３角形や成長戦略について考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
22	マーケティング・リサーチ（1）	マーケティング・リサーチの意義・役割について解説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
23	マーケティング・リサーチ（2）	マーケティング・リサーチの方法について解説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
24	マーケティング・リサーチ（3）	質問票を作成していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
25	競争の戦略（1）	企業の資金配分の方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
26	競争の戦略（2）	ポーターの競争の戦略、企業の地位別戦略について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
27	競争の戦略（3）	バリューチェーン分析、SWOT 分析等について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
28	流通の役割（1）	流通の存立根拠について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
29	流通の役割（2）	卸売商業、小売商業について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
30	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目	経営学、マーケティングと歴史
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 講義時に指示します。 / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / その都度、指示します。 / / 2 / / /
評価方法（基準）	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の研究室等	１１号館８階（武居教授室）
備考	

専門科目

科目名	マクロ経済学	科目名（英文）	Macro Economics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉本　篤信
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代経済学は体系化された科学としてマクロ経済学とミクロ経済学に大別されます。マクロ経済学では，国家レベルの経済問題や社会全体など大きな動きについて論じます。なお，ミクロ経済学では，経済主体の意思決定プロセスや市場について議論することを目的とします。これによりビジネスニュースや新聞の経済面をより深く読むことが出来るようになることを目指します。
到達目標	マクロ経済学の理論を通して、日本経済の問題を理解、説明できる。
授業方法と留意点	教科書を中心にして行うが，適宜，新聞やTVで取り上げられたトピックも用いる。
科目学習の効果（資格）	公務員試験・経済学検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	経済学とは何か	経済学とはどのような学問か？ マクロ経済学とミクロ経済学の違い	経済記事や経済ニュースを普段から読んだり聞いたりする習慣を付けてください。
2	ＧＤＰとは何だろうか？(1)	付加価値、三面等価の原則	テキスト第１章を読んでおくこと。
3	ＧＤＰとは何だろうか？（２）	GDP の範囲、GNI (GNP)との違い、名目値と実質値	テキスト第１章を読んでおくこと。
4	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？（１）	ケインズ型の消費関数	テキスト第２章を読んでおくこと。
5	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？（２）	ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約、日本の貯蓄率の動向	テキスト第２章を読んでおくこと。
6	設備投資と在庫投資（１）	資本ストックと設備投資、投資の決定理論、新古典派の投資理論	テキスト第３章を読んでおくこと。
7	設備投資と在庫投資（２）	調整費用モデル、在庫投資	テキスト第３章を読んでおくこと。
8	金融と株価（１）	企業の資金調達手段、家計の資産選択	テキスト第４章までを復習しておくこと。
9	金融と株価（２）	株価の決定理論、トービンのｑ	テキスト第４章を読んで復習しておくこと。
10	貨幣の需要と供給（１）	貨幣の機能、貨幣需要関数、	テキスト第５章を読んでおくこと。
11	貨幣の需要と供給（２）	貨幣量のコントロール、金融政策の手段、利子率の決定	テキスト第５章を復習しておくこと。
12	乗数理論と IS-LM 理論（１）	有効需要の原理、乗数理論	テキスト第６章を予習しておくこと。
13	乗数理論と IS-LM 理論（２）	財市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線、IS-LM 分析	テキスト第６章を読んでおくこと。
14	経済政策の有効性	クラウディング･アウト､流動性のわな、非伝統的金融政策	テキスト第７章を読んでおくこと。
15	財政赤字と国債	財政政策の意義、日本の財政赤字、国債の中立命題	テキスト第８章を読んでおくこと。

関連科目	ミクロ経済学、貿易と金融

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マクロ経済学・入門	福田慎一・照山博司	有斐閣
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験　75% 平常点（レポート提出,小テストなど）　25%
学生へのメッセージ	授業中は私語厳禁，携帯電話の利用禁止。 テキストやノートでの復習は必ずすること。
担当者の研究室等	11 号館 6 階(杉本研究室) sugimoto@kjo.setsunan.ac.jp
備考	

科目名	マネジメントサイエンス	科目名（英文）	Management Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒澤　敏朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	マネジメントサイエンス(経営科学、オペレーションズ・リサーチ)とは、経営活動にかかわる種々の課題をモデル化して数学的に解析を行うことにより、経営の意思決定を科学的な方法で支援するための知識の体系である。本科目では、線形計画法、待ち行列や意思決定（ゲーム）理論を中心とした基本的な知識と技法（解法）について修得することが目的である。
到達目標	数式、あるいはワークシート形式で定義された経営の諸問題についてのモデルを理解し、電卓を用いた数値計算で最適解を見つけることができる。
授業方法と留意点	授業で配布するプリントを用いてモデルを解説し、次にゲーム形式などの例題を用いた演習中心の授業を行う。課題に取り組む中で、数学的知識というよりもむしろ問題の構造を把握する能力を養ってほしい。
科目学習の効果（資格）	ＩＴパスポート、基本情報技術者などの情報系の資格試験をはじめ、中小企業診断士などの経営関係の資格試験にも関連する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マネジメントサイエンスの学び方	授業計画とマネジメントサイエンスの対象と方法についてのあらましの解説と「受注計画ゲーム」による演習	復習：シラバスを読み直す
2	線形計画法（１）	線形計画問題の基礎概念、最大・最小問題の図的解法（演習）	復習：課題を解いてみよう
3	線形計画法（２）	シンプレックス法による最適解と最適値の解説とパソコンによる解法のデモ	復習：パソコンで課題を解いてみよう
4	線形計画法（３）	出荷計画ゲーム（演習）	復習：配付されたプリントを読み直す
5	線形計画法（４）	輸送計画法の解説と演習	復習：配付されたプリントを読み直す
6	整数計画法（１）	アルバイトの配置（割当）の計画（演習）	復習：与えられた課題（宿題）に取り組もう
7	整数計画法（２）	職員の定期異動計画（演習）	復習：配付されたプリントを読み直す
8	整数計画法（３）	職員の適材配置計画（演習）	復習：配付されたプリントを読み直す
9	待ち行列（１）	待ち行列の基礎:到着時間とサービス時間の分布	復習：与えられた課題（宿題）に取り組もう
10	待ち行列（２）	待ち行列の理論:行列の長さと待ち時間の期待値	復習：配布されたプリントを読み直そう
11	決定理論（１）	不確実性下の意思決定:ミニマックス原理ほか	復習：配布されたプリントを読み直そう
12	決定理論（２）	ゼロサムゲームと利得表	復習：与えられた課題（宿題）に取り組もう
13	決定理論（３）	非ゼロサムゲームとナッシュ均衡	復習：与えられた課題（宿題）に取り組もう
14	決定理論（４）	囚人のジレンマと社会的ジレンマ	復習：与えられた課題（宿題）に取り組もう
15	まとめ	前期に学習した内容のまとめ	復習：前期試験の準備をしよう

関連科目	数学基礎 I、数学基礎 II、経営統計学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（60%）および授業中に行う課題に対する取り組みやレポート（40%）により評価する。
学生へのメッセージ	高度な数学は用いませんが、演習を中心とした授業を行いますので、８割以上の出席が必要です。毎回、数値を扱うので電卓（関数電卓でなくてよい）を持参してください。また、説明は最初から聞かないと理解できませんから、遅れないようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階(黒澤教授室)
備考	

科目名	マネジメントサイエンスⅠ	科目名（英文）	Management Science Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒澤　敏朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	マネジメントサイエンス(経営科学、オペレーションズ・リサーチ)とは、経営活動にかかわる種々の課題をモデル化して数学的に解析を行うことにより、経営の意思決定を科学的な方法で支援するための知識の体系である。本科目では、線形計画法、待ち行列や意思決定（ゲーム）理論を中心とした基本的な知識と技法（解法）について修得することが目的である。
到達目標	数式、あるいはワークシート形式で定義された経営の諸問題についてのモデルを理解し、電卓を用いた数値計算で最適解を見つけることができる。
授業方法と留意点	授業で配布するプリントを用いてモデルを解説し、次にゲーム形式などの例題を用いた演習中心の授業を行う。課題に取り組む中で、数学的知識というよりもむしろ問題の構造を把握する能力を養ってほしい。
科目学習の効果（資格）	ＩＴパスポート、基本情報技術者などの情報系の資格試験をはじめ、中小企業診断士などの経営関係の資格試験にも関連する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マネジメントサイエンスの学び方	授業計画とマネジメントサイエンスの対象と方法についてのあらましの解説と「受注計画ゲーム」による演習	復習：シラバスを読み直す
2	線形計画法（１）	線形計画問題の基礎概念、最大・最小問題の図的解法（演習）	復習：課題を解いてみよう
3	線形計画法（２）	シンプレックス法による最適解と最適値の解説とパソコンによる解法のデモ	復習：パソコンで課題を解いてみよう
4	線形計画法（３）	出荷計画ゲーム（演習）	復習：配付されたプリントを読み直す
5	線形計画法（４）	輸送計画法の解説と演習	復習：配付されたプリントを読み直す
6	整数計画法（１）	アルバイトの配置（割当）の計画（演習）	復習：与えられた課題（宿題）に取り組もう
7	整数計画法（２）	職員の定期異動計画（演習）	復習：配付されたプリントを読み直す
8	整数計画法（３）	職員の適材配置計画（演習）	復習：配付されたプリントを読み直す
9	待ち行列（１）	待ち行列の基礎：到着時間とサービス時間の分布	復習：与えられた課題（宿題）に取り組もう
10	待ち行列（２）	待ち行列の理論：行列の長さと待ち時間の期待値	復習：配布されたプリントを読み直そう
11	決定理論（１）	不確実性下の意思決定：ミニマックス原理ほか	復習：配布されたプリントを読み直そう
12	決定理論（２）	ゼロサムゲームと利得表	復習：与えられた課題（宿題）に取り組もう
13	決定理論（３）	非ゼロサムゲームとナッシュ均衡	復習：与えられた課題（宿題）に取り組もう
14	決定理論（４）	囚人のジレンマと社会的ジレンマ	復習：与えられた課題（宿題）に取り組もう
15	まとめ	前期に学習した内容のまとめ	復習：前期試験の準備をしよう

関連科目	数学基礎Ⅰ、数学基礎Ⅱ、経営統計学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（60%）および授業中に行う課題に対する取り組みやレポート（40%）により評価する。
学生へのメッセージ	高度な数学は用いませんが、演習を中心とした授業を行いますので、８割以上の出席が必要です。毎回、数値を扱うので電卓（関数電卓でなくてよい）を持参してください。また、説明は最初から聞かないと理解できませんから、遅れないようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階(黒澤教授室)
備考	

科目名	マルチメディア処理	科目名（英文）	Multimedia Processing
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	堀井　千夏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	マルチメディア技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、マルチメディアの基礎技術となる「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」をとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。さらに、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。
到達目標	「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」の技術と生成手法について学ぶ。
授業方法と留意点	初回に授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。
科目学習の効果（資格）	ＣＧ検定，画像処理検定，マルチメディア検定のための基礎知識を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マルチメディアと画像処理	マルチメディアの応用技術	――――――
2	CG 演習(1)	CG 作成手順，コンピュータグラフィックスの実例	練習問題(1)
3	CG 演習(2)	基本的なシーンファイルの作成	練習問題(2)
4	人間の知覚特性	恒常現象、錯覚、図と地，ヒストグラム，濃度変換	練習問題(3)
5	CG 演習(3)	簡単な立体形状の作成	練習問題(4)
6	CG 演習(4)	移動・回転・拡大縮小	練習問題(5)
7	色彩表現	加法混色，減法混色，RGB/XYZ 表示系，マンセル表色系	練習問題(6)
8	CG 演習(5)	立体の色彩表現	練習問題(7)
9	２次元画像処理の基礎	画像の標本化と量子化，２値化処理，濃淡，陰線・陰面消去	練習問題(8)
10	合成と変換(1)	平滑化，鮮鋭化，モザイク処理	練習問題(9)
11	合成と変換(2)	コントラストの変換，特殊効果	練習問題(10)
12	立体の表現方法	ステレオ画像処理，時分割メガネ方式，ステレオペア方式	練習問題(11)
13	CG 演習(6)	複雑な立体形状の作成(1)	練習問題(12)
14	CG 演習(7)	複雑な立体形状の作成(2)	練習問題(13)
15	講義のまとめと小テスト	講義全体のまとめと小テスト	練習問題(14)
16	模様と凹凸表現	質感とテクスチャ	練習問題(15)
17	CG 演習(8)	質感の変更，テクスチャマッピング，バンプマッピング	練習問題(16)
18	カメラとライティング	ワールド座標とローカル座標，座標変換，透視変換	練習問題(17)
19	CG 演習(9)	カメラや光源の種類の設定	練習問題(18)
20	モデリング	モデリング手法	練習問題(19)
21	レンダリング	レンダリング手法	練習問題(20)
22	CG 演習(10)	複雑な立体形状の作成(3)	練習問題(21)
23	立体表現の応用	スィープ表現，曲線表現（スプライン曲線，ベジェ曲線）	練習問題(22)
24	CG 演習(11)	正多面体，半多面体，とーラス図形，CG 文字の作成	練習問題(23)
25	CG アニメーション	アニメーションの原理，映画などで利用されている CG の実例紹介	練習問題(24)
26	CG 演習(11)	CG アニメーションの作成	練習問題(25)
27	講義のまとめと小テスト	講義全体のまとめと小テスト	練習問題(26)
28	作品制作	作品制作	練習問題(27)
29	作品制作	作品制作	練習問題(28)
30	作品制作	作品制作	――――――

関連科目	情報処理関連の基礎科目、Web デザインコンテンツ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	授業の参加率と課題（20%）、小テスト（20%）、期末試験（60%）により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の 1/3 回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者（寝る、喋る等）は欠席扱いとする。
学生へのメッセージ	この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていく。このため、コンピュータの基本的な利用が困難な者は、授業の内容をよく確認してから受講して欲しい。授業の内容をよく確認してから受講して欲しい。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	マルチメディア処理Ⅰ	科目名（英文）	Multimedia Processing Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井　千夏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）【施行規則に定める科目区分】「情報社会及び情報倫理」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	マルチメディア技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、マルチメディアの基礎技術となる「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」をとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。さらに、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。
到達目標	「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」の利用技術と生成手法について学ぶ。
授業方法と留意点	初回に授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。 マルチメディア処理ＩＩはマルチメディア処理Ⅰを履修していないと合格しない。マルチメディア処理ＩＩの履修を予定している者は、必ずこの科目を履修すること。
科目学習の効果（資格）	ＣＧ検定，画像処理検定，マルチメディア検定のための基礎知識を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マルチメディアと画像処理	ガイダンス、マルチメディアの応用技術	練習問題(1)
2	CG 演習(1)	CG 作成手順，コンピュータグラフィックスの実例	練習問題(2)
3	CG 演習(2)	基本的なシーンファイルの作成	練習問題(3)
4	人間の知覚特性	恒常現象、錯覚、図と地，ヒストグラム，濃度変換	練習問題(4)
5	CG 演習(3)	簡単な立体形状の作成	練習問題(5)
6	CG 演習(4)	移動・回転・拡大縮小	練習問題(6)
7	色彩表現	加法混色，減法混色，RGB/XYZ 表示系，マンセル表色系	練習問題(7)
8	講義のまとめと小テスト	講義前半のまとめと小テスト	練習問題(8)
9	CG 演習(5)	立体の色彩表現	練習問題(9)
10	２次元画像処理の基礎	画像の標本化と量子化，２値化処理，濃淡，陰線・陰面消去	練習問題(10)
11	合成と変換	平滑化，鮮鋭化，モザイク処理，コントラストの変換，特殊効果	練習問題(11)
12	立体の表現方法	ステレオ画像処理，時分割メガネ方式，ステレオペア方式	練習問題(12)
13	CG 演習(6)	複雑な立体形状の作成(1)	練習問題(13)
14	CG 演習(7)	複雑な立体形状の作成(2)	練習問題(14)
15	講義のまとめと小テスト	講義後半のまとめと小テスト	練習問題(15)

関連科目	情報処理関連の基礎科目、マルチメディア処理 II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（20%）、小テスト（20%）、期末試験（60%）により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の 1/3 回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者（寝る、喋る等）は欠席扱いとする。
学生へのメッセージ	この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていく。このため、コンピュータの基本的な利用が困難な者は、授業の内容をよく確認してから受講して欲しい。授業の内容をよく確認してから受講して欲しい。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	マルチメディア処理Ⅱ	科目名（英文）	Multimedia Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀井　千夏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）【施行規則に定める科目区分】「情報社会及び情報倫理」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	マルチメディア技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、マルチメディアの基礎技術となる「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」をとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。さらに、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。
到達目標	「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」の応用技術と生成手法について学ぶ。
授業方法と留意点	初回に授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。 マルチメディア処理ＩＩはマルチメディア処理Ｉを履修していないと合格しない。履修する際には確認すること。またこの授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていくため、経営学科の学生は受講しないように。
科目学習の効果（資格）	ＣＧ検定，画像処理検定，マルチメディア検定のための基礎知識を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	模様と凹凸表現	質感とテクスチャ	練習問題(1)
2	CG 演習(8)	質感の変更，テクスチャマッピング，バンプマッピング	練習問題(2)
3	カメラとライティング	ワールド座標とローカル座標，座標変換，透視変換	練習問題(3)
4	CG 演習(9)	カメラや光源の種類の設定	練習問題(4)
5	モデリング	モデリング手法	練習問題(5)
6	レンダリング	レンダリング手法	練習問題(6)
7	講義のまとめと小テスト	講義前半のまとめと小テスト	練習問題(7)
8	CG 演習(10)	複雑な立体形状の作成	練習問題(8)
9	立体表現の応用	スィープ表現，曲線表現（スプライン曲線，ベジェ曲線）	練習問題(9)
10	CG 演習(11)	正多面体，半多面体，とーラス図形，CG 文字の作成	練習問題(10)
11	CG アニメーション	アニメーションの原理，映画などで利用されている CG の実例紹介	練習問題(11)
12	CG 演習(11)	CG アニメーションの作成	練習問題(12)
13	講義のまとめと小テスト	講義後半のまとめと小テスト	練習問題(13)
14	作品制作(1)	作品制作とまとめ	練習問題(14)
15	作品制作(2)	作品制作とまとめ	練習問題(15)

関連科目	情報処理関連の基礎科目、マルチメディア処理Ｉ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（10%）、小テスト（20%）、最終課題（10%）、期末試験（60%）により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の 1/3 回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者（寝る、喋る等）は欠席扱いとする。
学生へのメッセージ	マルチメディア処理ＩＩはマルチメディア処理Ｉを必ず履修していること。マルチメディア処理ＩＩだけを受講しても合格しない。履修する際には注意すること。またこの授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていくため、経営学科の学生は受講しないように。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	ミクロ経済学	科目名（英文）	Micro Economics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪　加紋
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代経済学の理論は、体系化された科学としてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。そのうち、ミクロ経済学は、消費者や企業の行動原理を、もっともらしい仮定を起点として論理を積み上げ説明する経済理論である。本講義では、ミクロ経済学の理論を現実事象と照らし合わせながら説明する。
到達目標	経済主体の意思決定や市場について理解すること
授業方法と留意点	講義は極力教科書に沿って行うので、必ず教科書を購入のこと。理解度を重視して進めるので、講義計画の変更もある。漠然と講義に出席するのではなく、予習・復習を行い、発言することを求める。発言は評価の対象である。
科目学習の効果（資格）	TV や新聞、インターネットから無造作に流される経済的事象を自らで整理し、自らで判断するための初歩的な能力が身につく。さらに、教員免許状取得・公務員試験・中小企業診断士試験など資格取得に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学で学ぶこと	経済学を学ぶ理由、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い、価格メカニズムの働き、図とグラフ	事前に第１章を読んでおくこと。復習も行うこと。
2	需要の理論	市場需要曲線、曲線のシフト要因、消費者余剰	事前に第２章を読んでおくこと。復習も行うこと。
3	消費者行動の理論（１）	最適消費点	事前に第３章を読んでおくこと。復習も行うこと。
4	消費者行動の理論（２）	需要曲線の導出、曲線のシフト要因再考	事前に第３章を読んでおくこと。復習も行うこと。
5	供給の理論（１）	限界費用、供給量の決定、供給曲線、生産者余剰	事前に第４章を読んでおくこと。復習も行うこと。
6	供給の理論（２）	右上がりの限界費用曲線、市場供給曲線、供給曲線のシフト要因	事前に第４章を読んでおくこと。復習も行うこと。
7	限界概念と微分	限界概念と微分との関係について説明する。	予習はできないが、復習をしっかりと行うこと。
8	需給曲線と弾力性	需要と供給の弾力性、弾力性を左右する要因	事前に第５章を読んでおくこと。復習も行うこと。
9	ここまでのまとめと中間テスト	これまでのまとめと中間試験を行う	事前に復習を行っておくこと。
10	市場の理論	さまざまな市場構造、社会的余剰、効率性、分配の公正性、市場の失敗	事前に第６章を読んでおくこと。復習も行うこと。
11	需要と供給で解く経済問題	需給曲線を用い経済問題を考える	事前に第７章を読んでおくこと。復習も行うこと。
12	余剰分析で解く経済問題	余剰を用い経済問題を考える	事前に第８章を読んでおくこと。復習も行うこと。
13	市場の失敗（１）	外部効果、公共財	事前に第９章を読んでおくこと。復習も行うこと。
14	市場の失敗（２）	情報の非対称性	事前に第１０章を読んでおくこと。復習も行うこと。
15	市場の失敗（３）	独占市場	事前に第１１章を読んでおくこと。復習も行うこと。

関連科目	くらしと経済、マクロ経済学、金融論、企業金融論　等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎からわかるミクロ経済学　第２版	家森信善・小川光	中央経済社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間試験(40 点)と期末試験(60 点)ならびに学習状況（発言など）を総合して評価する。
学生へのメッセージ	経済の基本的な考え方を身につけておくことは、社会人としてだけでなく日常生活においても“身を守る”という意味で極めて重要です。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（岩坪教授室）
備考	

科目名	民法Ⅰ	科目名（英文）	Civil Law Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際政治を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	民法Ⅰおよび民法Ⅱを通じて、民法というものの全体を扱います。各講座は選択制ですので、民法衡は財産法と呼ばれる部分を、民法講は家族法と呼ばれる部分を扱います。しかし、時間との関係から全体像をとらえることが中心となります。そこで、重要な部分については資料などで補足も行う予定です。
到達目標	民法全般、および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定です。復習などのために資料を配布することもします。また、法律科目ですので、六法が必要であるということを留意してください。
科目学習の効果（資格）	宅地建物取引主任者、行政書士などを目指す人の入門として

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を是非見つけてください。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	1回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えてみて下さい。
3	民法と契約という制度①	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを把握してみてください。
4	民法と契約という制度②	契約をするうえで、何らかの問題がある場合を前回に続いて確認する予定です。	人は間違いをしてしまうものです。契約において何らかの問題があった場合の事例の対処方法などを考えてください。
5	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、なぜ親の同意が必要だったのかを考えてください。
6	代理	人は完全に自分ひとりで物事を処理できません。契約もそうです。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人が必要となります。そのような人についてみていく予定です。	他人が自分のために契約をしてくれる便利さと怖さを確認してください。
7	時効	契約は無限に続くのか、他人の物を知らずに占有しているとどのようなこととなるのかなどを確認する予定。	犯罪捜査における時効とは何が違い、また時効の必要性についても考えてください。
8	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	友達との約束についても法的に考えてみて下さい。
9	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか？これを、法的に考えてみてください。
10	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのでしょうか。考えてみてください。
11	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	他人に損害賠償を請求するということの難しさを考えてみてください。
12	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について考えてください。
13	債務の弁済について①	契約を守ってもらえない場合に対して、あらかじめ対処する方法などを見る予定です。	お金の貸し借りの難しさと、その対処方法を考えてみてください。
14	債務の弁済について②	担保をという制度を把握し、それが実行されたのちの関係などをみる予定です。	他人を信頼することの難しさ、債権というものを担保する必要性を今一度考えてください。
15	講義のまとめ	講義全体のまとめをしながら、財産法の持つ意義をもう一度確認する予定です。	全体的な復習を通して、財産法とはどのような視点から見るべきかを考えてみてください。

関連科目	後期の民法Ⅱと共に受講をしていただきたいと思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事法概論	野村豊弘	一学舎
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の復習テストを2回行い、各10点として評価に加えます。残りは定期試験（80点）で評価します。ただし、講義の進行状況により適宜課題を求め、それを考慮することがあり得ることも留意しておいてください。
学生への	講義内容の性質から、民法以外の法律にも触れることとなります。それゆえ、民法以外の法にも興味を持っていただけると、より理解が進むと思

メッセージ	います。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川研究室
備考	

科目名	民法Ⅱ	科目名（英文）	Civil Law II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際政治を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	民法Ⅰおよび民法Ⅱを通じて、民法というものの全体を扱います。各講座は選択制ですので、民法衡は財産法と呼ばれる部分を、民法講は家族法と呼ばれる部分を扱います。しかし、時間との関係から全体像をとらえることが中心となります。そこで、重要な部分については資料などで補足も行う予定です。
到達目標	民法全般、および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定です。復習などのために資料を配布することもします。また、法律科目ですので、六法が必要であるということを留意してください。
科目学習の効果（資格）	宅地建物取引主任者、行政書士などを目指す人の入門として

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	財産法と家族法の確認	民法Ⅰでみた財産法の内容について確認しつつ、家族法の全体を確認する予定です。	前期で扱った財産法の部分を復習しておいて下さい。
2	家族法総論	家族法全体について、また家族とはどのようなものなのかを見ていく予定です。	家族とはどのような人たちか、法的にどのように考えられているのかを確認すること。ここで確認した用語を今後使用します。
3	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	誰とでも婚姻できるのか、婚姻する意味を考えてください。
4	婚姻の効果ならびに離婚	婚姻が成立するとどのような権利義務が生じるのかを確認する予定。また、婚姻関係が終了する場合の一つである、離婚についても簡単に確認する予定。	一緒に住むこと以外にも、婚姻には大きな意義があることを確認すること。
5	離婚に関する諸問題	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。
6	婚姻類似の関係	婚姻関係にないが内縁関係のように、類似する場面もある。それを法的にどのようにとらえるのかをみる。	なぜ、そのような関係を保護するのか、その必要性を考えること。
7	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	法律が完全に正義を実現しているのかどうかを考える重要な問題が出てきます（非嫡出子の問題）。それを考えること。
8	養子縁組	実子以外と親子関係を形成する手段である養子縁組の制度を見ながら、現代の生殖補助の問題も確認する予定。	養子制度の必要性や現代における科学技術の進歩についても意識する必要がある。
9	親権	親は子に対してどのような義務を負うのかを確認していく。	法的に負わされた義務を本当に社会において実現されているのかを考えてみること。
10	相続について	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	法律がどのような範囲で相続を認めているのかを理解するため、家族というものを復習しておくこと。
11	相続できる者とは	相続とはどのような人間関係に成立するのかを見る予定です。	誰でも相続できるのでしょうか。なぜ相続で争うのでしょうか。考えて下さい。
12	相続分について	誰がどのような内容を相続するのかについて確認する。	多少の計算が必要となります。自分の家族などに置き換えて、頭の中で考えること。
13	相続分の調整原理	相続が開始したとしても、それまでに多くの財産をもらっていた人や、財産形成に寄与した人もいるはず。その場合の調整方法を確認する。	計算などの場合、具体例を想定して考える必要があるので、あわてずに考えること。
14	遺言	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	遺言の重要性と、不明確な場合の問題を現実の例から確認すること。
15	遺留分および講義のまとめ	相続人が最低限確保することが認められている相続分の意義について確認していく。また、講義全体のまとめにも入りたい。	全体の復習をしておくこと。

関連科目	民法Ⅰの内容を前提に講義をいたします。ただし、やる気のある方は受講してくださってかまいません。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事法概論	野村豊弘	一学舎
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の復習テストを２回行い、各 10 点として評価に加えます。残りは定期試験（80 点）で評価します。ただし、講義の進行状況により適宜課題を求め、それを考慮することがあり得ることも留意しておいてください。
学生へのメッセージ	講義内容の性質から、民法以外の法律にも触れることとなります。それゆえ、民法以外の法にも興味を持っていただけると、より理解が進むと思います。
担当者の	11 号館９階　大川研究室

研究室等	
備考	

科目名	メディア戦略論	科目名（英文）	Media Strategy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾　大嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	携帯電話やスマートフォンといった移動体情報通信技術の急速な発展と普及により企業と消費者が情報通信ネットワークを介して結ばれたことで、現在、その関係が大きく変わりつつある。企業は、消費者個人の嗜好や行動情報をもとに新たな需要を掘り起こし、消費者はそれらの情報の提供することで、パーソナル且つタイムリーで利便性の高いサービスを求めるようになる。すなわちこれは、従来の企業を中心とする産業社会から消費者を主体とする消費社会への移行を意味し、今後のビジネスにおいて消費者を理解することが益々重要性を増してくる。そこで本講義では、今日の消費活動の主要な場となりつつあるWebコミュニティや消費行動の傾向や特徴から現代消費者を捉えるとともに、それを支える要素技術及びこれらに関する企業側の取り組みについて、特にマーケティング活動の点から解説する。
到達目標	・メディア戦略の基本的考え方を理解する。 ・マーケティング戦略におけるIT活用の先端的取り組みとその目的について理解する。
授業方法と留意点	講義は、プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行なう。また一部のテーマについては学生による事前の文献調査とその発表をもとにすすめる予定である。なお講義で取り扱うテーマについては、受講生の関心や時の話題に応じて変更する場合もある。
科目学習の効果（資格）	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この回では、主に以下について解説する。 ・本講義の進め方 ・マーケティングの変遷	――――――――
2	メディア戦略とは	この回では、主に以下について解説する。 ・メディア戦略・戦術の基本的考え方	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	メディア戦略の理論（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・消費者購買行動モデル ・顧客接点とメディア	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	メディア戦略の理論（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・プロダクトライフサイクル ・競争戦略	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	メディア戦略の理論（3）	この回では、主に以下について解説する。 ・参入戦略 ・製品市場戦略	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	メディア戦略の理論（4）	この回では、主に以下について解説する。 ・PR戦略 ・顧客コミュニケーション戦略	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	メディア戦略の基盤技術（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・インターネット広告の種類 ・インターネット広告の仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	メディア戦略の基盤技術（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・モバイル通信の仕組み ・モバイル広告配信の仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	メディア戦略の基盤技術（3）	この回では、主に以下について解説する。 ・ソーシャルメディアの種類 ・ソーシャルメディアの仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	メディア戦略の基盤技術（4）	この回では、主に以下について解説する。 ・クラウドコンピューティング ・ビッグデータ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	企業のメディア活用事例（1）	この回では、主に以下について解説する。 ・強者のメディア戦術事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	企業のメディア活用事例（2）	この回では、主に以下について解説する。 ・弱者のメディア戦術事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	企業のメディア戦略事例（3）	この回では、主に以下について解説する。 ・集客・販売のメディア戦術事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	企業のメディア戦略事例（4）	この回では、主に以下について解説する。 ・優良顧客化のメディア戦術事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
15	まとめ	――――――――	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこ

	と。
関連科目	インターネット概論、経営情報システム論，電子商取引など
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 配布資料 / / 2 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	期末テスト（80%）、小テスト・レポート（20%）で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生への メッセージ	受け身の姿勢では何も身につきません。目的意識を持って積極的に講義に参加してください。
担当者の 研究室等	１１号館７階（針尾准教授室）
備考	

科目名	リスクマネジメント	科目名（英文）	Risk Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保　貞也
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	リスクマネジメントは、経営活動において発生するリスクを組織的にマネジメントし、ハザード（危害）の発生、損失などを回避、もしくは、低減させる重要なマネジメント手法です。リスクは変化の激しい現代社会における重要な課題であり、リスクの評価手法、マネジメント体制の構築、その運用、および、個人単位でのリスクマネジメント意識の向上などが含まれます。これらについて、事例や手法を多く学ぶことで、実践力の高い専門職業人としての土台を築きます。
到達目標	この講義によって以下の事柄を修得できることを目標とします。 （1）リスクについての定義を理解している （2）リスクを多面的に評価することができる （3）リスクへの対応について組織面、人間行動の両面から提案ができる
授業方法と留意点	講義形式で行う。適宜、スライドや映像資料を提示するとともに、外部講師による事例紹介やディスカッションなども実施する予定である。 また、必要に応じてインターネットから企業情報、事例などを収集してディスカッションの資料作成を行う。
科目学習の効果（資格）	経営におけるリスクマネジメントの必要性の理解と自律的な対応の心構え

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の狙い、進め方、採点方法など	シラバスを読んでおく
2	リスクマネジメントとは何か	リスクマネジメントの事例紹介	リスクマネジメントの事例の調査
3	リスクマネジメントの必要性	リスクマネジメントのメリット、コストバランスなど	実際のリスクマネジメントの費用対効果を考える
4	リスクマネジメントの実際	部分最適型から全体最適型への変化について	バイト先などのリスク管理について調査する
5	リスクの捉え方	リスクの定義、評価方法など	身近にあるリスクの評価
6	リスクマネジメントの基礎概念（1）	リスクマネジメントの定義、基本計画など	受講内容の実例を探す
7	リスクマネジメントの基礎概念（2）	対策の実施、モニタリング、危機管理など	受講内容の実例を探す
8	リスクマネジメントの体制	推進体制の構築、設計の前提について	マネジメント体制を自ら検討する
9	リスクマネジメントの教育	教育方法、評価方法、育成の視点など	教育方法の比較検討
10	事例紹介	外部講師、もしくは、映像資料などによる事例紹介	これまで受講した内容との関係性の分析
11	ディスカッション	リスクマネジメント担当部署としてのロールプレイ	ディスカッションテーマに関する情報収集
12	事業継続計画	BCP とは何か、災害時の事業継続について	震災時の実例の調査
13	リスクマネジメントの実務（1）	現場でのリスクマネジメントについて	効果的なリスクマネジメントの検討
14	リスクマネジメントの実務（2）	今すぐ始められるリスク管理法について	リスクマネジメントの関連図書を読む
15	まとめ	本講義のまとめ	講義内容の振り返り

関連科目	システム監査、情報倫理、企業倫理、情報法に関する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期テスト 80%、レポート等 20%で評価する。
学生へのメッセージ	リスクマネジメントは組織の安定的な事業遂行のために重要な考え方であり、管理技術でもあります。経営におけるリスク管理の概念を理解し、これからの社会で期待される人財として求められる判断力を磨いて欲しいと思います。
担当者の研究室等	１１号館７階久保准教授室
備考	

科目名	リテールマーケティング	科目名（英文）	Retail Marketing
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居　奈緒子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	マーケティングとは、企業の対市場活動です。このようにマーケティングを捉えると、マーケティングの領域は幅広くなります。この講義では、その中でも、小売業に焦点を当て、リテールマーケティングの基本的知識を身につけ、基本的概念・分析枠組みについて理解を深めることを目的とします。
到達目標	リテールマーケティングの基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義が中心ですが、ビデオも活用し、企業の実態に沿ったリテールマーケティングを理解していきます。
科目学習の効果（資格）	小売業をマーケティングの視点から考察することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	リテールマーケティングの全体像を示します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	マーケティングとは？	マーケティングについて、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	流通とは（1）	流通の役割について、考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	流通とは（2）	流通の役割について、企業の具体的事例を取り上げて考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	小売業とは（1）	小売業の内容と役割について考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	小売業とは（2）	小売業の役割について、企業の具体的事例を取り上げて考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	小売業の革新	小売業の革新的行動について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	百貨店のマーケティング	百貨店のマーケティング戦略について考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	スーパーのマーケティング（1）	スーパーのマーケティング戦略について、取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	スーパーのマーケティング（2）	スーパーのマーケティング戦略の具体的な事例を取り上げて、検討していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	コンビニエンス・ストアのマーケティング	コンビニエンス・ストアのマーケティング戦略について、考察してきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	アウトレットモールのマーケティング	アウトレットモールのマーケティング戦略について、考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	ナショナルブランドとプライベートブランド	ナショナルブランドとプライベートブランドの相違点について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	流通系列化	流通系列化の現実的問題について考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目	マーケティング論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末テストの成績７０％、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の研究室等	１１号館８階（武居教授室）
備考	

科目名	流通システム論	科目名（英文）	Distribution Systems
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	若松　敏幸
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　情報）【施行規則に定める科目区分】「情報社会及び情報倫理」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	小売業、卸売業などの流通業界は、消費者ニーズの多様化・個性化と競争環境の激化に対応して、魅力ある品揃え、無駄の排除と効率化、ローコストオペレーション等を積極的に進めている。また、インターネットを活用したビジネスモデルも進化を遂げており、今日の商取引に多大な影響を与えている。このような流通業界の経営課題を確認しつつ、そのビジネスモデルを支える流通情報システムの仕組みを理解することを目的とする。
到達目標	流通業界の情報システムについて関心を深め、どのような場面でどのような工夫がなされ、今後の課題は何かを理解できるようになること。
授業方法と留意点	毎回、パワーポイントのスライド教材と動画の教材を用いて授業を進める。講義内容についての理解度テストを適時行う。
科目学習の効果（資格）	販売士検定３級試験、中小企業診断士試験の学習に有効

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスおよび流通情報システムの概要	講義の進め方、概要、評価方法などについて説明する。 また、流通情報システムの概要について説明する。	――――――
2	小売業の機能と業態	小売業の主な業態（チェーンストア、百貨店、ＧＭＳ、ＳＭ、ＤＩＹ、ドラッグストア、ＣＶＳ）の機能・特徴について学ぶ。	授業で紹介する小売業のうち身近な業態についてよく研究すること。
3	卸売業の機能と役割	中間流通業者としての卸売業の機能、役割、ならびに主要商品別流通経路の特性について学ぶ。	代表的な卸売業について、ホームページなどで企業研究すること。
4	販売情報システム	小売業の情報システムの基本ともいえる販売情報システムについて学ぶ。 特にＰＯＳシステムとＪＡＮ商品コードを中心に。	小売店でのＰＯＳシステムのオペレーションを観察すること。
5	発注・仕入管理とＥＯＳ、ＥＤＩ（電子データ交換）	小売業と卸売業を結ぶ発注・仕入管理とその情報システムについて学ぶ。ＥＯＳ，ＥＤＩ（電子データ交換）の仕組みと機能を知る。	ＥＯＳ、ＥＤＩの事例をインターネットで調べる。
6	流通ビジネスプロトコル	ＥＤＩにおける標準ビジネスプロトコルの役割と必要性を学ぶ。	ビジネスプロトコルの種類について復習をすること。
7	物流情報システム	物流の機能と、物流情報システムについて学ぶ。物流からロジスティクス、ＳＣＭ（サプライチェーン・マネジメント）へと発展した考え方を学ぶ。	物流の機能について、ホームページなどで研究すること。
8	顧客管理とカードシステム	顧客管理と顧客満足経営（ＣＳ経営）、顧客管理の方法について学ぶ。 ＲＦＭ分析、カードシステム、ワン・トゥ・ワンマーケティングなど。	カードの利用場面を観察し、ワン・トゥ・ワンマーケティングについて研究すること。
9	商圏分析と店舗管理の情報システム	店舗の立地条件と商圏の考え方、ＧＩＳ（地図情報システム）、売場づくりの考え方について学ぶ。棚割（プラノグラム）システムなど。	インターネットで利用できるＧＩＳを研究すること。
10	サプライチェーン・マネジメント	流通の川上（製造業）から川下（小売業）へのスムーズな取り引きを実現するＳＣＭ(Supply Chain Management)の考え方と仕組みを学ぶ。	ＳＣＭの事例について、ホームページや書籍などで研究すること。
11	電子商取引：Ｂ to Ｃ のEC(Electronic Commerce)（１）	インターネットを使った企業と消費者間の電子商取引（ＢtoＣのＥＣ）について学ぶ。インターネットショップ、インターネットモールなど。	人気のあるインターネットショップを例に、なぜ人気があるのか研究すること。
12	デジタルコンテンツの流通	デジタル音楽配信、電子書籍などの動向と課題について学習する。	音楽配信、電子書籍の普及状況について観察し、その普及理由について研究すること。
13	電子商取引：Ｂ to Ｂ のEC(Electronic Commerce)	インターネットを使った企業と企業間の電子商取引（ＢtoＢのＥＣ）について学ぶ。マーケットプレイス、インターネットＥＤＩなど。	授業で紹介するＢtoＢのＥＣモデルについてインターネットで研究すること。
14	食品流通のトレーサビリティ	食の安全・安心のためのトレーサビリティ・システムについて学ぶ。	身近な食品を通して安全・安心をどうやって確認できるのか考えてみる。
15	講義のまとめ	授業全体のまとめ	今日の流通業全体が抱える課題について整理すること。

関連科目	経営情報システム論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを毎回配布する。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	流通情報システム化の動向 2014-2015	一般財団法人 流通システム開発センター	一般財団法人 流通システム開発センター

	2	販売士ハンドブック(基礎編)−販売士検定試験３級対応−	日本商工会議所・全国商工会連合会	カリアック
	3			
評価方法（基準）	期末試験、理解度テストによって評価する。（期末試験を６割、理解度テストを４割の割合。） また、授業での質問や意見表明など積極的な学習姿勢も評価する。			
学生へのメッセージ	日常の買い物などを通して、商品バーコードやＰＯＳシステムなど、流通情報システムの一端に接することが出来る。最新事例も含めて、流通情報システムに対する理解を深めて頂きたい。			
担当者の研究室等	11 号館 6 階（経営学部事務室）			
備考				

科目名	流通情報システム	科目名（英文）	Distribution Information System
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	若松　敏幸
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	小売業、卸売業などの流通業界は、消費者ニーズの多様化・個性化と競争環境の激化に対応して、魅力ある品揃え、無駄の排除と効率化、ローコストオペレーション等を積極的に進めている。また、インターネットを活用したビジネスモデルも進化を遂げており、今日の商取引に多大な影響を与えている。このような流通業界の経営課題を確認しつつ、そのビジネスモデルを支える流通情報システムの仕組みを理解することを目的とする。
到達目標	流通業界の情報システムについて関心を深め、どのような場面でどのような工夫がなされ、今後の課題は何かを理解できるようになること。
授業方法と留意点	毎回、パワーポイントのスライド教材と動画の教材を用いて授業を進める。講義内容についての理解度テストを適時行う。
科目学習の効果（資格）	販売士検定３級試験、中小企業診断士試験の学習に有効

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスおよび流通情報システムの概要	講義の進め方、概要、評価方法などについて説明する。 また、流通情報システムの概要について説明する。	――――――
2	小売業の機能と業態	小売業の主な業態（チェーンストア、百貨店、ＧＭＳ、ＳＭ、ＤＩＹ、ドラッグストア、ＣＶＳ）の機能・特徴について学ぶ。	授業で紹介する小売業のうち身近な業態についてよく研究すること。
3	卸売業の機能と役割	中間流通業者としての卸売業の機能、役割、ならびに主要商品別流通経路の特性について学ぶ。	代表的な卸売業について、ホームページなどで企業研究すること。
4	販売情報システム	小売業の情報システムの基本ともいえる販売情報システムについて学ぶ。 特にＰＯＳシステムとＪＡＮ商品コードを中心に。	小売店でのＰＯＳシステムのオペレーションを観察すること。
5	発注・仕入管理とＥＯＳ、ＥＤＩ（電子データ交換）	小売業と卸売業を結ぶ発注・仕入管理とその情報システムについて学ぶ。ＥＯＳ，ＥＤＩ（電子データ交換）の仕組みと機能を知る。	ＥＯＳ、ＥＤＩの事例をインターネットで調べる。
6	流通ビジネスプロトコル	ＥＤＩにおける標準ビジネスプロトコルの役割と必要性を学ぶ。	ビジネスプロトコルの種類について復習をすること。
7	物流情報システム	物流の機能と、物流情報システムについて学ぶ。物流からロジスティクス、ＳＣＭ（サプライチェーン・マネジメント）へと発展した考え方を学ぶ。	物流の機能について、ホームページなどで研究すること。
8	顧客管理とカードシステム	顧客管理と顧客満足経営（ＣＳ経営）、顧客管理の方法について学ぶ。 ＲＦＭ分析、カードシステム、ワン・トゥ・ワンマーケティングなど。	カードの利用場面を観察し、ワン・トゥ・ワンマーケティングについて研究すること。
9	商圏分析と店舗管理の情報システム	店舗の立地条件と商圏の考え方、ＧＩＳ（地図情報システム）、売場づくりの考え方について学ぶ。棚割（プラノグラム）システムなど。	インターネットで利用できるＧＩＳを研究すること。
10	サプライチェーン・マネジメント	流通の川上（製造業）から川下（小売業）へのスムーズな取り引きを実現するＳＣＭ(Supply Chain Management)の考え方と仕組みを学ぶ。	ＳＣＭの事例について、ホームページや書籍などで研究すること。
11	電子商取引：Ｂ to Ｃ のEC(Electronic Commerce)（１）	インターネットを使った企業と消費者間の電子商取引（ＢtoＣのＥＣ）について学ぶ。インターネットショップ、インターネットモールなど。	人気のあるインターネットショップを例に、なぜ人気があるのか研究すること。
12	デジタルコンテンツの流通	デジタル音楽配信、電子書籍などの動向と課題について学習する。	音楽配信、電子書籍の普及状況について観察し、その普及理由について研究すること。
13	電子商取引：Ｂ to Ｂ のEC(Electronic Commerce)	インターネットを使った企業と企業間の電子商取引（ＢtoＢのＥＣ）について学ぶ。マーケットプレイス、インターネットＥＤＩなど。	授業で紹介するＢtoＢのＥＣモデルについてインターネットで研究すること。
14	食品流通のトレーサビリティ	食の安全・安心のためのトレーサビリティ・システムについて学ぶ。	身近な食品を通して安全・安心をどうやって確認できるのか考えてみる。
15	講義のまとめ	授業全体のまとめ	今日の流通業全体が抱える課題について整理すること。

関連科目	経営情報システム論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを毎回配布する。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	流通情報システム化の動向 2014-2015	一般財団法人 流通システム開発センター	一般財団法人 流通システム開発センター

	2	販売士ハンドブック(基礎編)−販売士検定試験３級対応−	日本商工会議所・全国商工会連合会	カリアック
	3			
評価方法（基準）	期末試験、理解度テストによって評価する。（期末試験を６割、理解度テストを４割の割合。） また、授業での質問や意見表明など積極的な学習姿勢も評価する。			
学生へのメッセージ	日常の買い物などを通して、商品バーコードやＰＯＳシステムなど、流通情報システムの一端に接することが出来る。最新事例も含めて、流通情報システムに対する理解を深めて頂きたい。			
担当者の研究室等	11 号館 6 階（経営学部事務室）			
備考				

科目名	労働法Ⅰ	科目名（英文）	Labor Law Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田　剛志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	契約自由の原則を貫くと、使用者と労働者の間には経済的な差があるため、労働者は、劣悪な労働条件や失業の危険にさらされることになりかねません。こうした不都合を修正するために、労働法が生成し、発達してきたと言われています。その中でも、労働者の保護を目的とする法律のことを「労働保護法」と呼ぶことがあります。 この授業では、労働保護法の分野の中から、労働基準法、労働契約法、男女雇用機会均等法などを概観したいと考えています。
到達目標	労働保護法の中心となる労働基準法や労働契約法、男女雇用機会均等法などの基本的な内容を理解することを目標とします。また、同じ場面でも、使用者としての立場か、労働者としての立場かによって、事実の評価や取りうる手段が異なる場合があります。労働という事象をとらえると、使用者も労働者もその主たる当事者であることを理解し、その関係を規律する法律の基本的知識を理解することが目標です。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。 また、企業経営にとって労働者は不可欠ですし、労使関係を規律する法律を学ぶことは、実際の経営に有益と考えられます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	労働法の歴史と機能	・労働法の誕生、発展 ・労働法の機能	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでくると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働法の基本構造と法源	・労働法の全体像、規律構造 ・労働法の法源	労働法の全体像を把握し、労働法の法源には何があるかを理解してください。
3	労働法上の当事者	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲 ・労働者派遣法 ・パートタイム労働者、外人労働者問題	労働法でいわれる「労働者」、「使用者」とは何かを理解してください。また、現代における多様な働き方についても概観します。
4	労働契約	・労働契約の解釈枠組 ・労働契約上の権利・義務	労働契約によって使用者と労働者にどのような権利・義務が発生するかを理解してください。
5	雇用関係の成立	・採用の自由 ・採用内定、内々定、試用 ・労働条件の明示	採用に至る各段階について労働法がどのような規定をおいているかを概観してみましょう。
6	雇用関係の展開①	・昇進、昇格、降格 ・配転 ・出向、転籍	日本企業は人事に対して広範な決定権限を持っているといわれています。その具体的な内容と問題点を理解してください。
7	雇用関係の展開②	・職場規律と懲戒	企業による懲戒の法的根拠、内容、種類などを理解してください。
8	雇用関係の終了	・解雇 ・解雇以外の終了事由 ・終了後の法規制	雇用関係が終了する事由にはどのようなものがあるかを概観してみましょう。
9	基本的労働条件①	・賃金の種類と体系 ・賃金請求権 ・賃金の法規制	労働条件のうちで最も重要なものの1つである賃金について、その内容を理解してください。
10	基本的労働条件②	・労働時間法制の意義と現状 ・労働時間制度の基本的枠組み	賃金と並んで労働者にとって最も重要な労働条件の１つである労働時間について、労働法がどのような規制をしているか理解してください。
11	基本的労働条件③	・労働時間制度の特則	労働時間の基本的枠組みに対して、これを柔軟化するための特別の制度が労働基準法には定められています。それぞれの制度の内容と意義を理解してください。
12	基本的労働条件④	・休暇	日本で法律上認められている休暇について、どのようなものがあるかを確認してください。
13	労働者の安全、健康の確保	・労働安全衛生 ・労災補償	労働者が働くうえで安全や健康を確保することが、労働法の原点の１つです。そのために、労働法がどのような定めをしているかを確認してください。
14	年少者、女性の保護 労働と私生活の調和	・年少者の保護 ・女性の保護 ・育児介護休業法	近年、労働と私生活の調和を図ることの重要性が認識されるようになっています(ワーク・ライフ・バランス)。年少者、女性の保護とあわせて、その内容を理解してください。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目：法学入門、日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法［第10版］	菅野 和夫	弘文堂、2012年
2	労働法［第5版］	水町 勇一郎	有斐閣、2014年
3	労働法［第12版］	安枝 英訷／西村 健一郎	有斐閣、2014年

評価方法（基準）	学期末テストの成績と授業中に実施する確認テストによって総合的に評価します（評価基準は、学期末テストが７０％、確認テストが３０％）。ただし受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります（レポートを実施した場合の評価基準は、レポートが５５％、確認テストが４５％）。
学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。

科目名	労働法Ⅱ	科目名（英文）	Labor Law II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田　剛志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】商業の関係科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	労働法は、個別的労働関係法、雇用保障法(労働市場法)、団体的労働関係法などに大きく分かれるといわれています。この授業では、団体的労働関係法に属し、労働者、使用者と並ぶ重要な主体である労働組合について規定している労働組合法の内容を概観します。また、雇用保障に関する法律を概観したいと考えています。
到達目標	勤労者の団結する権利は憲法 28 条によって保障されています。労働組合の組織率が低下しており、争議行為も減少している現在においても、「労働者が使用者との交渉において対等の立場にたつことを促進することにより労働者の地位を向上させること」、「労働条件の維持改善その他経済的地位の向上を図ること」を目的とする労働組合は、なお重要な地位を占めているということができます。そうした、労働組合の意義、内容、問題点を理解することをこの授業では目標としています。 また、労働者に就労の機会を保障し、労働者の雇用の安定を図り、失業した労働者の労働関係への復帰を促進することを目的とする法律の内容を認識することも目標となります。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	団体的労働関係法の歴史と現状	・労働法制の概観 ・労使関係の現状と問題点 ・労働法の意義、性格	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでくると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働組合	・労働組合の要件 ・労働組合の組織と運営	労働組合がなぜ法的に保護されているのかの理由、労働組合の要件について理解してください。
3	団体交渉	・団体交渉の法的枠組み ・団体交渉義務の内容 ・団交拒否の救済方法	労働者の集団が代表者を通じて使用者と行う交渉である団体交渉について、基本的な内容を理解してください。
4	労働協約①	・労働協約の意義 ・労働協約の効力	労働協約の意義と効力について理解してください。
5	労働協約②	・労働協約の拡張適用(一般的拘束力) ・労働協約の終了	労働協約がどのような場合に組合員以外に拡張して適用されるかを理解してください。
6	労働者の団体行動①	・争議行為の概念 ・団体行動の正当性 ・争議行為と賃金	「争議行為」について、その内容やどのような場合に保障をうけることができるかを理解してください。
7	労働者の団体行動②	・違法な争議行為とその責任 ・争議行為と第三者	違法な争議行為が行われた場合の責任について、理解してください。
8	労働者の団体行動③	・使用者の争議対抗行為	使用者が、ストライキを中心とする労働者の争議行為に対抗する手段にどのようなものがあるか、概観してみましょう。
9	労働者の団体行動④	・法律による争議権の制限 ・労働争議の調整	争議行為が法律により制限・禁止されている場面、労働争議の調整を定める労働関係調整法の規定を概観します。
10	組合活動	・組合活動の法的保障 ・就業時間中の組合活動 ・企業施設利用の組合活動 ・組合活動に対する便宜供与	就業時間中に組合活動を行うこと、ビラ貼り、ビラ配布の正当性、組合活動への便宜供与について、判例の流れを参照にして、理解してください。
11	不当労働行為①	・不当労働行為の趣旨 ・不当労働行為の主体	労働組合法7条に定められている不当労働行為の趣旨を理解してください。
12	不当労働行為②	・不当労働行為の成立要件	不当労働行為にはどのような種類があり、それぞれどのような要件があれば成立するかを理解してください。
13	不当労働行為③	・不当労働行為の救済	不当労働行為の救済として、労働委員会による救済と、裁判所による救済の2つのルートを概観します。
14	雇用保障	・雇用保障の意義と体系 ・職業紹介、募集 ・職業訓練 ・失業防止、雇用安定と失業者救済	雇用保障に関係する法律の内容を概観します。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補捉したいと考えています。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目	法学入門、日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法［第 10 版］	菅野 和夫	弘文堂、2012 年
2	労働法［第 5 版］	水町 勇一郎	有斐閣、2014 年
3	労働法［第 12 版］	安枝 英訷／西村 健一郎	有斐閣、2014 年

評価方法（基準）	学期末テストの成績と授業中に実施する確認テストによって総合的に評価します（評価基準は、学期末テストが７０%、確認テストが３０%）。ただし受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります（レポートを実施した場合の評価基準は、レポートが５

	５%、確認テストが４５%)。
学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。

基　　礎　　科　　目

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	籔井　恵美子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎英文法、語彙力を強化し、読解力、表現力の向上を目指します。 また、日常生活の場面で用いられる実用的な英文や図表に慣れ、そこから適確な情報を得られるよう、適宜 TOEIC 関連の追加教材を用いたいと思います。
到達目標	学生は基礎的英語能力を向上することができる.
授業方法と留意点	テキストを中心に行います。辞書は必ず持参して下さい。時間内に質疑応答時間を設けます。
科目学習の効果（資格）	英検、TOEIC 受験のための基礎英語能力を養う

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明	―――――	―――――
2	Lesson3	代名詞	演習３
3	Lesson4	代名詞	演習４
4	Lesson5	時制	演習５
5	Lesson6	時制	演習６
6	Lesson7	時制	演習７
7	Lesson8	助動詞	演習８
8	Lesson9	助動詞	演習９
9	Lesson10	態	演習１０
10	Lesson11	態	演習１１
11	Lesson12	不定詞	演習１２
12	Lesson13	不定詞	演習１３
13	Lesson3～13	Grammar Point のまとめ	授業の復習
14	総合復習	総合復習	授業の復習
15	プリント教材	TOEIC 演習	―――――

関連科目	英語Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Mastering Basic English Grammar	北山長貴	成美堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Tes WORD BOOK	西谷恒志	成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	（小）テスト、授業中の発表、課題などを総合的に評価します。（単語小テスト　２０％）
学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	予習，復習は毎回 1 時間

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西谷　継治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	高校までに学習した英文法の復習と同時に、それに関連するTOEICテストのテーマの学習を通して、TOEICテストに慣れ親しむ。授業では4技能のうち特にリーディング力、リスニング力の向上に力を入れる。語彙については補助テキストから単語テストを行う。 教科書は実際に報道された英字新聞の記事を用いたもので、教育・文化・科学・天災・スポーツと多岐にわたる、最新の話題を含む。受講生は、時事問題に触れると同時に国際感覚を養ってほしい。英文も大学生にふさわしいレベルとなっており、実践的、総合的な英語の運用能力の訓練になるだろう。
到達目標	
授業方法と留意点	1回の授業で、教科書の1Unitを学習する。教科書については、本文の和訳だけでなく、文法事項の復習、語彙の習得にも重点を置く。必要に応じてプリント等（教員から配布）も使用する。毎回の授業時間内(終了前)に質問時間をとるので、積極的に活用してほしい。授業の前後には、必ず予習、復習することが必要である。 大体5課ごとに理解度を確認するために小テストを行う。授業の冒頭で、TOEIC対策として単語テストも行う。授業にはできるだけ辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	さまざまな分野の優れた英文に触れ、視野を広げる。 文法力と読解力を向上させる。 TOEICテストに慣れ親しむ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書Unit 1の予習。
2	Unit 1: Silk Road added tp World Heritage list	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P.1-6 単語：NO.1-30
3	Unit 2: U.K.court: Richard III to be buried in Leicester	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 7-12 単語：NO.21-50
4	Unit 3: Skeleton sheds light on 1st Americans	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 13-18 単語：NO.41-70
5	Unit 4: Pope Francis hosts prayer summit	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 19-24 単語：NO.61-90
6	Unit 5: U.S. to curb land mines, aiming to join global treaty	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 25-30 単語：NO.81-110
7	教科書 Unit 1-5　テスト	Unit 1～5までの内容について小テストを行う。	Unit 1-5 テスト勉強
8	中間試験解説及び評	演習	単語：NO.101-130
9	Unit 6: Female-named hurricanes 'deadlier'	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P.　31-36 単語：NO.121-150
10	Unit 7: Subs make big impact right to the end	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 37-42 単語：NO.141-170
11	Unit 8: 'Virtual house calls' gaining interest in the U.S.	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 43-48 単語：NO.161-190
12	Unit 9: Bat maker to the stars announces retirement	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 49-54 単語：NO.181-210
13	Unit 10: South Sudan faces famine crisis	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 55-60 単語：NO.201-230
14	教科書　Unit 6-10 復習	単語小テスト及び教科書復習	Unit 6-10 復習 単語：NO.221-248
15	教科書Unit 6-10 テスト	Unit 6～10 までの内容について小テストを行う。	Unit 6-10 テスト勉強

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Meet the World: English through Newspape	Yasuhiko Wakaari	成美堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席は毎回とり、4回以上欠席した場合は単位を認定しない。教科書に関して各学期中に合計2回の小テストを行い、定期試験は実施しない。成績は、予習状況を含む平常点(30%)、TOEIC単語テスト(30%)、小テスト(40%)、で評価する。
学生へのメッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　尚子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では，高校までに学んだ文法項目をチェックし、さまざまな練習を通して確実に身につけるようにします。 しっかりした文法が身についていることで今後の英語学習が大変スムーズになりますので、真剣に取り組んでください。授業はまず学生に発表してもらい、その後解説をしてポイントを確認していくという形で進めます。尚、語彙を増やすために定期的に単語テストを行います。
到達目標	基礎的な文法をしっかりと身につけることによって、英語でのコミュニケーション能力を養うこと。
授業方法と留意点	授業は学生の発表と解説を中心に行いますので、指定された個所を必ず予習しておいてください。授業の最後に質疑応答の時間を設けます。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 等の資格試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習
2	Sentence Structure	文の成り立ち	テキストの予習と単語の学習
3	Pharase, Clause and Sentence	句・節・文	テキストの予習と単語の学習
4	Verbs	様々な動詞	テキストの予習と単語の学習
5	Present and Past	現在時制・過去時制	テキストの予習と単語の学習
6	Future	単純未来・意志未来	テキストの予習と単語の学習
7	Nouns and Articles	名詞・冠詞	テキストの予習と単語の学習
8	Pronouns(1)	代名詞(1)	テキストの予習と単語の学習
9	Pronouns(2)	代名詞(2)	テキストの予習と単語の学習
10	Progressive Form	様々な進行形	テキストの予習と単語の学習
11	Prefect Tenses(1)	様々な完了形(1)	テキストの予習と単語の学習
12	Perfect Teanses(2)	様々な完了形(2)	テキストの予習と単語の学習
13	Auxiliary Verbs(1)	助動詞の基本形	テキストの予習と単語の学習
14	Auxiliary Verbs(2)	助動詞の完了形	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	全ての英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Upgrade	小中 秀彦	成美堂
2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト(単語集)	西谷 恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	まとめテスト 40% 、単語テスト 20%、平常点(小テスト、授業への取り組み、提出物など)40%
学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください.
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習には 1 時間以上かけること。

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松木園　久子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	高校までに学習した内容を復習すると同時に、さらなる英語の基礎力を修得する。教科書はTOEICテストに準じた形式の問題を含んでいるので、TOEICテストに慣れ親しむことができるだろう。技能面では、特に読解力、聴解力の向上に力を入れる。加えて、語彙力については補助テキストを用い、授業時間内に単語テストを行う。
到達目標	文章を明確に読む読解力と、短い文を聞き取る聴解力を向上させる。 TOEIC bridge、TOEICテストに慣れ親しむ。
授業方法と留意点	２回の授業で、教科書の１課分を学習する。予習を指示した箇所は、必ず辞書を引いて、問題を解いておくこと。授業では、文法の解説、重要な単語・熟語の指摘、間違えやすいパターンを解説する。各自で自分の苦手な箇所を見つけ出し、ノートを取るなど、積極的に弱点克服に努めること。必要に応じてプリント等（教員から配布）も使用する。毎回の授業時間内(終了前)に質問時間をとるので、積極的に活用してほしい。授業の前後には、必ず予習、復習することが必要である。 理解度を確認するために、学期中に小テストを２回行う。また月に１回、授業の冒頭で単語小テストを行う。授業にはできるだけ辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC bridge、TOEICテストのスコアアップを目指す。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書Chapter 1リスニングの予習。
2	Chapter 1 (1)	Part 1：人物の動作と状態　Part 2：冒頭部分の聞き取り　Part 3/4：頻出疑問文	教科書Chapter 1リスニングの復習およびChapter 1リーディングの予習。
3	Chapter 1 (2)	Part 5/6：可算名詞と不可算名詞　Part 7：トピックと目的	教科書Chapter 1リーディングの復習およびChapter 2リスニングの予習。
4	Chapter 2 (1)	Part 1：人物の動作と周りの物　Part 2：冒頭部分と時制の聞き取り　Part 3/4：場所の推測	教科書Chapter 2リスニングの復習およびChapter 2リーディングの予習。
5	Chapter 2 (2)	Part 5/6：名詞の数え方　Part 7：頻出設問文	教科書Chapter 2リーディングの復習およびChapter 3リスニングの予習。
6	Chapter 3 (1)	Part 1：人物の動作以外の情報　Part 2:５W1Hの疑問文に対する答え方　Part 3/4：アナウンスのトピックと場所	教科書Chapter 3リスニングの復習およびChapter 3リーディングの予習。
7	Chapter 3 (2)	Part 5/6：動詞の形　Part 7：トピックと目的	教科書Chapter 1〜3の復習。
8	小テストおよび短いリーディング	Chapter 1〜3 の内容について小テストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	教科書Chapter 4リスニングの予習。
9	Chapter 4 (1)	Part 1：人物の動作以外の情報　Part 2:５W1Hの疑問文に対する答え方　Part 3/4：話し手と聞き手の推測	教科書Chapter 4リスニングの復習およびChapter 4リーディングの予習。
10	Chapter 4 (2)	Part 5/6：動詞の形　Part 7：聞き手と読み手の推測	教科書Chapter 4リーディングの復習およびChapter 5リスニングの予習。
11	Chapter 5 (1)	Part 1：複数の人物の動作　Part 2：質問文の主語と動詞に注意　Part 3/4：話し手と聞き手の推測	教科書Chapter 5リスニングの復習およびChapter 5リーディングの予習。
12	Chapter 5 (2)	Part 5/6：接頭辞　Part 7：書き手と読み手の推測	教科書Chapter 5リーディングの復習およびChapter 6リスニングの予習。
13	Chapter 6 (1)	Part 1：状況の細部　Part 2：Yes, No疑問文に対する答え　Part 3/4：話し手と聞き手の次の行動の推測	教科書Chapter 6リスニングの復習およびChapter 6リーディングの予習。
14	Chapter 6 (2)	Part 5/6：名詞を作る接尾辞　Part 7：読み手の次の行動の推測	教科書Chapter 4〜6までの復習。
15	小テストおよび短いリーディング	Chapter 4〜6 までの内容について小テストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	前期で学んだ文法事項、TOEICのポイントを復習。

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Practical Tips for the TOEIC Test　ストラテジーで学ぶTOEICテスト(ISBN:9784791931231)	杉田麻哉	成美堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test; Word Book		成美堂
2			
3			

評価方法	出席は毎回とり、４回以上欠席した場合は単位を認定しない。教科書に関して各学期中に合計２回の小テストを行い、定期試験は実施しない。成

(基準)	績は、単語テスト(20%)、予習状況を含む平常点(40%)、小テスト(40%)、で評価する。
学生へのメッセージ	この授業はTOEIC形式の問題を中心に行いますが、あくまで基礎力の修得を重視します。それは、新聞・雑誌・論文・文学などすべての英語の基礎となるものです。気を抜かず、しっかり身につけましょう。受け身ではなく、各自が積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大神　雄一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	リスニング・リーディングを中心に、英語の基礎的学力の習得を目的とする。学生による演習活動を重視しながら、教員による解説を通じ、学習内容の理解と定着を目指す。 学科の学習・教育目標との対応：[A]
到達目標	中学・高校までの学習内容を改めて確認しながら、今後の大学での英語学習や、TOEICなどの資格試験対策の土台となる力を身につける。
授業方法と留意点	テキストの学習項目に従って、リスニング・リーディングの演習に取り組んだ上で、教員から解説を行う。あわせて、授業テーマに関連する文法項目の確認と練習を行う。授業はテキストに沿って進めるので、各自指定のテキストを購入しておくこと。授業には辞書を持参することが望ましい。予習・復習および単語の学習と小テストについては、初回のオリエンテーションおよび各授業時に指示する。
科目学習の効果（資格）	TOEICスコアーアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容、予習復習、単語テスト、成績評価などについて説明する。	（事後学習として）次回の予習
2	Unit1：自己紹介	つながる音① 名詞の学習	予習・復習 指定単語の学習
3	Unit2：家族・ペット	つながる音② 動詞	予習・復習 指定単語の学習
4	Unit3：趣味	つながる音③ 主語＋動詞＋～	予習・復習 指定単語の学習
5	Unit4：大学生活	消える音① 人称代名詞	予習・復習 指定単語の学習
6	Unit5：食べ物	消える音② 疑問詞	予習・復習 指定単語の学習
7	Unit 6：コンサート	消える音③ How～？	予習・復習 指定単語の学習
8	課題テスト① フィードバック	ここまでの内容の復習と確認テスト	ここまでの総復習
9	Unit7：道案内	変化する音① 助動詞①	予習・復習 指定単語の学習
10	Unit8：日本文化の紹介	変化する音② 助動詞②	予習・復習 指定単語の学習
11	Unit9：ジェスチャー	変化する音③ 前置詞	予習・復習 指定単語の学習
12	Unit10：観光案内	変化する音④ 過去形、現在形、未来形	予習・復習 指定単語の学習
13	Unit11 航空券をnetでget	カタカナ語の発音 現在進行形	予習・復習 指定単語の学習
14	Unit12：e-mailを送る	数字の聴き取り Review	予習・復習 指定単語の学習
15	課題テスト② フィードバック	ここまでの内容の復習と確認テスト	ここまでの総復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English　総合英語パワーアップ＜入門編＞	JACETリスニング研究会	南雲堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	以下３つの項目より、１００点満点にて成績評価を行う。 単語テスト：２０％　（授業中に行う単語小テストの評価。学習範囲と試験スケジュールはオリエンテーション・授業にて指示する） 平常点：３０％　（予習と授業への取り組み状況に基づき評価。居眠り等で活動を行っていない場合は出席していても評価を与えない） 課題テスト：５０％　（２回の課題テストの合計得点を５０点に換算して評価。テストの概要は授業時に説明する）
学生へのメッセージ	この授業では、中学・高校レベルの英語基礎力の徹底を目指しながら、リスニングとリーディングの活動を中心に学習を進めていきます。英語の学習は面倒なことが多いと感じる人もいるかと思いますが、ゆっくり地道に学習を進められるよう心がけますので、英語が苦手な人・嫌いな人もポジティブに取り組んでもらえればと思っています。
担当者の研究室等	外国語学部事務室向かい・非常勤講師室
備考	質問・相談がある場合、授業前後にでも声をかけてください。適宜必要な対応を検討します。

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スミザース　理恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	In this course, students will learn reading comprehension so that English activities such as communication, discussion, summarization and presentation can take place.　Specifically, students will learn to discover the main points of passages and summarize them effectively rather then engage in word for word translation. We also focus on reading the material aloud in order to convey the message of the written texts with proper English pronunciation.
到達目標	The students can: (1) improve reading skills in English; (2) learn English pronunciation; (3) improve communication skills in English; and (4) improve listening skills in English.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students will be required to actively participate in class activities. Students will have a vocabulary quiz from 『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK』 (No. 249-386) once a month.
科目学習の効果（資格）	Through English activities, students will become familiar and confident using English and learn reading and listening comprehension skills so that performance on English qualification tests such as TOEIC or Eiken can be improved.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class orientation and goal setting Introducing William Shakespeare and 『Macbeth』	Course overview, objectives, learning outcomes, and explanation of assessment	Students should prepare their own textbook.
2	Reading『Macbeth』Chapter 1	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
3	Reading『Macbeth』Chapter 1 Vocabulary Quiz 1 (No. 249-276)	Reading comprehension English activities Vocabulary quiz	Students should prepare for the vocabulary quiz.
4	Reading『Macbeth』Chapter 1	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
5	Review of 『Macbeth』Chapter 1	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
6	Reading『Macbeth』Chapter 2 Vocabulary Quiz 2 (No. 277-312)	Reading comprehension English activities Vocabulary quiz	Students should prepare for the vocabulary quiz and read assigned text.
7	Wrap-up and review test	Review of the first half of the course	Students should prepare for the review quiz.
8	Reading『Macbeth』Chapter 2	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
9	Reading『Macbeth』Chapter 2	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
10	Review of 『Macbeth』Chapter 2	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
11	Reading『Macbeth』Chapter 3 Vocabulary Quiz 3 (No. 313-350)	Reading comprehension English activities Vocabulary quiz	Students should prepare for the vocabulary quiz and read assigned text.
12	Reading『Macbeth』Chapter 3	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
13	Reading『Macbeth』Chapter 3	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
14	Review of 『Macbeth』Chapter 3 Vocabulary Quiz 4 (No. 351-386)	Reading comprehension English activities Vocabulary quiz	Students should prepare for the vocabulary quiz and read the assigned text.
15	Wrap-up and review Test	Review of the course	Students should prepare for the review quiz.

関連科目	他の英語関係科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Macbeth	William Shakespeare (Adapted by Alistair McCallum)	Oxford UP
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: Word Book	Koji Nishiya	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	In-class activities and participation (30%) Vocabulary quizzes (20%) Review Quizzes (25×2%)
学生へのメッセージ	If you have any questions or need advice about the successful completion of the course, feel free to contact me anytime.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室

備考	

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曽我　直隆
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

- 英語を「勘で」理解するのではなく、構文を把握して理解できるようになろう
- 大学生にふさわしい教養を身につけよう

到達目標

- 英語の構文をとらえられるようになる
- TOEIC の問題形式に慣れる
- メディアリテラシーを身につけ、ものごとを多角的に見られるようになる

授業方法と留意点

授業方法
- CALL 教室でのパソコンを使った授業

留意点
- 辞書を持ってくること。
- 毎回の授業初めに Quiz（小テスト）を実施する。遅刻すると受けられなくなるので、注意すること。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要説明	授業内で指示
2	多読学習法	Quiz01 Graded Readers を使った多読学習法を体験	授業内で指示
3	Unit 1 part I	Quiz02 基礎演習 カタカナ英語でも通じる発音方法	授業内で指示
4	Unit 1 part II	Quiz03 応用演習	授業内で指示
5	Unit 2 part I	Quiz04 基礎演習	授業内で指示
6	Unit 2 part II	Quiz05 応用演習	授業内で指示
7	Unit 3 part I	Quiz06 基礎演習	授業内で指示
8	Unit 3 part II	Quiz07 応用演習	授業内で指示
9	Unit 4 part I	Quiz08 基礎演習	授業内で指示
10	Unit 4 part II	Quiz09 応用演習	授業内で指示
11	Unit 5 part I	Quiz10 基礎演習	授業内で指示
12	Unit 5 part II	Quiz11 応用演習	授業内で指示
13	Unit 6 part I	Quiz12 基礎演習	授業内で指示
14	Unit 6 part II	Quiz13 応用演習	授業内で指示
15	総復習	Quiz14 期末試験対策	授業内で指示

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Network Starter Student Book	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
2			
3			

評価方法（基準）

Quiz（毎回の小テスト）：　40%
課題提出：　20%
期末試験：　40%

なお、多読マラソンへの参加（任意）をボーナス点とし、期末試験の得点に加算する（詳細は初回授業で）。

学生へのメッセージ

皆さんには、在学中にひとりで外国を旅してくることを勧めます。
旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。

若者の旅行者が集まる安宿が、どこの国にもあります。
そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。
今のあなたの英語力でも大丈夫。
インド英語、中国英語、ヒスパニック英語…　いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。

	海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。 帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。 時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。 お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。 自分の英語が通じるか心配？　なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	・辞書について 中級（TOEIC750～850 点程度）になるまでは、紙の辞書を薦める。電子辞書を使うなら、ディスプレイの大きなもの（＝表示される情報量の多いもの）を。携帯端末の辞書アプリ等は、上級者以外には薦めない。 ・資格試験（TOEIC など）について 資格試験は語学習得のための手段であり、目的ではない。目的は「英語が使えるようになる」こと。小手先の受験テクニックに走らず、力をつけるための本道を進もう。

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野　華子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会のさまざまな問題に触れながら、基礎的な英文読解力英の養成を目指す。２３０－２８０語程度の英文を読み、単語力とともに英文を理解する力、文法事項の理解力を高める。
到達目標	基礎力を高め、英語総合力の向上
授業方法と留意点	毎回授業の初めに前回授業分の連語・イディオムの小テストを行う。また数回 TOEIC の単語テストを行う（範囲は単語帳の２４９－３８６）。 必ず辞書をもってくること。
科目学習の効果（資格）	ＴＯＥＩＣテストの単語力増強と基本的な英語のスキル獲得効果

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業全般についての詳しい説明 Self-Introduction	単語テストの練習、単語テスト
2	Unit 1 Parties	テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
3	Unit 2 Payment on Date	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
4	Unit 3 Laughter	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
5	Unit 4 Traditional Cures	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
6	Unit 5 Back Injuries	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
7	Unit 6 Bookcrossing	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
8	中間テスト	Unit 1-6 のテスト	Unit 1-6 の復習
9	Unit 7 Blood Transfusion	テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
10	Unit 8 Dog Blood Donor	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
11	Unit 9 Bermuda Traiangle	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
12	Unit 10 Easter Island	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
13	Unit 11 Greek Food	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
14	Unit 12 Food Stylist	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
15	Test	Unit7-12 のテスト	Unit7-12 の復習

関連科目	英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Expert 1〈リーディング　エキスパート一基礎編一〉	宍戸　真、Kai Nordyke	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加　３０％ TOEIC 単語テスト２０％ テスト５０％
学生へのメッセージ	中高で学んだ英語を基礎にして、４技能の向上を目指しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	籔井　恵美子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎英文法、語彙力の強化をし、読解力、表現力の向上を目指します。 また、日常生活の場面で用いられる実用的な英文や図表に慣れ、そこから適確な情報を得られるよう、適宜 TOEIC 関連の追加教材を用いたいと思います。
到達目標	学生は基礎的英語能力を向上することができる.
授業方法と留意点	テキストを中心に行います。辞書を持参して下さい。時間内に質疑応答時間を設けます。 指定する 150 単語について、テキストを使い語彙力の強化向上を図る。 法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。
科目学習の効果（資格）	英検、TOEIC 受験のための基礎英語能力を養う TOEIC テストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明	―――――	―――――
2	Lesson１４	分詞	演習１４
3	Lesson１５	分詞	演習１５
4	Lesson１６	動名詞	演習１６
5	Lesson１７	動名詞	演習１７
6	Lesson１８	形容詞	演習１８
7	Lesson１９	比較	演習１９
8	Lesson２０	比較	演習２０
9	Lesson２１	関係詞	演習２１
10	Lesson２２	関係詞	演習２２
11	Lesson２３	仮定法	演習２３
12	Lesson２４	仮定法	演習２４
13	Lesson１４－２４	Grammar Point の復習	授業の復習
14	総合復習	総合復習	―――――
15	プリント教材	TOEIC 演習	―――――

関連科目	英語Ⅰ、英語ＩＩＩ、英語ＩＶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Mastering Basic English Grammar	北山長貴	成美堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 100 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK	西谷恒志	成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	（小）テスト、授業中の発表、課題などを総合的に評価します。 （単語小テスト２０％）
学生へのメッセージ	多くの英文を読みたいと思います。 予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　（非常勤講師室）
備考	予習，復習は毎回 1 時間

科目名	英語Ⅰc	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷　継治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

高校までに学習した英文法の復習と同時に、それに関連するTOEICテストのテーマの学習を通して、TOEICテストに慣れ親しむ。授業では4技能のうち特にリーディング力、リスニング力の向上に力を入れる。語彙については補助テキストから単語テストを行う。
教科書は実際に報道された英字新聞の記事を用いたもので、教育・文化・科学・天災・スポーツと多岐にわたる、最新の話題を含む。受講生は、時事問題に触れると同時に国際感覚を養ってほしい。英文も大学生にふさわしいレベルとなっており、実践的、総合的な英語の運用能力の訓練になるだろう。

到達目標

授業方法と留意点

1回の授業で、教科書の1課分を学習する。教科書については、本文の和訳だけでなく、文法事項の復習、語彙の習得にも重点を置く。必要に応じてプリント等（教員から配布）も使用する。毎回の授業時間内(終了前)に質問時間をとるので、積極的に活用してほしい。授業の前後には、必ず予習、復習することが必要である。
大体5課ごとに理解度を確認するために小テストを行う。授業の冒頭で、TOEIC対策として単語テストも行う。授業にはできるだけ辞書を持参すること。

科目学習の効果（資格）

さまざまな分野の優れた英文に触れ、視野を広げる。
文法力と読解力を向上させる。
TOEICテストに慣れ親しむ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 11: Hacker helps FBI stop 300 cyberattack	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.61-66 単語：　NO.387-416
2	Unit 12: Hanyu reflects on March 2011 disaster after win	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.67-72 単語：　NO.397-426
3	Unit 13: Daily life in Japan lures tourists	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.73-78 単語：　NO.407-436
4	Unit 14: Fierce and adorable, Domo-kun a hit overseas	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.79-84 単語：　NO.417-446
5	Unit 15: Job seekers need real vision: Entrepreneur	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.85-90 単語：　NO.427-456
6	Unit 11-15 総復習	単語小テスト及び教科書演習	教科書： 単語：　NO.437-466
7	中間テスト	Unit 11～15までの内容についてテスト	教科書： 単語：　NO.447-476
8	中間試験解説及び評	中間試験の詳しい解説	教科書：　P. 単語：　NO.457-486
9	Unit 16: Nearly bliind man to get 'bionic eye'	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P. 91-96 単語：　NO.467-496
10	Unit 17: Japanese smartphones makinng headway overseas	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.97-102 単語：　NO.477-506
11	Unit 18: Tablets a hit with kids, but experts worry	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.103-108 単語：　NO.487-516
12	Unit 19: New Hello Work helps young find regular jobs	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.109-114 単語：　NO.497-526
13	Unit 20：Germany stops job program for unemployed EU youth	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.115-120 単語：　NO.507-523
14	Unit16-20 総復習	Unit16-20 総復習	教科書Unit 16～20までの復習
15	Unit 16-20 テスト	Unit 16～20までの内容についてテストを行う	Unit16-20 テスト勉強

関連科目

特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Meet the World: English through Newspapers 2015	Yasuhiko Wakaari	成美堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

出席は毎回とり、4回以上欠席した場合は単位を認定しない。教科書に関して各学期中に合計2回の小テストを行い、定期試験は実施しない。成績は、予習状況を含む平常点(30%)、TOEIC単語テスト(30%)、小テスト(40%)、で評価する。

学生へのメッセージ

この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。

担当者の研究室等

7号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	英語Ⅰc	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　尚子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では，高校までに学んだ文法項目をチェックし、さまざまな練習を通して確実に身につけるようにします。 しっかりした文法が身についていることで今後の英語学習が大変スムーズになりますので，真剣に取り組んでください。授業はまず学生に発表してもらい、その後解説をしてポイントを確認していくという形で進めます。尚、語彙を増やすために定期的に単語テストを行います。
到達目標	基礎的な文法をしっかりと身に着けることによって、英語でのコミュニケーション能力を養うこと。
授業方法と留意点	授業は学生の発表と解説を中心に行いますので、指定された個所を必ず予習しておいてください。授業の最後に質疑応答の時間を設けます。
科目学習の効果（資格）	TOEIC等の資格試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テキストのUnit 10までのチェック及び課題	テキストのUnit 10までの内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習
2	Passive Voice	受動態、受け身を表す表現	テキストの予習と単語の学習
3	Infinitives	to不定詞と原形不定詞	テキストの予習と単語の学習
4	Gerunds(1)	動名詞と不定詞	テキストの予習と単語の学習
5	Gerunds(2)	動名詞を含む表現	テキストの予習と単語の学習
6	Paerticiples	現在分詞・過去分詞	テキストの予習と単語の学習
7	Adjectives	様々な形容詞	テキストの予習と単語の学習
8	Adverbs	様々な副詞	テキストの予習と単語の学習
9	Prepositions and Conjunctions	前置詞・接続詞	テキストの予習と単語の学習
10	Relatives(1)	関係代名詞	テキストの予習と単語の学習
11	Relatives(2)	関係副詞	テキストの予習と単語の学習
12	Comparatives and Negation	比較と否定の表現	テキストの予習と単語の学習
13	Subjinctive(1)	仮定法過去・過去完了	テキストの予習と単語の学習
14	Subjunctive(2)	仮定法現在、慣用表現	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	全ての英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Upgrade	小中 秀彦	成美堂
2	学校語彙で学ぶTOEICテスト(単語集)	西谷 恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	まとめテスト40%、 単語テスト20%、平常点(小テスト、授業への取り組み、提出物など)40%
学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習には1時間以上かけること。

科目名	英語Ⅰc	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松木園　久子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校までに学習した内容を復習すると同時に、さらなる英語の基礎力を修得する。教科書はTOEICテストに準じた形式の問題を含んでいるので、TOEICテストに慣れ親しむことができるだろう。技能面では、特に読解力、聴解力の向上に力を入れる。加えて、語彙力については補助テキストを用い、授業時間内に単語テストを行う。
到達目標	文章を明確に読む読解力と、短い文を聞き取る聴解力を向上させる。 TOEIC bridge、TOEICテストに慣れ親しむ。
授業方法と留意点	２回の授業で、教科書の１課分を学習する。予習を指示した箇所は、必ず辞書を引いて、問題を解いておくこと。授業では、文法の解説、重要な単語・熟語の指摘、間違えやすいパターンを解説する。各自で自分の苦手な箇所を見つけ出し、ノートを取るなど、積極的に弱点克服に努めること。必要に応じてプリント等（教員から配布）も使用する。毎回の授業時間内(終了前)に質問時間をとるので、積極的に活用してほしい。授業の前後には、必ず予習、復習することが必要である。 理解度を確認するために、学期中に小テストを２回行う。また月に１回、授業の冒頭で単語小テストを行う。授業にはできるだけ辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC bridge、TOEICテストのスコアアップを目指す。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	TOEIC模擬テスト	TOEICテストを1/2サイズにした模擬テストを行う。	教科書Chapter 7リスニングの予習。
2	Chapter 7 (1)	Part 1：周辺の状況と複数の人物の動作 Part 2：Yes, No 疑問文に対する答え Part 3/4：話し手と聞き手の次の行動の推測	教科書Chapter 7リスニングの復習およびChapter 7リーディングの予習。
3	Chapter 7 (2)	Part 5/6：名詞を作る接尾辞　Part 7：読み手の次の行動の推測	教科書 Chapter 7 リーディングの復習およびChapter 8リスニングの予習。
4	Chapter 8 (1)	Part 1：周辺の状況と複数の人物の動作 Part 2：Yes, No 疑問文に対する答え Part 3/4：パラフレーズ	教科書Chapter 8リスニングの復習およびChapter 8リーディングの予習。
5	Chapter 8 (2)	Part 5/6：形容詞や副詞を作る接尾辞 Part 7：パラフレーズ	教科書 Chapter 8 リーディングの復習およびChapter 9リスニングの予習。
6	Chapter 9 (1)	Part 1：風景写真の細部　Part 2：依頼文に対する答え　Part 3/4：パラフレーズ	教科書Chapter 9リスニングの復習およびChapter 9リーディングの予習。
7	Chapter 9 (2)	Part 5/6：動詞、不定詞　Part 7：パラフレーズ	教科書Chapter 7～9の復習。
8	小テストおよび短いリーディング	Chapter 7～9 の内容について小テストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	教科書Chapter 10リスニングの予習。
9	Chapter 10 (1)	Part 1：風景写真の細部　Part 2：依頼や誘いの文に対する答え　Part 3/4：パラフレーズ	教科書Chapter 10リスニングの復習およびChapter 10リーディングの予習。
10	Chapter 10 (2)	Part 5/6：分詞　Part 7：パラフレーズ	教科書 Chapter 10 リーディングの復習およびChapter 11リスニングの予習。
11	Chapter 11 (1)	Part 1：風景写真の細部　Part 2：依頼文に対する答え　Part 3/4：パラフレーズ	教科書Chapter 11リスニングの復習およびChapter 11リーディングの予習。
12	Chapter 11 (2)	Part 5/6：仮定法　Part 7：パラフレーズ	教科書 Chapter 11 リーディングの復習およびChapter 11リスニングの予習。
13	Chapter 12 (1)	Part 1：風景写真の細部　Part 2：誘いの文に対する答え　Part 3/4：パラフレーズ	教科書Chapter 12リスニングの復習およびChapter 12リーディングの予習。
14	Chapter 12 (2)	Part 5/6：助動詞　Part 7：パラフレーズ	教科書Chapter 10～12までの復習。
15	小テストおよび短いリーディング	Chapter 10～12 までの内容について小テストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	後期で学んだ文法事項、TOEICのポイントを復習。

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Practical Tips for the TOEIC Test　ストラテジーで学ぶTOEICテスト(ISBN:9784791931231)	杉田麻哉	成美堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test; Word Book		成美堂
2			
3			

評価方法（基準）：出席は毎回とり、4回以上欠席した場合は単位を認定しない。教科書に関して各学期中に合計２回の小テストを行い、定期試験は実施しない。成績は、単語テスト(20%)、予習状況を含む平常点(40%)、小テスト(40%)、で評価する。

学生への メッセージ	この授業はTOEIC形式の問題を中心に行いますが、あくまで基礎力の修得を重視します。それは、新聞・雑誌・論文・文学などすべての英語の基礎となるものです。気を抜かず、しっかり身につけましょう。受け身ではなく、各自が積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大神　雄一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	リスニング・リーディングを中心に、英語の基礎的学力の習得を目的とする。学生による演習活動を重視しながら、教員による解説を通じ、学習内容の理解と定着を目指す。 学科の学習・教育目標との対応：[A]
到達目標	中学・高校までの学習内容を改めて確認しながら、今後の大学での英語学習や、TOEIC などの資格試験対策の土台となる力を身につける。
授業方法と留意点	テキストの学習項目に従って、リスニング・リーディングの演習に取り組んだ上で、教員から解説を行う。あわせて、授業テーマに関連する文法項目の確認と練習を行う。授業はテキストに沿って進めるので、各自指定のテキストを購入しておくこと。授業には辞書を持参することが望ましい。予習・復習および単語の学習と小テストについては、初回のオリエンテーションおよび各授業時に指示する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC スコアーアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容、予習復習、単語テスト、成績評価などについて説明する。	（事後学習として）次回の予習
2	Unit１３：機内で	日本語にない音① 時間・気候を表す It	予習・復習 指定単語の学習
3	Unit１４：空港で	日本語にない音② 接続詞	予習・復習 指定単語の学習
4	Unit１５：ホテル	紛らわしい音① 不定詞	予習・復習 指定単語の学習
5	Unit１６：レストランで	紛らわしい音② 形容詞	予習・復習 指定単語の学習
6	Unit１７：ショッピング	紛らわしい音③ 頻度の副詞	予習・復習 指定単語の学習
7	Unit １８：ベースボール	紛らわしい音④ 比較	予習・復習 指定単語の学習
8	課題テスト① フィードバック	ここまでの内容の復習と確認テスト	ここまでの総復習
9	Unit１９:ミュージカル鑑賞	語頭と語尾の音 現在完了	予習・復習 指定単語の学習
10	Unit２０：旅行案内	つづりと発音① 受動態①	予習・復習 指定単語の学習
11	Unit２１：トラブル・シューティング	つづりと発音② 受動態②	予習・復習 指定単語の学習
12	Unit２２：体調不良	pause のとり方 分詞	予習・復習 指定単語の学習
13	Unit２３:電話での申し込み	イントネーション 動名詞	予習・復習 指定単語の学習
14	Unit２４：さよなら、アメリカ！	センス・グループ ここまでの Review	予習・復習 指定単語の学習
15	課題テスト② フィードバック	ここまでの内容の復習と確認テスト	ここまでの総復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English　総合英語パワーアップ＜入門編＞	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	以下３つの項目より、１００点満点にて成績評価を行う。 単語テスト：２０％　（授業中に行う単語小テストの評価。学習範囲と試験スケジュールはオリエンテーション・授業にて指示する） 平常点：３０％　（予習と授業への取り組み状況に基づき評価。居眠り等で活動を行っていない場合は出席していても評価を与えない） 課題テスト：５０％　（２回の課題テストの合計得点を５０点に換算して評価。テストの概要は授業時に説明する）
学生へのメッセージ	この授業では、中学・高校レベルの英語基礎力の徹底を目指しながら、リスニングとリーディングの活動を中心に学習を進めていきます。英語の学習は面倒なことが多いと感じる人もいるかと思いますが、ゆっくり地道に学習を進められるよう心がけますので、英語が苦手な人・嫌いな人もポジティブに取り組んでもらえればと思っています。
担当者の研究室等	外国語学部事務室向かい・非常勤講師室
備考	質問・相談がある場合、授業前後にでも声をかけてください。適宜必要な対応を検討します。

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スミザース　理恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	In this course, students will continue to learn reading comprehension so that English activities such as communication, discussion, summarization and presentation can take place. Specifically, students will learn to discover the main points of passages and summarize them effectively rather then engage in word for word translation. We also focus on reading the material aloud in order to convey the message of the written texts with proper English pronunciation.
到達目標	The students can: (1) improve reading skills in English; (2) learn English pronunciation; (3) improve communication skills in English; and (4) improve listening skills in English.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students will be required to actively participate in class activities. Students will have a vocabulary quiz from 『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK』 (No. 524-713) once a month.
科目学習の効果（資格）	Through English activities, students will become familiar and confident using English and learn reading and listening comprehension skills so that performance on English qualification tests such as TOEIC or Eiken can be improved.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class orientation and goal setting Review of 『Macbeth』	Course overview, objectives, learning outcomes, and explanation of assessment	Students should prepare their own textbook.
2	Reading『Macbeth』Chapter 4	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
3	Reading『Macbeth』Chapter 4 Vocabulary Quiz 1 (No. 524-569)	Reading comprehension English activities Vocabulary quiz	Students should prepare for the vocabulary quiz.
4	Reading『Macbeth』Chapter 4	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
5	Review of 『Macbeth』Chapter 4	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
6	Reading『Macbeth』Chapter 5 Vocabulary Quiz 2 (No. 570-619)	Reading comprehension English activities Vocabulary quiz	Students should prepare for the vocabulary quiz and read assigned text.
7	Wrap-up and review test	Review of the first half of the course	Students should prepare for the test.
8	Reading『Macbeth』Chapter 5	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
9	Reading『Macbeth』Chapter 5	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
10	Review of 『Macbeth』Chapter 5	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
11	Reading『Macbeth』Chapter 6 Vocabulary Quiz 3 (No. 620-671)	Reading comprehension English activities Vocabulary quiz	Students should prepare for the vocabulary quiz and read assigned text.
12	Reading『Macbeth』Chapter 6	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
13	Reading『Macbeth』Chapter 6	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
14	Review of 『Macbeth』Chapter 6 Vocabulary Quiz 4 (No. 672-713)	Reading comprehension English activities Vocabulary quiz	Students should prepare for the vocabulary quiz and read assigned text.
15	Wrap-up and review Test	Review of the course	Students should prepare for the review quiz.

関連科目	他の英語関係科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Macbeth	William Shakespeare (Adapted by Alistair McCallum)	Oxford UP
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: Word Book	Koji Nishiya	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	In-class activities and participation (30%) Vocabulary quizzes (20%) Review Quizzes (25%×2)
学生へのメッセージ	If you have any questions or need advice about the successful completion of the course, feel free to contact me anytime.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曽我　直隆
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

・　英語を「勘で」理解するのではなく、構文を把握して理解できるようになろう
・　大学生にふさわしい教養を身につけよう

到達目標

・　英語の構文をとらえられるようになる
・　TOEIC の問題形式に慣れる
・　メディアリテラシーを身につけ、ものごとを多角的に見られるようになる

授業方法と留意点

授業方法
・　CALL 教室でのパソコンを使った授業

留意点
・　辞書を持ってくること。
・　毎回の授業初めに Quiz（小テスト）を実施する。遅刻すると受けられなくなるので、注意すること。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要説明	授業内で指示
2	Unit 7 Part I	Quiz01 基礎演習	授業内で指示
3	Unit 7 Part II	Quiz02 応用演習	授業内で指示
4	Unit 8 part I	Quiz03 基礎演習	授業内で指示
5	Unit 8 part II	Quiz04 応用演習	授業内で指示
6	Unit 9 part I	Quiz05 基礎演習	授業内で指示
7	Unit 9 part II	Quiz06 応用演習	授業内で指示
8	Unit 10 part I	Quiz07 基礎演習	授業内で指示
9	Unit 10 part II	Quiz08 応用演習	授業内で指示
10	Unit 11 part I	Quiz09 基礎演習	授業内で指示
11	Unit 11 part II	Quiz10 応用演習	授業内で指示
12	Unit 12 part I	Quiz11 基礎演習	授業内で指示
13	Unit 12 part II	Quiz12 応用演習	授業内で指示
14	Unit 13	Quiz13 総合演習	授業内で指示
15	総復習	Quiz14 期末試験対策	授業内で指示

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Network Starter Student Book	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
2			
3			

評価方法（基準）

Quiz（毎回の小テスト）：　40%
課題提出：　20%
期末試験：　40%

なお、多読マラソンへの参加（任意）をボーナス点とし、期末試験の得点に加算する（詳細は初回授業で）。

学生へのメッセージ

皆さんには、在学中にひとりで外国を旅してくることを勧めます。
旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。

若者の旅行者が集まる安宿が、どこの国にもあります。
そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。
今のあなたの英語力でも大丈夫。
インド英語、中国英語、ヒスパニック英語…　いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。

海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。

	帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。 時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。 お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。 自分の英語が通じるか心配？　なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	・辞書について 中級（TOEIC750～850 点程度）になるまでは、紙の辞書を薦める。電子辞書を使うなら、ディスプレイの大きなもの（＝表示される情報量の多いもの）を。携帯端末の辞書アプリ等は、上級者以外には薦めない。 ・資格試験（TOEIC など）について 資格試験は語学習得のための手段であり、目的ではない。目的は「英語が使えるようになる」こと。小手先の受験テクニックに走らず、力をつけるための本道を進もう。

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中野　華子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会のさまざまな問題に触れながら、基礎的な英文読解力の養成を目指す。２３０－２８０語程度の英文を読み、単語力とともに英文を理解する力、文法事項の理解力を高める。
到達目標	基礎力を高め、英語総合力の向上
授業方法と留意点	毎回授業の初めに前回授業分の連語・イディオムの小テストを行う。また数回 TOEIC の単語テストを行う（範囲は単語帳の 524－713)。 必ず辞書をもってくること。
科目学習の効果（資格）	ＴＯＥＩＣテストの単語力増強と基本的な英語のスキル獲得効果

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業全般についての詳しい説明 Speaking Activity	単語テストの練習、単語テスト
2	Unit 13 Banknotes	テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
3	Unit 14 World Bank	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
4	Unit 15 Asimo	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
5	Unit 16 The Blue Screen Technique	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
6	Unit 17 Babe Ruth	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
7	Unit 18 Soccer Balls	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
8	中間テスト	Unit 13-18 のテスト	Unit 13-18 の復習
9	Unit 19 Christopher Reeve	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
10	Unit 20 Pearl S. Buch	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
11	Unit 21 Maneki Neko	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
12	Unit 22 Fortune Cookies	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
13	Unit 23 Liar	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
14	Unit 24 Colors	前回内容の小テスト テーマに沿った文を読み、問題に取り組み解説する。	授業内容の復習
15	Test	Unit19-24のテスト	Unit19-24の復習

関連科目	英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Expert 1〈リーディング　エキスパート一基礎編一〉	宍戸　真、Kai Nordyke	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加　３０％ TOEIC 単語テスト２０％ テスト５０％
学生へのメッセージ	中高で学んだ英語を基礎にして、４技能の向上を目指しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	里井　真理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、 Google や Disney など身近な話題を取り上げ社会に出る前に知っておきたいビジネストピックについて学んでいきます。基本的な英語力の向上、表やグラフなどの読み方なども行います。
到達目標	読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上
授業方法と留意点	各ユニットを１～2回の授業で進めていく予定です。 必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨みましょう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1　FedEx - An Express Courier Legend	授業内容についての説明 読解・問題（pp.1～3） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0714-0728）
2	1　FedEx - An Express Courier Legend	Review 読解・問題（pp.4～6） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0729-0743）
3	2　The Students Who Started Google	読解・問題（pp.6～9） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0744-0758）
4	2　The Students Who Started Google	Review 読解・問題（pp.9～12） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0759-0773）
5	3 Emotional Intelligence in the Workplace	読解・問題（pp.13～15） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0774-0788）
6	3 Emotional Intelligence in the Workplace	Review 読解・問題（pp.15～18） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0789-0803）
7	4 Toyota - R&D Powerhouse	読解・問題（pp.19～21） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0804-0818）
8	4 Toyota - R&D Powerhouse	Review 読解・問題（pp.21～24） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0819-0833）
9	5　Michael E. Porter - Management Guru	読解・問題（pp.25～27） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0834-0848）
10	5　Michael E. Porter - Management Guru	Review 読解・問題（pp.27～30） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0849-0863）
11	6　Harley-Davidson - A Legend Rolls On	読解・問題（pp.31～33） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0864-0878）
12	6　Harley-Davidson - A Legend Rolls On	Review 読解・問題（pp.33～36） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0879-0893）
13	7 Sporting Troubles - The Financial Fall of Leeds United	読解・問題（pp.37～39） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0894-0908）
14	7 Sporting Troubles - The Financial Fall of Leeds United	Review 読解・問題（pp.39～42） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（0909-0916）
15	General Review	１～７までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかり復習しておくこと。

関連科目	他の英語全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Business Sense	Andrew E. Bennett	南雲堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業態度（30%）＋ 授業時の課題・単語小テスト（30%）＋小テスト（40%）
学生への メッセージ	予習・復習をしっかりやりましょう。 授業への積極的な参加を期待します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷脇　康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	最新のニュース記事を取り扱った文献を読み、中学・高校で既習の文法事項の再確認と、基本的な読解力を身につけること。 TOEIC に対応する語彙・文法・聞き取り技能を向上させ、英語の総合力をアップさせること。
到達目標	中学・高校で既習した文法事項を再確認し、正しい語法を身につける。 まとった文献の内容が正しく理解できる読解力を身につける。 TOEIC に対応できる語彙・文法・読解・聞き取り技能を向上させる。
授業方法と留意点	毎回授業初めに単語テスト、もしくは聞き取りテストを行う。 テキスト本文は作業用紙による読解演習。練習問題は学生主体に解答を確認する。 毎回授業の最後に内容理解を診断する確認テストを行う。
科目学習の効果（資格）	ＴＯＥＩＣのスコアアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	シルクロード、世界遺産に追加(1)	聞き取りテスト 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
2	シルクロード、世界遺産に追加(2)	単語テスト テキスト練習問題と解答	単語 714-734 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
3	遺骸、最初のアメリカ人を解明(1)	単語テスト 作業用紙による読解演習	単語 735-760 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
4	遺骸、最初のアメリカ人を解明(2)	単語テスト テキスト練習問題と解答	単語 761-783 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
5	米国、国際条約への参加を目指し、地雷を制限(1)	単語テスト 作業用紙による読解演習	単語 784-808 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
6	米国、国際条約への参加を目指し、地雷を制限(2)	単語テスト テキスト練習問題と解答	単語 809-831 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
7	女性名のハリケーン、被害がより深刻に	単語テスト 作業用紙による読解演習	単語 832-853 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
8	授業１回～７回の総復習 中間テスト	質問と回答 中間テスト	１回～７回授業の質問をまとめておく。 中間テストの事前勉強
9	交代選手、最後の最後まで大きなインパクトを残す(1)	単語テスト 作業用紙による読解演習	単語 854-877 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
10	交代選手、最後の最後まで大きなインパクトを残す(2)	単語テスト テキスト練習問題と解答	単語 878-902 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
11	有名選手のバットを作り続けた職人、引退を発表(1)	単語テスト 作業用紙による読解演習	単語 903-916 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
12	有名選手のバットを作り続けた職人、引退を発表(2)	聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	授業内容の復習 確認テスト
13	南スーダン、飢餓の危機に直面(1)	聞き取りテスト 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
14	南スーダン、飢餓の危機に直面(2)	聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	授業内容の復習 確認テスト
15	授業９回～１４回の総復習 まとめのテスト	質問と回答 まとめのテスト	９回～１４回授業の質問をまとめておく。 まとめのテストの事前勉強

関連科目	英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Meet the World English through Newspapers 2015	若有保彦	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト　20% 確認テスト　20% 中間テスト　30% まとめのテスト　30%
学生へのメッセージ	授業はリズミカルにテンポよく進めます。 集中力をきらさず一生懸命ついてきてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　尚子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、様々なタスクや練習を通して、リスニング、スピーキング、ライティング、リーディング等の英語の運用能力を身につけて行きます。授業は学生の発表、ペアワーク等のアクティビティーを中心に進め、随時解説を加えて重要なポイントを押さえるようにします。これらのアクティビティーを通して、英語で自分の日常の様々な事柄について表現できるようにし、英語でのコミュニケーションができるようにしましょう。尚、語彙を増やすために定期的に単語テストを行います。
到達目標	英語でのコミュニケーションに必要な運用能力をつけること。
授業方法と留意点	授業は学生の発表やペアでの会話の練習などのアクティビティーが中心となるので、指定された個所を必ず予習して積極的に取り組んでください。重要なポイントは必ずメモを取ることも大切です。授業の最後に質疑応答の時間を設けますので、疑問に思ったことは必ず質問するようにしてください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 等の資格試験に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習
2	Where is the PC room?	場所を訪ねる/ 自己紹介	テキストの予習と単語の学習
3	What does "term" mean?	わからない言葉を尋ねる/ お気に入りの場所の紹介	テキストの予習と単語の学習
4	When does Golden Week start?	日程を確認する/ 休日の過ごし方	テキストの予習と単語の学習
5	I'm a member of the International Exchange Club.	クラブ活動を説明する/ 自分の所属クラブの紹介	テキストの予習と単語の学習
6	I have a part-time job as a sales clerk.	アルバイトについて説明する/自分のアルバイトについて書く	テキストの予習と単語の学習
7	What do you think about this program?	相手の意見を聞く/ e メール	テキストの予習と単語の学習
8	How will you spend your vacation?	夏休みの予定について話す/ 自分の夏休みの計画を書く	テキストの予習と単語の学習
9	When is the due date?	レポートの締め切りを尋ねる/ スケジュール	テキストの予習と単語の学習
10	May I take a bath every night?	ホストファミリーのルールを尋ねる/ 手紙の返事を書く	テキストの予習と単語の学習
11	Is this the right bus to go downtown?	行き先の確認をする	テキストの予習と単語の学習
12	Do you need some help?(1)	外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識	テキストの予習と単語の学習
13	Do you need some help?(2)	外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識	テキストの予習と単語の学習
14	It looks like my GPA has improved.	成績について話す/ 自分の成績や単位について書く	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	全ての英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Campus English	田村 雅昭他	センゲージラーニング株式会社
2	学校語彙で学ぶテスト単語集	西谷 恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト 20%、まとめテスト 40%、平常点(小テスト、提出物、授業への取り組み・発表)40%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかり聞くことも大切です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	事前・事後学習には 1 時間以上かけること。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中本　明子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎的な語彙と文法を中心とした基礎レベルにおける英語運用能力の向上を図ります。
到達目標	資格（TOEIC, 英検など）取得の前提となる総合的な英語基礎力を身に付けます。
授業方法と留意点	ユニットごとに基礎から文法と語彙を学習し、短いリーディング・リスニング・文法問題をこなし、無理なく英語に慣れ親しみます。 さらに小テストとして、単語集またはテキストの指定された単語の書き取りテストを随時行います。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明	Unit 1 の予習 単語集の指定された単語（714～734）の書き取り練習
2	Unit 1　Fashion	名詞	Unit 1 の復習、Unit 2 の予習 単語集の指定された単語（735～760）の書き取り練習
3	Unit 2　Companies	代名詞	Unit 2 の復習、Unit 3 の予習 単語集の指定された単語（761～783）の書き取り練習
4	Unit 3　Business Trips	自動詞・他動詞・リンキング動詞	Unit 3 の復習、Unit 4 の予習 単語集の指定された単語（784～808）の書き取り練習
5	Unit 4　Transportation and commuting	助動詞	Unit 4 の復習、Unit 5 の予習 単語集の指定された単語（809～831）の書き取り練習
6	Unit 5　Marketing, Sales and Products	不定詞・動名詞	Unit 1 から Unit 5 までの復習 単語集の指定された単語（832～853）の書き取り練習
7	Unit 1 から Unit 5 までの復習	名詞、代名詞、動詞、助動詞と不定詞・動名詞	unit 6 の予習 単語集の指定された単語（854～877）の書き取り練習
8	Unit 6　Offices and Supplies	場所・動きを表す前置詞	Unit 6 の復習、Unit 7 の予習 単語集の指定された単語（878～902）の書き取り練習
9	Unit 7　Meetings and Presentations	時間を表す前置詞	Unit 7 の復習、Unit 8 の予習 単語集の指定された単語（903～916）の書き取り練習
10	Unit 8　Art	形容詞・副詞	Unit 8 の復習、Unit 9 の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
11	Unit 9　Restaurants and Food	原級・比較級・最上級	Unit 9 の復習、Unit 10 の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
12	Unit 10　Housing	接続詞（1）	Unit 10 の復習、Unit 11 の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
13	Unit 11　The Environment and Recycling	現在時制と現在進行形	Unit 6 から Unit 11 までの復習 テキストの指定された単語の書き取り練習
14	Unit 6 から Unit 11 までの復習	前置詞、比較、接続詞と現在形	前期の総復習
15	前期の総括	前期まとめテストと解説	テストの復習

関連科目	英語Ⅰa/b、英語Ⅱb/d、ビジネスイングリッシュⅠ/Ⅱ、英語コミュニケーションⅠ/Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Grip - Essential English Skills for College Students -	本多　吉彦	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK -	西谷　恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語小テスト 20%、課題 30%と前期まとめテスト 50%で、授業態度は減点方式とし、総合的に評価します。
学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田　歩
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	興味のわくトピックを通じて英語の基礎力を伸ばし、応用への基盤を作る。
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 日本文化を英語で表現するテキストを読み、発話へとつなげられるような基礎とする。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果（資格）	・・・

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション テキスト	評価方法など 次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	テスト一回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	テスト２回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	テスト３回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	テスト４回目	Feedback session	・・・

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Touring Japan in English	Toshiyuki Sakabe／ Noriaki Okajima／ William Noel	南雲堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の単語テスト・・・30% テスト４回+発表＋授業態度・・・70%
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながら日本の事について英語で表現する為の表現に親しみ、その他語彙も増やして行きましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	・・・

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	抽冬　紘和
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、基本となる文法事項、語彙などを復習し、英語の４技能力の向上を目指します。
到達目標	英文を読んだり、ＤＶＤでのスピーカーの意見を理解し、学習者自身の意見を英語で発信する力が身に付く。
授業方法と留意点	ペアワーク、グループワーク、ショートプレゼンテーションを行います。毎時限、単語テストも実施するので、積極的な参加が求められえる。
科目学習の効果（資格）	TOEIC テスト等のスコアアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit1	授業・評価方法等の説明	シラバス、教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit2	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
3	Unit3	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
4	Unit4	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
5	Unit5	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
6	Unit6	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
7	Unit7	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
8	Unit8	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
9	Unit9	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
10	Unit10	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
11	Unit11	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
12	Unit12	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
13	Unit13	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
14	Unit14.15	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
15	学期末試験	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習

関連科目	他の英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Career Design on DVD　プロフェッショナルに学ぶキャリアデザイン	K.　Shiomi ／ A.　McGregor ／ N. Takita	Seibido
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト 20%、平常点（授業態度，　プレゼン等）20%，期末テスト 60% とする
学生へのメッセージ	必要とされる出席数は初回の授業で指示する。 （電子）辞書持参を持参すること。 日々の積み重ねが英語力の向上につながります。一緒にがんばりましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室 連絡先 email: hirokazunukk@outlook.jp
備考	

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊　由妃子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業はリーディングを中心に行います。教科書は「短いパッセージ」「文法確認」「長めのパッセージ」で構成されており、これら３段階で英文読解力を高めていきます。また、ネイティブによる英文を聴いて、各自が音読することにより、正しい発音やセンテンスの読み方を習得していきます。 正しい読解には欠かせない文法力の定着をはかっていきます。
到達目標	毎週の授業で各ユニット２パッセージの英文を読むことで、英文読解への苦手意識をなくし、わからない単語があったときにはすぐに辞書を引く、文法を確認するという作業が行えるようにします。そのためにも、授業の予習は欠かせません。
授業方法と留意点	授業はリーディングのを中心に学生主体で指名をして進めていきます。教科書の進度にそって、単語・文法・内容把握のテストを行います。 また、補助教材からの単語テストを実施します。単語テストは隔週で行います。問題は The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK から出題します（範囲は「事前・事後学習課題」の項目に記した通り）。単語テストは授業の冒頭に実施しますので、遅刻などのないようにしてください。 《留意点》辞書は必ず持参して下さい。書籍型、電子辞書、どちらでもかまいません。
科目学習の効果（資格）	TOEIC テストに有効な単語力 英文読解力の向上を目指す 文法力の定着

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の進め方と評価方法を説明し、第２回目以降の授業の導入とします	教科書の説明 プリント学習	なし
2	Unit1: Marathon Men and Women	単語テスト　９17～941 Reading Step 1-3 文法事項：be 動詞	WORD BOOK 917～941 の暗記 教科書：pp.11-15 の予習
3	Unit 2: Healthy Choices	Reading Step 1-3 文法事項：命令文	教科書 pp. 16-20 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
4	Unit 3: Laughing Matters	単語テスト 942～966 Reading Step 1-3 文法事項：現在時制	WORD BOOK942～966 の暗 WORD BOOK 942～966 の暗記 教科書 pp. ２１-25 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
5	Unit 4: Animation the Japanese Way	Reading Step 1-3 文法事項：過去時制	教科書 pp. 26-30 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
6	Unit 5: Dreams Come True?	単語テスト　967～991 Reading Step 1-3 文法事項：現在進行形/過去進行形	WORD BOOK 967～991 の暗記 教科書 pp.31-35 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
7	Unit 6: The Statue of Liberty	Reading Step 1-3 文法事項：Wh 疑問文	教科書 pp.36-40 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
8	Unit 1-6 の内容復習と進度調整	単語テスト　992～1016 進度を調整し、弱点を復習・練習する	WORD BOOK　992～1016 の暗記
9	Unit 7: The Taj Mahal and Shah Jahan	Reading Step 1-3 文法事項：可算名詞/不可算名詞	教科書 pp.41 -45 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
10	Unit 8: Universal Design	単語テスト　1017～1041 Reading Step 1-3 文法事項：代名詞	WORD BOOK　1017～1041 の暗記 教科書 pp. 46-50 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
11	Unit 9: Mars One	Reading Step 1-3 文法事項：will / be going to	教科書 pp. 51-55 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
12	Unit 10: Getting Around	単語テスト　1042～1066 Reading Step 1-3 文法事項：助動詞	WORD BOOK　1042～1066 の暗記 教科書 pp. 56-60 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
13	Unit 11: The "Meat"of Tomorrow	Reading Step 1-3 文法事項：形容詞	教科書 pp. 61-65 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
14	Unit 7-11 の内容復習と進度調整	単語テスト　1067～1092 進度を調整し、弱点を復習・練習する	WORD BOOK 1067～1092 の暗記
15	まとめの確認テスト	第１回～第 14 回までの授業での学習内容の定着度を確認するテスト	第 14 回の授業内で指示します

関連科目	英語Ⅱd

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Steps	Robert Hickling ／ Misato Usukura	金星堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂

	2			
	3			
評価方法 （基準）	平常点（授業態度、予習の有無、授業態度等）：30%、単語テスト：20%、確認試験：50% 詳しくは第1回目の授業でハンドアウトを配布し説明します。			
学生への メッセージ	基本的なマナーを厳守し、積極的な授業参加を望みます。毎回の授業と予習、復習の積み重ねで英語の能力は必ず向上します。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松井　信義
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	初級・中級者用の TOEIC 対策の教科書を使用するが、単なるスコアアップのテクニックではなく、所謂、英語の４技能を高めることを目的とする。そして最終的に、しっかりした読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけること目的とする。
到達目標	TOEIC３５０点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’（授業への前向きな参加）が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書（できれば、紙の英和辞典）は必ず持ってくること。
科目学習の効果（資格）	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検２級以上、TOEIC５５０点以上は必ず取れるはずです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	シラバス説明 UNIT 1の導入	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	UNIT 1の予習 英単語テスト（1）の準備
2	UNIT 1	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（1）　(917 ～ 941)	UNIT 1既習範囲の復習、予習 英単語テスト（2）の準備
3	UNIT 1	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（2）の準備	UNIT 1既習範囲の復習、予習 英単語テスト（2）の準備
4	UNIT 2	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（2）　(942 ～ 966)	UNIT 2既習範囲の復習、予習 英単語テスト（3）の準備
5	UNIT 2	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（3）の準備	UNIT 2既習範囲の復習、予習 英単語テスト（3）の準備
6	UNIT 3	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（3）　(967 ～ 991)	UNIT 3既習範囲の復習、予習 英単語テスト（4）の準備
7	UNIT 3	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（4）の準備	UNIT 3既習範囲の復習、予習 英単語テスト（4）の準備
8	UNIT 4	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（4）　(992 ～ 1016)	UNIT 4既習範囲の復習、予習 英単語テスト（5）の準備
9	UNIT 4	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（5）の準備	UNIT 4既習範囲の復習、予習 英単語テスト（5）の準備
10	UNIT 5	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（5）　(1017 ～ 1041)	UNIT 5既習範囲の復習、予習 英単語テスト（6）の準備
11	UNIT 5	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（6）の準備	UNIT 5既習範囲の復習、予習 英単語テスト（6）の準備
12	UNIT 6	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（6）　(1042 ～ 1066)	UNIT 6既習範囲の復習、予習 英単語テスト（7）の準備
13	UNIT 6	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（7）の準備	UNIT 6既習範囲の復習、予習 英単語テスト（7）の準備
14	UNIT 6	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（7）　(1067 ～ 1090)	UNIT 6既習範囲の復習 英単語前期分の総復習
15	UNIT 1～UNIT 6	既習範囲の総復習 英単語前期分の総復習 定期試験（前期末）の準備	定期試験（前期末）の準備

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「Start-up Course for the TOEIC Test」、2,000 円＋税	北山長貴他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test、1,700 円＋税		成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英和・和英辞典		
2			
3			

評価方法（基準）	教員　７０％（定期試験、小テスト、授業への参加度） 英語単語テスト　３０％
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning.（英語学習に王道なし）にあるように英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and（or but）steady wins the race.（急がば回れ）を心に留め、ゆっくりでも着実に勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください・・・。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	特になし

科目名	英語Ⅱc	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	里井　真理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	この授業では、 Google や Disney など身近な話題を取り上げ社会に出る前に知っておきたいビジネストピックについて学んでいきます。基本的な英語力の向上、表やグラフなどの読み方なども行います。
到達目標	読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上
授業方法と留意点	各ユニットを１～2回の授業で進めていく予定です。 必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨みましょう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	8　Women in Business -Challenges and Triumphs	授業内容についての説明 読解・問題（pp.43～45） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1091-1105）
2	8　Women in Business -Challenges and Triumphs	Review 読解・問題（pp.45～48） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1106-1120）
3	9　Fighting African Poverty with Cell Phones	読解・問題（pp.49～51） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1121-1135）
4	9　Fighting African Poverty with Cell Phones	Review 読解・問題（pp.51～54） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1136-1150）
5	10 The Creative Vision of Walt Disney	読解・問題（pp.55～57） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1151-1165）
6	10 The Creative Vision of Walt Disney	Review 読解・問題（pp.57～60） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1166-1180）
7	11 Tata - India's Mega Group	読解・問題（pp.61～63） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1181-1195）
8	11 Tata - India's Mega Group	Review 読解・問題（pp.63～66） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1196-1210）
9	12 Big Banks, Big Problrms	読解・問題（pp.67～69） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1211-1225）
10	12 Big Banks, Big Problrms	Review 読解・問題（pp.69～72） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1226-1240）
11	13 The Spending Habits of the Super Rich	読解・問題（pp.73～75） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1241-1255）
12	13 The Spending Habits of the Super Rich	Review 読解・問題（pp.75～78） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1256-1270）
13	14 The Story of Marvel Comics	読解・問題（pp.79～81） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1271-1285）
14	14 The Story of Marvel Comics	Review 読解・問題（pp.81～84） 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト（1286-1296）
15	General Review	総まとめ	授業ノート・テキストをしっかり復習しておくこと。

関連科目	他の英語全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Business Sense	Andrew E. Bennett	南雲堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業態度（30%）＋ 授業時の課題・単語小テスト（30%）＋小テスト（40%）
学生への メッセージ	予習・復習をしっかりやりましょう。 授業への積極的な参加を期待します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語Ⅱc	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷脇　康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	最新のニュース記事を取り扱った文献を読み、中学・高校で既習の文法事項の再確認と、基本的な読解力を身につけること。 ＴＯＥＩＣに対応する語彙・文法・聞き取り技能を向上させ、英語の総合力をアップさせること。
到達目標	中学・高校で既習した文法事項を再確認し、正しい語法を身につける。 まとまった文献の内容が正しく理解できる読解力を身につける。 ＴＯＥＩＣに対応できる語彙・文法・読解・聞き取り技能を向上させる。
授業方法と留意点	毎回授業初めに単語テスト、もしくは聞き取りテストを行なう。 テキスト本文は作業用紙による読解演習。練習問題は学生主体に解答を確認する。 毎回授業の最後に内容理解を診断する確認テストを行う。
科目学習の効果（資格）	ＴＯＥＩＣスコアアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	羽生選手、勝利後に 2011 年 3 月の震災を振り返る(1)	聞き取りテスト 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
2	羽生選手、勝利後に 2011 年 3 月の震災を振り返る(2)	単語テスト テキスト練習問題と解答	単語 1091-1112 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
3	日本の日常生活が観光客を魅了(1)	単語テスト 作業用紙による読解演習	単語 1113-1137 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
4	日本の日常生活が観光客を魅了(2)	単語テスト テキスト練習問題と解答	単語 1138-1161 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
5	就活中の人には現実的展望が必要(1)	単語テスト 作業用紙による読解演習	単語 1162-1176 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
6	就活中の人には現実的展望が必要(2)	単語テスト テキスト練習問題と解答	単語 1177-1200 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
7	ほぼ盲目の男性、「人工眼」を得る	聞き取りテスト 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
8	授業１回～７回の総復習 中間テスト	質問と回答 中間テスト	１回～７回授業の質問をまとめておく。 中間テストの事前勉強
9	日本製スマホ、海外へ進出(1)	単語テスト 作業用紙による読解演習	単語 1201-1224 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
10	日本製スマホ、海外へ進出(2)	単語テスト テキスト練習問題と解答	単語 1225-1248 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
11	ﾀﾌﾞﾚｯﾄ、子供にも人気、しかし専門家は懸念(1)	単語テスト 作業用紙による読解演習	単語 1249-1272 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
12	ﾀﾌﾞﾚｯﾄ、子供にも人気、しかし専門家は懸念(2)	単語テスト テキスト練習問題と解答	単語 1273-1296 事前勉強 授業内容の復習 確認テスト
13	新ハローワーク､若者の定職さがしを支援(1)	聞き取りテスト 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
14	新ハローワーク､若者の定職さがしを支援(2)	聞き取りｖテスト テキスト練習問題と解答	授業内容の復習 確認テスト
15	授業９回～１４回の総復習 まとめのテスト	質問と回答 まとめのテスト	９回～１４回授業の質問をまとめておく。 まとめのテストの事前勉強

関連科目	英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Meet the World English through Newspapers 2015	若有保彦	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト　20% 確認テスト　20% 中間テスト　30% まとめのテスト　30%
学生へのメッセージ	授業はリズミカルにテンポよく進めます。 集中力をきらさず一生懸命ついてきてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅱc	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　尚子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、様々なタスクや練習を通して、リスニング、スピーキング、ライティング、リーディング等の英語の運用能力を身につけて行きます。授業は学生の発表、ペアワーク等のアクティビティーを中心に進め、随時解説を加えて重要なポイントを押さえるようにします。これらのアクティビティーを通して、英語で自分の日常の様々な事柄について表現できるようにし、英語でのコミュニケーションができるようにしましょう。尚、語彙を増やすために定期的に単語テストを行います。
到達目標	英語でのコミュニケーションに必要な運用能力をつけること。
授業方法と留意点	授業は学生の発表やペアでの会話の練習などのアクティビティーが中心となるので、指定された個所を必ず予習して積極的に取り組んでください。重要なポイントは必ずメモを取ることも大切です。授業の最後に質疑応答の時間を設けますので、疑問に思ったことは必ず質問するようにしてください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 等の資格試験に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit-12 までの内容の確認、プリント	テキストの Unit-12 までの内容の確認、プリント教材を使った課題	テキストの予習
2	I don't know which to choose.	ゼミ決定を相談する/ ゼミ決定の理由を書く	テキストの予習と単語の学習
3	He got a job with a copy machine company.	就職活動について話す/ 自分の職業適性について書く	テキストの予習と単語の学習
4	How do you make them laugh?	学園祭での模擬店/ お茶の入れ方の手順を書く	テキストの予習と単語の学習
5	it is a celebrationday for kids.	日本文化を紹介する/ 日本の祝日	テキストの予習と単語の学習
6	What is your favorite dish at the cafeteria?	学食のメニューについて話す/ 自分の好きな(嫌いな)メニューについて書く	テキストの予習と単語の学習
7	What is Chistmas like in youir country?	クリスマスの過ごし方/ クリスマスカードを書く	テキストの予習と単語の学習
8	Your e-mail is full of garbled text.	メールの文字化けについて話す/ 新年のあいさつ、メール	テキストの予習と単語の学習
9	I'd like to talk about my research(1)	ゼミで発表する/ 自分の好きな世界遺産について書く	テキストの予習と単語の学習
10	I'd like to talk about my research(2)	ゼミで発表する/ 自分の好きな世界遺産について書く	テキストの予習と単語の学習
11	That's why I applied for the position.	人事面接を受ける/ 自分のアピールポイントを書く	テキストの予習と単語の学習
12	Who's your date?	バレンタインデーの過ごし方/ ラブソングの歌詞	テキストの予習と単語の学習
13	Why don't you plan a farewell party?	追い出しコンパを企画する/ 追い出しコンパの計画を書く	テキストの予習と単語の学習
14	I have set three goals for myself.	目標を決める/ 自分の来年度の目標を書く	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	全ての英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Campus English	田村 雅昭他	センゲージラーニング株式会社
2	学校語彙で学ぶテスト単語集		成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト 20%、まとめテスト 40%、平常点(小テスト、提出物、授業への取り組み・発表)40%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかり聞くことも大切です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	事前・事後学習には 1 時間以上かけること。

科目名	英語Ⅱc	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中本　明子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	重要な語彙と文法を中心とした実用的な英語運用能力の向上を図ります。
到達目標	資格（TOEIC, 英検など）取得の前提となる総合的な英語基礎力を身に付けます。
授業方法と留意点	ユニットごとに基礎から文法と語彙を学習し、短いリーディング・リスニング・文法問題をこなし、無理なく英語に慣れ親しみます。 さらに小テストとして、単語集またはテキストの指定された単語の書き取りテストを随時行います。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	前期の重要ポイントの復習（品詞、5 文型など）	Unit 12 の予習 単語集の指定された単語（1091～1112）の書き取り練習
2	Unit 12　Business Profile	過去時制	Unit 12 の復習、Unit13 の予習 単語集の指定された単語（1113～1137）の書き取り練習
3	Unit 13　Schedules	未来	Unit 13 の復習、Unit 14 の予習 単語集の指定された単語（1138～1161）の書き取り練習
4	Unit 14　Computers and the Internet	現在完了時制・過去完了時制	Unit 14 の復習、Unit 15 の予習 単語集の指定された単語（1162～1188）の書き取り練習
5	Unit 15　Industry and Manufacturing	能動態と受動態	Unit 15 の復習、Unit 16 の予習 単語集の指定された単語（1189～1212）の書き取り練習
6	Unit 16　Making Arrangements	接続詞（２）	Unit 12 から Unit 16 までの復習 単語集の指定された単語（1213～1236）の書き取り練習
7	Unit 12 から Unit 16 までの復習	過去形・未来形、完了形、態と接続詞	unit 17 の予習 単語集の指定された単語（1237～1260）の書き取り練習
8	Unit 17　Business Culture	否定文	Unit 17 の復習、Unit 18 の予習 単語集の指定された単語（1261～1284）の書き取り練習
9	Unit 18　Recruitment	疑問文・疑問詞・付加疑問文	Unit 18 の復習、Unit 19 の予習 単語集の指定された単語（1285～1296）の書き取り練習
10	Unit 19　Entertaining and Socializing	関係代名詞・関係副詞	Unit 19 の復習、Unit 20 の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
11	Unit 20　Education	後置修飾	Unit 20 の復習、Unit 21 の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
12	Unit 21 Banking	仮定法	Unit 21 の復習、Unit 22 の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
13	Unit 22 Health	話法	Unit 17 から Unit 22 までの復習 テキストの指定された単語の書き取り練習
14	Unit 17 から Unit 22 までの復習	否定文、疑問文、関係詞、後置修飾、仮定法と話法	後期の総復習
15	後期の総括	後期まとめテストと解説	テストの復習

関連科目	英語Ⅰa/b、英語Ⅱb/d、ビジネスイングリッシュⅠ/Ⅱ、英語コミュニケーションⅠ/Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Grip - Essential English Skills for College Students -	本多　吉彦	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK -	西谷　恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語小テスト 20%、課題 30%と後期まとめテスト 50%で、授業態度は減点方式とし、総合的に評価します。
学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。

科目名	英語Ⅱd	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田　歩
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語で一般科目の内容のテキストを読む事を通じて英語の応用力をつける。
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 数々の一般科目のテキストを読み、幅広い語彙と
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果（資格）	・・・

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション テキスト	評価方法など 次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	テスト一回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	テスト２回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	テスト３回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	テスト４回目	Feedback session	・・・

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Knowledge Expander　～English for Liberal Arts ～ 英語で学ぶリベラルアーツ	Atsuko Uemura／ Irene Iwasaki	朝日出版社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の単語テスト・・・30% テスト４回＋授業態度・・・70%
学生へのメッセージ	英語を使って「一般教養科目」を英語で読んでみるクラスです。文を読むだけでなくグラフや表、図や絵など様々な形での資料にも接します。様々な形や内容で英語と接しつつ、一般的な語彙も増やして行きます。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	・・・

科目名	英語Ⅱd	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	抽冬　紘和
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	この授業では、基本となる文法事項、語彙などを復習し、英語の４技能力の向上を目指します。
到達目標	英文を読み、理解し、学習者自身の意見を英語で発信する力が身に付く。
授業方法と留意点	ペアワーク、グループワーク、ショートプレゼンテーションを行います。毎時限、単語テストも実施するので、積極的な参加が求められえる。
科目学習の効果（資格）	TOEIC テスト等のスコアアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit1	授業・評価方法等の説明	シラバス、教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit2	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
3	Unit3	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
4	Unit4	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
5	Unit5	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
6	Unit6	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
7	Unit7	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
8	Unit8	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
9	Unit9	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
10	Unit10	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
11	Unit11	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
12	Unit12	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
13	Unit13	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
14	Unit14.15	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習
15	学期末試験	単語テスト テキスト内容演習	単語学習 教科書の予習、復習

関連科目	他の英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Leadership: Case Studies of Business Leaders in Japan	Y. Nakatani／R. Smithers	Kinseido
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト 20%、平常点（授業態度，　プレゼン等）20%，期末テスト 60% とする
学生へのメッセージ	必要とされる出席数は初回の授業で指示する。 （電子）辞書持参を持参すること。 日々の積み重ねが英語力の向上につながります。一緒にがんばりましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室 連絡先 email: hirokazunukk@outlook.jp
備考	

科目名	英語Ⅱd	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊　由妃子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業はリーディングを中心に行います。教科書は「短いパッセージ」「文法確認」「長めのパッセージ」で構成されており、これら３段階で英文読解力を高めていきます。また、ネイティブによる英文を聴いて、各自が音読することにより、正しい発音やセンテンスの読み方を習得していきます。 正しい読解には欠かせない文法力の定着をはかっていきます。
到達目標	毎週の授業で各ユニット２パッセージの英文を読むことで、英文読解への苦手意識をなくし、わからない単語があったときにはすぐに辞書を引く、文法を確認するという作業が行えるようにします。そのためにも、授業の予習は欠かせません。
授業方法と留意点	授業はリーディングのを中心に学生主体で指名をして進めていきます。教科書の進度にそって、単語・文法・内容把握のテストを行います。 また、補助教材からの単語テストを実施します。単語テストは隔週で行います。問題は The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK から出題します（範囲は「事前・事後学習課題」の項目に記した通り）。単語テストは授業の冒頭に実施しますので、遅刻などのないようにしてください。 《留意点》辞書は必ず持参して下さい。書籍型、電子辞書、どちらでもかまいません。
科目学習の効果（資格）	TOEIC テストに有効な単語力 英文読解力の向上を目指す 文法力の定着

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 12: Art Crime	Reading Step 1-3 文法事項：副詞	教科書 pp.66-70 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
2	Unit13: Do Animals Know Things We Don't Know?	単語テスト　1297～1325 Reading Step 1-3 文法事項：時ｗｐ表す前置詞	WORD BOOK 1297～1325 の暗記 教科書：pp.71-75 の予習
3	Unit 14: Godiva-The Chocolate and teh Lady	Reading Step 1-3 文法事項：場所を表す前置詞	教科書 pp. 76-80 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
4	Unit 15: Aloha Hawaii	単語テスト 1326～1354 Reading Step 1-3 文法事項：動名詞	WORD BOOK1326～1354 の暗記 教科書 pp. 81-85 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
5	Unit16: Everyone Loves a Circus	Reading Step 1-3 文法事項：現在完了	教科書 pp. 86-90 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
6	Unit 17: Text Messaging	単語テスト　1355～1383 Reading Step 1-3 文法事項: too/enough	WORD BOOK 1355～1383 の暗記 教科書 pp.91-95 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
7	Unit 18: What Type Are You?	Reading Step 1-3 文法事項：句動詞/イディオム	教科書 pp.96-100 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
8	Unit 12-18 の内容復習と進度調整	単語テスト　1384～1412 進度を調整し、弱点を復習・練習する	WORD BOOK　1384～1412 の暗記
9	Unit 19: Japanese Food Customs	Reading Step 1-3 文法事項：受動態	教科書 pp.101 -105 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
10	Unit 20: Mascot Characters	単語テスト　1413～1441 Reading Step 1-3 文法事項：5 文型	WORD BOOK　1413～1441 の暗記 教科書 pp. 106-110 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
11	Unit 21: Trees-One of Nature's Wonders	Reading Step 1-3 文法事項：比較	教科書 pp. 111-115 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
12	Unit 22: Koban at Your Service	単語テスト　1442～1470 Reading Step 1-3 文法事項：語句や文をつなぐ接続詞	WORD BOOK　1442～1470 の暗記 教科書 pp. 116-120 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
13	Unit 23: 3-D Printers	Reading Step 1-3 文法事項：時や理由を表す接続詞	教科書 pp. 121-125 の予習 授業中の学習予定範囲にある知らない単語は必ず調べておくこと
14	Unit 19-23 の内容復習と進度調整	単語テスト　1471～1500 進度を調整し、弱点を復習・練習する	WORD BOOK 1471～1500 の暗記
15	まとめの確認テスト	第１回～第 14 回までの授業での学習内容の定着度を確認するテスト	第 14 回の授業内で指示します

関連科目	英語Ⅱd

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Steps	Robert Hickling ／ Misato Usukura	金星堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂

	2			
	3			
評価方法 （基準）	平常点（授業態度、予習の有無、授業態度等）：30%、単語テスト：20%、確認試験：50%			
学生への メッセージ	基本的なマナーを厳守し、積極的な授業参加を望みます。毎回の授業と予習、復習の積み重ねで英語の能力は必ず向上します。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語Ⅱd	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井　信義
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	初級・中級者用の TOEIC 対策の教科書を使用するが、単なるスコアアップのテクニックではなく、所謂、英語の４技能を高めることを目的とする。そして最終的に、しっかりした読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。
到達目標	TOEIC４５０点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’（授業への前向きな参加）が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書（できれば、紙の英和辞典）は必ず持ってくること。
科目学習の効果（資格）	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検２級以上、TOEIC５５０点以上は必ず取れるはずです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	シラバス説明 UNIT 7 の導入	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	UNIT 7 の予習 英単語テスト（1）の準備
2	UNIT 7	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（1）（1297 ～ 1326）	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 英単語テスト（2）の準備
3	UNIT 7	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（2）の準備	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 英単語テスト（2）の準備
4	UNIT 8	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（2）（1327 ～ 1356）	UNIT 8 既習範囲の復習、予習 英単語テスト（3）の準備
5	UNIT 8	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（3）の準備	UNIT 8 既習範囲の復習、予習 英単語テスト（3）の準備
6	UNIT 9	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（3）（1357 ～ 1386）	UNIT 9 既習範囲の復習、予習 英単語テスト（4）の準備
7	UNIT 9	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（4）の準備	UNIT 9 既習範囲の復習、予習 英単語テスト（4）の準備
8	UNIT 10	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（4）（1387 ～ 1416）	UNIT 10 既習範囲の復習、予習 英単語テスト（5）の準備
9	UNIT 10	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（5）の準備	UNIT 10 既習範囲の復習、予習 英単語テスト（5）の準備
10	UNIT 11	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（5）（1417 ～ 1446）	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 英単語テスト（6）の準備
11	UNIT 11	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（6）の準備	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 英単語テスト（6）の準備
12	UNIT 12	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（6）（1447 ～ 1476）	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語テスト（7）の準備
13	UNIT 12	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（7）の準備	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語テスト（7）の準備
14	UNIT 12	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト（7）（1477 ～ 1500）	UNIT 12 既習範囲の復習 英単語後期分の総復習
15	UNIT 7～UNIT 12	既習範囲の総復習 英単語後期分の総復習 定期試験（後期末）の準備	定期試験（後期末）の準備

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「Start-up Course for the TOEIC Test」、2,000 円＋税	北山長貴他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test、1,700 円＋税		成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英和・和英辞典		
2			
3			

評価方法（基準）	教員　７０％（定期試験、小テスト、授業への参加度） 英語単語テスト　３０％
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning.（英語学習に王道なし）にあるように英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and（or but）steady wins the race.（急がば回れ）を心に留め、ゆっくりでも着実に勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください・・・。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	特になし

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀧川　宏樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業では、実践的な英語コミュニケーション能力を習得することを目的とする。ニュース映像を見ながら、語彙力、リスニング力、スピーキング力の強化を、ニュース記事を読むことでリーディング力や文法力の強化を図る。ニュース記事を通じて、時事問題にも関心を持つようになってもらいたい。
到達目標	ニュースを視聴するための基本的なスキルを身に着けられるようになること。そのために必要な語彙や文法、リスニング力の強化を目標とする。
授業方法と留意点	本授業では、web 動画と連動したテキストを使用する。毎週 web 動画を用いて自習してもらい、その進捗度を成績評価対象とするので、自宅学習も必須である。 小テストを計４回行う。
科目学習の効果（資格）	総合的な英語力の向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ウォームアップテスト	テスト見直し
2	Unit1　ファストフードバーガーで高級料理の楽しみを	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習	web 動画　Unit1-1
3	Unit1　ファストフードバーガーで高級料理の楽しみを	ニュース記事を用いた読解演習	web 動画　Unit1-2
4	Unit2　恋愛映画の中の真実の愛	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習	web 動画　Unit2-1
5	Unit2　恋愛映画の中の真実の愛	ニュース記事を用いた読解演習 第１回小テスト	web 動画　Unit2-2
6	Unit3　あなたのインターネットデータを追跡	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習	web 動画　Unit3-1
7	Unit3　あなたのインターネットデータを追跡	ニュース記事を用いた読解演習	web 動画　Unit3-2
8	Unit4　音楽を通じて平和作り	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習 第２回小テスト	web 動画　Unit4-1
9	Unit4　音楽を通じて平和作り	ニュース記事を用いた読解演習	web 動画　Unit4-2
10	Unit5　氷河の変化を写真撮影	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習	web 動画　Unit5-1
11	Unit5　氷河の変化を写真撮影	ニュース記事を用いた読解演習 第３回小テスト	web 動画　Unit5-2
12	Unit6　お腹の中の言語学習	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習	web 動画　Unit6-1
13	Unit6　お腹の中の言語学習	ニュース記事を用いた読解演習	web 動画　Unit6-2
14	Unit7　アトランティスの着陸	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習 第４回小テスト	web 動画　Unit7-1
15	Unit7　アトランティスの着陸	ニュース記事を用いた読解演習	web 動画　Unit7-2

関連科目	英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映像で見るＶＯＡニュース　VOA News Clip Collection	安浪誠祐、Richard S. Lavin 著	成美堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験 50% web 動画課題、小テスト 40% 授業内発表 10%
学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀧川　宏樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業では、実践的な英語コミュニケーション能力を習得することを目的とする。ニュース映像を見ながら、語彙力、リスニング力、スピーキング力の強化を、ニュース記事を読むことでリーディング力や文法力の強化を図る。ニュース記事を通じて、時事問題にも関心を持つようになってもらいたい。
到達目標	ニュースを視聴するための基本的なスキルを身に着けられるようになること。そのために必要な語彙や文法、リスニング力の強化を目標とする。
授業方法と留意点	本授業では、web 動画と連動したテキストを使用する。毎週 web 動画を用いて自習してもらい、その進捗度を成績評価対象とするので、自宅学習も必須である。 小テストを計４回行う。
科目学習の効果（資格）	総合的な英語力の向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ウォームアップテスト	テスト見直し
2	Unit8　才能は開花する	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習	web 動画　Unit8-1
3	Unit8　才能は開花する	ニュース記事を用いた読解演習	web 動画　Unit8-2
4	Unit9　日常使いのロボット	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習	web 動画　Unit9-1
5	Unit9　日常使いのロボット	ニュース記事を用いた読解演習 第１回小テスト	web 動画　Unit9-2
6	Unit10　ビデオゲームは娯楽だけとは限らない	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習	web 動画　Unit10-1
7	Unit10　ビデオゲームは娯楽だけとは限らない	ニュース記事を用いた読解演習	web 動画　Unit10-2
8	Unit11　インターネット	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習 第２回小テスト	web 動画　Unit11-1
9	Unit11　インターネット	ニュース記事を用いた読解演習	web 動画　Unit11-2
10	Unit12　ソーシャル・ネットワーキングは生産性に影響を及ぼす？	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習	web 動画　Unit12-1
11	Unit12　ソーシャル・ネットワーキングは生産性に影響を及ぼす？	ニュース記事を用いた読解演習 第３回小テスト	web 動画　Unit12-2
12	Unit13　大型ハドロン衝突型加速器	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習	web 動画　Unit13-1
13	Unit13　大型ハドロン衝突型加速器	ニュース記事を用いた読解演習	web 動画　Unit13-2
14	Unit14　小規模金融は多い方が良い	ニュース映像を用いた演習、リスニング・スピーキング演習 第４回小テスト	web 動画　Unit14-1&2
15	Unit15　Ｇｏｏｇｌｅが世界中の本をオンライン化することを計画	ニュース記事を用いた読解演習	web 動画　Unit15-1&2

関連科目	英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映像で見るＶＯＡニュース　VOA News Clip Collection	安浪誠祐、Richard S. Lavin	成美堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験 50% web 動画課題、小テスト 40% 授業内発表 10%
学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	

科目名	海外語学研修	科目名（英文）	Overseas Language Training
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	齋藤　安以子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この研修は、語学力（英語力）の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。 研修先での授業は、月曜日から金曜日に実施し、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊はホームステイ形式である。費用は 40 万円前後を予定（為替レートにより変動の可能性あり）。＊詳細は、３月～４月の募集ガイダンスで周知する。
到達目標	・研修先の歴史や文化を前もって調査することで、現地での研修を深められるようになる。 ・一緒に研修に行く他の学生と交流し、協力して研修を成功させる。
授業方法と留意点	３月上旬～４月下旬 募集ガイダンス（日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する）、事前学習としては事前のガイダンス出席が義務付けられている。また、事後には成果報告およびレポート提出を要請されている。 ５月 申込書の提出 ５月下旬 派遣学生の決定および履修申請 ６月～８月 事前ガイダンスを実施（全３回） ８月上旬 結団式 ＜研修スケジュール＞ ［２週間コース］ ８月中旬～８月下旬（予定） ［３週間コース］ ８月中旬～９月上旬（予定
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	これまでに学んだ英語の知識を、実際に使うための練習を多角的に行う。 事前学習 ・海外渡航に関する基本的なガイダンス等 ・英語で自分から話す練習をすること。インターネット上でもたくさんの学習サイトがあるので、渡航前に自分の中の英語の出力スピードや反応を活性化させておくといい。 事後学習課題 ・同時期に開催される他の研修参加者と共に、成果報告会でのプレゼンテーションを行う。 ・レポート作成。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	帰国後に提出する成果報告書（２０％）および研修先での成績（８０％）を基に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	国際交流センター
備考	・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。 ・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修申請をすることができる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。 ・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今年度は受講できない場合もあります。

科目名	生涯スポーツ実習	科目名（英文）	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　喬之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。
到達目標	《到達目標》 運動技術の向上 競技ルールの理解 学生相互のコミュニケーション能力の向上 学科の学習・教育目標との対応：[A]
授業方法と留意点	事前ガイダンスと集中授業４日間合わせて５日間で行う。 ５日間すべて受講できること。 事前の申し込みが受け付けられることが必要。 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認
3	ゴルフの基礎技術（１）	グリップ、スウィング	技術の反復練習
4	ゴルフの基礎技術（２）	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習
5	ゴルフの基礎技術（３）	アプローチ、パター練習	技術の反復練習
6	ゴルフの応用技術（１）	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習
7	ゴルフの応用技術（２）	ミニラウンド	技術の反復練習
8	ゴルフの実践	ラウンド（９H）	イメージトレーニング
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
学生へのメッセージ	履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。
担当者の研究室等	
備考	ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス（半ズボンの場合はハイソックス着用）、運動靴（スパイク類は禁止）

科目名	生涯スポーツ実習	科目名（英文）	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	近藤　潤
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。
到達目標	《到達目標》 運動技術の向上 競技ルールの理解 学生相互のコミュニケーション能力の向上 学科の学習・教育目標との対応：[A]
授業方法と留意点	事前ガイダンスと集中授業４日間合わせて５日間で行う。 ５日間すべて受講できること。 事前の申し込みが受け付けられることが必要。 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認
3	ゴルフの基礎技術（１）	グリップ、スウィング	技術の反復練習
4	ゴルフの基礎技術（２）	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習
5	ゴルフの基礎技術（３）	アプローチ、パター練習	技術の反復練習
6	ゴルフの応用技術（１）	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習
7	ゴルフの応用技術（２）	ミニラウンド	技術の反復練習
8	ゴルフの実践	ラウンド（９H）	イメージトレーニング
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
学生へのメッセージ	履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。
担当者の研究室等	
備考	ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス（半ズボンの場合はハイソックス着用）、運動靴（スパイク類は禁止）

科目名	数学基礎 I	科目名（英文）	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　洋平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の問　課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	第1章の問　課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第2章の問　課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根，立方根 ・有理化の計算	第2章の問　課題レポート
5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	第3章の問　課題レポート
6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の問　課題レポート
7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	第3章の問　課題レポート
8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の問　課題レポート
9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第4章の問　課題レポート
10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第4章の問　課題レポート
11	連立1次方程式(3)	・消去法	第4章の問　課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第5章の問　課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	第5章の問　課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第6章の問　課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第6章の問　課題レポート

関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
備考	

科目名	数学基礎 I	科目名（英文）	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早石　典史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	高校の初年度級の数学的知識の復習を出発点として、経営系の学生にとって、最低限必要な数学的素養を確実に身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の問　課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	第1章の問　課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第2章の問　課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根，立方根 ・有理化の計算	第2章の問　課題レポート
5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	第3章の問　課題レポート
6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の問　課題レポート
7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	第3章の問　課題レポート
8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の問　課題レポート
9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第4章の問　課題レポート
10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第4章の問　課題レポート
11	連立1次方程式(3)	・消去法	第4章の問　課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第5章の問　課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	第5章の問　課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第6章の問　課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第6章の問　課題レポート

関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
備考	

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安井　幸則
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	到達目標は，経営・経済系科目、情報系科目において最低限必要な数学的素養を 大学初年度前期で確実に身につけることである。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第１章の問　　課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	第１章の問　　課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第２章の問　　課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根，立方根 ・有理化の計算	第２章の問　　課題レポート
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	第３章の問　　課題レポート
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第３章の問　　課題レポート
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	第３章の問　　課題レポート
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第３章の問　　課題レポート
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第４章の問　　課題レポート
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第４章の問　　課題レポート
11	連立１次方程式(3)	・消去法	第４章の問　　課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第５章の問　　課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	第５章の問　　課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第６章の問　　課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第６章の問　　課題レポート

関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	数学研究室編	学術図書
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	項目ごとに適時挙げる		
2			
3			

評価方法（基準）	演習と小テスト（４０％）及び期末テスト（６０％）等により総合的に判断、評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
担当者の研究室等	3 号館 3 階(数学準備室)
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　洋平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では，1次関数，2次関数のグラフの復習を出発点として，様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標にする。
到達目標	基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎Ⅰに引き続き，筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値，極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値，最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
学生へのメッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから，遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で，後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早石　典史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では，１次関数，２次関数のグラフの復習を出発点として，様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標にする。
到達目標	１次関数、２次関数の復習を出発点として、数列、簡単な微積分の計算などを習得することを目標とする。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎Ⅰに引き続き，筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	第7章の問課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	第7章の問課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	第7章の問課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線	第9章の問課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値，極小値	第9章の問課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	第9章の問課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値，最小値 ・応用問題	第9章の問課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問課題レポート
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	第10章の問課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
学生へのメッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから，遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で，後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安井　幸則
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では，１次関数，2 次関数のグラフの復習を出発点として，様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標にする。
到達目標	到達目標は，経営・経済系科目、情報系科目において最低限必要な数学的素養を 大学初年度前期で確実に身につけることである。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎 I に引き続き， 筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第 7 章の問 課題レポート
2	1 次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	第 7 章の問 課題レポート
3	2 次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	第 7 章の問 課題レポート
4	2 次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	第 7 章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第 7 章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第 8 章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第 8 章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線	第 9 章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値，極小値	第 9 章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	第 9 章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値，最小値 ・応用問題	第 9 章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第 10 章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第 10 章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第 10 章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	第 10 章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	数学研究室編	学術図書
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	項目ごとに適時挙げる		
2			
3			

評価方法（基準）	演習と小テスト（４０％）及び期末テスト（６０％）により総合的に判断、評価する。
学生へのメッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから，遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で，後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3 号館 3 階(数学準備室)
備考	

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practice of Sports Science Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　喬之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。

到達目標

① 運動技術の向上
② 競技ルールの理解
③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上

授業方法と留意点

実技形式で行う。（雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。）
授業での開講種目は、以下のとおりである。
・体育館種目（バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など）
・屋外種目（サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど）
※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。
原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。

科目学習の効果（資格）

生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価
4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目

生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。

学生へのメッセージ

授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室にきてください。

担当者の研究室等

総合体育館　1Ｆ　体育館事務室

備考

トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practice of Sports Science II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山　喬之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	実技形式で行う。（雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。） 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など） ・屋外種目（サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど） ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。 原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果（資格）	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	総合体育館　1Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	専門日本語ＦＩ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes Ｆ Ｉ
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、実践と解説を中心に行う。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	―――――
2	Ｅメールの基本１	Ｅメールの基本を学習する	復習
3	Ｅメールの基本２	Ｅメールの基本を学習する	復習
4	Ｅメール１	近況を知らせるメール	復習
5	Ｅメール２	お知らせメール	復習
6	Ｅメール３	お誘いメール	復習
7	Ｅメール４	リマインドメール	復習
8	Ｅメール５	問い合わせ／質問メール	復習
9	Ｅメール６	依頼メール	復習
10	Ｅメール７	アポイント／日程調整メール	復習
11	Ｅメール８	お礼のメール	復習
12	Ｅメール９	断りメール	復習
13	Ｅメール１０	クレームのメール	復習
14	手紙	お礼状を書く	復習
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)宿題（教員へのメール送信）は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	専門日本語Ｆ Ⅱ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、講義と実践を中心に行う。
科目学習の効果（資格）	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	――――――――
2	就職活動１	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
3	就職活動２	自己 PR を書く	復習
4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
6	ビジネスメール１	挨拶メール	復習
7	ビジネスメール２	報告メール	復習
8	ビジネスメール３	通知メール	復習
9	ビジネスメール４	案内メール	復習
10	ビジネスメール５	確認メール	復習
11	ビジネスメール６	依頼メール	復習
12	ビジネスメール７	問い合わせ／回答メール	復習
13	ビジネスメール８	アポイントを取るメール	復習
14	ビジネスメール９	お詫び／お礼のメール	復習
15	総復習・確認テスト	総復習・確認テスト	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)宿題（教員へのメール送信）は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語会話ＦＩ	科目名（英文）	Japanese Conversation Ｆ Ｉ
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	髙井　美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み、２回のテストから総合的に判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語会話ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Conversation F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	髙井　美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本語会話ＦＩと同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
8	トピック⑦	議論	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み、２回のインタビューテストから総合的に判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語総合ＦⅠ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese F Ⅰ
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川　由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

この授業では次の３点を目標にします。
①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る
②まとまった内容の文章の大意を把握する
③できるだけ速く①と②をできるようにする

なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。

到達目標

日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。

JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。

授業方法と留意点

この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。
１．キーワード・キーセンテンスを探す
２．接続詞に注意する
３．テキストの流れに注意する
４．予測して読む
５．テキストをまとめる

科目学習の効果（資格）

・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。
・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。
・その成果を専門の文章の読解に応用する。
（・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2〜3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2〜3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2〜3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2〜3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2〜3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2〜3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2〜3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目

日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する）

出席・授業態度　+　期末テスト　＝　100%
50%　50%

学生へのメッセージ

受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。

出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。

担当者の研究室等

外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）

備考

受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。

科目名	日本語総合ＦⅡ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	この授業では次の３点を目標にします。 ①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。
到達目標	日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。 JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。
授業方法と留意点	この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。 １．キーワード・キーセンテンスを探す ２．接続詞に注意する ３．テキストの流れに注意する ４．予測して読む ５．テキストをまとめる
科目学習の効果（資格）	・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 （・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目	日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する） 出席・授業態度　＋　　期末テスト　＝　100% 50%　　50%
学生へのメッセージ	受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。 出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。

科目名	日本語読解Ｆ Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、日本人向けに書かれた一般書を読み、表面的な意見や情報だけでなく、含意された意見や立場なども理解できるようになることを目指す。
到達目標	読んだ内容について、表面的な意見や情報だけでなく、含意された意見や立場なども理解できるようになる。
授業方法と留意点	授業は以下のような流れで進める。 ①文章のテーマに関する知識をクラス内で共有する。②学習目標とそれを達成するために必要なスキルを確認する。③各自で文章を読み、タスクを解く。④教員による解説を行う。⑤自己評価を行う。 また、語彙力の増強のため、適宜単語テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための基礎力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 心のバリアフリー	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	30 代ビジネスマンの「心の病」を考える	読解、内容理解	復習
3	「少女マンガ家ぐらし」へ	読解、内容理解	復習
4	プロフィール	読解、内容理解	復習
5	インタビュー	読解、内容理解	復習
6	いつも学びがある	読解、内容理解	復習
7	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち①	読解、内容理解	復習
8	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち②	読解、内容理解	復習
9	緑のカーテン	読解、内容理解	復習
10	環境立国ニッポンの挑戦①	読解、内容理解	復習
11	環境立国ニッポンの挑戦②	読解、内容理解	復習
12	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解	復習
13	フリーズする脳①	読解、内容理解	復習
14	フリーズする脳②	読解、内容理解	復習
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目	日本語読解Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語読解ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、日本人向けに書かれた一般書を批判的に読むことができるようになることを目指す。
到達目標	一般向けに書かれた文章を批判的に読むことができるようになる。
授業方法と留意点	授業は基本的に２回で１つの文章を読む。 １回目の授業では、文章のテーマに関する知識をクラス内で共有し、学習目標とそれを達成するために必要なスキルを確認した上で各自文章を読み、教員による解説を行う。 ２回目の授業では、１回目の授業で読んだ文章を批判的に読むためのタスクを行う。
科目学習の効果（資格）	文章を批判的に読む力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 批判的な読み方の練習	授業の進め方の説明 批判的な読み方を練習する	復習
2	私のニュースの読み方①	内容理解	復習
3	私のニュースの読み方②	批判的に読む	復習 ミニレポート
4	価値の一様性①	内容理解	復習
5	価値の一様性②	批判的に読む	復習 ミニレポート
6	経済学とは何か①	内容理解	復習
7	経済学とは何か②	批判的に読む	復習 ミニレポート
8	住まい方の思想①	内容理解	復習
9	住まい方の思想②	批判的に読む	復習 ミニレポート
10	ことばの構造、文化の構造①	内容理解	復習
11	ことばの構造、文化の構造②	批判的に読む	復習 ミニレポート
12	化粧する脳①	内容理解	復習
13	化粧する脳②	批判的に読む	復習 ミニレポート
14	メディアがもたらす環境変容に関する意識調査	内容理解、 批判的に読む	復習
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目	日本語読解Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ミニレポート、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	文章を批判的に読めるよう、一緒に練習しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語表現作文Ｆ Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学びます。 レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指します。
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について、説明と実践を行います。
科目学習の効果（資格）	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を築く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
5	段落②	実践練習	復習 ミニレポート
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
7	経過説明②	実践練習	復習 ミニレポート
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
10	分類・定義	実践練習	復習 ミニレポート
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
13	要約②	実践練習	復習 ミニレポート
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目	日本語表現作文Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語表現作文ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学びます。 レポートや論文の構成、適した表現、書き方のルールを身につけることを目指します。
到達目標	レポートや論文の構成、適した表現、書き方のルールを身につける。
授業方法と留意点	授業では、実際にテーマを決め、レポートを書き進めていきます。
科目学習の効果（資格）	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を築く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集めてくる
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
7	序論①	序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ	復習
8	序論②	序論を書く	復習
9	本論①	本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ	復習
10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	復習
11	本論③	本論を書く	復習
12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	復習
13	結論②	結論を書く	復習
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目	日本語表現作文Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題、レポート、授業への参加態度を総合的に評価します。 授業内で書き進めたレポートを最終的に提出してもらい、評価の対象とします。
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語文法Ｆ Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、中上級の文型を取り上げ、機能ごとにまとめて学びます。中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになることを目指します。
到達目標	中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになる。
授業方法と留意点	授業では、教員による解説と練習問題を繰り返します。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 文型の理解度チェック	授業の進め方の説明 文型の理解度チェック	復習
2	動作の対象	文型の解説、練習	復習
3	目的・手段・媒介	文型の解説、練習	復習
4	起点・終点・限界・範囲	文型の解説、練習	復習
5	時点・場面	文型の解説、練習	復習
6	時間的同時性･時間的前後性	文型の解説、練習	復習
7	進行・相関関係	文型の解説、練習	復習
8	付帯・非付帯	文型の解説、練習	復習
9	限定	文型の解説、練習	復習
10	非限定・付加	文型の解説、練習	復習
11	比較・最上級・対比	文型の解説、練習	復習
12	判断の立場・評価の視点	文型の解説、練習	復習
13	基準	文型の解説、練習	復習
14	関連・対応	文型の解説、練習	復習
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目	日本語文法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回の練習問題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	中上級の文法を再確認し、苦手を克服しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語文法ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、中上級の文型を取り上げ、機能ごとにまとめて学びます。中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになることを目指します。
到達目標	中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになる。
授業方法と留意点	授業では、教員による解説と練習問題を繰り返します。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前期の復習	授業の進め方の説明 前期の学習内容の確認、復習	復習
2	無関係・無視・例外	文型の解説、練習	復習
3	例示	文型の解説、練習	復習
4	強調	文型の解説、練習	復習
5	話題	文型の解説、練習	復習
6	逆説・譲歩	文型の解説、練習	復習
7	原因・理由	文型の解説、練習	復習
8	仮定条件・確定条件	文型の解説、練習	復習
9	逆説仮定条件	文型の解説、練習	復習
10	不可能・可能・困難・容易	文型の解説、練習	復習
11	傾向・状態・様子	文型の解説、練習	復習
12	経過・結末	文型の解説、練習	復習
13	否定・部分否定	文型の解説、練習	復習
14	伝聞・推量	文型の解説、練習	復習
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目	日本語文法Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回の練習問題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	中上級の文法を再確認し、苦手を克服しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本事情Ｆ Ｉ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
2	映画１：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画１：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画１：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画２：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
6	映画２：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
7	映画２：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画４：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
13	映画４：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
14	映画４：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法（基準）	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！
担当者の研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
2	映画１：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画１：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画１：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画２：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
6	映画２：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
7	映画２：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画３：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画３：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画３：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画４：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
13	映画４：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
14	映画４：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法（基準）	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！
担当者の研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名（英文）	Business English I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本　好一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネスに関するさまざまな場面と文章を想定した英語を学ぶ。 企業の海外進出、海外企業との合弁、海外での子会社設立などビジネス英語のニーズも高まっています。 この授業ではビジネス英語の基本的事項を習得します。
到達目標	企業での来客応対、ビジネスエチケット、レジュメの作製などを習得する。 また、TOEIC の教材も使用し、スコアアップを目指します。
授業方法と留意点	テキスト、TOEIC の副教材、単語集の 3 冊を用い、音声、文法、語彙をバランスよく学習します。
科目学習の効果（資格）	ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつけ、TOEIC のスコアアップを目指します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明など	講義の進め方、評価方法などを説明、リンガポルタの利用方法の説明	予習、復習 リンガポルタ
2	Unit 1 Receiving Visitors 1	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
3	Unit 1 Receiving Visitors 1	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
4	Unit 2 Receiving Visitors 2	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
5	Unit 2 Receiving Visitors 2	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
6	Unit 3 Telephoning 1	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
7	Unit 3 Telephoning 1	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
8	Unit 4 Telephoning 2	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
9	Unit 4 Telephoning 2	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
10	Unit 5 Business Etiquette & Protocol 1	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
11	Unit 5 Business Etiquette & Protocol 1	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
12	Unit 6 Business Etiquette & Protocol 2	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
13	Unit 6 Business Etiquette & Protocol 2	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
14	Unit 7 Business Etiquette & Protocol 3	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
15	Unit 7 Business Etiquette & Protocol 3	環境についてテキストからの音声、文法問題で学習	期末試験の準備 リンガポルタ

関連科目	ビジネスイングリッシュ II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Business English for Beginners	Satoko Yoshino 他	三修社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Overall Skills for the TOEIC Test	Takayuki Ishii 他	成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	教員の評価 70%、リンガポルタ 10%、統一単語テスト 20%で評価する。
学生へのメッセージ	電子辞書を持参。必ず予習をすること。 リンガポルタで自習して下さい。成績評価に反映されます。
担当者の研究室等	7 号館非常勤講師室
備考	

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名（英文）	Business English II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本　好一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネスに関するさまざまな場面と文章を想定した英語を学ぶ。 企業の海外進出、海外企業との合弁、海外での子会社設立などビジネス英語のニーズも高まっています。 この授業ではビジネス英語の基本的事項を習得します。
到達目標	企業での来客応対、ビジネスエチケット、レジュメの作製などを習得する。 また、TOEIC の教材も使用し、スコアアップ（500 点）を目指します。
授業方法と留意点	テキスト、TOEIC の副教材、単語集の 3 冊を用い、音声、文法、語彙をバランスよく学習します。
科目学習の効果（資格）	ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつけ、TOEIC のスコアアップを目指します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明など	講義の進め方、評価方法などを説明、リンガポルタの利用方法の説明	予習、復習 リンガポルタ
2	Unit 8 Presentation Part 1	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
3	Unit 8 Presentation Part 1	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
4	Unit 9 Presentation Part 2	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
5	Unit 9 Presentation Part 2	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
6	Unit 10 Presentation Part 3	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
7	Unit 10 Presentation Part 3	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
8	Unit 11 Business E-mail Writing Part 1	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
9	Unit 11 Business E-mail Writing Part 1	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
10	Unit 12 Business E-mail Writing Part 2	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
11	Unit 12 Business E-mail Writing Part 2	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
12	Unit 13 Business E-mail Writing Part 3	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
13	Unit 13 Business E-mail Writing Part 3	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
14	Unit 14 Job Hunting Part 1	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リンガポルタ
15	Unit 15 Job Hunting Part 1	環境についてテキストからの音声、文法問題で学習	期末試験の準備 リンガポルタ

関連科目	ビジネスイングリッシュ 1

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Business English for Beginners	Satoko Yoshino 他	三修社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Overall Skills for the TOEIC Test	Takayuki Ishii 他	成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	教員の評価 70%、TOEIC 30%で評価する。
学生へのメッセージ	電子辞書を持参。必ず予習をすること。 リンガポルタで自習して下さい。
担当者の研究室等	7 号館非常勤講師室
備考	

科目名	ビジネス中国語基礎a	科目名（英文）	Basic Chinese for Business a
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	欒　玉璽
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音編 第1課　発音1	ピンインと四声，単母音，子音①，複母音①。	練習問題を解答する。
2	第2課　発音2	複母音②，鼻母音，子音②。	練習問題を解答する。
3	第3課　発音3	複母音③④，子音③。	練習問題を解答する。
4	第4課　発音4	子音④⑤。	練習問題を解答する。
5	本文編 第1課　お名前は？	☆単元テスト1 形容詞述語文，疑問文，副詞「很」。	練習問題を解答する。
6	第1課　お名前は？	副詞「不」，疑問詞疑問文，名前の言い方。	練習問題を解答する。
7	第2課　僕は日本人だ	「是」構文，副詞「都」。	練習問題を解答する。
8	第2課　僕は日本人だ	助詞「的」，反復疑問文。	練習問題を解答する。
9	第3課　君は大阪人だよね？	☆単元テスト2 動詞述語文，終助詞「?」，副詞「也」。	練習問題を解答する。
10	第3課　君は大阪人だよね？	命令文，同時進行の表現。	練習問題を解答する。
11	第4課　おいくら？	動詞の重ね型，お金の言い方。	練習問題を解答する。
12	第4課　おいくら？	こそあどの言い方，単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
13	第5課　どの先生が好き？	前置詞「和」，名詞述語文。	練習問題を解答する。
14	第5課　どの先生が好き？	時間の言い方。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目	ビジネス中国語基礎c

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業参加と単元テストによる。
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	ビジネス中国語基礎ｂ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business b
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西　紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課　発音１	ピンイン，単母音，声調。	練習問題を解答する。
2	第２課　発音２	子音，無気音と有気音，捲舌音。	練習問題を解答する。
3	第３課　発音３	複母音，ｒ化音。	練習問題を解答する。
4	第４課　発音４	鼻母音，声調の変化。	練習問題を解答する。
5	第５課　発音の復習チェックシート	発音編の復習。 ☆単元テスト１	練習問題を解答する。
6	第６課　（会話）初めまして	人称代名詞，「是」構文，氏名の言い方，疑問文。	練習問題を解答する。
7	第６課　（会話）初めまして	副詞「也」，副詞「不」。	練習問題を解答する。
8	第７課　（会話）これはサンプルです	指示代名詞，疑問詞疑問文。	練習問題を解答する。
9	第７課　（会話）これはサンプルです	助詞「的」，副詞「都」。	練習問題を解答する。
10	第８課　復習チェックシート	第６課～第７課の復習。 ☆単元テスト２	練習問題を解答する。
11	第９課　（会話）お茶をどうぞ	動詞述語文，時間の言い方。	練習問題を解答する。
12	第９課　（会話）お茶をどうぞ	時間詞の用法，動詞「在」。	練習問題を解答する。
13	第 10 課　（会話）お近付きになれてうれしい	形容詞述語文，反復疑問文。	練習問題を解答する。
14	第 10 課　（会話）お近付きになれてうれしい	助詞「?」，副詞「有点」。	練習問題を解答する。
15	第 11 課　復習チェックシート	第９課～第 10 課の復習。 ☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅰｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　ビジネス中国語	外国語学部中国語教室編	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業参加と単元テストによる。 出席回数は 10 回以上；単元テストの平均点が 60 点を越えていることを単位認定の基準とします。 音読発表は随時行いますが、その成績も平常評価として重視します。
学生へのメッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 教科書の音読練習は授業時間以外にも時間をとって練習してください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	ビジネス中国語基礎 c	科目名（英文）	Basic Chinese for Business c
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第6課　今は3時5分前だ	「有」と「在」，疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
2	第6課　今は3時5分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
3	第7課　この前の土曜日映画を見に行った	副詞「経常」，例示の言い方。	練習問題を解答する。
4	第7課　この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
5	第8課　小説は好きなの？	☆単元テスト1 前置詞「従」と「到」，副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
6	第8課　小説は好きなの？	前置詞「離」，前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
7	第9課　ファーストフード店は家から近い	副詞「就」，副詞「才」。	練習問題を解答する。
8	第9課　ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」，文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
9	第10課　北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト2 助詞「過」，助動詞「要」。	練習問題を解答する。
10	第10課　北京ダックを食べたことある？	副詞「再」，副詞「別」。	練習問題を解答する。
11	第11課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文，助動詞「会」，構造助詞「得」，副詞「只」。	練習問題を解答する。
12	第11課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」，比較の「没有」，禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
13	第12課　もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」，仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
14	第12課　もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目	ビジネス中国語基礎 a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業参加と単元テストによる。
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。
担当者の研究室等	7号館3階（兪研究室）
備考	

科目名	ビジネス中国語基礎ｄ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business d
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西　紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。2年以後は外国語学部「中国語Ⅲ」「中国語Ⅳに継続可能。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	この講義は中国語Ⅱｂの講義と連携し、同一教科書を使用して週２コマをリレー式に進められる（１コマだけの履修も可。）
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	介詞３，量詞３	第７課１	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	選択疑問文，副詞７	第７課３	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第７課復習	第７課１～４	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	了１，了２	第８課２	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	会話８	第８課４	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	状態補語，介詞５	第９課１	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	副詞９，把字句	第９課３	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第７課～第９課まとめ	第３回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	動量詞２，副詞11	第10課２	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話10	第10課４	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	能願動詞２，動量詞３	第11課１	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	比較文，能願動詞４	第11課３	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第11課復習	第11課１～４	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	進行文，接続詞１	第12課２	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	会話12	第12課４	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語Ⅱｂ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　ビジネス中国語　（　前期購入者は購入の必要なし　）	外国語学部中国語研究室編	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単元テストの成績と平常点により総合的に判断する。 単元テストの平均点が60点以上；出席回数が10回以上であることが単位認定の最低条件となります。 音読発表も随時行いますが、その成績も平常点として重視します。
学生へのメッセージ	使用教科書は前期と同じなので、前期購入者は後期購入する必要はない。但し、後期から新しく登録したものは教科書の購入が必要である。 私語を慎むように。他の受講生の迷惑になります。 上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。出席は10回以上ないと単位が認定できない。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	保健論	科目名（英文）	Theory of Health
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内部　昭彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会では、健康問題が最大の関心事である。特に生活習慣病は増加の一途をたどっている。この要因は食生活・運動・喫煙・飲酒・休養・ストレス等のライフスタイルに強く関連している。本講義では以上を踏まえて受講者が生涯にわたって自ら健康づくりを実践できる方法を具体的に論述する。
到達目標	①ライフスタイルの重要性について理解する。②生活習慣病について理解する。③健康づくりのための運動処方について理解する。④疾病について理解する。 学科の学習・教育目標との対応：[A]
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果（資格）	本人が自覚して健康維持・増進を図ることの出来る能力を身につけ、生活の内容を豊かにすることを願う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	健康論とは	・ガイダンス ・現代の健康についての概念	・筆記用具の準備
2	喫煙と健康	・煙草の種類　・喫煙のリスク ・喫煙の弊害	・喫煙のリスク、 健康への害に対する理解
3	薬物と健康	・違法薬物とは　・薬物中毒　・薬物の内容・弊害	・違法薬物に対しての理解
4	飲酒と健康	・飲酒と健康 ・飲酒の弊害	・アルコールの知識を理解を深める
5	思春期と性	・身体の変化 ・性とは	・性に対する理解を深める
6	妊娠・出産	・妊娠とは ・妊娠初期について　・妊娠中期について ・妊娠後期について ・産じょく期について	・妊娠初期、中期の理解 ・妊娠後期、産褥期の理解
7	性感染症	・性感染症とは ・現代の性感染症　・予防方法	・現代の性感染症の確認と理解
8	エイズ	・エイズを知る ・現代のエイズ状況 ・HIV と AIDS ・感染経路 ・エイズの予防対策	・世界の現状を理解 ・エイズの感染経路の確認と理解 ・エイズの予防の確認と理解
9	生活習慣病予防としての運動の役割	・「運動」「栄養」「休養」について概説し、それらと生活習慣病との関連性について説明する。 ・五大栄養素とその役割について解説する。	・生活習慣病予防としての運動の理解
10	食事と睡眠・心身相関	・健康な食事と睡眠　・心身の関係性	・正しい食事、睡眠の確認と理解
11	発育・発達・老化	・幼少期から青年期にいたる身体の形態発育・機能発達と、それらに運動トレーニングが及ぼす効果について解説 ・身体の形態・機能の老化について解説 ・中・高齢者における運動トレーニングの効果について解説	発育・発達・老化について理解
12	運動障害と予防、応急処置	・日常の応急手当、スポーツ障害、過換気症候群、RICE 処置、心肺蘇生法について解説 ・救急処置法 ・救急処置の実際	・日常生活やスポーツ実施時の応急処置の方法 ・事故などに関する応急処置の方法
13	健康づくりのための運動処方	・有酸素・無酸素運動、レジスタンストレーニングについて、健康づくりの観点から解説 ・年代・性差による違いについても説明	・健康づくりのための運動について理解
14	ストレス・疲労への対策	・ストレス要因の軽減・ストレスへの早期対応としてのスポーツの関わりを解説 ・疲労が起こるしくみとその対策について解説	・スポーツによる、ストレスの軽減を理解
15	健康論総括（テスト）	１４回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習

関連科目	スポーツ科学実習１・２ 生涯スポーツ実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			
評価方法 （基準）	出席率 75%以上のものを試験資格者とする。遅刻は 2 回で 1 回の欠席と同等とみなす。（遅刻は授業開始から 30 分以内に入室したことをいう） 健康論総括（15 回目）におけるテストを 100%の割合で評価を行う。（ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象者とする。）			
学生への メッセージ	質問等がある場合は、研究室あるいは総合体育館事務室に来て下さい。			
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 内部助教室			
備考				

教　養　科　目

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松木園　久子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校までに学習した内容を復習すると同時に、さらなる英語の基礎力を修得する。教科書はTOEICテストに準じた形式の問題を含んでいるので、TOEICテストに慣れ親しむことができるだろう。技能面では、特に読解力、聴解力の向上に力を入れる。加えて、語彙力については補助テキストを用い、授業時間内に単語テストを行う。
到達目標	文章を明確に読む読解力と、短い文を聞き取る聴解力を向上させる。 TOEIC bridge、TOEICテストに慣れ親しむ。
授業方法と留意点	２回の授業で、教科書の１課分を学習する。予習を指示した箇所は、必ず辞書を引いて、問題を解いておくこと。授業では、文法の解説、重要な単語・熟語の指摘、間違えやすいパターンを解説する。各自で自分の苦手な箇所を見つけ出し、ノートを取るなど、積極的に弱点克服に努めること。必要に応じてプリント等（教員から配布）も使用する。毎回の授業時間内(終了前)に質問時間をとるので、積極的に活用してほしい。授業の前後には、必ず予習、復習することが必要である。 理解度を確認するために、学期中に小テストを２回行う。また月に１回、授業の冒頭で単語小テストを行う。授業にはできるだけ辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC bridge、TOEICテストのスコアアップを目指す。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	TOEIC模擬テスト	TOEICテストを1/2サイズにした模擬テストを行う。	教科書Chapter 7リスニングの予習。
2	Chapter 7 (1)	Part 1：周辺の状況と複数の人物の動作 Part 2：Yes, No 疑問文に対する答え Part 3/4：話し手と聞き手の次の行動の推測	教科書Chapter 7リスニングの復習およびChapter 7リーディングの予習。
3	Chapter 7 (2)	Part 5/6：名詞を作る接尾辞　Part 7：読み手の次の行動の推測	教科書 Chapter 7 リーディングの復習およびChapter 8リスニングの予習。
4	Chapter 8 (1)	Part 1：周辺の状況と複数の人物の動作 Part 2：Yes, No 疑問文に対する答え Part 3/4：パラフレーズ	教科書Chapter 8リスニングの復習およびChapter 8リーディングの予習。
5	Chapter 8 (2)	Part 5/6：形容詞や副詞を作る接尾辞 Part 7：パラフレーズ	教科書 Chapter 8 リーディングの復習およびChapter 9リスニングの予習。
6	Chapter 9 (1)	Part 1：風景写真の細部　Part 2：依頼文に対する答え　Part 3/4：パラフレーズ	教科書Chapter 9リスニングの復習およびChapter 9リーディングの予習。
7	Chapter 9 (2)	Part 5/6：動詞、不定詞　Part 7：パラフレーズ	教科書Chapter 7～9の復習。
8	小テストおよび短いリーディング	Chapter 7～9 の内容について小テストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	教科書Chapter 10リスニングの予習。
9	Chapter 10 (1)	Part 1：風景写真の細部　Part 2：依頼や誘いの文に対する答え　Part 3/4：パラフレーズ	教科書Chapter 10リスニングの復習およびChapter 10リーディングの予習。
10	Chapter 10 (2)	Part 5/6：分詞　Part 7：パラフレーズ	教科書 Chapter 10 リーディングの復習およびChapter 11リスニングの予習。
11	Chapter 11 (1)	Part 1：風景写真の細部　Part 2：依頼文に対する答え　Part 3/4：パラフレーズ	教科書Chapter 11リスニングの復習およびChapter 11リーディングの予習。
12	Chapter 11 (2)	Part 5/6：仮定法　Part 7：パラフレーズ	教科書 Chapter 11 リーディングの復習およびChapter 11リスニングの予習。
13	Chapter 12 (1)	Part 1：風景写真の細部　Part 2：誘いの文に対する答え　Part 3/4：パラフレーズ	教科書Chapter 12リスニングの復習およびChapter 12リーディングの予習。
14	Chapter 12 (2)	Part 5/6：助動詞　Part 7：パラフレーズ	教科書Chapter 10～12までの復習。
15	小テストおよび短いリーディング	Chapter 10～12 までの内容について小テストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	後期で学んだ文法事項、TOEICのポイントを復習。

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Practical Tips for the TOEIC Test　ストラテジーで学ぶTOEICテスト(ISBN:9784791931231)	杉田麻哉	成美堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test; Word Book		成美堂
2			
3			

評価方法（基準）：出席は毎回とり、4回以上欠席した場合は単位を認定しない。教科書に関して各学期中に合計２回の小テストを行い、定期試験は実施しない。成績は、単語テスト(20%)、予習状況を含む平常点(40%)、小テスト(40%)、で評価する。

学生への メッセージ	この授業はTOEIC形式の問題を中心に行いますが、あくまで基礎力の修得を重視します。それは、新聞・雑誌・論文・文学などすべての英語の基礎となるものです。気を抜かず、しっかり身につけましょう。受け身ではなく、各自が積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語基礎会話 a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	In this course students will continue to develop the basic skills in vocabulary and grammar to communicate effectively in English. Students will work in pairs and small groups and practice English in a variety of realistic situations.
到達目標	
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 0: - Introductions - Key phrases for classroom interaction and learning	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
2	Unit 1: - Describe a vacation - Agree and disagree with others - Understand activities and plans - Understand a travel article	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
3	Unit 1: - Describe a vacation - Agree and disagree with others - Understand activities and plans - Understand a travel article	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
4	Unit 2: - Understand and give opinions - Use -ing, -ed adjectives - Understand descriptions of relaxing activities - Understand short movie reviews	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
5	Unit 2: - Understand and give opinions - Use -ing, -ed adjectives - Understand descriptions of relaxing activities - Understand short movie reviews	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 1 & 2 Test.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
6	Unit 3: - Talk about personal experiences - Use the present perfect - Understand interviews about sports - Understand an article about extreme sports	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
7	Unit 3: - Talk about personal experiences - Use the present perfect - Understand interviews about sports - Understand an article about extreme sports	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
8	Review Units 1-3: Conversation: Two friends talking about music. Reading: "Jen Jones, extreme sports enthusiast"	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
9	Unit 4: - Describe places - Use superlative adjectives - Understand a geography game show	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.

		- Understand an article about dangerous animals		
	10	Unit 4: - Describe places - Use superlative adjectives - Understand a geography game show - Understand an article about dangerous animals	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 3 & 4 test.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	11	Unit 5: - Describe special cultural events - Use clauses with before, after, and when - Understand different New Year's traditions - Understand an article about famous festivals	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	12	Unit 5: - Describe special cultural events - Use clauses with before, after, and when - Understand different New Year's traditions - Understand an article about famous festivals	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	13	Unit 6: - Talk about suggestions and obligations - Use should and have to - Understand people giving advice - Understand an article about managing stress	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	14	Unit 6: - Talk about suggestions and obligations - Use should and have to - Understand people giving advice - Understand an article about managing stress	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 5 & 6 test	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	15	Review Units 4-6 Conversation: A friend telling another friend about his vacation plans Reading: "The Marathon: The Greatest Test"	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	・・・

関連科目	Drama, Skills training, English Presentation

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice：Second Edition Level 1 Student Book with Online Practice 2,940 円 (ISBN-13: 9780194407373)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) Introduction speech (20%)
学生へのメッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays' - particularly in Australia - should you have any.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	http://elt.oup.com/student/smartchoice/ Practice grammar and vocabulary with fun games, and practice pronunciation with songs and karaoke.

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	In this course students will continue to develop the basic skills in vocabulary and grammar to communicate effectively in English. Students will work in pairs and small groups and practice English in a variety of realistic situations.
到達目標	
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	- Course orientation and review of course guidelines and assessment tasks. - Review greetings - Discuss summer holiday activities	Students will discover, practice and individualise the language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Begin online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the next unit to be studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
2	Unit 7: - Understand and make complaints - Use too/not enough and too many/much - Understand conversations about shopping habits - Understand an article about online shopping	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
3	Unit 7: - Understand and make complaints - Use too/not enough and too many/much - Understand conversations about shopping habits - Understand an article about online shopping	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
4	Unit 8: - Describe preferences - Use relative clauses - Understand voicemail messages - Understand an article about dating advice	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
5	Unit 8: - Describe preferences - Use relative clauses - Understand voicemail messages - Understand an article about dating advice	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 7 & 8 test.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
6	Unit 9: - Narrate a story about events in the past - Use the past continuous - Understand descriptions of accidents - Understand a report about a dramatic event	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
7	Unit 9: - Narrate a story about events in the past - Use the past continuous - Understand descriptions of accidents - Understand a report about a dramatic event	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
8	Review Units 7-9: Conversation: A person telling a friend about someone she met Reading: "Life is Dangerous - Indoors or Outdoors!"	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
9	Unit 10: - Make speculations about things and situations - Use may, might, could,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar,	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get

	can't, and must - Understand people describing extreme events - Understand an article about storm chasers	pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
10	Unit 10: - Make speculations about things and situations - Use may, might, could, can't, and must - Understand people describing extreme events - Understand an article about storm chasers	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 9 & 10 test.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
11	Unit 11: - Talk about past habits - Use 'used to' - Understand family histories - Understand a short biography of an actor	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
12	Unit 11: - Talk about past habits - Use 'used to' - Understand family histories - Understand a short biography of an actor	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
13	Unit 12: - Talk about housing options - Use if clauses with modals - Understand radio interviews about studying abroad - Understand short articles about architecture	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
14	Unit 12: - Talk about housing options - Use if clauses with modals - Understand radio interviews about studying abroad - Understand short articles about architecture	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 11 & 12 test.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
15	Review Units 10-12 Conversation: A job interview Reading: "How do you survive an earthquake?	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	・・・

関連科目	Drama, Skills training, English Presentation

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice：Second Edition Level 1 Student Book with Online Practice 2,940 円 (ISBN-13: 9780194407373)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) Speech on Japanese economy, industry or company (20%)
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays' - particularly in Australia - should you have any.
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	http://elt.oup.com/student/smartchoice/ Practice grammar and vocabulary with fun games, and practice pronunciation with songs and karaoke.

科目名	英語で学ぶ工学入門（ものづくり編）	科目名（英文）	Introduction to Manufacturing Engineering
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森脇　俊道
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The lecture is intended to give fundamental knowledge of mechanical manufacturing processes, machines and systems in English to those who are not necessarily to be specialists of the subject.
到達目標	The target of the lecture is that the students can understand the general idea of manufacturing and exchange opinions with others about manufacturing in English.
授業方法と留意点	The lecture is given in English. Slides and movies will be frequently utilized to assist understanding of the contents of the lecture. The students are requested to study the contents of the subject in advance and to prepare for presentation of the home work in the class room each time.
科目学習の効果（資格）	The students will be able to understand basic manufacturing engineering and exchange ideas about manufacturing with others in English.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Overview of manufacturing engineering	Role of manufacturing engineering. Classification and history of manufacturing technology.	Examine typical manufacturing methods in early days.
2	Examples of industrial products and their functions	Anatomy of industrial products, such as car, air plane, train and home appliances.	Examine structure and function of a product at hand.
3	Engineering materials	Ferrous materials, non-ferrous metals, plastics, ceramics etc.	Name materials at hand and examine their fundamental properties.
4	Fundamental properties of materials	Elasticity, plasticity, strength, specific weight etc.	Compare mechanical properties of materials at hand.
5	Manufacturing of raw materials	Manufacturing processes of steel, Aluminum and other materials.	Name typical raw materials before processing.
6	Casting	Basic and advanced casting processes and examples of casted products.	Name typical casted parts or products.
7	Forming and forging	Basic and advanced forming and forging processes and examples of formed or forged products.	Name typical formed or forged parts or products.
8	Welding and joining	Basic and advanced welding and joining processes and examples of welded or joined products.	Name typical welded or joined parts and products.
9	Cutting	Metal cutting process and cutting tools. Examples of cut parts.	Name typical cut parts or products.
10	Grinding and polishing	Grinding process and grinding methods. Examples of ground parts.	Name typical ground parts or products.
11	Machine tools	Basic structure of machine tools. Conventional and computer controlled machine tools.	Name typical machine tools and examine their functions.
12	Non-traditional processing	Laser processing, electro discharge machining, additive manufacturing etc.	Name typical parts or products processed by non-traditional methods.
13	Manufacturing systems	Manufacturing systems and their components. History of manufacturing systems.	Examine functions of manufacturing systems.
14	Industrial robots	Application of industrial robots to manufacturing and advanced robot technology.	Examine types and functions of industrial robots.
15	Summary of manufacturing engineering	Review of the lecture.	Summarize the key points of the lecture.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	50% of the points are given based on the contribution to the lecture including presentation of the home-work in the class room. Another 50 % of the points are given based on the test results at the end of the term.
学生へのメッセージ	The lecture is not intended to give specific knowledge of manufacturing engineering, but to give rather general knowledge of manufacturing engineering so that they can broaden their minds and deepen knowledge of English.
担当者の研究室等	１２号館６階　森脇教授室
備考	

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ａ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy I~IV(A1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柳沢　学
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。 V 科の学習・教育目標との対応：A R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：A1 E 科の学習・教育到達目標との対応：A, B C 科の学習・教育到達目標との対応：Ⅰ
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果（資格）	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	建築とは何か	建築の考え方、 建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、 ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	建築と都市環境	建築と都市の関係、 都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	建築の歴史	建築の歴史的変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	建築の内装	インテリア、 家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	建築のＵＤ	こどもと建築、 バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバーションといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、 エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80%で評価する。期末試験は行わない。理工学部の出席規定を遵守すること。
学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の研究室等	８号館３階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 教科書（配布予定）ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、１回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ａ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy I~IV(A2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柳沢　学
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業後の社会生活において必要な科学技術の教養を身に付けてこれからの社会を生き抜くことができるようになる。 V 科の学習・教育目標との対応：A R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：A1 E 科の学習・教育到達目標との対応：A, B C 科の学習・教育到達目標との対応：Ⅰ
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果（資格）	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮説住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	専門科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80%で評価する。期末試験は行わない。理工学部の出席規定を遵守すること。
学生へのメッセージ	受講者希望者数が定数と超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の研究室等	８号館３階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 教科書（配布予定）ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、１回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｃ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy I~IV(C1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	頭井　洋
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

授業の目的は，受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原理を知ってもらうことである．第１回目の授業では，身の回りの土木技術の例を取り上げ，それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する．第２・３回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する．第４～７回は「土木」の由来となる基本的な材料，第８～11回は設計方法，第12～15回は計画と環境問題について講義する．

到達目標

土木技術全般の基礎知識を有し，土木技術と社会や経済活動，生活との関りを理解できる．

V科の学習・教育目標との対応：A
R科の学習・教育目標との対応：A
A科の学習・教育到達目標との対応：A
M科の学習・教育到達目標との対応：A1
E科の学習・教育到達目標との対応：A，B
C科の学習・教育到達目標との対応：Ⅰ

授業方法と留意点

・基本的にパワーポイントを用いた講義形式．授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する．
・歴史と人物と基本原理をセットとして取り扱う．第４回以降は材料や設計の基本原理を扱う．基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う．
・講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には，サンプルや簡単な実験を併用する．

科目学習の効果（資格）

産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ，安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網，上下水道，エネルギー施設，防災施設，憩い．・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社，設計コンサルタント，公務員，メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦，敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦，敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料，土と人類，土と木 締固めて使う，事例1(古くからの技術)，事例２（近代以降の技術）	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性，品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料，リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか． 歩測からGPSまで，原理，応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか． 構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める．水と波の力を計算する．川，ダムと港の設計へ． 水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割，地下空間． 地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 （計画学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 （上下水道学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題，循環型社会 （環境工学）	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目

特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料：科学技術教養　C1	都市環境工学科全教員	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		
2			
3			

評価方法 （基準）	受講態度 20%，受講メモ 40%，レポート・小論文 40%の総合点で評価する．※レポート・小論文は，授業のまとめとして毎回あるいは 2〜3 回に一回程度実施する予定．期末試験は行わない．
学生への メッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります．この講義を通じて，自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです．
担当者の 研究室等	講義担当者居室　1 号館 3 階および 4 階
備考	事前・事後学習にかける学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含めは，毎回 1 時間程度としてください．

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｃ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy I~IV(C2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	頭井　洋
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に，建設事業の流れに沿って，社会的な位置づけ，市民生活との関わりを解説する．第１回目の授業では，事業主体別にプロジェクトの流れを説明する．第２～３回目は，高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査，環境の調査を解説する．第４～７回は高速道路を構成する橋，トンネル，道路の設計と施工の考え方を解説する．第８～15 回は，安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰，堤防，浸水対策，ライフライン，公園・まちづくり，地震防災など身近なテーマを概説する．
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動，生活との関りを理解できる． V 科の学習・教育目標との対応：A R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：A1 E 科の学習・教育到達目標との対応：A，B C 科の学習・教育到達目標との対応：Ⅰ
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いた講義形式とする．私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され，設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する．代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ，安全で安心な社会を築くため，何が重要かを理解できるように講義を進める．
科目学習の効果（資格）	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ，安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会基盤をつくる建設事業の流れ	国家プロジェクト，地域プロジェクト，民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ，計画（意思決定）～調査～設計～施工の概要	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連，一般道路や鉄道との関連，需要予測，予算，資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
3	建設に必要な調査①（地形の調査・土質の調査）	測量計測技術（地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS 測量），地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
4	建設に必要な調査②（環境の調査）	生態系・環境への影響，負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋，橋の形式と適用支間長，景観設計，施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
6	トンネル，半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工，地山の強度と工法，半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式，道路の構造，道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え（治水、防災），発電・灌漑・上水などの多目的ダム，ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え（治山・治水、防災），計画雨量，遊水池，親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
10	都市型洪水への備え	透水性舗装，都市大型地下貯槽，屋上緑化，排水と下水道設計，地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道，水質管理，水質浄化，下水処理，電気，通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは，実現するものは，人とのかかわり，技術とのかかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系，人口増加と都市化・食糧生産，・自然エネルギーの問題点，火力発電所と大気汚染・温暖化，原子力発電と放射能問題，温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性，地震に備える構造とは？制震構造と免震構造，ライフラインの耐震，避難体制，緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤，津波，避難施設，避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料：科学技術教養　C2	都市環境工学科全教員	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		
2			
3			

評価方法	受講態度 20%，受講メモ 40%，レポート・小論文 40%の総合点で評価する．※レポート・小論文は，授業のまとめとして毎回あるいは 2～3 回に一

（基準）	回程度実施する予定．期末試験は行わない．
学生への メッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります．この講義を通じて，自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです．
担当者の 研究室等	講義担当者居室　1号館3階および4階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは，理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする． 事前・事後学習にかける学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め，毎回1時間程度としてください．

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｅ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy I~IV(E1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鹿間　信介
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら，身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ，半導体や太陽電池の構造，携帯電話やパソコン，インターネットのしくみまで，電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。 V 科の学習・教育目標との対応：A R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：A1 E 科の学習・教育到達目標との対応：A，B C 科の学習・教育到達目標との対応：Ⅰ
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い，授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は１話完結であるが，相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果（資格）	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。これらの原理や特性を知ることで，その性能をフルに引き出すことができる。また，身近な電気製品のしくみを知ることで，より有効活用することができる。国家資格で電気の基礎の出題がある場合には，その基礎勉強にもなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	電磁気学の歴史，電気回路の基礎， 抵抗と電気エネルギーの利用，消費電力，交流と直流	電気に関するニュースに注意する．１時間
2	電池の構造と応用技術	磁石と力，電磁石， 直流モータと交流モータ	配付資料を復習する．１時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力，電磁石， 直流モータと交流モータ	配付資料を復習する．１時間
4	半導体のお話	半導体とは何か，ｐ形とｎ形 大規模集積回路，LED 照明とは	配付資料を復習する．１時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する 売電のしくみ	配付資料を復習する．１時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史，　真空管と半導体・集積回路， 代表的なアナログ電子回路	配付資料を復習する．１時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光，マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式，ラジオとテレビ	配付資料を復習する．１時間
8	モールス通信から携帯電話へ	モールス電信からベルの電話へ，電話機と交換機のしくみ， アナログからディジタルへ，携帯電話とネットワークのしくみ	配付資料を復習する．１時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル，２進数とは，論理回路入門	配付資料を復習する．１時間
10	パソコンの内部構造	真空管計算機 ENIAC，電子回路で論理計算をする ハードウェアとソフトウェア，CPU とメモリ，ハードディスクと SSD	配付資料を復習する．１時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性，温度制御，圧力制御 電子レンジやＩＨのしくみ	配付資料を復習する．１時間
12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ，録音技術の歴史 ＣＤのしくみ，アナログ録音とデジタル録音，人工音の合成	配付資料を復習する．１時間
13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理，各種表示デバイスのしくみ， 立体映像表示の原理と実例	配付資料を復習する．１時間
14	インターネットのつなぎ方	インターネットのしくみ，ルータとハブ 無線ＬＡＮ，ネットワークセキュリティ	配付資料を復習する．１時間
15	医療分野への貢献	ガルバノの実験，義手の制御 電気工学の医療への応用	配付資料を復習する．１時間

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	資料を配付する		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度 20%，受講メモ 40%，小テスト 40%の総合点で評価する

学生への メッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく，そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
担当者の 研究室等	１号館４階・５階の電気電子工学教員室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｅ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy I~IV(E2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鹿間　信介
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後，電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに，現代社会において応用されている電気電子工学，通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術，携帯電話やレーザー光線の原理，最新のナノテクノロジーやロボット工学，また宇宙規模の電気の話などもあり，最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。 V 科の学習・教育目標との対応：A R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：A1 E 科の学習・教育到達目標との対応：A，B C 科の学習・教育到達目標との対応：Ⅰ
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い，授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は１話完結であるが，相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果（資格）	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより，電気への理解を深め，これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。また，携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。国家資格で電気の基礎の出題がある場合には，その基礎勉強にもなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	琥珀はエレクトロン，磁石の利用，クーロンの法則，アンペールの法則，ファラデーの電磁誘導，マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する．１時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ，発電機，水力，火力 交流発生か直流か，50Hz と 60Hz	配付資料を復習する．１時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生，原子力発電のしくみ，事故と防災対策， 放射線の性質と測定	配付資料を復習する．１時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電，風力発電 地熱発電，海洋エネルギー，宇宙発電， エネルギー効率	配付資料を復習する．１時間
5	送電・配電	電気を安定に送る，交流送電か直流送電，周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換，スマートグリッド	配付資料を復習する．１時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生，モータのしくみ 電車，リニア新幹線，電気ブレーキと電力回生	配付資料を復習する．１時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法，初期のラジオ放送，電波に映像を載せる テレビ放送の開始からカラーテレビへ， デジタル化と双方向テレビ	配付資料を復習する．１時間
8	携帯電話のしくみ	有線電話から無線へ，無線基地局と無線ゾーン，携帯電話がつながるしくみ，メールや Web への応用，携帯電話のこれから	配付資料を復習する．１時間
9	電気照明の発達	エジソンによる電灯の発明，蛍光灯のしくみ，青色ＬＥＤの発明，ＬＥＤ照明	配付資料を復習する．１時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射，線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ，レーザーの特徴	配付資料を復習する．１時間
11	電気通信から光通信へ	電気信号と光信号の変換，光で通信する光ファイバと高速・大容量化，光で測る	配付資料を復習する．１時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理，半導体集積回路の構造，集積回路技術の歴史と現状， スマートフォンからウェアラブル計算機へ，今後の発展	配付資料を復習する．１時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械，手回し計算機と計算尺，最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算，金融計算から天気予報まで	配付資料を復習する．１時間
14	最新ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来 ハードとソフト（人工知能）はどこまでできているのか	配付資料を復習する．１時間
15	電気と宇宙	第４の状態ープラズマ，放電の原理と応用，雷の発生原理， 太陽プラズマと黒点の関係，オーロラの発光メカニズム	配付資料を復習する．１時間

関連科目	特になし
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	資料を配付する		
	2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	受講態度 20%，受講メモ 40%，小テスト 40%の総合点で評価する
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて，エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし，単純に噂などを鵜呑みにするのではなく，電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば，風評に惑わされることなく，対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。
担当者の 研究室等	１号館４階・５階電気電子工学科教員室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｍ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy I~IV(M1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪　晴彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	機械工学は，ヒトが活動する上での効率化，合理化，さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では，ヒトはなぜモノを作ろうとするのか，何を用いてモノを作ってきたのか，どのようにモノを作るのかに注目し，その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること，さらには産業の発展に役立ってきたさまざま機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ，機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。 V 科の学習・教育目標との対応：A R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：A1 E 科の学習・教育到達目標との対応：A，B C 科の学習・教育到達目標との対応：Ⅰ
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史，基本原理，最先端の話題を２回もしくは３回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ（ノート）を提出するため，講義の内容をよく聞き，ノートにていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品，人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て，知見を広めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは？	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて，機械工学の役割，範囲，応用を紹介する。	配布資料に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造，塑性加工，粉末冶金，材料加工，生産加工 ・刀鍛冶，セラミックス，溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか？ ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造（金属と何が異なるか？） ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶，超伝導，ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械（工作機械の歴史） ・機械時計，工具と運動，機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する（コンピュータと工作機械） ・精密加工，マシニングセル，ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) - 工場（ファクトリー）	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場，デジタル屋台，トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪，滑車，てこ，歯車	配布資料に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器，電動機	配布資料に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ，電動アシスト自転車，人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計，携帯電話，計算機，テレビカメラ，情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則，加工法・アクチュエータ ・微細加工，ナノテク，半導体製造，カーボンナノチューブ，微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡，鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目	産業技術史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養Ｍ１		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回，講義メモとレポートを提出する。 受講態度（20%），講義メモ（40%），レポート（40%）を評価する。
学生への メッセージ	機械工学が関わる製品や技術を，大きなスケールで幅広く知ることができます。また，道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどういう乗り物が実現されているか？等々，工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し，就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館の 3 階・4 階・5 階〕
備考	

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（M２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy I~IV(M2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸本　直子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	機械工学は，ヒトが活動する上での効率化，合理化，さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では，ヒトはなぜモノを作ろうとするのか，何を用いてモノを作ってきたのか，どのようにモノを作るのかに注目し，その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること，さらには産業の発展に役立ってきたさまざま機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに，機械システムと社会や経済活動，生活・生命との関わりを理解する． V 科の学習・教育目標との対応：A R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：A1 E 科の学習・教育到達目標との対応：A，B C 科の学習・教育到達目標との対応：Ⅰ
授業方法と留意点	・各テーマごとに，歴史，基本原理，最先端の話題を２回もしくは３回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ（ノート）を提出するため，講義の内容をよく聞き，ノートにていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品，人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て，知見を広めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは？	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて，機械工学の役割，範囲，応用を紹介する。	配付資料に目を通しておくこと
2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力，蓄力，水力，風力，蒸気力	配付資料に目を通しておくこと
3	活動の源(2) - 発電	・エネルギー利用と発電 ・水力，風力，火力，地熱，原子力発電	配付資料に目を通しておくこと
4	乗り物(1) - エンジン	・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン（ガソリン等），電気モータ	配付資料に目を通しておくこと
5	乗り物(2) - 輸送する	・交通と物流 ・自動車交通，船舶，鉄道	配付資料に目を通しておくこと
6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	・空中を飛ぶことができる機械の機能，種類，歴史と原理 ・飛行機，ヘリコプター，飛行船，揚力	配付資料に目を通しておくこと
7	空間を移動する(2) - 高速移動	・深海に潜ることができる機械の機能，種類，歴史と原理 ・しんかい 6500，深海探査，水圧，チタン合金，生命維持システム	配付資料に目を通しておくこと
8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	・宇宙空間に飛んでいける機械の機能，種類，歴史と原理 ・ロケット，スペースシャトル，宇宙ステーション，高真空，ロケットエンジン	配付資料に目を通しておくこと
9	物を測る	・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係，原器，ものさし，機械的測定	配付資料に目を通しておくこと
10	センサで測る	・センサの発達と誤差との戦い ・センサ，センシング技術，計測と誤差	配付資料に目を通しておくこと
11	制御する	・制御の成り立ちと発展，自動制御とは？ ・調速機，結果を見て制御する（フィードバック）	配付資料に目を通しておくこと
12	操る・抑える	・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム，ロケット，原子力発電，鉄鋼プラント	配付資料に目を通しておくこと
13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	・バイオエンジニアリング，生体工学の世界 ・生体の模倣と設計，鳥と飛行機，ハコフグと低燃費自動車，サソリと多足ロボット	配付資料に目を通しておくこと
14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	・人間を援ける医用工学，人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器，福祉機器，健康機器，スポーツ機器	配付資料に目を通しておくこと
15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	・人間を測る，診る，まねる世界 ・生体計測，生体力学，医用診断装置，ヒューマノイドロボット	配付資料に目を通しておくこと

関連科目	産業技術史
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回，講義メモとレポートを提出する。 受講態度（20%），講義メモ（40%），レポート（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	機械工学が関わる製品や技術を，大きなスケールで幅広く知ることができます。また，道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどういう乗り物が実現されているか？等々，工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し，就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館の 3 階・4 階・5 階〕
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｒ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy I~IV(R1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森山　正和
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる技術、手法を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎知識を習得できる。 V 科の学習・教育目標との対応：A R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：A1 E 科の学習・教育到達目標との対応：A, B C 科の学習・教育到達目標との対応：Ⅰ
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果（資格）	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	（オリエンテーション） 自然の力をかりた住宅デザイン	（科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。） 古代より人間は自然と共生するためにさまざまな工夫をこらした。世界各地におけるそれらの住まいの事例を学ぶ。	配布資料講義部分の復習を十分に行う.
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
4	都市デザインにおけるエコ技術	ヒートアイランド対策をはじめとする、都市デザインにおけるエコ技術について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気の重要性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
6	健康で快適な生活とにおい対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内でのにおい問題やにおい対策の考え方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りと人との関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
8	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
9	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
10	家具のデザイン	生活に必要な道具というだけの意味合いを超えた、近代以降の、時代を象徴する家具デザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
11	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
12	CG と空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられる CG のしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
13	アニメーションと空間デザイン	アニメーションを用いて空間を表現した事例紹介から、そのしくみと効果について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.
15	空間を写実的に描くしくみ	空間を写実的に描くために必要な素材・光をコンピュータで表現するしくみと手法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う.

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなど 80%で評価する。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	受講希望者数が定数を越えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の 研究室等	12 号館　7 階　各教員研究室
備考	出席に関しては、履修申請要領の「科目履修に当たっての注意事項」を遵守すること。 事前・事後学習にかける学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め, 毎回 1 時間程度と考えてください.

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｒ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy I~IV(R2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹村　明久
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会を創造するための手法を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザイン手法を習得できる。 V 科の学習・教育目標との対応：A R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：A1 E 科の学習・教育到達目標との対応：A, B C 科の学習・教育到達目標との対応：Ⅰ
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果（資格）	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	（オリエンテーション） 住まいと生活	（科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。） 住まいと何か。家庭生活や社会生活が複雑に多様化する中での住まいの本来の機能や役割について学ぶ。	配布資料講義部分の復習を十分に行う。
2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	住宅とまちの関係	実例紹介に沿って住環境としてのまちなみの個性と課題を解説する。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	住環境の空間デザイン	自然発生的建築の多義性、多様性を解説し、現代における住環境の空間デザイン論を語る。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	福祉住環境のデザイン	今までに携わってきた実例を紹介しつつ、住の延長としての医療福祉系住環境の課題を解説する。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	様々な人に配慮した住宅･施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	高齢者のための生活空間	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	高齢者の生活環境の広がりと支援	高齢者の外出行動、生活環境の広がりと、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態と構造とその応用デザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	温熱・空気環境と人	温熱環境と空気環境との関わりから、カビ対策など快適な環境確保に必要なことについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	冷暖房システムのエコ技術	日本の気候風土と冷暖房システムの現状を再考し、今後の暮らしのあり方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	暮らしの中の太陽エネルギー利用	太陽光発電システムと太陽熱利用システムをとりあげ、暮らしの中の太陽エネルギー利用について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80%で評価する。 期末試験は行わない。			
学生への メッセージ	受講希望者数が定数を越えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。			
担当者の 研究室等	12 号館　7 階　各教員研究室			
備考	履修申請要領の「科目履修にあたっての注意事項」を遵守する。 事前・事後学習にかける学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回 1 時間程度とすること。			

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｖ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy I~IV(V1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	芳本　忠
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが，その内容を理解することは容易ではない．本講義では，病気・くすりの発見や原因解明の歴史，生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する．その結果，大学生として知っておきたい生命科学の知識を身につけることを目的とする．
到達目標	（1）病気・くすりに関する知識を習得し，新聞やテレビのニュースを理解できるようになる．　（2）病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる． V 科の学習・教育目標との対応：A R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：A1 E 科の学習・教育到達目標との対応：A，B C 科の学習・教育到達目標との対応：Ⅰ
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い，教科書とパワーポイントを用いて解説する（講義によっては配布資料もある）．講義ごとに講義メモの提出を求める．その他，レポート，小論文，演習問題などの課題を課す．
科目学習の効果（資格）	新聞やテレビで見聞きする病気やくすりについてのニュースが理解できる．また，病気の原因解明やくすりの開発における生命科学研究の意義を知ることができる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	病気とくすりの歴史.	人類の発生から現在まで，人々は病気に悩まされてきた．病気の克服、戦闘などで傷ついた体を癒す目的で自然界のいろいろな物質を試行錯誤で用いてきた．その過程で伝統的な薬を見出し，近年になり生命科学の技術により組換え医薬品へ発展してきた創薬技術の歴史を追う．	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
2	病気と遺伝子.	内容：生物の DNA は常に外界の危険因子によって傷（変異）を受けているが，生物の体内には傷を発見して治療する安全システムが存在している．この安全システムはどのように作動して，また不具合が生じた場合にどうなるのか？また身近に存在する危険因子や疾患の代表例について考える．	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
3	脳・神経の病気のしくみ.	脳や神経の病気は難病と言われているものが多く，治療，快復が困難な現状である．まず難病のいくつかを紹介し，それらの治療のためにどのようなことがなされているかを概説する．	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
4	免疫が引き起こす病気のしくみ.	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と，がん，ウイルス感染(インフルエンザ，ＨＩＶ，肝炎)，アレルギー疾患などとの関連について紹介する．	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
5	がんの発生とその予防法.	死因別死亡率のトップはがんであり，約３人に１人ががんで亡くなっている．自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が，がんの原因の３０％を占めており，単因子要因としては最大である．本講義では，がんの発生機序やその予防法について説明する．	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
6	不妊のしくみ.	日本人夫婦(カップル)は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており，実際に治療を受けている人が多い．しかし，なぜ不妊になるのかはっきりしない場合も多い．本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する．	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
7	くすりと遺伝子工学.	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して，遺伝子産物（タンパク質）を生産したり，新しい形質を作り出すなど，遺伝子を人工的に操作する技術，遺伝子工学について紹介する．	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
8	くすりと組換え生物.	8 年ほど前にヒトのすべての DNA 配列が解読されて，ヒトには約 2 万 2 千の遺伝子があることが明らかにされた．ポストゲノム研究では，マウスやラットなどを用いた「遺伝子組み換え生物」が作製され，再生医療や疾患の新しい治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え，バイオ医薬品の作製などにも役立っている．遺伝子組み換え生物の作成と応用について考える．	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
9	くすりとバイオインフォマ	遺伝子やタンパク質の配列情報を例に	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.

	ティクス.	バイオインフォマティクスの概要について説明し，病気と遺伝子，ゲノム創薬への応用について述べる.	
10	くすりとタンパク質のかたち.	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から，インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる.	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
11	くすりとゲノム.	ゲノムとは，創薬とは，遺伝子診断などを解説し，生命倫理，歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる.	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
12	薬物乱用と依存性薬物.	社会のルールからはずれた方法や目的で，薬物を使うことを薬物乱用という. 薬物依存というと，その人の性格や人格の問題と思われがちであるが，脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある. 本講義では，薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する.	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
13	遺伝子治療の最前線.	遺伝子により治療はできるか，遺伝性疾患，科学・技術の概要，基本的な原理，を解説. 生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる.	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
14	神経再生治療の最前線.	ヒトの中枢神経は損傷から回復できない. また，抹消神経であっても神経細胞そのものがダメージを受けるとやはり回復は難しい. ヒトの神経及び神経細胞の損傷からの回復を目指して様々な努力が行われている. それらの研究をわかりやすく概説する.	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.
15	iPS 細胞研究の最前線.	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり，新聞やテレビでもたびたび登場する. 本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する.	テキストと配布資料を充分に予習・復習する.

関連科目	科学技術教養 V2.

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度 20%，講義メモ 40%，およびレポート・小論文・演習問題などの課題 40%の総合点で評価する.
学生へのメッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で，関心も大きいと思います. 本講義では病気やくすりについて，生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します.
担当者の研究室等	1 号館 9 階　芳本，松川，川崎，尾山，西村，中嶋，船越，居場各研究室.
備考	欠席・遅刻の扱いは理工学部の規則に従って処理します. 事前・事後学習にかける学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め，毎回 1 時間程度として下さい.

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｖ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy I~IV(V2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	芳本　忠
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々のくらしを豊かにするバイオテクテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康とくらしを支えている生命科学について説明できる。 V 科の学習・教育目標との対応：A R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：A1 E 科の学習・教育到達目標との対応：A，B C 科の学習・教育到達目標との対応：Ⅰ
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果（資格）	遺伝子組換え技術などのバイオテクテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発酵･腐敗とバイオテクノロジー	古代よりアルコール発酵がおこなわれてきたが，自然発酵によっていたため，度々腐敗となったであろう．安定した生産を求めたことが微生物の単離，殺菌技術の開発，そして現在の遺伝子組換え技術など生命科学の発展をもたらした．この歴史を学ぶ．	配布資料を復習する。
2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し，実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する．	配布資料を復習する。
3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し，これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する．	配布資料を復習する。
4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し，世界における遺伝子組換え植物の実際，遺伝子組換え作物の環境への影響，また，日本における組換え作物の安全審査について説明する．さらに，遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる．	配布資料を復習する。
5	バイオレメディエーションの可能性	過去，日本であった重金属汚染について簡単に復習し，特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する．物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら，適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し，植物を用いた生物学的浄化法についても説明する．	配布資料を復習する。
6	最先端のバイオエネルギー技術	21 世紀に入り，エネルギー枯渇問題，環境負荷低減の要請から，生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している．本講義では，バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで，現在のエネルギーとの比較や生態系･環境との共生の立場から解説する．	配布資料を復習する。
7	新規エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年，エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている．本講義では，これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を，生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する．	配布資料を復習する。
8	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)，二次機能(味，触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し，保健機能食品制度，特定保健用食品，栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する．	配布資料を復習する。
9	食品の健康障害リスクと対策	微生物，アレルギー性物質，残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ，解説する．	配布資料を復習する。
10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真等を示しながら、実際の研	配布資料を復習する。

			究例や今後に期待される展望を紹介する。	
	11	微生物酵素を用いる物質生産システム ～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	酵素は優れた機能を有するタンパク質性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に遅れが見られる。かかる酵素の産業への応用を可能にする酵素利用技術（固定化酵素など）と酵素改変技術（分子進化工学、逆進化工学、タンパク質工学など）の現状と将来について概観する。	配布資料を復習する。
	12	遺伝子工学からゲノム工学へ ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の３つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動植物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノム DNA を扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。
	13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し，水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる．	配布資料を復習する。
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊，地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因，発生機構，人への影響およびその防止対策に関して述べる．	配布資料を復習する。

関連科目	科学技術教養Ｖ１

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業態度 20%、受講メモ 40%およびレポート、小論文、演習問題などの課題 40%の総合点で評価する。
学生への メッセージ	遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康とくらしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。
担当者の 研究室等	１号館８階　環境分析学研究室（青笹）
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱いします。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。

科目名	北河内学－摂南大学と北河内を知る－	科目名（英文）	Introduction to regional partnership between Kitakawachi area and Setsunan University
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	尾山　廣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	[授業概要]学部共通の入門科目として、摂南大学と大学が立地する「北河内地域」の地歴・環境・文化・産業や同地域内にある地方自治体の現状と課題、また、同地域に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動を広範囲にわたって紹介する。[目的] 摂南大学の学生として大学や地域に愛着を持てるようになり、学生生活の中で自分自身を見つける機会とする。また、地域貢献活動や地域社会での実践教育の動機づけとする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりにおける摂南大学の役割を理解し、地域の一員として地域貢献活動への参画意識を身につける。
授業方法と留意点	摂南大学地域連携センター関係教員のほか、北河内地域（寝屋川市・枚方市・交野市・門真市）に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとが学外講師として参画し、オムニバス（リレー）形式による講義を行う。各時間内に質疑応答の時間を設け、毎回、時間内に小レポートを提出する。なお、事前学習として、北河内地域の市の広報ＨＰを閲覧しておくこと。
科目学習の効果（資格）	自分自身が学ぶ摂南大学の歴史を知り、また、地域で活躍する人びとの人生観に触れ、大学と地域に愛着を持ち学生生活の中で自分自身を見つける機会となり地域貢献活動への関心が高まり活動への動機付けが図られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	摂南大学とこの地域を学ぶ「北河内学」	本講義のねらいと学び方について解説した後、摂南大学と本学を設置する常翔学園の歴史を紹介し、併せて摂南大学の教育の理念を紹介する。また、本学と地域社会との関わり合いについての概要を説明する。	事後学習：摂南大学の自校史集やホームページ、図書館を活用して、大学の歴史や教育の理念などについて理解を深めること。
2	北河内の地歴と文化を学ぶ（1）	北河内地域の歴史的建造物について講義する。	事後学習：建造物とその時代背景などを調べ、北河内に関する理解を深めること。
3	北河内の地歴と文化を学ぶ（2）	淀川とその流域の北河内地域の地理・歴史や文化について講義する。地元の研究家が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、図書館を活用するなど淀川とその流域の地理・歴史や文化について理解を深めること。
4	北河内の地歴と文化を学ぶ（3）	都市（寝屋川市）と地方（和歌山県すさみ町）の連携をはかる取り組みを紹介し、両者が共存共栄するための考え方と具体的な施策について地元の方が解説する。	事後学習：寝屋川市と協定を結んでいる和歌山県すさみ町との協働事業について、それぞれのホームページを参照し、調べてみる。
5	北河内のまちを知る（1）寝屋川市	寝屋川市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と寝屋川市を見比べるほか、図書館を活用するなど寝屋川市の現状と課題について理解を深めること。
6	北河内のまちを知る（2）枚方市	枚方市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と枚方市を見比べるほか、図書館を活用するなど枚方市の現状と課題について理解を深めること。
7	北河内のまちを知る（3）交野市	交野市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と交野市を見比べるほか、図書館を活用するなど交野市の現状と課題について理解を深めること。
8	北河内のまちを知る（4）門真市	門真市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と門真市を見比べるほか、図書館を活用するなど門真市の現状と課題について理解を深めること。
9	北河内で活躍する人びとや団体を知る（1）	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などの方が、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
10	北河内で活躍する人びとや団体を知る（2）	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などの方が、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
11	北河内で活躍する人びとや団体を知る（3）	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などの方が、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
12	北河内で活躍する人びとや団体を知る（4）	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などの方が、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
13	北河内で活躍する人びとや団体を知る（5）	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などの方が、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
14	北河内で活躍する人びとや団体を知る（6）	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などの方が、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
15	北河内の産業を知る	北河内地域での産業活動の具体例について講義する。地元の北大阪商工会議所や寝屋川市工業会の役員が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、関係するホームページや図書館を活用するなどして産業活動を再確認し理解を深めること。

関連科目	地理、歴史、文化、経済、産業などに関する教養科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の講義の最後に行う小テストまたはレポート（７５%）に加えて、講義全体に関して課せられるレポート課題（２５%）を総合して評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>毎回必ず出席してください。地域で活躍されている各分野のいろいろな人の話を聞くことで、摂南大学と地域が密接につながっていること、そして自分もこの地域とのつながりを大切にすることの意義がわかるようになり、自信を持って本学での勉学に励むことができるようになります。
　なお、本講義は地域で活躍されている方々の協力のもとに行われます。講師に対する礼を逸することなく、私語を慎み、遅刻、居眠り、途中退室などをしないように心がけてください。態度が悪い学生は受講を認めないことがあります。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館９階　尾山教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>学外講師の事情により、授業計画の内容及び順序が変更になります。４月の第１回の講義時に説明します。
学外講師の関係者が聴講することがあります。
また、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。</td></tr>
</table>

科目名	近代文学から学ぶ	科目名（英文）	Modern Literature
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本の近代文学の短編を読む。なお、明治から敗戦までの作品を近代文学と位置づける。 文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。作品を読むことで、近代の日本人が何を考え、発見し、何に悩んでいたのか、ともに考えたい。 文学作品への抵抗をなくし、作品を読んで考える習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	作品を味わい鑑賞する力を身につける。
授業方法と留意点	毎回、1編の短編作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、作品に対するコメントを書く。
科目学習の効果（資格）	文学に対する関心と知識が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	明治の文学	近代社会へ 言文一致運動	配布したプリントを読み、理解しておく
2	明治の文学	夏目漱石の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
3	明治の文学	森鴎外の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
4	明治の文学	谷崎潤一郎の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
5	大正の文学	佐藤春夫の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
6	大正の文学	菊池寛の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
7	大正の文学	小川未明の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
8	大正の文学	芥川龍之介の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
9	昭和の文学	横光利一の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
10	昭和の文学	中島敦の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
11	昭和の文学	井伏鱒二の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
12	昭和の文学	太宰治の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
13	昭和の文学	原民喜の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
14	現代文学へ	安部公房の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
15	近代の詩を読む	高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む	配布したプリントを読み、理解しておく

関連科目	古典文学から学ぶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業時の参加度・コメント（100%） 場合によっては、課題を出す。
学生へのメッセージ	活字嫌いでも、少しがんばれば読み切れる短編を選びます。 この機会に、小説好きになりましょう。 専門の授業で疲れた脳を、文学で休ませてください。
担当者の研究室等	橋本研究室（7号館4階）
備考	事前学習に、毎週1時間以上必要。

科目名	くらしと経済	科目名（英文）	Life and Economy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪　加紋
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本を含め世界経済はダイナミックな変化の過程にある。例えば、先進国の経済成長率が鈍化する一方、新興国は世界経済の動力源として機能しつつある。ここで重要なのは、これらは私たちのくらしと決して無縁ではなく、むしろ私たちはこれら経済問題を積極的に理解し、自らの力で対処しなければならない、ということである。本講義では、経済に関する考え方や事例を私たちの身近なものから取り上げ説明し、できるだけ学生と対話しながら進めたい。
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得
授業方法と留意点	教科書中心の講義形式で進める。ただし、受動的な受講姿勢とならないよう、“声を出す”ことを重視する。例えば教科書の音読、臨機応変な質疑応答などである。言うまでもなく教科書は必携である。私語への対処は、他の講義よりも厳しいと心得ておいて欲しい。また高校と異なり、大学の講義では板書よりも口頭説明が多く、自分なりのノートの取り方を工夫しておくこと。
科目学習の効果（資格）	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済現象と日々のくらしとの結びつきについて概説し、「くらしと経済」で何を考え学ぶのかを解説する。新聞の読み方についても解説する。	復習すること
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	教科書第１章を予習復習のこと
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	教科書第２章を予習復習のこと
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	教科書第３章を予習復習のこと
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	教科書第４章を予習復習のこと
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	教科書第５章を予習復習のこと
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	教科書第６章を予習復習のこと
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	復習を行っておくこと
9	労働市場	学生にとって最も身に染みて感じるであろう労働市場について解説する。	教科書第７章を予習復習のこと
10	ＧＤＰについて	国の豊かさを測るＧＤＰににについて解説する。	教科書第８、９章を予習復習のこと
11	消費需要と投資需要	ＧＤＰ構成要素の消費と投資について解説する。	教科書第１０章を予習復習のこと
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	教科書第１１章を予習復習のこと
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	教科書第１２章を予習復習のこと
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	教科書第１３章を予習復習のこと
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	教科書第１４章を予習復習のこと

関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	１からの経済学	中谷武、中村保	碩学舎
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間試験(50%)＋期末試験(50%)+発言点をもとに評価する。中間・期末双方の試験を受験しなければ評価の対象とならない。私語は減点の対象となる。
学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
担当者の研究室等	１１号館８階(岩坪教授室)
備考	

科目名	グローバル世界の倫理	科目名（英文）	Ethics in Global Society
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	濱　良祐
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代のグローバリゼーションの進展や科学技術の発展によって人間存在や人間の社会にもたらされる変容について考察する。さらに、その変容から生じる倫理的諸問題を取り上げ、その解決への道を探る。
到達目標	（1）グローバル世界の諸問題に関する基礎的な知識を習得すること。 （2）現代社会の諸問題に対する哲学的・倫理学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。
授業方法と留意点	講義形式 授業時に講義内容に関するレジュメを配布する。参考文献は必要に応じて適宜授業中に紹介する。 受講者には、授業で取り上げる諸思想を単に学習するだけではなく、そこで問題となっている事柄について自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。 前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。 授業期間中に数回、授業の理解度を試す小レポートを実施する。
科目学習の効果（資格）	現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身に着けることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について説明する。	〈復習〉ノート・資料の整理。
2	グローバリズムとグローバリゼーション	政治・経済の領域におけるグローバリゼーションによってもたらされた世界の変容について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
3	テクノロジーと人間	科学技術そのものが本質的に孕む危険性について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
4	未来への責任――環境倫理（1）	現代の自然環境の変化の責任をいかにして背負うのか、という倫理的問題に取り組む。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
5	自然の生存権――環境倫理（2）	自然と人間の共生について考察し、従来の人間中心主義に対する諸々の批判を検討する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
6	「死の選択」と生命の価値――生命倫理（1）	安楽死問題等の「死の選択」をめぐる議論を検討し、現代における生命の価値について考察する	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
7	生命の選択――生命倫理（2）	人工妊娠中絶や出生前診断などの生殖をめぐる現代の議論を検討し、現代における生命と幸福について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
8	クローン技術はなぜ規制されるべきなのか――生命倫理（3）	現代における遺伝子操作の技術的発達によって生じる倫理的問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
9	グローバリゼーションと多文化主義	現代における移民と文化的アイデンティティーの問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
10	国民国家の衰退と〈帝国〉	グローバリゼーションの帰結としての国家の衰退とそれ以後の世界の行方について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
11	現代における「正義」論（1）	ロールズの正義論を通して、現代における自由と正義の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
12	現代における「正義」論（2）	前回に引き続き、ロールズの正義論を通して、現代における自由と正義の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
13	現代における「共通善」	コミュニタリアニズムの思想を通して、現代における善と共同体の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
14	コミュニケーション的パラダイム	ハーバマスのコミュニケーション論を通して、〈自己〉とコニュニケーション行為の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。

関連科目	哲学、環境倫理、社会と人権、現代社会論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバル世界と倫理	石崎嘉彦、太田義器ほか共著	ナカニシヤ出版
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	知の２１世紀的課題	石崎嘉彦、石田三千雄、山内廣隆編	ナカニシヤ出版
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（受講態度、授業後の質問、小レポートなど）を４０％、期末定期試験の結果を６０％として総合的に評価する。
学生への メッセージ	授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室（授業日のみ在室）
備考	授業担当者メールアドレス： xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp

科目名	芸術の理解	科目名（英文）	Appriciation of Art
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川　馨
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会では様々なかたちで映像メディアと接しているが、写真の歴史と表現をとおして絵画芸術への影響、映像芸術について考える。また写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのか、現代の膨大な映像メディアによる情報との向き合い方についても考える。
到達目標	
授業方法と留意点	講義中はスライドを使用する。提示する図は必要に応じてノートに描きとどめてもらいたい。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ものを見る行為について	映像情報との関わりについて	視覚について本やＷＥＢで調べる
2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオブスキュラの誕生	カメラオブスキュラについて本やＷＥＢで調べる
3	カメラオブスキュラの活用	カメラオブスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオブスキュラについて本やＷＥＢで調べる
4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やＷＥＢで調べる
5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やＷＥＢで調べる
6	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19 世紀の写真表現について本やＷＥＢで調べる
7	都市の記録	写真による都市表象について	19 世紀の写真について本やＷＥＢで調べる
8	写真と絵画の交わり１	写真と西洋絵画における写実表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やＷＥＢで調べる
9	写真と絵画の交わり２	日本の近代絵画への写真の影響について 主に花鳥画における表現の考察	日本の近代絵画について本やＷＥＢで調べる
10	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やＷＥＢで調べる
11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響を考える	報道写真について本やＷＥＢで調べる
12	カラー写真の登場	カラー写真による表現の変化について	カラー写真について本やＷＥＢで調べる
13	現代写真表現１	アメリカの現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やＷＥＢで調べる
14	現代写真表現２	日本の現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やＷＥＢで調べる
15	まとめ	写真の歴史や表現から、２１世紀の写真メディアの在り方を考える	写真について復習する

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席点４０％、期末レポート点６０％により評価する。
学生へのメッセージ	板書を写すだけでなく、講義の内容をノートすること。
担当者の研究室等	７号館５階(岩間研究室)
備考	

科目名	健康科学	科目名（英文）	Health Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林　真美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	我が国では、交通手段の発達や家事の自動化等により身体活動量が著しく低下しており、さらに食生活の欧米化等も影響して、生活習慣病にかかる人口は増加の一途をたどっている。一方で、うつ病等にかかる人口も激増しており、メンタルヘルスの保持増進も重要課題となっている。 本講義では、学生諸君が在学中のみならず生涯にわたり心身の健康を維持・増進するため、健康に関して科学的な裏付けに基づいた知識を幅広く身につけ、講義内容を実践できる能力を身につけることを目的とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	健康に関する幅広い知識を理解し、実生活に応用することができる。
授業方法と留意点	毎回の授業開始時にレジュメを配布する。授業終了後、課題を課すので次週の授業開始時に提出のこと。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	日本人の健康に関する現状を把握し、本講義の意義について述べる。	授業終了時に課題を提示する。
2	健康づくりの三本柱	健康づくりのための三本柱とされている「運動」「栄養」「休養」と、その相互作用について解説する。学生諸君は自身の生活について振り返り、改善すべき点があるか検討する。	授業終了時に課題を提示する。
3	身体の生理機能	食べたものはどこへいくか？吸った酸素はどこでどんな作用をするか？ 生体の生理について復習する。	授業終了時に課題を提示する。
4	運動トレーニングが肥満対策になる所以	メタボリック症候群の定義、その温床にある内臓肥満について解説する。また肥満、糖尿病、脂質異常症など生活習慣病について解説し、その予防になぜ運動トレーニングが効果的なのか、最新の知見と関連させて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
5	運動トレーニングで何が変わるか？	運動トレーニングにより、筋力増強、持久力向上、骨代謝、エネルギー代謝などが改善される。それらのメカニズムについて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
6	どんな運動（種類・時間・頻度）が健康によいのか？	第 5 回で解説した運動トレーニングの効果は、運動方法によってその作用が異なる。肥満解消、筋力増大、骨の増強など目的に応じたトレーニング方法について解説する。	授業終了時に課題を提示する。
7	基礎栄養学	各栄養素の種類や機能について解説する。日ごろの食生活を振り返り、改善すべき点があるか否か検討する。	授業終了時に課題を提示する。
8	食生活と健康	前回の内容を踏まえ、望ましい食事について「食事バランスガイド」に基づいて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
9	ダイエット計画	近年、性別や年齢による身体の見た目や中身（体重や体脂肪率など）の違いが明らかになっている。この違いを理解したうえで、望ましいダイエット方法について解説する。	授業終了時に課題を提示する。
10	女性の健康・男性の健康	性別による身体的特徴と性ホルモンの作用、さらに男女それぞれの加齢変化も踏まえて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
11	ストレスマネジメント	近年増加しているうつ病について概説し、うつ病やメンタルヘルス、ストレス対策として運動が有効なのか、最新の知見を紹介しながら解説する。 また他の精神障害についても概説する。	授業終了時に課題を提示する。
12	睡眠	睡眠がどのような役割を果たしているか解説する。日ごろの睡眠について振り返り、改善すべき点があるか否か検討する。	授業終了時に課題を提示する。
13	アルコールと喫煙、薬物、性感染症	アルコールやタバコ、薬物が身体にどのように影響を及ぼすか解説する。また HIV など性感染症についても解説する。	授業終了時に課題を提示する。
14	高齢者の介護予防と運動	わが国は超高齢化社会となり、今後さらに高齢者人口が増大することが見込まれている。運動がなぜ介護予防に効果的なのか、解剖学・生理学の立場から解説する。	授業終了時に課題を提示する。
15	総括	本講義の総括と、健康に関する諸問題について考える。	本授業で習得した内容を総括。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、生涯スポーツ実習
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	期末試験 50%、レポート 30%、授業態度 20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	皆さんが将来、知的職業人として社会で活躍するためには、まず心身の健康の保持増進が大切です。健康科学の基本を理解して、心身のセルフマネジメントができるようになることを希求します。
担当者の 研究室等	総合体育館１階　藤林研究室
備考	1）毎回の課題は１時間以上かけて作成のこと。 2）毎回の課題以外に、講義の予習復習として３０分以上かけること。 3）自主学習は試験の準備を含めて、２０時間かけること。

科目名	古典文学から学ぶ	科目名（英文）	Classic Literature
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本の古典文学の物語を読む。なお、古代から江戸時代までの作品を古典文学と位置づける。 文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。この授業では、日本人が何を、どのように、何のために「物語」として描いたのか、そこに焦点を当てて考える。古典を読むことで、現代の我々の思考力と想像力を豊かにすることを目的とする。 また、古典文学への抵抗をなくし、文学作品を読んで考える習慣を身につけることも目的とする。
到達目標	作品を味わい鑑賞する力を身につける。
授業方法と留意点	毎回、1 作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、作品に対するコメントを書く。 古典文学・文法に関する知識は一切必要ない。
科目学習の効果（資格）	文学に対する関心と知識が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	物語とは何か１	古典文学について、物語について講義する	配布した作品を読む
2	神話の世界１	古事記を読む	配布した作品を読む
3	男女の物語１	伊勢物語を読む	配布した作品を読む
4	信仰の文学１	今昔物語集を読む	配布した作品を読む
5	怪異を物語る	今昔物語集を読む	配布した作品を読む
6	信仰の文学２	宇治拾遺物語を読む	配布した作品を読む
7	いくさの文学	平家物語を読む	配布した作品を読む
8	神話の世界２	室町時代の物語を読む	配布した作品を読む
9	下剋上の文学１	室町時代の物語を読む	配布した作品を読む
10	芸能と文学１	狂言を読む	配布した作品を読む
11	芸能と文学２	説経浄瑠璃を読む	配布した作品を読む
12	芸能と文学３	人形浄瑠璃を読む	配布した作品を読む
13	物語から小説へ１	江戸時代の物語を読む	配布した作品を読む
14	物語から小説へ２	江戸時代の物語を読む	配布した作品を読む
15	物語とは何か２	物語について総括する	配布した作品を読む

関連科目	近代文学から学ぶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業時の参加度・コメント（100%） 場合によっては、課題を出す。
学生へのメッセージ	古典文学・文法の知識は一切必要ありません。でも関心は持って下さい。 しばし日常を離れ、古典の世界に遊びましょう。
担当者の研究室等	橋本研究室（7 号館 4 階）
備考	事後学習として、毎週 1 時間以上必要（授業での説明を参考にして作品を読み直す）。

科目名	自然科学Ⅰ	科目名（英文）	Introduction to Natural SciencesI
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦　哲郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業内容はほぼヒトの生体の話である。生体内とはとりもなおさず、10 の器官系からなる我々の体の中のしくみと働きである。しかしながら、案外、我々は自分の体の中で行われていることを知らない。この半年間、生物学のうちで最も身近な対象である人体の構造・生理を中心に解説し、併せて最近話題となっているトピックスについて解説する。
到達目標	新聞・ニュース等で解説される生物学の用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。授業中に理解してしまえば、特に新たな勉強は必要ない。
科目学習の効果（資格）	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約６０兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシャボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	胃の構造と機能	ビデオ「人体−消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体−壮大な化学工場・・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	生殖器系・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器系の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	生殖器系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器系のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
15	習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目	自然科学 Ⅱと連動している。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新生物図表		浜島書店
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テストを４０％、臨時テストを４０％および授業態度を２０％で評価する
学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を拡げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
担当者の研究室等	枚方・薬学部 6 号館 3 階病理学研究室１
備考	講義後の復習（ノートをまとめ、重要単語を暗記する 1 時間 X15 回）。

科目名	自然科学Ⅱ	科目名（英文）	Introduction to Natural Sciences II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹内　健治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	人体の構造や機能から健康を害するしくみについて理解し、健康維持と病気治療への積極的な参加に必要な知識を得ることを目的とする。
到達目標	人体の構造や機能の知識を習得することで、自然科学および健康に関する教養を身につける。
授業方法と留意点	教科書やプロジェクター、配布資料などを用いて、モデル図や写真を使って解説します。小テストや課題により理解度を確認します。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	生体を構成する物質	全ての生物に共通する基本的な物質の種類。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
2	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸とタンパク質の構造と役割。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
3	遺伝子の構造と機能	遺伝子を構成する分子とその役割。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
4	セントラルドグマ	遺伝子を構成する分子とその役割。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
5	酵素が代謝を支える	代謝に関わる分子と、代謝を行うシステム。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
6	生体とエネルギー	代謝に関わる分子と、代謝を行うシステム。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
7	生命を支える細胞分裂	一個の受精卵からヒトの生命は出発する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
8	細胞の分化と細胞間の情報交換	多細胞生物を構成する細胞は独立した役割を持つ。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
9	がん	がん発生の仕組みとその原因。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
10	生殖の仕組み	生殖の仕組みを細胞レベルで解説します。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
11	細胞死と老化	細胞数を減少させる仕組み。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
12	個体の自己維持	恒常性維持の仕組み。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
13	生体防衛機構	免疫の仕組みと働き。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
14	遺伝の仕組み	遺伝の仕組みと遺伝子疾患。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
15	ヒトの遺伝病	遺伝の仕組みと遺伝子疾患。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。

関連科目	自然科学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎生物学第２版	南雲保	羊土社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（３０％）、課題（２０％）、定期試験（50%）により評価する。
学生へのメッセージ	質問は適宜受け付けます。
担当者の研究室等	枚方学舎１号館５階
備考	

科目名	社会学Ⅰ	科目名（英文）	Sociology Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　圭三
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。講義では社会学的な考え方や基礎知識を紹介したのち、教育、仕事・産業・経済といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。
到達目標	受講生が社会学の知識・考え方を身につけ，自らが直面する問題について社会学的な発想に基づいて多面的に理解し考察できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	テーマに関連するデータ資料や視聴覚教材をもちいる。
科目学習の効果（資格）	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習
2	1　社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想（1）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
3	1　社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想（2）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
4	1　社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想（3）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
5	1　社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想（4）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
6	1　社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想（5）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
7	中間テスト	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	配布レジメに基づく予習
8	2　教育の社会学	学歴社会のメカニズム（1）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
9	2　教育の社会学	学歴社会のメカニズム（2）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
10	2　教育の社会学	学歴社会のメカニズム（3）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
11	3　仕事の社会学	働き方の変化とその背景（1）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
12	3　仕事の社会学	働き方の変化とその背景（2）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
13	4　産業と経済の社会学	豊かな社会への道（1）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
14	4　産業と経済の社会学	豊かな社会への道（2）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習

関連科目	社会学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度 10%、試験（中間、期末）90%で評価する。
学生へのメッセージ	やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なのは「正解のない問題」と向き合う際の姿勢です。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　山本講師室
備考	

科目名	社会学Ⅱ	科目名（英文）	Sociology II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　圭三
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、家族と子ども、政治、宗教、社会意識といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。
到達目標	受講生が社会学の知識・考え方を身につけ，自らが直面する問題について社会学的な発想に基づいて多面的に理解し考察できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	テーマに関連するデータ資料や視聴覚教材をもちいる。
科目学習の効果（資格）	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習
2	1　家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか（1）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
3	1　家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか（2）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
4	1　家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか（3）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
5	2　宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか（1）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
6	2　宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか（2）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
7	2　宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか（3）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
8	中間テスト	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	配布レジメに基づく予習
9	3　政治の社会学	平和と共存の作法を求めて（1）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
10	3　政治の社会学	平和と共存の作法を求めて（2）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
11	3　政治の社会学	平和と共存の作法を求めて（3）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
12	4　社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」（1）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
13	4　社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」（2）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
14	4　社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」（3）	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習

関連科目	社会学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度 10%、試験（中間、期末）90%で評価する。
学生へのメッセージ	やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なのは「正解のない問題」に向きあう際の姿勢です。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　山本講師室
備考	

科目名	社会と人権	科目名（英文）	Human rights and Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一.林田　敏子.松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本科目は、人間が人間として尊重されるということの意味を、具体的な生活や行動と関わらせて考えること、またそのような思索の成果を実際の生活や行動に反映させることを目的とし、そのための知識や見方・考え方を受講生に提示する。 本年度は、有馬(倫理学)、林田(西洋史)、松島(法哲学)を専門する教員が、それぞれ４ないし５回ずつ授業を行う。
到達目標	本授業を履修した学生は、次の項目について一定水準に達することが期待されます。 ①　社会と人権にかかわる事柄について倫理学的観点から説明できる ②　社会と人権にかかわる事柄について西洋史的観点から説明できる ③　社会と人権にかかわる事柄について法哲学的観点から説明できる ④　社会と人権にかかわる事柄について、具体的な自分の生活と行動の場面に即して考えることができる
授業方法と留意点	（有馬担当分）板書・配付資料による講義形式。 （林田担当文）板書・配布資料による講義形式。少人数であればディスカッションもおこないます。
科目学習の効果（資格）	人権問題について、印象論ではなく、正確な知識に基づいた理解を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「社会と人権について考える」ことを考える	担当者:松島、有馬、林田 ・授業内容・評価方法についての確認 ・社会と人権について履修生がどのような考え方をもっているのかの確認	【事後学習】 人権にかかわるニュースを幅広く収集する(1 時間)
2	自由と自己決定	担当者:松島 日本国憲法にはさまざまな自由権が規定されていますが、そもそも「自由」とは何でしょうか？ J・S・ミルやＩ・バーリンらの議論を手掛かりにしながら、人権概念の根幹をなす「自由」というものの本質について考えてみます。	【事後学習】 パターナリズムにかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート 1000 字程度を提出してください。(4 時間)
3	表現の自由とその限界	担当者:松島 近年日本で社会問題になっているヘイトスピーチは、そもそも表現の自由（憲法 21 条）で保障される発言なのでしょうか？ アメリカとドイツの法規制の違いを手がかりにして、表現の自由の限界について考えてみたいと思います。	【事後学習】 ヘイトスピーチにかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート 1000 字程度を提出してください。(4 時間)
4	格差社会における「平等」	担当者:松島 「自由」と並び、「平等」は人権概念の根幹をなす重要な概念ですが、そもそも平等とは何なのでしょうか？ J・ロールズや R・ドゥオーキンらの議論を手がかりにして、平等の本質について考えてみたいと思います。	【事後学習】 積極的差別是正措置にかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート 1000 字程度を提出してください。(4 時間)
5	動物の権利	担当者:松島 人権とはもちろん「人」に保障される権利ですが、それでは、人以外の「動物」にはいっさい権利が認められないでしょうか？ ピーター・シンガーの議論を手がかりにして、「動物の権利」について考えてみたいと思います。	【事後学習】 動物実験の是非にかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート 1000 字程度を提出してください。(4 時間)
6	人工妊娠中絶の是非をめぐって（1）	担当者:有馬 ・人工妊娠中絶をめぐる「プロ・ライフ」（中絶反対派）と「プロ・チョイス」(中絶擁護派)の論争とその社会的背景について解説をする。 ・トムソンの論文について解説をした上で、トムソンの主張について周囲の学生とディスカッションをする。	【事前学習】 「プロ・ライフ」、「プロ・チョイス」という言葉の意味を調べておく。 【事後学習】 トムソンの主張についての自分の考えをまとめて、レポートを提出する。 （合計 4 時間）
7	人工妊娠中絶の是非をめぐって（2）	担当者:有馬 ・前回のディスカッションのまとめ。 ・パーソン論と人工妊娠中絶問題とのつ	【事前学習】 パーソンという言葉の意味を調べてくる。 【事後学習】 トゥーリの主張について自分の考えをまとめて、レ

			ながりを説明する。 ・トゥーリの論文について解説をした上で、トゥーリの主張についてディスカッションをする。	ポートを提出する。 （合計 4 時間）
	8	安楽死をめぐって（1）	担当者:有馬 ・前回のディスカッションのまとめ ・終末期医療における人権問題の概要 ・日本における「尊厳死」の問題について解説をする。	【事前学習】 日本尊厳死協会のホームページを読んでおく。 「安楽死」、「尊厳死」という言葉の意味を調べておく。 【事後学習】 安楽死と尊厳死の違いについて、概念整理をして、レポートを提出する。 （合計 4 時間）
	9	安楽死をめぐって（2）	担当者:有馬 ・前回のディスカッションのまとめ ・「死ぬ権利」に対するオランダやベルギーの考え方を紹介する。 ・安楽死の是非についてディスカッションをする。	【事前学習】 安楽死に関係する海外のニュースを調べておく。 【事後学習】 安楽死についてのオランダ、ベルギーの考え方について、自分なりの意見をまとめて、レポートを提出する。 （合計 4 時間）
	10	生きることと善く生きること	担当者：有馬 〝善く生きる〟とはどのようなことかを考えます。	【事前学習】 『ソクラテスの弁明』を通読しておく。 (3 時間)
	11	女性と人権	担当者：林田 ・差別と区別 〜女性専用車両をめぐって〜 ・「女らしさ」と「男らしさ」	【事前学習】 「女性と人権」という言葉から連想する社会問題を列挙し、もっとも興味のあるものについて自分の意見をまとめてくる。（4 時間）
	12	人権宣言の歴史的背景	担当者：林田 ・人権概念の歴史的生成過程〜アメリカ独立宣言を中心に〜 ・もう一つのフランス革命〜オランプ・ドゥ・グージュの「女性の人権宣言」〜	【事後学習】 人権宣言の画期的な点と、「残された問題」についてまとめる。（4 時間）
	13	女性は戦争をどう「戦った」か	担当者：林田 ・犠牲者としての女性 ・戦いを鼓舞する女性	【事後学習】 「戦争があぶりだすジェンダー問題」についてまとめる。（4 時間）
	14	戦場における女性	担当者：林田 ・「戦う」女性〜募兵運動、兵器製造、従軍〜 ・女性兵士をめぐって	【事後学習】 「女性兵士」の是非をめぐる議論の要点をまとめてくる。（4 時間）
	15	「ジェンダー・フリー」の罠	担当者:林田 セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスから女性専用車両にいたるまで、身近にあるジェンダー問題を通して、ジェンダー・フリーへ向けた取り組みが抱える問題について考える（ディスカッションもしくは、小発表形式)。	【事前学習】 3 回の授業内容を踏まえ、ディスカッション（もしくは小発表）の内容を踏まえて、自分の考えをまとめる。（4 時間）

関連科目	法学などのさまざまな科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	3 名の担当者が課す課題を 100 点満点で評価し、その平均点で評価します。 それぞれの担当者の評価方法については、授業計画で確認ください。
学生への メッセージ	教室に来て、座って聞いているだけでも、もちろんためになりますが、それだけではなく、自分で考えてもらうための作業をたくさん行います。
担当者の 研究室等	有馬(7 号館 4 階) 林田(7 号館 4 階) 松島(11 号館 9 階)
備考	有馬担当分　参考図書　加藤・飯田編　『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会 三井美奈　『安楽死のできる国』　新潮新書

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田　峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくここと
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
8	テスト	中間テスト	2～7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西座　由紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくここと
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
8	テスト	中間テスト	2～7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　朗子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくここと
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
8	テスト	中間テスト	2～7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松田　剛典
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくここと
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
8	テスト	中間テスト	2～7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西座　由紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくここと
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
8	テスト	中間テスト	2～7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田　峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講座の目的・意義	シラバス熟読
2	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
3	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
4	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
5	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくここと
6	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
7	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
8	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
9	テスト	中間テスト	2～8回目の範囲を事前に勉強しておくこと
10	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。 また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校６年間の算数が６時間でわかる本	間地 秀三	PHP 研究所
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの３回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	心理学Ⅰ	科目名（英文）	Psychology Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　雅代
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。 授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅰでは、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。
到達目標	1）心理学についての基礎知識を習得する。2）人間の行動を理解する。3）社会の中の自己を確認する。4）実生活と心理学のかかわりを理解し、日常生活に生かす。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTRを使用する。また簡単な心理学実験や自己分析などを行う。その際、課題、レポートの提出を求めることがある。
科目学習の効果（資格）	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とはどのような学問か	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究の考え方、今までの歩みについて概説する。	心理学の印象について自分なりの考えをまとめておいて下さい。
2	生物学的基礎	他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
3	初期学習	人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
4	条件づけ	条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。	前回の授業で紹介したVTRについてA4にまとめ提出する。
5	社会的学習	学習とは学校での勉強のことではなく、経験のことをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。	関連する文献を紹介するので読んでおくこと。
6	両側性転移	心理学実験「両側性転移」を行い学習についての理解を深めるとともに心理学の研究方法について理解を深める。	実験の概要について確認しておくこと。
7	ポジティブな学習とネガティブな学習	実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。	実験結果から何が読取れるかA4用紙にまとめ提出する。
8	動機づけ（1）	人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
9	動機づけ（2）	生物的動機、内発的動機の違いについて説明する。	授業の中で紹介した人物の動機について自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
10	動機づけ（3）	社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響受ける動機について事例や実験を通して解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
11	パーソナリティ（1）	パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。	パーソナリティについて自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
12	パーソナリティ（2）	パーソナリティのとらえ方。パーソナリティの形成について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
13	パーソナリティ（3）	実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
14	パーソナリティ（4）	パーソナリティについて自己分析を行う。	パーソナリティテストの結果について自分なりに解釈しA4用紙にまとめ提出する。
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	疑問点がどこであるのか考えておく。

関連科目	心理学Ⅱと併せて履修することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は特になし。講義内で資料配布する。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	心理学の基礎	今田寛、宮田洋、賀集寛共編	培風館
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験、講義内で行う小テストやレポート課題等を総合的に評価する。 【定期試験50%、レポート課題30%、小テスト20%】
学生へのメッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。
担当者の研究室等	11号館6階(経営学部事務室)
備考	

科目名	心理学Ⅱ	科目名（英文）	Psychology II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　雅代
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。講義では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅱでは、社会的現実と対比した日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人間、集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。
到達目標	1）心理学の知識を幅広く習得する。2）社会と個人の関係を理解する。3）集団におけるコミュニケーションの特質を理解する。4）状況に左右される人間の心理や意思決定について理解する。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTR等を使用する。また簡単な心理学実験や自己分析などを行う。その際、課題、レポートの提出を求めることがある。
科目学習の効果（資格）	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とは何か、社会、集団の中でおこる心理	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究についての考え方について説明する。後期において取り扱うトピックの概要説明。	VTRについて自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
2	知覚（1）	人間理解につながる「見えのしくみ」について概説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
3	知覚（2）	知覚の種類や見えに及ぼす社会的影響について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
4	知覚（3）	心理学の基礎実験の1つである「ミューラリヤーの錯視」実験を実施する。心理学におけるデータの取り扱い方、考え方や人間の知覚行為についての理解を深める。	実験結果について読み取れる問題をA4用紙にまとめ提出する。
5	対人関係（1）	人はどのように他者を認知し自分を呈示していくものなのか、対人認知や印象形成について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
6	対人関係（2）	人はどのような事をきっかけに親しくなったり、愛したりしていくものなのか、対人魅力について説明する。	対人魅力について自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
7	対人関係（3）	人が態度を変えるとき、説得されるときとはどのようなときなのか、態度変容について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
8	対人関係（4）	集団の持つ影響力として「同調」や「服従」について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
9	対人関係（5）	リーダシップについて説明する。	自己のリーダーシップのあり方についてA4用紙にまとめ提出する。
10	うわさ	うわさによるパニック行動、うわさの分類、社会的機能、発生、消滅のメカニズム等について、実際に世界でおきた事件を例に説明する。	授業で体験した伝達現象について自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
11	攻撃行動（1）	人間の攻撃行動について概説する。	VTRについて自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
12	攻撃行動（2）	人間が行なう攻撃行動の機能性について様々な実験例とともに説明する。またドメスティックヴァイオレンスなどについて説明を行なう。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
13	援助行動（1）	援助行動の形成や発達の仕方について、また援助行動が行われる状況、行われない状況とはどのような状況か、意思決定はどのように行われるのか、実際のニュースなどを例に説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
14	援助行動（2）	援助行動と対人ネットワークの重要性について説明する。ソーシャルサポートの重要性について解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	疑問点がどこであるのか考える。

関連科目	心理学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし。講義内で資料配布する。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	心理学の基礎	今田寛、宮田洋、賀集寛共編	培風館
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験、講義内で行う小テストやレポート課題等を総合的に評価する。 【定期試験50%、レポート課題30%、小テスト20%】
学生へのメッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。

	心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 6 階(経営学部事務室)
備考	

科目名	住まいとデザイン	科目名（英文）	Design and Living Environment
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大髙　和香
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	最も身近な空間である住居について、その歴史の中で生み出された住まいの工夫と文化を知り、快適な住生活と、特にデザインとのかかわりを考察する。また、「リノベーション」の実習を体験し、初歩的な知識と技術を修得する。
到達目標	将来、住み手の立場で必要となる基礎知識を身につけることが目標である。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。
科目学習の効果（資格）	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・住まいとデザインのトピックス	授業の進め方や受講上の注意点などのガイダンスと、住まいとデザインのトピックスについて説明する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
2	インテリアの常識	身近なインテリアの用語、法規について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
3	インテリアの構成要素	住空間を構成する主な要素について学び、知識を深める。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
4	デザインスタイルの基礎	第5回目から第7回目までの授業の前段としてデザインスタイル全般について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
5	デザインスタイルの分類（1）	モダン系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
6	デザインスタイルの分類（2）	ナチュラル系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
7	デザインスタイルの分類（3）	クラシック系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
8	j実習:ビフォーアフター「団地のリノベーション」（1）	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーションを作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
9	実習：ビフォーアフター「団地のリノベーション」(2)	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーション作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
10	「団地のリノベーション」作品講評会（1）	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
11	「団地のリノベーション」作品講評会（2）	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
12	「団地のリノベーション」作品講評会（3）	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
13	住まいの色彩計画	色彩計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
14	住まいの照明計画	照明計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	まとめ、リノベーションの実例から、「住まいとデザイン」に関し考えを深める。	リノベーションに関し自らの考えをレポートにまとめる。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験：60%　、受講態度（出席・講義メモ・課題・小テストなど）：40%を、合わせて評価する。
学生へのメッセージ	自分の周りにある色々な住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めて下さい。きっと新しい発見があることでしょう。
担当者の研究室等	12 号館 7 階、8 号館 3 階　大谷准教授室
備考	

科目名	政治学概論Ⅰ	科目名（英文）	Introduction to Politics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森　康一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日々ニュースで報じられる政治の動きを、政治学という学問的な裏付けを基礎にしてとらえることを目標とする。 政治体制・政党制など、政治学の理論的な整理を試みるとともに、国際政治についても目を向けていきたい。
到達目標	政治学の基本的な項目について習得することを目標にする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果（資格）	政治学の基本となる知識を習得できるようにしたい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の政治目・国際面を読む習慣をつける
2	「政治」とはなにか	「政治」の概念について	政治学に関する参考文献を読んでおく
3	近代国家の誕生	近代国家とはなにか、またその誕生について	政治学に関する参考文献を読んでおく
4	国家の政治体制（1）	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
5	国家の政治体制（2）	自由民主主義体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
6	国家の政治体制（3）	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	政治学に関する参考文献を読んでおく
7	政治と経済・福祉（1）	政治と経済の関わりについて	政治学に関する参考文献を読んでおく
8	政治と経済・福祉（2）	戦後の福祉国家について	政治学に関する参考文献を読んでおく
9	政治制度と政治過程	国民代表・利益代表の政治過程について	政治学に関する参考文献を読んでおく
10	政策と行政	政策過程について	政治学に関する参考文献を読んでおく
11	政党制	政党とはなにか、また政党システムの類型について	政治学に関する参考文献を読んでおく
12	集権と分権	分権と連邦主義、国際統合について	政治学に関する参考文献を読んでおく
13	近代の国際政治と現代の国際政治（1）	近代の国際体系＝ウェストファリア体制について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
14	近代の国際政治と現代の国際政治（2）	現代の国際政治の特色について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
15	まとめ	講義のまとめと、試験について	試験に向けたノート作りをしておく

関連科目	国際関係論、外交史および政治学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末の試験（論述式）の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	出席をとる予定です。

科目名	政治学概論Ⅱ	科目名（英文）	Introduction to Politics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。 前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。 歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	第二次世界大戦後の国際政治の流れについて習得し、現在の国際関係を正確に理解することを目標とする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果（資格）	現在の世界情勢を理解するうえで必要な知識を習得できるようにしたい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の国際面を読む習慣をつける
2	冷戦時代の国際関係（1）	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
3	冷戦時代の国際関係（2）	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
4	冷戦時代の国際関係（3）	多極化とデタントについて	国際政治に関する参考文献を読んでおく
5	冷戦時代の国際関係（4）	「新冷戦」と冷戦の終焉について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（1）	冷戦終結後の国際政治全般について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（2）	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエル、パレスチナ問題について調べておく
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	最近の朝鮮半島情勢について調べておく
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	最近の日本の外交に関して調べておく
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをする

関連科目	国際関係論、国際関係史など、国際関係の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末の試験（論述式）の結果によって評価を行う。持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	出席をとる予定です。

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名（英文）	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテータ養成講座」は、サービスラーニングの授業であり、青少年育成ファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に１度、90 分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	活動受入機関は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、すさみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業である。 ---------- ①　活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②　守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③　安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④　救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、ＡＥＤの使用法を学ぶ ⑤　安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥　コミュニケーションスキルＡ：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦　コミュニケーションスキルＢ：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧　コミュニケーションスキルＣ：アイスブレーキング手法を学ぶ ⑨　コミュニケーションスキルＤ：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方 ⑩　活動プログラミング・スキル：課題設定・企画立案・実施・評価方法 ⑪　受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践 ⑫　青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり ---------- 履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前（2015 年１月・２月に実施済）に授業担当者（外国語学部・浅野教授）から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。 事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の４点を総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	７号館５階　（浅野研究室）
備考	

科目名	世界の歴史	科目名（英文）	History of the World
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上　司樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなかろうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたと教わった人も少なくないだろう。古代や中国の例なども広く視野に入れることで、一種、常識となっているこのような通説を疑い、考えなおす。そのようにして、都市を窓口に歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。図や表もできるだけ多く使って授業する。ただ内容を理解するためには、以下3点を守る必要がある。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③授業中に資料を読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。
科目学習の効果（資格）	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
2	都市を窓に世界史を見る	文明はさまざまでも共通点がある	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	都市を窓に世界史を見る	日本史の特徴は世界史のなかで初めて分かる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	イスラーム都市	世界で最も先進的な文明	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	イスラーム都市	活発な経済と快適な生活の両立	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	イスラーム都市	都市文明と相性の良い宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	イスラーム都市	ヨーロッパはイスラームに学んだ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	中国都市	「同じことばかりくり返している」というウソ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	中国都市	1000年前の大転換	同上の課題に加えて小レポート。
10	中国都市	現代を先取りした流通と消費	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	中国都市	エンターテインメント産業や外食産業も出現	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さい	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	ヨーロッパ都市	農業中心の経済と政治的な分裂のなかで	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	暗記は必要ない。テストは持ち込み可。具体的には以下3点で評価。①定期試験（40点）、②小レポート（30点）、③レスポンスペーパー（30点＋α）。①～③すべてに共通する評価基準は、具体的に書けているかどうか。減点主義はとらないので、積極的に書いてマイナスになることは絶対ない。ただし、消極的に受講してプラス評価されることも絶対にない。例えば出席点はいっさいない。
学生へのメッセージ	一方通行にならない授業、集中しやすい授業を心がけています。レスポンス・ペーパー、小レポート、そして試験答案を書いてもらいますが、「やることが多い」などとネガティヴに考えず、「単位取得のチャンスが多い」とポジティヴに捉えることをお勧めします。それにものごとを説明したり、説得的な文章を作成する経験と能力は、他のあらゆる学問にも、さらに大学卒業後の長い人生にも欠かせません。積極的に取り組んで、「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	【教職科目】教科に関する科目（中学校　社会） 【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史 【履修区分】必修

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名（英文）	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。
ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティ・マネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。

到達目標

ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。

授業方法と留意点

第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。

科目学習の効果（資格）

ダイバーシティ・マネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ	ダイバーシティをイメージしてみましょう。
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	私たちの周りにある伝統や習慣について考えてみましょう。
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学＋男性学＝人間学	フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて考えてみましょう。
4	日本の近代化	・明治の落とし物	明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習とは何かを考えてみましょう。
5	国際統計比較①	・ジェンダーエンパワーメント指数	国際的な統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えてみましょう。
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」	性役割を理解し、幼児期から振り返ってみましょう。
7	性役割形成②	・結婚と母性信仰	共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考えてみましょう。
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成	日本と世界を比較しながら、女性労働について考えてみましょう。
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダー・マネジメント	ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べてみましょう。
10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	アサーティブネス理論を学びましょう。
11	アサーティブネス理論②	・スキルを身に付ける	スキルを身に付けることで、実生活に活かしてみましょう。
12	国際統計比較②	・男女共同参画社会とは	男女共同参画社会に関して調べましょう。
13	ダイバーシティ・マネジメント①	・企業比較	発展している企業が必ず取り入れているダイバーシティ・マネジメントについて、事例研究してみましょう。
14	ダイバーシティ・マネジメント②	・プレゼンテーション	事例研究した内容をプレゼンテーションできるようにしましょう。
15	まとめ		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	共に学ぶ女性学　－明日を共に生きるために－	石井三恵	泉文堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

ロールプレイ（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。

学生へのメッセージ

皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論にあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。事例を通して体験しながら、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。

担当者の研究室等

７号館５階　キャリア教育推進室（石井）

備考

予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities Ⅰ
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年１月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前教育１　（4 月 8 日水曜日 6 時限目：1134 教室）　活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前教育２　（4 月 15 日水曜日 6 時限目：1134 教室）　マナー講座・小中学校の教育現場について（学外講師を含む） 事前教育３　（4 月 22 日水曜日 6 時限目：1134 教室）「守秘義務」の意味とその内容について（教育委員会からの学外講師） 活動準備　　受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25　受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出） 最終報告会　（1 月中旬・スカイラウンジにおいて）各自活動報告をする。 ※注意事項 事前教育１～3 のみ水曜日 6 時限目に教室で授業。事前教育授業に 1 回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。 事前・事後学習課題　学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数（出席数）票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	７号館５階　（浅野研究室）　７号館４階　（浦野研究室）　７号館３階　（鳥居研究室）
備考	事前授業を 4 月 8 日　第 6 時限目 1134 教室で行います。必ず出席してください。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年１月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、昨年度「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみが登録できる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前教育１　（4 月 8 日水曜日 6 時限目：1134 教室）　活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前教育２　（4 月 15 日水曜日 6 時限目：1134 教室）　マナー講座・小中学校の教育現場について（学外講師を含む） 事前教育３　（4 月 22 日水曜日 6 時限目：1134 教室）「守秘義務」の意味とその内容について（教育委員会からの学外講師） 活動準備　　受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25　受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出） 最終報告会　（1 月中旬・スカイラウンジにおいて）各自活動報告をする。 ※注意事項 事前教育１～3 のみ水曜日 6 時限目に教室で授業。事前教育授業に 1 回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。 事前・事後学習課題　学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数（出席数）票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	７号館５階　（浅野研究室）　７号館４階　（浦野研究室）　７号館３階　（鳥居研究室）
備考	事前授業を 4 月 8 日　第 6 時限目 1134 教室で行います。必ず出席してください。

科目名	チームビルディング	科目名（英文）	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。 本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。 ２回生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果（資格）	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か　を理解する	本科目のシラバスを精読すること。
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク（予定） ・チームの 10 カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームを機能させるために必要なこと	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	配布資料を精読する。
5	チームビルディングを身につけるためのアクティビティ①	・チームでワークに取り組み、情報の読み取りと活用、合意形成を学ぶ	配布資料を精読する。
6	チームビルディングを身につけるためのアクティビティ②	・チームでワークに取り組み、情報の読み取りと活用、合意形成を学ぶ	配布資料を精読する。
7	ビジネス記事を活用したディスカッション①	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	チームでのディスカッションを振り返える。
8	メンバーを支援する	・質問だけで話し合いを進める ・ヒーローインタビュー	入学から今までを振り返って「最も達成した事柄」を思い出しておく。
9	チームでプロジェクトを企画する	・第二回チーム分け ・自己紹介ワーク ・チームでプロジェクトを企画する	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	工程管理を意識したチームビルディング	ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む	工程管理に関して調べる。
13	プロジェクトのプレゼンテーション	第 9 回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
14	チーム力を上げる	・メンバーの力でチーム全体の力を上げる方法を考える	講義後日常生活で活かせそうな箇所を実践する。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	チームでの提出物３０％、ワーク後の振り返りシート２０％、授業態度２０％、最終レポート３０％　で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室（水野研究室）
備考	

科目名	地誌学	科目名（英文）	Regional Geography
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	髙﨑　章裕
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業の目的は、日本の農村、河川、環境問題、近代産業、ツーリズム、エスニック問題、米軍基地問題、捕鯨問題、パレスチナ問題と幅広い地域や国を取り上げ、それらの地域の社会的・文化的・政治的状況を深く理解することである。
到達目標	本講義では、地誌学の方法論を習得し、グローバリゼーション化における地域社会の諸問題を学び、単なる地誌の把握に終わることなく、相対的なものの見方や地理学的想像力の涵養が期待される。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントで行う。毎回、資料を配布する。また、必要に応じて映像資料の活用も行なう。 講義終了後、毎回、評価対象となる小レポート（リアクション・ペーパー）の提出を求める。 授業中の私語に対しては、厳しく対処し、退出を命じることもある。
科目学習の効果（資格）	中学社会・高校地理歴史教育職員免許関係科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義の目的・方法・進め方	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
2	地誌学とは何か	地理学と地誌	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
3	日本の農村と森林	農村における耕作放棄地の増加や山間地域における林業の衰退	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
4	日本の河川とダム	日本の河川政策の変遷とダム問題	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
5	水俣病ともやい運動	水俣病の発生からもやい運動に至る環境都市みなまたが形成されていくまでのプロセス	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
6	繊維産業の盛衰	女工哀史と東洋の魔女	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
7	産業遺産とまちづくり	近代産業遺産を活用したまちづくりの事例	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
8	場所を消費する	ツーリズムと観光のまなざし	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
9	エスニックコミュニティ	日本各地や世界のエスニックコミュニティの形成	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
10	沖縄と基地問題（1）	冷戦後の沖縄	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
11	沖縄と基地問題（2）	普天間基地の辺野古移設をめぐる問題	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
12	沖縄と基地問題（3）	標的の村－高江の事例	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
13	捕鯨問題と日本	日本の食文化と映画『ザ・コーヴ』	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。

				講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	14	パレスチナ問題とスペシオサイド（空間の扼殺）	イスラエルの対パレスチナ人政策を中心に	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	15	講義のまとめ	講義の総括、および定期試験に関する説明。	全講義の内容を復習しておくこと。

関連科目	地理学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	図説 21 世紀日本の地域問題	伊藤喜栄・藤塚吉浩（編）	古今書院
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験および毎回提出を求める小レポート（リアクション・ペーパー）で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	授業は基本的に講義形式で行ないますが、疑問点や不明な点がある場合は積極的に質問をしてください。 ニュースで扱われる現象や身近な出来事を地理学的視点で見た場合にどのようなことがいえるのか、普段から敏感に考えるようにしてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	講義の内容および評価方法に変更が生じるときには、講義中に随時連絡する。

科目名	地理学Ⅰ	科目名（英文）	GeographyⅠ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原　俊則
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	『環境』ということばはいろいろの分野でよく使われているが、地理学では最も重要な述語の一つである。これは人間生活に影響を及ぼす種々の外的要因の全体を意味する。近年、人間活動にともなってこの環境に著しい変化が生じている。本講義は、環境改変者としての人類が、自然環境をどのように改変してきたかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。
到達目標	地理学は人間に関わる学問であり、学生諸君には、我々人類は環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動が取れるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストは特に指定しない。適宜講義中にプリントを配布していく予定である。
科目学習の効果（資格）	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地理学および自然地理学について	地理学の歴史および自然地理学の分野	高校時代に地理A､あるいは地理Bを履修した者は､「環境」の項目を､しっかり読んでおいてください。
2	地理学と環境	人類による環境への働きかけの歴史（過去から現在まで）	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
3	様々な地形と生活－その１－	谷底平野・台地・河岸段丘の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
4	様々な地形と生活－その２－	扇状地・自然堤防帯・三角州の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
5	世界の気候　－その１－	熱帯気候・乾燥気候・高山気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
6	世界の気候　－その２－	温帯気候・冷帯気候・寒帯気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
7	世界の植生と土壌	世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
8	都市気候　－その１－	・都市気候とは ・都市気候と緑地	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
9	都市気候　－その２－	・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
10	水文環境と生活　－その１－	・水が我々の生活にいかなる影響を与えているか	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
11	水文環境と生活　－その２－	・水資源と農業	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
12	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
13	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下 ・日本における海岸浸食の状況	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
14	離島における地下ダムの建設	・宮古島における地下ダムの建設	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
15	自然地理学の役割を考える	・全体のまとめ	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。

関連科目	「環境関連科目」等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験８０％、授業への参加状況２０％とする。なお、参加状況を把握するため、時々、チェックシートを配布し、授業内容について記入してもらうことにする。
学生へのメッセージ	地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。現在の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に用した地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。なお、指定テキストは後期の「地理学Ⅱ」でも使用する予定である。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師控室）
備考	

科目名	地理学Ⅱ	科目名（英文）	Geography II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笠原　俊則
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	我々人類は過去から現在まで環境に種々の働きかけを行い、これを変化させてきた。前期の「地理学Ⅰ」の講義は、自然地理学的な内容が中心であったが、後期はこれを受けて、人文地理学的な内容を中心に話しを進めていきたいと考えている。自然環境と人文環境は分離して存在するのではなく、表裏一体をなして存在するものである。本講義は、このことを再確認してもらうことを目的としている。
到達目標	最終的には、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら３点をクリアできれば、この科目を受講した事が諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、適宜講義中にプリントを配布していく予定である。
科目学習の効果（資格）	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	都市化の進展と水文環境の変化	都市化が進展することによって水の環境がどのように変化するか	指定テキストに目を通しておいて下さい。
2	都市化にともなう流出の変化	都市化にともなって流出がどのように変化するか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいてください。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
3	都市化にともなう水災害の変化	・都市化にともなう流出変化の実例 ・都市の水害と下水道整備	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
4	農業地域における都市化と中小河川の治水	農業地域の都市化にともない農業水利組織によって行われてきた面的治水がどのように維持されたか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
5	親水と多自然型川づくり	・親水について ・多自然型川づくりについて	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
6	ため池の多面的機能	ため池の持つ多面的な機能とその利用	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
7	ため池の潰廃とその保全	・開発にともないため池はどのように潰廃していくか ・開発にともないため池はどのように保全されるか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
8	日本における干拓の歴史	干拓の歴史と戦後の干拓	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
9	干拓地の自然的特性	干拓地の地形と水文環境	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
10	諫早湾干拓と環境変化	諫早湾干拓にともなってどのような環境問題が発生したか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
11	すみわけられた都市社会空間	・エスニックマイノリティー社会 ・インナーシティ問題	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
13	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
14	日本の産業立地	工業地域構造の形成と変貌	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
15	伝統工業の地域構成	京都の伝統文化と伝統工業	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。

関連科目	「環境関連科目」等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験８０％、授業への参加状況２０％とする。なお、参加状況を把握するため、時々チェックシートを配布し、授業内容について記入してもらうことにする。
学生へのメッセージ	地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。
担当者の	７号館２階　非常勤講師控室

研究室等	
備考	

科目名	哲学Ⅰ	科目名（英文）	Philosophy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田　喜行
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	パスカルは『パンセ』のなかで人間の本質（人間とはいかなる存在なのか、人間の本当の姿とはどのようなものなのか）について多様な観点から考究している。そこで示されたさまざまなアイデアは、現代に生きる私たちが「より善く生きること」について考える際のよき導きの糸となる。 そこで本講義では、パスカルの思索の断片を手引きにして、哲学者がより善い生を実現するためにどのような知的努力を重ねてきたのかを学ぶ。その際、私たちが生きている社会のルールはいかなる仕方で決定されるのがよいのか、という問いを軸に、この問いと格闘した代表的な思想を取り上げたい。
到達目標	(1) 社会人にとって必要な一般教養としての哲学に関する基礎的知識が習得できる。 (2) 人間の姿についてさまざまな観点から考察できるようになる。 (3) 合意説や社会契約説についての代表的な理論を学ぶことを通じて、哲学的な視点からこの社会の一員として主体的に生きていくことの意味について考えられるようになる。
授業方法と留意点	ノート講義方式 講義内容の理解を問うためのコメントペーパーの提出と小テストを数回行う。 『パンセ』を課題テキストとする小レポート（1600～2000字）を１回課す。
科目学習の効果（資格）	人間と社会の関わりについての哲学的な見方を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の説明	特になし
2	人間の本質としての思考	パスカルの思想（1）	予習　『パンセ』の当該箇所を読む。
3	人間の本質としての私と社会	ソクラテスの思想	予習　ソクラテスとがどのような哲学者か調べる。
4	人間の本質としての自己保存欲求	ホッブズの思想	予習　ホッブズがどのような哲学者か調べる。
5	人間の本質としての神の法	ロックの思想	予習　ロックがどのような哲学者か調べる。
6	人間の本質としての他者への憐み	ルソーの思想	予習　ルソーがどのような哲学者か調べる。
7	人間の本質としての理性と感情	パスカルの思想（2）	予習　『パンセ』の当該箇所を読む。
8	人間の本質としての理性(1)	カントの思想（1）	予習　カントがどのような哲学者か調べる。
9	人間の本質としての理性(2)	カントの思想（2）	事後学習　講義ノートの復習
10	人間の本質としての理性的討議（1）	討議倫理学の基礎	事後学習　講義ノートの復
11	人間の本質としての理性的討議（2）	ハーバーマスの思想	予習　ハーバーマスがどのような哲学者か調べる。
12	人間の本質としての感情(1)	功利的快楽計算の思想（1）	予習　ベンサムがどのような哲学者か調べる。
13	人間の本質としての感情(2)	功利的快楽計算の思想（2）	予習　J．S．ミルがどのような哲学者か調べる。
14	人間の本質としての感情(3)	功利主義の問題点とその克服の可能性	事後学習　講義ノートの復習
15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習　講義ノートの復習

関連科目	哲学ＩＩ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	パンセ	パスカル（前田陽一・由木康訳）	中央公論新社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験60%、平常点（コメントカード、小テスト、小レポート1600～2000字、受講態度）40%の割合で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	わたしたちの社会のきまりやルールがどのような考え方に基づいて作り出されてきたのかを知ることから、これからの社会の在り方について考えるヒントを見つけてください。 私語、携帯電話の使用等で講義を妨害する行為を行った者は、平常点評価をゼロとする。大学生にふさわしい態度で講義に臨むことを求めます。
担当者の研究室等	非常勤講師控室
備考	参考書は講義中に適宜紹介する。

科目名	哲学Ⅱ	科目名（英文）	Philosophy II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	濱　良祐
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」,「他者とは何か」,「幸せとは何か」など，人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。

この授業は，そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では近代の西洋哲学史をたどりながら，人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み，そのことを通して現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。

到達目標

（1）哲学に関する基礎的な知識を習得すること。
（2）人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。

授業方法と留意点

講義形式

授業時に講義内容に関するレジュメを配布する。参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。
受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけではなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。

前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。

授業期間中に数回、授業の理解度を試す小レポートを実施する。

科目学習の効果（資格）

現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について 「哲学」することの意義について	〈復習〉ノート・資料の整理。
2	近代科学の方法と哲学（1）	西洋近代における自然観・人間観の変化と、それに基づく近代科学の発生などについて	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
3	近代科学の方法と哲学（2）	近代科学の方法論とその限界を、哲学的視点から考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
4	近代的自我の確立――デカルト（1）	デカルトの思想と、近代的自我の意義について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
5	合理主義の世界観――デカルト（2）	合理主義の哲学における「神」と「世界」の意義について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
6	経験主義の認識論（1）	人間はどのようにして物事を正しく認識することができるのか	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
7	経験主義の認識論（2）	確実な「知識」と蓋然的な「信念」の違いについて	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
8	経験主義の認識論（3）	人間はなぜ不確実なものを確実だと信じるのか	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
9	経験主義と合理主義の綜合――カント（1）	カントによる認識論の「コペルニクス的転回」と人間の認識の限界について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
10	理性の二律背反――カント（2）	カント哲学における自然と自由の二元論について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
11	自立としての自由――カント（3）	人間の「自由」とは何であり、人間はどのように自分の生き方を決めるべきなのか	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
12	社会と幸福（1）	ベンサムと J. S. ミルの功利主義思想について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
13	社会と幸福（2）	「幸福」の追求とはどのようであるべきか	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
14	反理性と価値の創造	絶対的な「価値」が崩壊した時代をどう生きるべきなのか	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
15	総括と展望	これまでの学習内容の概観 残された課題についての展望	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理

関連科目

哲学 I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

平常点（受講態度、小レポート、コメントカードなど）を４０％、期末レポートの成績を６０％として総合的に評価する。

学生へのメッセージ

授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。

担当者の

非常勤講師控室

研究室等	授業担当者メールアドレス： xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp
備考	

科目名	日本国憲法	科目名（英文）	The Japanese Constitutional Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲　淳介
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	概要：日本国憲法の基本的な内容を理解できるように、授業テーマと関連する憲法上の問題をとりあげ、これと関わりのある基本事項、判例、学説を解説・検討します。目的：身近に生じる憲法上の問題を通して憲法の基本的な考え方を理解してもらうこと。
到達目標	憲法の基本的な知識を修得し、身近に生じる憲法上の問題を憲法の視点から考えるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果（資格）	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

教養科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日本国憲法とは1	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書 9 頁から 18 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
2	日本国憲法とは2	日本国憲法の基本原理、国民主権の原理、平和主義の原理（第 9 条）について説明します。	事前に教科書 17 頁から 18 頁、211 から 228 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
3	基本的人権の保障1	人権歴史、人権の分類、人権の限界について説明します。	事前に教科書 19 頁から 25 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
4	基本的人権の保障2	人権の享有主体、人権規定の私人間効力について説明します。	事前に教科書 25 頁から 46 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
5	基本的人権の保障3	幸福追求権と法の下の平等について説明します。	事前に教科書47 頁から66 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
6	基本的人権の保障4	信教の自由と政教分離について説明します。	事前に教科書67 頁から78 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
7	基本的人権の保障5	表現の自由の保障とその限界について説明します。	事前に教科書79 頁から90 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
8	基本的人権の保障6	表現活動の規制（検閲と事前抑制）について説明します。	事前に教科書 91 頁から 100 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
9	基本的人権の保障7	職業選択の自由とその規制を中心に経済的自由権について説明します。	事前に教科書101 頁から110 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
10	基本的人権の保障8	生存権を中心に社会権について説明します。	事前に教科書111 頁から129 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
11	基本的人権の保障9	刑罰、刑事手続と憲法について説明します。	事前に教科書131 頁から140 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
12	統治機構1	立法の委任を中心に国会と立法権について説明します。	事前に 155 頁から 166 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
13	統治機構2	議院内閣制、内閣の組織と権能について説明します。	事前に教科書167 頁から178 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
14	統治機構3	司法権、違憲立法審査権について説明します。	事前に教科書179 頁から200 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
15	統治機構4	地方自治の本旨、条例制定権、住民投票について説明します。	事前に教科書201 頁から210 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。

関連科目	法学入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての憲法学（第2版）	中村睦男、岩本一郎、大島佳代子、木下和朗、齊藤正彰、佐々木雅寿、寺島壽一	三省堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（60%）、小テスト（40%）の割合で評価します。小テストは、適宜、行います。
学生へのメッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。

担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語上級会話ＦⅠ	科目名（英文）	Advanced Japanese Speaking FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	髙井　美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み、２回のテストから総合的に判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語上級会話ＦⅡ	科目名（英文）	Advanced Japanese Speaking FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	髙井　美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本語会話ＦＩと同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
8	トピック⑦	議論	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み、２回のインタビューテストから総合的に判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語上級作文ＦⅠ	科目名（英文）	Advanced Japanese Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、実践と解説を中心に行う。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	―――――
2	Ｅメールの基本１	Ｅメールの基本を学習する	復習
3	Ｅメールの基本２	Ｅメールの基本を学習する	復習
4	Ｅメール１	近況を知らせるメール	復習
5	Ｅメール２	お知らせメール	復習
6	Ｅメール３	お誘いメール	復習
7	Ｅメール４	リマインドメール	復習
8	Ｅメール５	問い合わせ／質問メール	復習
9	Ｅメール６	依頼メール	復習
10	Ｅメール７	アポイント／日程調整メール	復習
11	Ｅメール８	お礼のメール	復習
12	Ｅメール９	断りメール	復習
13	Ｅメール１０	クレームのメール	復習
14	手紙	お礼状を書く	復習
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	(1)宿題（教員へのメール送信）は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語上級作文ＦⅡ	科目名（英文）	Advanced Japanese Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、講義と実践を中心に行う。
科目学習の効果（資格）	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	――――――――
2	就職活動１	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
3	就職活動２	自己 PR を書く	復習
4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
6	ビジネスメール１	挨拶メール	復習
7	ビジネスメール２	報告メール	復習
8	ビジネスメール３	通知メール	復習
9	ビジネスメール４	案内メール	復習
10	ビジネスメール５	確認メール	復習
11	ビジネスメール６	依頼メール	復習
12	ビジネスメール７	問い合わせ／回答メール	復習
13	ビジネスメール８	アポイントを取るメール	復習
14	ビジネスメール９	お詫び／お礼のメール	復習
15	総復習・確認テスト	総復習・確認テスト	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)宿題（教員へのメール送信）は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語上級読解Ｆ Ⅰ	科目名（英文）	Advanced Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川　由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

この授業では次の３点を目標にします。
①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る
②まとまった内容の文章の大意を把握する
③できるだけ速く①と②をできるようにする

なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。

到達目標

日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。

JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。

授業方法と留意点

この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。
１．キーワード・キーセンテンスを探す
２．接続詞に注意する
３．テキストの流れに注意する
４．予測して読む
５．テキストをまとめる

科目学習の効果（資格）

・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。
・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。
・その成果を専門の文章の読解に応用する。
（・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目

日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する）

出席・授業態度　+　期末テスト　＝　100%
50%　50%

学生へのメッセージ

受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。

出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。

担当者の研究室等

外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）

備考

受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。

科目名	日本語上級読解Ｆ Ⅱ	科目名（英文）	Advanced Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

この授業では次の３点を目標にします。
①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る
②まとまった内容の文章の大意を把握する
③できるだけ速く①と②をできるようにする

なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。

到達目標

日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。

JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。

授業方法と留意点

この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。
１．キーワード・キーセンテンスを探す
２．接続詞に注意する
３．テキストの流れに注意する
４．予測して読む
５．テキストをまとめる

科目学習の効果（資格）

・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。
・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。
・その成果を専門の文章の読解に応用する。
（・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2〜3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2〜3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2〜3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2〜3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2〜3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2〜3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2〜3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目

日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する）

出席・授業態度　+　期末テスト　＝　100%
50%　50%

学生へのメッセージ

受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。

出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。

担当者の研究室等

外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）

備考

受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島　誠司
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	―――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【　レポート　】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＤＥＦ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	髙嶋　藍
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	―――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【　レポート　】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大石　真由香
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	―――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【　レポート　】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上島　誠司
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＤＥＦ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	髙嶋　藍
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大石　真由香
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本の歴史	科目名（英文）	History of Japan
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐伯　智広
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	自国の文化や海外の文化を理解するためには、まず私達たち自身の歴史を知り、文化の起こり・移り変わり・成り立ち・特色について考えることが欠かせません。この講義では、そのための歴史の基礎知識を学んで行きます。対象は古代から現代までの全時代です。
到達目標	１．日本文化の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識を身に付ける。 ２．観光資源としての史跡や、それにまつわる歴史についての知識を身につける。 ３．上の２点について、正しく説明できる能力を身につける。
授業方法と留意点	板書講義形式です。プリントを利用します。教科書はありません。参考図書は講義内で適宜示します。
科目学習の効果（資格）	日本文化の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識と、それを説明する能力を身につけることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション　歴史と文化の接点	歴史と文化との関わり全般について概観します。	なし
2	飛鳥時代　―仏教伝来―	飛鳥時代の文化について学びます。	予習として、「聖徳太子」という人物について辞書的な経歴を調べる。
3	奈良時代　―仏教興隆―	奈良時代の文化について学びます。	予習として、「鎮護国家」という語について辞書的な意味を調べる。
4	平安時代前期　―仏教再編―	平安時代前期の文化について学びます。	予習として、「密教」という語について辞書的な意味を調べる。
5	平安時代中期　―消化と吸収―	平安時代中期の文化について学びます。	予習として、「念仏」という語について辞書的な意味を調べる。
6	平安時代後期・鎌倉時代前期―地方への拡大―	平安時代後期・鎌倉時代前期の文化について学びます。	予習として、「武士」という語について辞書的な意味を調べる。
7	鎌倉時代後期　―異端の力―	鎌倉時代後期の文化について学びます。	予習として、「鎌倉新仏教」という語について辞書的な意味を調べる。
8	南北朝時代・室町時代　―京都への回帰―	南北朝時代・室町時代の文化について学びます。	予習として、「南北朝」という語について辞書的な意味を調べる。
9	戦国時代・安土桃山時代　―力と平和―	戦国時代・安土桃山時代の文化について学びます。	予習として、「小京都」という語について辞書的な意味を調べる。
10	江戸時代前期・中期　―天下泰平―	江戸時代前期・中期の文化について学びます。	予習として、「鎖国」という語について辞書的な意味を調べる。
11	江戸時代後期・末期　―世界的激動の中で―	江戸時代後期・末期の文化について学びます。	予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。
12	明治時代　―西洋文明との出会い―	明治時代の文化について学びます。	予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。
13	大正時代・戦前　―植民地時代の光と影―	大正時代・戦前の文化について学びます。	予習として、「モダニズム」という語について辞書的な意味を調べる。
14	戦後　―高度経済成長と現代―	戦後の文化について学びます。	予習として、「高度経済成長」という語について辞書的な意味を調べる。
15	冠婚葬祭にまつわるエトセトラ	冠婚葬祭にまつわる文化について学びます。	予習として、「冠婚葬祭」という語について辞書的な意味を調べる。

関連科目	ありません。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	予習シート３０％、定期試験７０％
学生へのメッセージ	教科書で勉強する高校の日本史とは違って、大学での講義はきゅうくつな枠組みはありません。 ただ過去の歴史を追うのではなく、現在に残る遺跡・遺物・建築・美術工芸品などを紹介したり、歴史を題材にした文学作品・マンガを取り上げたりしながら、現代の私達にとって歴史が持つ意味についても、自由に考えていきましょう！ また、最新の学説なども紹介していくので、研究の最先端で教科書が書き換わっていく面白さも知ってもらいたいと考えています。
担当者の研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	教科書はありません。参考書は講義内で適宜紹介します。

科目名	犯罪被害者と法的救済	科目名（英文）	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。

・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデート DV の被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。

・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。
しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。

・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。

・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。

・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。

到達目標

・「被害者」概念について説明できるようになる。
・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。
・犯罪被害者の支援制度について理解する。

授業方法と留意点

・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。

科目学習の効果（資格）

・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。
・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義	事前：「犯罪被害者」について調べてみよう 事後：重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	・「犯罪者」の刑事責任 ・刑罰の正当化根拠 ・厳罰化をめぐる諸問題	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	・告訴と告発の方法 ・証拠保全 ・犯罪被害者に対するメディアスクラム ・報道による被害（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット） ・被害者連絡制度 ・被害者側からの問い合わせ ・被害者からの事情聴取 ・警察と検察によるカウンセリング体制	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
4	加害者との示談	・示談の意義 ・示談が与える影響 ・示談慰謝料の算定	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	・被害者による裁判傍聴 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者の意見陳述 ・被害者等特定事項の非公開	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	・対象犯罪 ・被害者に認められる行為 ・参加の申出と参加時期 ・公判前整理手続への参加 ・被害者の証人尋問 被告人質問と意見陳述	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
8	小テスト	第７回目までの理解度確認	事前：前回までの復習 事後：わからなかった箇所を再確認
9	損害賠償命令制度	・制度の趣旨 ・対象犯罪 ・遺族による申立 ・請求対象とその範囲 ・管轄裁判所と申立期間	事前：「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後：重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	・加害者の施設内処遇と社会内処遇 ・加害者の仮釈放 ・犯罪被害者への経済支援制度 ・受給資格 ・支給要件と支給額 ・不服申立	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる

	11	その他の経済的支援制度	・犯罪被害者救護基金 ・交通事故犯罪 ・犯罪による精神被害	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
	12	少年事件における被害者保護	・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
	13	DV 被害	・DV とは何か ・配偶者による犯罪 ・DV 被害者の保護と支援 ・保護命令	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
	14	ストーカー被害	・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
	15	修復的司法	・修復的司法の意義 ・わが国における修復的司法の展望	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる

関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策	川出　敏裕＝金　光旭	成文堂
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他の専門文献は開講時に紹介する。		
2			
3			

評価方法 （基準）	・小テストおよび期末試験の成績を総合評価する。なお、質疑応答を交えた場合は、その応答内容をプラスの方向でのみ評価する。
学生へのメッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	事前学習：内容に記載した事項につき、毎回 0.5 時間以上の予習に取り組む。 事後学習：講義内容についてノートにまとめるなど、毎回 1 時間以上の復習に取り組む。

科目名	ビジネスイングリッシュⅠ	科目名（英文）	Business English Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅田　尋道
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	このクラスでは、ビジネスの場で必要となるような基本語彙や重要表現を学びます。また、様々なビジネスシーンを想定したダイアローグなどを通して英語での実践的コミュニケーション力を磨きます。
到達目標	卒業後、英語を用いて仕事を行えるような英語力の向上を目指します。
授業方法と留意点	ただ出席するだけでなく、真剣に授業活動に取り組んでください。
科目学習の効果（資格）	Toeic のスコアアップやビジネス英語検定の取得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	講義の進め方、評価方法などを説明	初回の授業時に説明します。
2	第１課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
3	第１課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
4	第２課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
5	第２課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
6	第３課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
7	第３課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
8	期間外試験１	midterm exam	第１−３課の復習
9	第４課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
10	第４課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
11	第５課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
12	第５課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
13	第６課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
14	第６課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
15	期間外試験２	final exam	第４−６課の復習

関連科目	ビジネスイングリッシュｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	lets get down to business	k. tsuji	macmillan languagehouse
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業活動への参加 10% 語彙テスト、提出物 30% 期間外テスト（２回）60%
学生へのメッセージ	英語はもちろんのこと、実社会で問題となる様々なことについていっしょに考えてみたいと思います。学生の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名（英文）	Business English II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅田　尋道
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	このクラスでは、ビジネスの場で必要となるような基本語彙や重要表現を学びます。また、様々なビジネスシーンを想定したダイアローグなどを通して英語での実践的コミュニケーション力を磨きます。
到達目標	卒業後、仕事で使える英語力の習得を目指します。
授業方法と留意点	ただ出席するだけでなく、真剣に授業活動に参加してください。 ビジネスイングリッシュⅠを履修していない学生は、夏休み前に書店で教科書の在庫確認を行ってください。初回の授業時から教科書を使用します。
科目学習の効果（資格）	Toeic のスコアアップとビジネス英語検定の取得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	講義の進め方、評価方法などを説明	初回の授業時に説明します。
2	第７課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
3	第７課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
4	第８課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
5	第８課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
6	第９課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
7	第９課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
8	期間外試験１	midterm exam	第７−９課の復習
9	第 10 課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
10	第 10 課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
11	第 11 課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
12	第 11 課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
13	第 12 課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
14	第 12 課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
15	期間外試験２	final exam	第 10-12 課の復習

関連科目	ビジネスイングリッシュａ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	lets get down to business	k. tsuji	macmillan languagehouse
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業活動への参加 10% 語彙テスト、提出物 30% 期間外テスト（２回）60%
学生へのメッセージ	英語はもちろんのこと、実社会で問題となる様々なことについていっしょに考えてみたいと思います。学生の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	前期にビジネスイングリッシュⅠ（担当者：梅田）を受講していない学生はできるだけ早い時期に書店で使用教科書の在庫を確認し、在庫がなければ自身で注文してください。

科目名	ビジネスマナー	科目名（英文）	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	富岡　直美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

目的：　社会人としてふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。

授業概要：　ビジネスの現場で顧客、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するために必要となるの基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標

【自分を客観視する力】
1）自分を客観視することの必要性を説明できる。
2）自分をとりまく環境と自己の関係を認識して行動を選択する。
3）自分の考えをまとめて伝える。

【コミュニケーション】
1）言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。
2）意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。
3）相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。
4）対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

【チームワーク】
1）チームワークの重要性を例示して説明できる。
2）チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。
3）自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。

授業方法と留意点

グループワーク、ケーススタディ、ロールプレイなどを取り入れます。
授業の参加者として、積極的に授業に参加してください。

科目学習の効果（資格）

社会人になるための目標を見つけ、自信をもってそれに向かってください。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ビジネスマナーの必要性	授業オリエンテーション 社会人として仕事をするということ 組織の仕組み	受講目的が言えるようにしておいてください。
2	第一印象	第一印象の重要性 第一印象をよくする方法	第一印象コントロールの実践とレポート
3	身だしなみと態度	社会人に必要な身だしなみ あいさつ，姿勢，表情	敬語確認テスト
4	言葉づかいの基本	言語コミュニケーションにおける心得 敬語の特徴と，基本の使い方を知る 敬語の仕組みと使い方	敬語の応用問題
5	言葉づかいの応用	複雑な関係性を意識した敬語の使い方	ビジネスマナーの知識に関する常識問題
6	指示の受け方	仕事の事例を用いたケーススタディ 組織の仕組み 指示の受け方 ホウレンソウの重要性 ビジネス文書の書き方	企業，組織に関する一般常識
7	優先順位、スケジューリング	優先順位の立て方 スケジューリングの方法	自分のスケジュールを立てる
8	電話のマナー	電話のかけ方，受け方 電話応対の事例をもちいた実践練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題
9	電子メール	電子メールの書き方と注意点 事例のメールでの対応ケースを用いた練習	実際にメールを送る
10	ビジネス文書	社外文書の基本、社外文書と社交文書 事例の文書での対応ケースを用いた練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題
11	ホウレンソウ	報告・連絡・相談の仕方	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題
12	訪問	会社訪問事例を用いて訪問の仕方を考える アポイントメントの取り方、訪問準備、席次、名刺交換、事後処理など	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題
13	接遇	受付、案内、お茶出し、見送りなど	レポート課題
14	情報の取り扱い	ファイリング 環境整備 情報共有の重要性 コンプライアンス	未提出のレポート等がないか確認をして下さい。
15	振り返りとまとめ	授業の振り返り まとめ	レポート課題の提出

関連科目

キャリアデザイン、インターンシップ、エンプロイメントデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	提出物・授業態度 40 点、レポート 20 点、期末テスト 40 点で総合評価する。100 点満点中 60 点以上で合格。			
学生への メッセージ	マナーを身に付けることは社会人に仲間入りする第一歩です。何のためにそれをするのかを考え、積極的に参加してください。 また、必要になってすぐできるものではありません。日頃から実践するように意識してください。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス　7 号館 3 階　キャリア教育推進室　富岡直美			
備考				

科目名	武道論	科目名（英文）	Budo-ron (Theory of Japanese Martial Arts)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山　喬之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「武道とは何か」、「なぜ今武道なのか」等、現代における武道の特性などを概説し、現状と課題について検討していく。 また、武道の特性が理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができることを一般的な目標とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	日本伝統文化である武道（意味・種類）についての理解を深める。 日本人の精神を「武士道」より学び、道徳についての理解を深める。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果（資格）	武道の特性を理解することができる。また、伝統的な行動様式を学ぶ中から現代にない思考力が育まれることを期待する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる
2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種目があるのか調べる
3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる
4	武道（柔道）	柔道について	柔道について調べ内容をまとめる
5	武道（剣道）	剣道について調べ内容をまとめる	剣道について調べ内容をまとめる
6	武道（弓道・相撲）	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる
7	武道（空手・合気道）	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる
8	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる
9	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
10	武士道から見る日本人の道徳心③	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
11	武道と修行	武道における修行について	修行とは何かを調べまとめる
12	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる
13	武道の身体技法①	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる
14	武道の身体技法②	実際の身体技法を行う（総合体育館）	武道の身体技法とは何か調べまとめる
15	武道論総括（テスト）	１４回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習

関連科目	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習 健康論 保健論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	今、なぜ武道か	中村　民雄	日本武道館
2	武道を知る	田中　守／藤堂　良明／東　憲一／村田　直樹	不昧堂
3			

評価方法（基準）	出席率 75%以上のものを試験資格者とする。遅刻は 2 回で 1 回の欠席と同等とみなす。（遅刻は授業開始から 30 分以内に入室したことをいう） 武道論総括(15 回目)におけるテストを 100%の割合で評価を行う。（ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象者とする。）
学生へのメッセージ	質問等がある場合には、横山講師室に来てください。
担当者の研究室等	総合体育館１F 横山講師室
備考	

科目名	文化人類学	科目名（英文）	Cultural Anthropology
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣　有
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中のさまざまな人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果（資格）	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念、方法論について概説する。	特になし
2	人類学の誕生（１）：博物学から人類学へ	19 世紀におこった博物学から進化論人類学へという変化をとおしていわゆる人類学の誕生をあとづける。	特になし
3	人類学の誕生（２）：進化論人類学	タイラー、モーガン、フレイザーの研究を例に進化論人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	特になし
4	機能主義人類学（１）：マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケーム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、マリノフスキーとラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	特になし
5	機能主義人類学（２）：有機的全体としての社会	前回の続き	特になし
6	アメリカ文化人類学の誕生（１）：	フランツ・ボアズの研究を概説する。	特になし
7	アメリカ文化人類学の誕生（２）	前回の続き	特になし
8	アメリカ文化人類学の展開（１）	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学のおける「文化」概念の精緻化の過程をみる。	特になし
9	アメリカ文化人類学の展開（２）	前回の続き	特になし
10	構造主義（１）	モースとレヴィ=ストロースの研究を中心に構造主義について概説する。	特になし
11	構造主義（２）	前回の続き	特になし
12	解釈人類学（１）	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	特になし
13	解釈人類学（２）	前回の続き	特になし
14	文化を書く	80 年代以降のポストモダン人類学について概説する。	特になし
15	ポスト･ポストモダン人類学と文化の行方	これまでの議論のまとめと総括を行う。	特になし

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	100%試験によって評価する。 評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。
学生へのメッセージ	情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。
担当者の研究室等	なし
備考	

科目名	法学入門	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法は私たちの日常生活と密接な関係にあり、私たちが普段あまり意識しないで行動していても、その行為の裏には法律関係若しくは法律的問題のあるものが沢山あります。法を学ぶことは世の中を知ることにもつながります。この講義では、現実の社会と法の世界がどのように関係しあっているかということについて理解してもらいたいと思います。法についての基本的な知識と考え方を身につけ、世の中の動きに関心を持ってもらえたらと思います。内容としては、国の基本法である憲法と私生活を規律する民法が中心となります。
到達目標	①憲法が守ろうとしているものが何であるかを概ね理解できるようになること。 ②民法の枠組みと基本事項を理解できるようになること。
授業方法と留意点	講義方式を採ります。決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を随時配付します。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や教員免許の取得等に参考になると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	随時資料を配付する
2	法の解釈	法令解釈の基本	随時資料を配付する
3	国家と法	国家と憲法、国民主権、三権分立	随時資料を配付する
4	平和と法	平和主義	随時資料を配付する
5	人権と法（Ⅰ）	基本的人権の保障（自由権）	随時資料を配付する
6	人権と法（Ⅱ）	基本的人権の保障（社会権）	随時資料を配付する
7	政治と法	統治機構	随時資料を配付する
8	国と地方	地方自治	随時資料を配付する
9	財産と法	所有権の絶対性	随時資料を配付する
10	契約と法（Ⅰ）	契約自由の原則	随時資料を配付する
11	契約と法（Ⅱ）	契約各論	随時資料を配付する
12	家族と法	結婚と離婚、相続	随時資料を配付する
13	犯罪と法	罪刑法定主義	随時資料を配付する
14	行政と法	行政の仕組みと行政行為	随時資料を配付する
15	紛争解決と法 まとめ	争訟制度 授業全体のまとめ	配付資料を復習しておいてください。

関連科目	憲法、民法、刑法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の結果で評価します。
学生へのメッセージ	学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野は勿論のこと他の分野について勉強することも将来何かの役に立つことと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば、新たな世界が見えてくると思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島研究室
備考	なし

科目名	マーケティングと歴史	科目名（英文）	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。 学科の学習・教育目標との対応：[II]
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。
科目学習の効果（資格）	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	マーケティングのＳＴＰアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	越後屋の仕入機構（１）	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	越後屋の仕入機構（２）	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目	マーケティング論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の研究室等	武居教授室
備考	

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名（英文）	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。１件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト１を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーや DV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識

			売の実態、取締の方法を紹介する。	を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。

関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「少年法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。
担当者の研究室等	11 号館 9 階 中沼研究室
備考	

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野　竜平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生（大学３年）を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)環境問題/意識についての体験をする。(4)企業における品質問題を体験する。(5)原価管理の基礎知識を修得する。(6)PDCA サイクルによる課題解決を体験する。 学科の学習・教育到達目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
授業方法と留意点	パナソニック（株）より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック（株）の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、1〜5 回目までは 120 分授業とする。
科目学習の効果（資格）	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	企業・製造業・仕事の基本とは① 4 月 9 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および 5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事に基本①の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4 月 16 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および 5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4 月 23 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および 5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本②〜③の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5 月 7 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および 5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5 月 14 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および 5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本④〜⑤の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
6	品質教育① 5 月 21 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ7 つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する（座学と実習）	-----
7	品質教育② 5 月 28 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ7 つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する（座学と実習）	-----
8	品質教育③ 6 月 4 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ7 つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する（座学と実習）	品質教育①〜③の講義終了後、レポートを提出する（書式は別途）
9	原価・コスト教育① 6 月 11 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
10	原価・コスト教育② 6 月 18 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
11	原価・コスト教育③ 6 月 25 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①〜③の講義終了後、レポートを提出する（書式は別途）
12	課題解決教育① 7 月 2 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
13	課題解決教育② 7 月 9 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
14	課題解決教育③ 7 月 16 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①〜③の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途） また、14 回目までの講義を総括して、最終回での質問事項を考えておくこと
15	全体討議・質疑応答 7 月 23 日（木）	14 回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目	『ものづくりインターンシップ実践』または『ものづくり海外インターンシップ』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題レポート（6 回）と受講レポート 50%、授業姿勢（積極性）20%、全体討議（プレゼンテーション）10%、期末試験 20%とした総合評価を行う。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>日本を代表する企業であるパナソニック（株）と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」または「ものづくり海外インターンシップ」を同時に受講することが前提です。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>1 号館 4 階　奥野教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回 1 時間程度。　レポート各回 3 時間程度，プレゼン準備と期末試験のための学習 20 時間程度。
ものづくり海外インターンシップ履修予定者については別途定める授業計画に沿って進める場合がある。

【担当者】
パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、福田祥一、高岡清</td></tr>
</table>

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川野　常夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本科目は，夏期の「ものづくり海外インターンシップ（川野ほか担当）」で，実際に海外に渡航し，海外で実習を受けるために必要な英語力やマナーなどを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では，将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ，海外事情や企業のグローバル化の実態を学ぶほか，英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は，夏期の「ものづくり海外インターンシップ（川野ほか担当）」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため，希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。
科目学習の効果（資格）	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また，社会人としてのマナーが身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス，海外渡航手続き概要	パスポート，チケット予約（航空機，ホテル），保険，海外渡航準備	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
2	海外事情，日系企業のグローバル化	海外の文化，経済，グローバル化事情	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
3	研修先　事前調査	文化，歴史，経済事情，企業・大学	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
4	社会人基礎力	社会人として必要な基礎力	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
5	英語コミュニケーション実習１	海外渡航，海外生活	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション実習２	自己紹介，大学紹介，日本紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション実習３	専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション実習４	海外研修を想定したグループ実習１	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション実習５	海外研修を想定したグループ実習２	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション実習６	海外研修を想定したグループ実習３	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	マナー実習１	挨拶，礼儀，服装	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	マナー実習２	ミーティング，質疑，懇親会	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習３	感謝，気配り，機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航，海外生活	渡航準備，入出国，習慣，食生活，健康管理	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
15	英語による成果発表?	まとめ	成果発表の準備，反省

関連科目	ものづくり海外インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本企業が欲しがる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店

評価方法（基準）	課題レポート６０%，取組み姿勢２０%，成果発表２０%として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は，海外実習後に顕著な成長が認められるので，大いにチャレンジしてほしい。授業方法，留意点にも記載のとおり，参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。
担当者の研究室等	１号館４階　川野教授室 １２号館７階　白鳥准教授室 ８号館３階　加嶋教授室 １２号館７階　榊准教授室
備考	【事前事後学習】レポート作成，復習の学習時間：20 時間程度 【共同担当者】　白鳥准教授，加嶋教授，榊准教授，理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野　竜平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』 の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』 で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、 更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・ＱＣＤ問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。 学科の学習・教育到達目標との対応：[II]
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック（株）人材開発カンパニーで、計７日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	直前指導 ・1 回目　ものづくりインターンシップ基礎のまとめ，インターンシップⅡの準備　7/9（木）　6 限目 ・2 回目　ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導　7/16（木）　6 限目 宿泊実習（パナソニック人材開発カンパニー） ・1～3 日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1 個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。（グループ演習） 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと ・4～5 日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得（設計～生産）し、目標達成のためのチームワーク・QCD 問題意識の重要性を体得する。（グループ演習） 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと ・6 日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2 工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと ・7 日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。（グループ単位） 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと 実習中指導 ・8 月 29 日（土）　2～5 限目　プレゼンテーション指導 実習後指導 ・1 回目　体験報告書の添削指導 ・2 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・3 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・4 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・5 回目　研修成果報告会（2 回目） ・6 回目　全体報告会　学生代表者の発表・質疑 ・7 回目　全体報告会　企業管理者の講演と講評
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	実習成果 40%、研修成果報告会（2 回）20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。

学生への メッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。
担当者の 研究室等	奥野教授室（1 号館 4 階）
備考	期間：2015 年 8 月 24 日（月）～8 月 28 日（金）、8 月 31 日（月）～9 月 1 日（火）　パナソニック（株）人材開発カンパニーでの宿泊研修です。8 月 29 日（土）には摂大でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。 【事前事後学習】 レポート作成，プレゼン準備としての学習時間：20 時間程度。 【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名（英文）	International Internship for Manyfacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	川野　常夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は,「ものづくり海外インターンシップ」と呼び，世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。業種は製造業（機械・電気系），または建設業（建築・デザイン系）とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。?研修先によっては，海外の大学でワークショップ体験も含める。
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。
授業方法と留意点	東南アジアは，フィリピン２箇所とタイ１箇所（合計３箇所）を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約１０日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため，希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお，本講義を受講する学生は，前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班，川野ほか担当)」の受講を必須とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導，海外実習の準備など 海外実習 ・1～2 日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと ・3 日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習／ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の川上である企画・設計部門，または建築・デザイン部門。(グループ演習) 【事前・事後学習】実習終了後、レポート，アイディアスケッチなどを提出のこと ・4～5 日目 【授業テーマ】製造工場見学、建築・デザイン作品見学、交流会 【内容・方法等】関連工場，施設，建築，デザイン作品の見学、現地従業員，大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート，アイディアスケッチなどを提出のこと ・6～8 日目 【授業テーマ】製造系実習，または建設系のワークショップなど 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など、または建設系の建築・デザインワークショップなど。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと ・9～10 日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位で PPT でプレゼン，または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成をを提出のこと 実習後指導 ・1 回目　最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2 回目　成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3 回目　全体報告会　学生代表者の発表・質疑 ・4 回目　全体報告会　企業管理者の講演と講評
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「日本企業が欲しがる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店

評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%，実習・授業態度 20%，実習成果プレゼン 20%），実習前後の学習 5%，実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2 回）15%として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は，海外実習後に顕著な成長が認められるので，大いにチャレンジしてほしい。授業方法，留意点にも記載のとおり，参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため，希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は，前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班，川野ほか担当)」の受講を必須とする。
担当者の研究室等	１号館４階　川野教授室 1 号館３階　伊藤教授室 １２号館７階　白鳥准教授室 ８号館３階　加嶋教授室
備考	【注意事項】研修予定期間：2015 年 8 月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。） 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成，復習の学習時間：20 時間程度

	【共同担当者】　伊藤教授，白鳥准教授，加嶋教授、理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	役立つ金融知力	科目名（英文）	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川　富盛
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となるためには、先ずは市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく必要があります。経済や法律そして金融に関する正しい知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。

本講義の目的は、人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、金融知識を活用する実戦的な金融インテリジェンスの基本を身に着けることです。

到達目標

実戦的な金融インテリジェンスの基本を身に着け、経済生活やビジネスライフにおいて適宜的確に行動できるようになることを目指します。

授業方法と留意点

教科書を使用した講義形式の授業により、次の三つのステップで進めます。
① 先ずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。
② 次に、金融の基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実戦的に学んでいきます。
③ 更に、それらを統合的に活用する能力（＝金融インテリジェンス）を、社会生活に応用する方法を学びます。

科目学習の効果（資格）

経済生活やビジネスライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、金融知識を活用する実戦的な金融インテリジェンスの基本を身に着けます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「金融知力の必要性 」	テキスト＜P4～15＞ ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト＜P38～49＞ ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト＜P16～29＞ ・金融の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト＜P147～149・152～159＞ ・契約社会　Ⅰ ・ローン・クレジット ・契約社会　Ⅱ
5	リスクと向き合う ①	「リスクマネジメント」	テキスト＜P74～81・150～152・159～161＞ ・リスクマネジメント ・契約社会　Ⅲ
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト＜P82～91＞ ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト＜P92～98＞ ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト＜P30～37・50～53＞ 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品（株式等）」	テキスト＜P118～129＞ ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 ・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他）」	テキスト＜P111～118＞ ・預貯金 ・信託 ・債券
11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト＜P99～111＞ ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「資産分散と時間分散」	テキスト＜P130～146＞ ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト＜P54～63＞ ・ライフプランニング
14	ライフプランニング ②	「ライフイベントごとの課題」	テキスト＜P64～73＞ ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
15	最終まとめ 試験　及び　レポート提出	「講義のまとめ」 課題レポート提出 試験	全体まとめ 講義で得た金融インテリジェンスの確認と応用

関連科目

民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』		金融知力普及協会

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td>ISBN：978-4-907341-00-8　（必須。授業では毎回この教科書を使用しますので、必ず購入してください。）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>下記のとおり、本科目への取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。
・試験　　：　20%（知識の正確性）
・レポート　：　50%（自分で考え、問題解決する能力）
・平常点　　：　30%（受講状況、質疑応答、課題・討議など）</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本講義でより高い成果を得るためには、下記の二点が非常に重要なポイントです。

①　受講内容の復習を行い、身近な経済・時事問題などに疑問を持って考えること。
②　最終回までに表計算ソフト「エクセル」（講義では教えません）で簡易な表を作成し、内容を精査すること。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 1 階（教務課）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>・この授業は、ＳＭＢＣ日興証券グループによる「寄附講座」です。

・「事前・事後学習課題」について
予習（シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む）：３０分程度
復習（講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する）：３０分程度
当然の前提として、単位取得するには全講義を静かに聴講すること。</td></tr>
</table>

科目名	歴史学Ⅰ	科目名（英文）	HistoryI
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐伯　智広
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	自国の文化や海外の文化を理解するためには、まず私達たち自身の歴史を知り、文化の起こり・移り変わり・成り立ち・特色について考えることが欠かせません。この講義では、そのための歴史の基礎知識を学んで行きます。対象は古代から現代までの全時代です。
到達目標	１．日本文化の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識を身に付ける。 ２．観光資源としての史跡や、それにまつわる歴史についての知識を身につける。 ３．上の２点について、正しく説明できる能力を身につける。
授業方法と留意点	板書講義形式です。プリントを利用します。教科書はありません。参考図書は講義内で適宜示します。
科目学習の効果（資格）	日本文化の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識と、それを説明する能力を身につけることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション　歴史と文化の接点	歴史と文化との関わり全般について概観します。	なし
2	飛鳥時代　―仏教伝来―	飛鳥時代の文化について学びます。	予習として、「聖徳太子」という人物について辞書的な経歴を調べる。
3	奈良時代　―仏教興隆―	奈良時代の文化について学びます。	予習として、「鎮護国家」という語について辞書的な意味を調べる。
4	平安時代前期　―仏教再編―	平安時代前期の文化について学びます。	予習として、「密教」という語について辞書的な意味を調べる。
5	平安時代中期　―消化と吸収―	平安時代中期の文化について学びます。	予習として、「念仏」という語について辞書的な意味を調べる。
6	平安時代後期・鎌倉時代前期―地方への拡大―	平安時代後期・鎌倉時代前期の文化について学びます。	予習として、「武士」という語について辞書的な意味を調べる。
7	鎌倉時代後期　―異端の力―	鎌倉時代後期の文化について学びます。	予習として、「鎌倉新仏教」という語について辞書的な意味を調べる。
8	南北朝時代・室町時代　―京都への回帰―	南北朝時代・室町時代の文化について学びます。	予習として、「南北朝」という語について辞書的な意味を調べる。
9	戦国時代・安土桃山時代　―力と平和―	戦国時代・安土桃山時代の文化について学びます。	予習として、「小京都」という語について辞書的な意味を調べる。
10	江戸時代前期・中期　―天下泰平―	江戸時代前期・中期の文化について学びます。	予習として、「鎖国」という語について辞書的な意味を調べる。
11	江戸時代後期・末期　―世界的激動の中で―	江戸時代後期・末期の文化について学びます。	予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。
12	明治時代　―西洋文明との出会い―	明治時代の文化について学びます。	予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。
13	大正時代・戦前　―植民地時代の光と影―	大正時代・戦前の文化について学びます。	予習として、「モダニズム」という語について辞書的な意味を調べる。
14	戦後　―高度経済成長と現代―	戦後の文化について学びます。	予習として、「高度経済成長」という語について辞書的な意味を調べる。
15	冠婚葬祭にまつわるエトセトラ	冠婚葬祭にまつわる文化について学びます。	予習として、「冠婚葬祭」という語について辞書的な意味を調べる。

関連科目	ありません。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	予習シート３０％、定期試験７０％
学生へのメッセージ	教科書で勉強する高校の日本史とは違って、大学での講義はきゅうくつな枠組みはありません。 ただ過去の歴史を追うのではなく、現在に残る遺跡・遺物・建築・美術工芸品などを紹介したり、歴史を題材にした文学作品・マンガを取り上げたりしながら、現代の私達にとって歴史が持つ意味についても、自由に考えていきましょう！ また、最新の学説なども紹介していくので、研究の最先端で教科書が書き換わっていく面白さも知ってもらいたいと考えています。
担当者の研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	教科書はありません。参考書は講義内で適宜紹介します。

科目名	歴史学Ⅱ	科目名（英文）	HistoryII
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上　司樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなかろうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたと教わった人も少なくないだろう。古代や中国の例なども広く視野に入れることで、一種、常識となっているこのような通説を疑い、考えなおす。そのようにして、都市を窓口に歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。

到達目標

学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。

授業方法と留意点

暗記は必要ない。教科書も必要ない。図や表もできるだけ多く使って授業する。ただ内容を理解するためには、以下3点を守る必要がある。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③授業中に資料を読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。

科目学習の効果（資格）

商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
2	都市を窓に世界史を見る	文明はさまざまでも共通点がある	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	都市を窓に世界史を見る	日本史の特徴は世界史のなかで初めて分かる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	イスラーム都市	世界で最も先進的な文明	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	イスラーム都市	活発な経済と快適な生活の両立	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	イスラーム都市	都市文明と相性の良い宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	イスラーム都市	ヨーロッパはイスラームに学んだ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	中国都市	「同じことばかりくり返している」というウソ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	中国都市	1000年前の大転換	同上の課題に加えて小レポート。
10	中国都市	現代を先取りした流通と消費	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	中国都市	エンターテインメント産業や外食産業も出現	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さい	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	ヨーロッパ都市	農業中心の経済と政治的な分裂のなかで	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目

特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

暗記は必要ない。テストは持ち込み可。具体的には以下3点で評価。①定期試験（40点）、②小レポート（30点）、③レスポンスペーパー（30点＋α）。①～③すべてに共通する評価基準は、具体的に書けているかどうか。減点主義はとらないので、積極的に書いてマイナスになることは絶対ない。ただし、消極的に受講してプラス評価されることも絶対にない。例えば出席点はいっさいない。

学生へのメッセージ

一方通行にならない授業、集中しやすい授業を心がけています。レスポンス・ペーパー、小レポート、そして試験答案を書いてもらいますが、「やることが多い」などとネガティヴに考えず、「単位取得のチャンスが多い」とポジティヴに捉えることをお勧めします。それにものごとを説明したり、説得的な文章を作成する経験と能力は、他のあらゆる学問にも、さらに大学卒業後の長い人生にも欠かせません。積極的に取り組んで、「単位以上のもの」を得てほしいと思います。

担当者の研究室等

7号館2階　非常勤講師室

備考

【教職科目】教科に関する科目（中学校　社会）
【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史
【履修区分】必修

キャリア形成科目

科目名	エンプロイメントデザインⅠ	科目名（英文）	Employment design Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマに沿って本学の教職員から多様な生き方を聴く。大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみること、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。
科目学習の効果（資格）	大学生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかかわることについて考える契機となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義を振り返る
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活を充実させる方法～（担当：教務課 係長 古屋豊吾）	大学生活で熱中できるものをみつけ、粘り強く取り組めば、働くことも怖くない！　みなさんと同じ摂大生としてラグビー部で身に付けた力を社会で活かせた経験をもとにお話しします。	・講義を振り返る
3	学生生活② 成功曲線を描くために！ ～諦めないコツ教えます～ （担当：入試部　田中恵三　）	学生時代の経験を活かして、いかに自分自身の力を養 えるか。目標達成へのプロセスとそれが将来の自分にどのように繋がるか。自身の経験と現在を合わせて伝えます。	・講義を振り返る
4	学生生活③ 講義の中間まとめ（担当：キャリア教育推進室講師　富岡直美）	・第2回、3回までの講義のまとめ ・レポートの書き方	・講義を振り返る
5	学修① 大学生活における学習への動機づけ（担当:経営学部 准教授 牧野幸志）	大学での学習における様々な動機づけについて考える 機会を提供する。大学の勉強とは？どこの席に座っている人が成績は良いのか？やる気はあるのか？など。また、どのように学習が大学では効率的かを心理学的に解説する。	・講義を振り返る ・第1回「学生生活」に関するレポート締切
6	学修② チャンスだらけの摂南大学-学生時代に飛躍する方法- （担当：経営学部　准教授 久保貞也	（1）摂南大学をうまく活かした先輩たち（事例紹介） （2）チャンスを失う典型的な学生（注意喚起） （3）摂大でチャンスを得る方法	・講義を振り返る
7	学修③ 基礎科学における大学院進学と研究職への道（担当：理工学部　講師　東武大）	本講義では基礎科学分野での大学院での研究の在り方、 及びポストドクター問題等研究職に就くまでの様々な現実について解説します。	・講義を振り返る
8	学修④ 講義の中間まとめ（担当　キャリア教育推進室　教授 石井三恵）	・第5回から7回までの講義のまとめ ・第1回「学生生活」レポートからの反省と第2回レポートに向けて	・講義を振り返る
9	キャリアパス① 法律とスポーツと将来の職（担当:法学部　准教授　石井信輝）	法とスポーツとの関係性は見出しにくいが、様々な関係性を 有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。	・講義を振り返る ・第2回「学修」に関するレポート締切
10	キャリアパス② グローバル人材ってどんな人？留学したらグローバル人材？英語ができたらグローバル人材？（国際交流センター　長谷川来夢）	グローバルに活躍する人が持っている能力とは何か。メキシコでの留学経験、国際交流センターでの業務を通して感じた「グローバル人材とは何か」という疑問について、みなさんと一緒に考えていきます。	・講義を振り返る
11	見えないものを見にいこう ～山登りとダイビングが教えてくれた人生で大事なこと～ （担当:就職部 部長 伊藤勝彦/キャリア教育推進室　講師 水野武）	山と海を趣味とする講師両名の経験談をもとに「人生に向き合う姿勢」や「社会人としての生き方」のヒントを探ります。	・講義を振り返る
12	キャリアパス④ 「私のキャリア」　キャリアアップを考える（担当：経済学部 教授　持永政人）	30 年間の民間企業でのキャリアアップ経験を披露することに よってキャリアアップとは何かを考えてもらう。パワーポイントによる講義形	・講義を振り返る

			式で行います。	
	13	キャリアパス⑤ 自分の履歴を残す（担当：キャリア教育推進室　水野武）	自分の取り組んでいる事柄と結果に関してしっかりと『履歴を残す』ことの大事さを学ぶ。	・講義を振り返る
	14	キャリアパス⑥ 私（藤林）の失敗談と、健康保持促進の秘訣　（担当：スポーツ振興センター保健体育教室　講師　藤林真美）	前半は、担当教員のこれまでの人生における数々の失敗のお話しをします。何かを　学んでください。キャリアパスの基本条件はまず、心身共に健康であること！ 授業後半では、健康を保持増進するための秘訣をお話します。	・講義を振り返る
	15	講義のまとめ（担当：キャリア教育推進室　講師　水野武）	・キャリアパスを中心としたエンプロイメントデザインⅠの振り返り ・まとめのワークシート ・まとめのレポート書き方指導	・講義を振り返る ・講義のまとめのレポート

関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回のミニッツペーパー（30%）、レポート３回（60%）、まとめワークシート（10%）を総合的に判断する。
学生へのメッセージ	学生生活４年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の研究室等	７号館５階（石井） ７号館３階（富岡・水野）
備考	教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名（英文）	Employment design II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 また、さまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養を目的とする。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となり、社会人としての真摯な態度での話の聴き方やメモを取り、積極的に質問をする習慣を身に付ける。
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション（キャリア教育推進室）	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点（特に聴く態度）について	・講義の感想を提出
2	今から養う社会人に必要な「考える＝生み出す力」（摂南 OB/小売・アパレル）	社会人 4 年目現在で直面した体験談を基に「考える＝生み出す力」の必要性を具体例と共に皆様と共 有します。	・講義の感想を提出
3	警察官の仕事-なくてはならない正義を守る仕事（警察官）	警察官の仕事を体験談や映像を 交えて説明します。	・講義の感想を提出
4	スタープログラマーになれなかった男が NPO 法人を設立 するまで（摂大 OB/NPO 法人代表）	理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリアアップをお話します。	・講義の感想を提出
5	衣料業界の概要と繊維専門商社について。ビジネスとは何か？ （商社　営業）	1. ファッション業界・繊維商社業界概要 2. ビジネス感覚を養うために必要なことって何だろう？ 3. さて、新しい可能性を考えよう！ 4. その時、何を考え行動するか？（まとめ）	・講義の感想を提出
6	企業人の私が経験した摂大ＯＢとしての歩み方（摂南大学 OB・メーカー／営業管理職）	キャリアデザインへのアプローチ方法の観点から、先輩、同期、後輩のユニークなキャリアを紹介しつつ、在学中に人とのつながりを多く持ち、卒業後も自信を持って摂南大学卒ＯＢといえる人物であってほしい願いを込めてお話しします。	・講義の感想を提出
7	転職 5 回で鍛えられたつなげる力:正解の無い時代だからやってこれた（広告企画・制作/経営者）	納得解を導く要素（ディベート力・プレゼン力・コミュニケーション力）を意識して働いてきた経験から身に付けた「つなげる力」について解説します。また広告制作の仕事を紹介します。	・講義の感想を提出
8	新卒での就職活動で全てが決まる！？（摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務）	・講義の中間まとめ ・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなど を実体験を交えてお話しします。	・講義の感想を提出 ・中間レポート
9	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ（IT/役員）	現役のビジネスパーソンが日々実践している 「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・中間レポートを提出 ・講義の感想を提出
10	「先人（企業家）に学ぶ　～仕事への心構え」（商工会議所 /管理職）	企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します	・講義の感想を提出
11	高校教師の仕事（摂大 OB/高校教員）	高校の教師の仕事についてお話します。	・講義の感想を提出
12	「仕事のやりがい、生きがいを見出すために（民間企業と国家公務員の仕事を経験して）」（摂南大学 OB・公務員）	摂南大学（薬）一期卒業生として民間企業と国家公務 員で 26 年間勤務してきた経験を通して、仕事のやりがい、生きがいをどのように見出していけば良いのかをお話します。	・講義の感想を提出
13	成りあがり（摂南大学 OB・経営者）	摂南大学卒業後新卒で入社し、平社員が社長に成る までの道のりを、経験談をもとにお話します。	・講義の感想を提出
14	今求められる公務員像（摂南大学ＯＢ／市役所職員）	安定・厚遇という言葉だけが独り歩きする職業としての 公務員。経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・講義の感想を提出
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ	・最終レポートを提出

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">・まとめのワークシート</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="3">キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="3"><table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="3"><table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td colspan="3">毎回の感想（30%）、レポート２回（60%）、まとめワークシート（10%）を総合的に判断する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td colspan="3">講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td colspan="3">教務部　キャリア教育推進室（7 号館 5 階/石井、7 号館 3 階/富岡・水野）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">講師・内容は都合により変更することもある。
教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。
参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。</td></tr>
</table>

科目名	キャリアプラン	科目名（英文）	Career Plan
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	石井　三恵.水野　武.安久　典宏.富岡　直美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義は、就職部主催の「就職ガイダンス」と連携した講義になっており、就職活動に関する知識と実践技法も学ぶことができる。 学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考える。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の事を他者に伝えられるようになることを目標とする。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	就職部主催の全４回の「就職ガイダンス」と連携した講義であり、全 23 回の変則的な講義になっているため、実施日に注意を払うこと。
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	４月 10 日　オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説	シラバスを熟読すること。
2	４月 24 日　自分を知る①	・現時点での自分の長所を知り、卒業後の社会への活かし方を考える	自分の長所を考えること。
3	５月８日　自分を知る②	・自己 PR の事例を基に自分の自分の長所と活かし方を見直す	自分の活かし方を考えること。
4	５月 22 日　社会を知る①	就職ガイダンス① ・卒業後の進路、　就職環境の現状 ・正社員とフリーター ・就活に向けての準備と就職部の利用	配布資料を熟読すること。
5	６月５日　社会を知る②	社会人の常識 ・身だしなみ/姿勢、挨拶/発声、お辞儀等の基本的なマナーを知る ・時事/一般常識の重要性を知る	講義で身につけたマナーを実践すること。
6	６月 12 日　社会を知る③	・ビジネス研究の着眼点を学ぶ	新聞の経済・社会面に目を通す習慣をつけること。
7	６月 19 日　社会を知る④	就職ガイダンス② ・国内の会社数、　大企業と中小企業、　業種と職種 ・業界研究・企業研究のツール/ポイント	配布資料を熟読すること。
8	６月 26 日　選択肢を発見する	・一般消費者にはとっては知名度が高くないが活躍している企業があることを知る	興味のある会社を研究すること。
9	７月３日　自分を知る③	・学生生活での経験を振り返る ・自分が大事にしている事は何かを考える ・自分の特性を社会にどう活かすかを考える	自分の学生生活を振り返ること。
10	７月 10 日　自分の事を伝える①	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する ・実際に自己 PR を書いてみる	エントリーシート作成のポイントを復習すること。
11	７月 17 日　自分を知る④	・「学生時代に力を入れてきたこと」の事例を基に自分の学生生活の振り返り、夏休みを使って何にチャレンジするのかを考える ・前期の振り返り	夏休みの目標を立てること。 夏休み明けにある時事・一般常識の問題に目を通しておく計画を立て、実行に移すこと。
12	９月 18 日　後期のオリエンテーション	・後期のオリエンテーション ・夏休みの振り返り	夏休みを振り返ること。
13	９月 25 日　自分の事を伝える②	・エントリーシートや履歴書を書くために自分取材（夏休み後にどう変わったのかをチェックする） ・実際にエントリーシートの設問「学生時代に力を入れたこと」を記述する ・難問奇問、少し変わった問題も紹介	就職活動に向けての計画を立てること。
14	10 月２日　自分の事を伝える③	就職ガイダンス③ ・エントリー方法　・摂大指定の履歴書/自己紹介書の書き方	自己 PR を 400 文字程度提出することを前提に書く。
15	10 月６日　グループでのコミュニケーション①	クラスを分割してグループディスカッション① ・GD とは何か、何を見られているか等を知る	課題提出（自己 PR・学生時代に力を入れたことをそれぞれ 400 文字で書いて提出、提出先の指示あり）。
16	10 月 23 日　グループでのコミュニケーション②	クラスを分割してグループディスカッション②	次回に向けての改善案を考えること。
17	11 月６日　グループでのコミュニケーション③	クラスを分割してグループディスカッション③	集団の中でのコミュニケーションについて復習すること。
18	11 月 13 日　仕事研究と志望動機	・企業研究のポイント ・「共感と提案」を考える ・聴き手に共感される志望動機の組み立て方を学ぶ	現時点での志望企業向けの志望動機を書いてみること。 模擬面接の準備をしておくこと。
19	11 月 20 日　面接における対人コミュニケーション①	・面接における対人コミュニケーションについて考える	仕事研究レポートの提出。 模擬面接の準備をしておくこと。
20	11 月 27 日　面接における対人コミュニケーション②	・クラスを分割して模擬面接を実施する	模擬面接の準備をしておくこと。
21	12 月４日　面接における対人コミュニケーション③	・クラスを分割して模擬面接を実施する	模擬面接の準備をしておくこと。
22	12 月 11 日　面接における対人コミュニケーション④	就職ガイダンス④ ・面接の種類と流れ ・面接のポイント、マナー	配布資料を熟読すること。

			・学内求人システム	
	23	12 月 18 日　成果を上げるための行動計画	・行動計画を立案する ・学生の行動事例の紹介 ・講義の振り返り	卒業までの行動計画を立てること.
	24	−	−	−
	25	−	−	−
	26	−	−	−
	27	−	−	−
	28	−	−	−
	29	−	−	−
	30	−	−	−

関連科目	インターンシップⅠ・Ⅱ、キャリアデザインⅠ・Ⅱ、ビジネスマナーⅠ、就職実践基礎、コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	講義での提出物（（30%）、期末レポート（40%）、授業への参加度（30%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	皆さんの将来のことを一緒に考えましょう。
担当者の研究室等	７号館５階　石井研究室 就職部
備考	

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名（英文）	Development of Communication Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松田　剛典
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（言語、一般常識）について学びながら、社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの４技能は社会で必要なスキルですが、すぐに身に付くことはできません。この授業では毎回、話す、聴く練習をしながら、就職活動で必要な一般常識や言語の知識について学びます。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンを練習する機会はあまりありません。講座を通して社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。
到達目標	
授業方法と留意点	一般常識、言語に関しては毎回小テストで自分の理解を確認しながら、言語の基礎を学びます。 また、授業を通してコミュニケーションスキルを養います。 グループワークや読み書きの体験を中心にした実践型の授業ですので、積極的な姿勢で参加してください。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な言語の知識とコミュニケーション能力を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは？	コミュニケーションとは？ なぜ、コミュニケーションが必要なのか？	シラバス熟読
2	聞く技術、話す技術	聞く技術、話す技術について基本的な方法を学びます。	前週に配布する”２語の関係①”をしっかりと復習してきてください。
3	企業について知る（時事）	就職サイトの求人情報を参考に、企業の情報や仕事内容の見方を知り、時事との関連を考えます。	前週に配布する”２語の関係②”をしっかりと復習してきてください。
4	グループディスカッション基礎	グループディスカッションの上手な進め方、役割を知ります。また、実際に体験します。	前週に配布する”語句の用法①”をしっかりと復習してきてください。
5	ビジネスと経済＋GD 体験①	企業のお金の流れと、経済の仕組みについて学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
6	ビジネスと法律＋GD 体験②	企業活動と法律について学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
7	長文読解と書く技術	ロジカルシンキングや論理的な文章を書ける議寿を学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
8	グループディスカッション発展①	就職活動等で頻出される、アイデアを出すタイプのグループディスカッションを体験します。	中間レポートを提出します。 前週に配布する”長文問題”をしっかりと復習してきてください。
9	グループディスカッション発展②	就職活動等で頻出される、ディベートタイプのグループディスカッションを体験します。	前週に配布する”長文問題”をしっかりと復習してきてください。
10	プレゼンテーションについて	人前で上手に話す技術や聞き取りやすく分かりやすいプレゼンについて学びます。	前週に配布する”時事”をしっかりと復習してきてください。
11	敬語とマナー①	社会に出るための最低限のマナーや態度について学びます。	前週に配布する”敬語”をしっかりと復習してきてください。
12	敬語とマナー②	メールの書き方、電話対応など基本的なマナーと履歴書の書き方を学びます。	前週に配布する”敬語”をしっかりと復習してきてください。
13	面接演習①	グループ面接を体験します。	面接の準備をしっかりとしてきてください。
14	面接演習②	グループ面接を体験します。	レポートを提出があります。
15	講義の振り返り	言語・一般常識確認テスト レポート振り返り	全ての範囲を事前に勉強しておいてください。

関連科目	キャリアデザインⅡ,数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点４割　授業内レポート＆テスト６割（中間と最終レポート）で評価します。
学生へのメッセージ	３年生の後半からは始まる進路選択に向けて実践的なコミュニケーションを体験しながら、筆記試験で出際される言語分野や一般常識について学びます。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	亀田　峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多いですし、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	速度算の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	算数・数学の文章題⑤	場合の数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学①	集合問題・領域問題	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	推理問題①	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題②	講義で取り扱った問題の復習
14	復習	復習	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	岩﨑　飛鳥
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多いですし、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	速度算の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	算数・数学の文章題⑤	場合の数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学①	集合問題・領域問題	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	推理問題①	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題②	講義で取り扱った問題の復習
14	復習	復習	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　朗子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多いですし、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	速度算の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	算数・数学の文章題⑤	場合の数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学①	集合問題・領域問題	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	推理問題①	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題②	講義で取り扱った問題の復習
14	復習	復習	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西座　由紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多いですし、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	速度算の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	算数・数学の文章題⑤	場合の数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学①	集合問題・領域問題	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	推理問題①	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題②	講義で取り扱った問題の復習
14	復習	復習	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上島　誠司
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	―――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＤＥＦ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	髙嶋　藍
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	―――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【　レポート　】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大石　真由香
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	―――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	上島　誠司
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＤＥＦ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	髙嶋　藍
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大石　真由香
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	ビジネスマナーⅠ	科目名（英文）	Business Manners Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	富岡　直美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

目的：　社会人としてふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。

授業概要：　ビジネスの現場で顧客、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するために必要となるの基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標

【自分を客観視する力】
1）自分を客観視することの必要性を説明できる。
2）自分をとりまく環境と自己の関係を認識して行動を選択する。
3）自分の考えをまとめて伝える。

【コミュニケーション】
1）言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。
2）意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。
3）相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。
4）対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

【チームワーク】
1）チームワークの重要性を例示して説明できる。
2）チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。
3）自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。

授業方法と留意点

グループワーク、ケーススタディ、ロールプレイなどを取り入れます。
授業の参加者として、積極的に授業に参加してください。

科目学習の効果（資格）

社会人になるための目標を見つけ、自信をもってそれに向かってください。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ビジネスマナーの必要性	授業オリエンテーション 社会人として仕事をするということ 組織の仕組み	受講目的が言えるようにしておいてください。
2	第一印象	第一印象の重要性 第一印象をよくする方法	第一印象コントロールの実践とレポート
3	身だしなみと態度	社会人に必要な身だしなみ あいさつ，姿勢，表情	敬語確認テスト
4	言葉づかいの基本	言語コミュニケーションにおける心得 敬語の特徴と，基本の使い方を知る 敬語の仕組みと使い方	敬語の応用問題
5	言葉づかいの応用	複雑な関係性を意識した敬語の使い方	ビジネスマナーの知識に関する常識問題
6	指示の受け方	仕事の事例を用いたケーススタディ 組織の仕組み 指示の受け方 ホウレンソウの重要性 ビジネス文書の書き方	企業，組織に関する一般常識
7	優先順位、スケジューリング	優先順位の立て方 スケジューリングの方法	自分のスケジュールを立てる
8	電話のマナー	電話のかけ方，受け方 電話応対の事例をもちいた実践練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題
9	電子メール	電子メールの書き方と注意点 事例のメールでの対応ケースを用いた練習	実際にメールを送る
10	ビジネス文書	社外文書の基本、社外文書と社交文書 事例の文書での対応ケースを用いた練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題
11	ホウレンソウ	報告・連絡・相談の仕方	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題
12	訪問	会社訪問事例を用いて訪問の仕方を考える アポイントメントの取り方、訪問準備、席次、名刺交換、事後処理など	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題
13	接遇	受付、案内、お茶出し、見送りなど	レポート課題
14	情報の取り扱い	ファイリング 環境整備 情報共有の重要性 コンプライアンス	未提出のレポート等がないか確認をして下さい。
15	振り返りとまとめ	授業の振り返り まとめ	レポート課題の提出

関連科目

キャリアデザイン、インターンシップ、エンプロイメントデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	提出物・授業態度 40 点、レポート 20 点、期末テスト 40 点で総合評価する。100 点満点中 60 点以上で合格。			
学生への メッセージ	マナーを身に付けることは社会人に仲間入りする第一歩です。何のためにそれをするのかを考え、積極的に参加してください。 また、必要になってすぐできるものではありません。日頃から実践するように意識してください。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス　7 号館 3 階　キャリア教育推進室　富岡直美			
備考				

科目名	ビジネスマナーⅡ	科目名（英文）	Business Manners II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

目的：　社会人としてふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。

授業概要：　ビジネスの現場で顧客、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するために必要となるの基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標

【自分を客観視する力】
1）自分を客観視することの必要性を説明できる。
2）自分をとりまく環境と自己の関係を認識して行動を選択する。
3）自分の考えをまとめて伝える。

【コミュニケーション】
1）言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。
2）意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。
3）相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。
4）対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

【チームワーク】
1）チームワークの重要性を例示して説明できる。
2）チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。
3）自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。

授業方法と留意点

グループワーク、ケーススタディ、ロールプレイなどを取り入れます。
授業の参加者として、積極的に授業に参加してください。

科目学習の効果（資格）

社会人になるための目標を見つけ、自信をもってそれに向かってください。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ビジネスマナーの必要性	授業オリエンテーション 社会人として仕事をするということ 組織の仕組み	受講目的が言えるようにしておいてください。
2	第一印象	第一印象の重要性 第一印象をよくする方法	第一印象コントロールの実践とレポート
3	身だしなみと態度	社会人に必要な身だしなみ あいさつ，姿勢，表情	敬語確認テスト
4	言葉づかいの基本	言語コミュニケーションにおける心得 敬語の特徴と，基本の使い方を知る 敬語の仕組みと使い方	敬語の応用問題
5	言葉づかいの応用	複雑な関係性を意識した敬語の使い方	ビジネスマナーの知識に関する常識問題
6	指示の受け方	仕事の事例を用いたケーススタディ 組織の仕組み 指示の受け方 ホウレンソウの重要性 ビジネス文書の書き方	企業，組織に関する一般常識
7	優先順位、スケジューリング	優先順位の立て方 スケジューリングの方法	自分のスケジュールを立てる
8	電話のマナー	電話のかけ方，受け方 電話応対の事例をもちいた実践練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題
9	電子メール	電子メールの書き方と注意点 事例のメールでの対応ケースを用いた練習	実際にメールを送る
10	ビジネス文書	社外文書の基本、社外文書と社交文書 事例の文書での対応ケースを用いた練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題
11	ホウレンソウ	報告・連絡・相談の仕方	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題
12	訪問	会社訪問事例を用いて訪問の仕方を考える アポイントメントの取り方、訪問準備、席次、名刺交換、事後処理など	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題
13	接遇	受付、案内、お茶出し、見送りなど	レポート課題
14	情報の取り扱い	ファイリング 環境整備 情報共有の重要性 コンプライアンス	未提出のレポート等がないか確認をして下さい。
15	振り返りとまとめ	授業の振り返り まとめ	レポート課題の提出

関連科目

キャリアデザイン、インターンシップ、エンプロイメントデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	提出物・授業態度 40 点、レポート 20 点、期末テスト 40 点で総合評価する。100 点満点中 60 点以上で合格。			
学生への メッセージ	マナーを身に付けることは社会人に仲間入りする第一歩です。何のためにそれをするのかを考え、積極的に参加してください。 また、必要になってすぐできるものではありません。日頃から実践するように意識してください。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス　7 号館 3 階　キャリア教育推進室　富岡直美			
備考				

教　職　科　目

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・教育課程の意義及び編成の方法　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	（1）教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 （2）わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 （1）学校教育における教育課程の意義について理解できる。 （2）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画でき、かつ、実践できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進めるが、そのほとんどは学生主体の発表（プレゼンテーション）を行うなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を複数概観しておくことが望ましい。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後（経験主義～系統主義：高度経済成長期）の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当する部分と授業（第1回目）で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当する部分と授業（第1回目）で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当する分を読んでおくこと。
5	教育評価	発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	『総合的な学習の時間』について	・導入の背景とそのねらいについて（学生グループによる発表を予定）	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	学校化された社会	「隠れたカリキュラム」について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程　その１	「キャリア教育」について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程　その２	「人権教育／平和教育」について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程　その３	「シティズンシップ」教育について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革　その１	特色のある学校づくり＝小中編（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革　その２	特色のある学校づくり＝高校編（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差　その１	学力格差と学力低下問題について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差　その２	教育格差に抗する学校の取り組みについて（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向と国内の問題について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣アルマ
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験、レポート及び授業態度や授業への貢献度（発表を含む）など総合的に評価を行う。特に、試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習を怠らないこと。また、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること（全回出席すること。）。
学生へのメッセージ	第一回目欠席者に対しては別途課題を課すので担当者（大野）に直接問い合わせること。問い合わせのない場合、成績評価から外すことがあるので注意すること。 教職科目の特質をよく理解し、実践的理解を深めることが大切である。そのため、各自の中学校・高等学校での体験をふりかえり、学ぶことの視点に立った、計画的学習を考えること。また「教育実習」を視野に入れた授業計画を考えることが重要。
担当者の研究室等	７号館３階(大野順子研究室)

備考	2009 年度以前入学生は、（高校）教免取得上選択

科目名	教育経営論	科目名（英文）	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事例を参照し、そこから政策や法制、機構、理論や論争、現実や実態を明らかにし、検討していきます。これを通して、私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのしくみやはたらきについて理解します。
到達目標	例えば「何をどう教えるのか」という内容的・技術的な事柄も実はさまざまな制度やその運用のし方などによって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をするほか、掲示版機能を使用しディスカッションもします。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD、「未来ポートフォリオ」の使用について説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	「未来ポートフォリオ」のリマインダを設定しておく。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」 教育権論争について簡単なグループワーク	テキスト第３章１節を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育の制度原理 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第３章２節を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第７章１・２節を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合 「選抜・選別」について簡単なグループワーク	テキスト第３章３節を読んでくる。 学校の機能に関する配布資料を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第７章２・３節を読んでくる。 学校統廃合に関する配布資料を読んでくる。
7	学校の組織管理	教職員配置と組織編制	テキスト第４章１・２節を読んでくる。
8	学校経営の新しい動向	「開かれた学校」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 地域運営学校について簡単なグループワーク	テキスト第４章３・４節を読んでくる。 コミュニティスクールまたは学校参加に関する配布資料を読んでくる。
9	教育課程経営	学習指導要領の性質と特徴の変遷 学力論争と教育評価論 学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第１０章１・２節を読んでくる。 学力低下論争に関する配布資料を読んでくる。
10	教科書制度と指導行政	教科書検定 教科書採択 制度をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第１０章３・４節を読んでくる。 教科書検定または教科書採択制度に関する配布資料を読んでくる。
11	社会教育行政	社会教育と生涯学習 社会教育の理念と展開	テキスト第８章１・２節を読んでくる。
12	生涯学習社会への移行と生涯学習振興	社会教育行政の運営原則 社会教育の諸制度 社会教育不要論をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第８章３・４節を読んでくる。 社会教育不要論に関する配布資料を読んでくる。
13	教育行政のはたらきと地方教育行政組織	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク	テキスト第２章１節を読んでくる。 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読んでくる。
14	国の教育行政と地方との関係	国の教育行政を動かす組織のしくみとはたらき 教育行政関係の新しい動向	テキスト第２章２・３節を読んでくる。
15	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第６章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育行政学　改訂版	勝野正章・藤本典裕編	学文社
2			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td>適宜指示します。</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	定期試験 60%、レポート内容 30%、受講に係る積極的態度 10%の割合で総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合は成績評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしておきましょう。

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　裕樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	「そもそも、「教育」とはいったい何なのだろう」、このような問いを立てたことはありませんか。例えば、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか」。「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか」。「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてもう一度丁寧に考え直してみることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようにします。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭1種免許状　（2）中学校教諭1種免許状の取得　（3）学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、もう一度「野生児」は教育されるべきであったかについて、改めて考える。
4	教育をめぐる諸論理①：「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論理②：「子ども」観の歴史的変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史的変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	自分の「子ども」一般に対するイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、もう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
6	教育をめぐる諸論理③：「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」（あるいは「人間形成」）観の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の考え方の違いを、授業後にもう一度整理しておく。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	カント、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たなる展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。	「自分がどのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。		

	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	７号館３階(小山研究室)			
備考				

科目名	教育実習Ⅰ	科目名（英文）	Teaching Practice Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育実習　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	（１）教育実習校における実習（教育実習ⅡまたはⅢ）に必要な教育実践の基本を理解し、教科指導、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、授業が効果的に展開できるようにする。（２）教育実習の実際についての情報を提供する。また、受講者は課題の報告・発表を行う。これらに基づき討議する。（３）教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについての理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容を理解し、充分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	演習形式で行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育実習」５単位あるいは３単位のうち１単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習の意義	教育実習の目的と意義、免許制度の概要について	授業時に指示する
2	教育実習の内容と形態等	事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
3	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業と授業研究、評価の観点について	授業時に指示する
5	授業の方法と技術	学習指導と教材研究について	授業時に指示する
6	学習指導案の作成（１）	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案の作成、板書計画	授業時に指示する
7	学習指導案の作成（２）	学級（ホームルーム）活動等の指導案について。授業の評価とその観点	授業時に指示する
8	授業分析	授業分析の意義と方法について	授業時に指示する
9	模擬授業（１）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
10	模擬授業（２）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業（３）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業（４）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
14	特別支援教育の現状と課題	障害の種類と配慮事項、障害児理解と交流教育について	授業時に指示する
15	まとめ	―――――	―――――

関連科目	これまで学んだすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題の提出状況とその内容、模擬授業、期末レポート等によって総合評価を行う。
学生へのメッセージ	教育実習は、これまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるように、充分に準備してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	

科目名	教育実習Ⅱ	科目名（英文）	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育実習　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において２週間以上の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を行う。（２）大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。（３）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習特別個人指導（４月）	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること
2	教育実習事前指導（４月～５月）	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出
3	教育実習個人指導（４月～５月）	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出（必要な者のみ）
4	前期教育実習開始（５月～６月）	実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
5	教育実習体験発表会（６月～７月）	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
6	後期教育実習開始（９月～１０月）	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
7	教育実習体験発表会（１０月）	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
8	教育実習総括講義（１０月）	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出
9	教育実践指導（１月～３月）	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題
10	―――――	―――――	―――――
11	―――――	―――――	―――――
12	―――――	―――――	―――――
13	―――――	―――――	―――――
14	―――――	―――――	―――――
15	―――――	―――――	―――――
16	―――――	―――――	―――――
17	―――――	―――――	―――――
18	―――――	―――――	―――――
19	―――――	―――――	―――――
20	―――――	―――――	―――――
21	―――――	―――――	―――――
22	―――――	―――――	―――――
23	―――――	―――――	―――――
24	―――――	―――――	―――――
25	―――――	―――――	―――――
26	―――――	―――――	―――――
27	―――――	―――――	―――――
28	―――――	―――――	―――――
29	―――――	―――――	―――――
30	―――――	―――――	―――――

関連科目	教職関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生への	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館3階
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。

科目名	教育実習Ⅲ	科目名（英文）	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育実習　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において４週間以上の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を行う。（２）大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。（３）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習特別個人指導（４月）	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること
2	教育実習事前指導（４月～５月）	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出
3	教育実習個人指導（４月～５月）	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出（必要な者のみ）
4	前期教育実習開始（５月～６月）	実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
5	教育実習体験発表会（６月～７月）	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
6	後期教育実習開始（９月～１０月）	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
7	教育実習体験発表会（１０月）	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
8	教育実習総括講義（１０月）	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出
9	教育実践指導（１月～３月）	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題
10	―――――	―――――	―――――
11	―――――	―――――	―――――
12	―――――	―――――	―――――
13	―――――	―――――	―――――
14	―――――	―――――	―――――
15	―――――	―――――	―――――
16	―――――	―――――	―――――
17	―――――	―――――	―――――
18	―――――	―――――	―――――
19	―――――	―――――	―――――
20	―――――	―――――	―――――
21	―――――	―――――	―――――
22	―――――	―――――	―――――
23	―――――	―――――	―――――
24	―――――	―――――	―――――
25	―――――	―――――	―――――
26	―――――	―――――	―――――
27	―――――	―――――	―――――
28	―――――	―――――	―――――
29	―――――	―――――	―――――
30	―――――	―――――	―――――

関連科目	教職関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生への	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館3階
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教職実践演習　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習を基に、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員５名による全体指導と、各専任教員毎のグループ学習を中心に進める。１グループは 15～20 名。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねる中で、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く）　の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」のガイダンス	・科目の目的、内容方法についての確認 ・各自の教育実習後の課題についての確認 ・３回以降のグループ学習の各課題の確認	・教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について教科担当教員が指導。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野と実践上の課題について、教科担当教員が指導。その上で、研究交流する。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場を全体で参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場をグループ毎に参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないか。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、Ａ４サイズの用紙１?2 枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち	1990 年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、Ａ４サイズの用紙１?2 程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
10	教師の「自律性」、あるいは「市民」としての教師	皆さんは、教師という職業についた後、どのように生きていきたいだろうか。教師は、職業人としては教師であるが、同	（事前）自分は教師としてどのように生きていきたいかを考えてみる。 （事後）小レポートの提出。

			時に「人間」であり、「自律した市民」でもある。ここでは、こうした二重の生を送ることになる教師のあり方を、哲学的に考えていく。	
	11	「学び続ける教員像」再考	昨今、社会の急激な変化に伴い、知識・技能の絶えざる刷新が不可欠であることから、政府の側からも「学び続ける教員像の確立」が求められてきている。ここでは、教師が学び続けることの意味、さらには、学ぶこと一般の意味について、改めて考えていく。	（事前）自分にとって学ぶことの意味とは何かを考えてみる。 （事後）小レポートの提出。
	12	生活背景を視野に入れた生徒支援	貧困や虐待等、生活背景に課題のある生徒に対する支援のあり方について事例研究及びグループ討議を行う。	「子供の貧困対策に関する大綱」を一読しておくこと。授業後にミニレポートを課す。
	13	コミュニケーション能力のとらえ方とその育成	生徒間の相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する方策についての事例研究及びグループ討議を行う。	文部科学省コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」を一読しておくこと。授業後、ミニレポートを課す。
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応，保護者への対応に応用する。	（事前）カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を３つあげる。 （事後）小レポート
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り，そのための１方法としてのエゴグラム作成を行う。	（事前）「自分」について考える。 （事後）小レポート

関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科毎の必修科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループ学習が中心であり，それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。その中で、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 朝日素明、大野順子、小山裕樹、林茂樹、吉田佐治子
備考	

科目名	教育社会学	科目名（英文）	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部のみで対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。皆さんがこれまでの学校生活で直接経験してきた身近な教育問題から地域や国の政策レベルでの取り組み、そして海外における事例等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性を学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 １．教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 ２．現代社会における様々な教育問題について理解する。 ３．教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力が養える。 ４．様々な教育問題に対して、それぞれ意見を表現し、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
授業方法と留意点	講義形式を中心としますが、適時、受講生全員で講義で取り扱う教育問題についてどのように考えているかそれぞれ発表してもらい、問題解決に向け議論する手法を取り入れるなど、演習（ゼミ）方式を取り入れ、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。そこで、よりよい議論の時間を保証するためにも、毎時、取り扱うテーマに関する文献等を読み（事前配布かテキスト使用）、それを講義日までに要約してきてもらいます（毎回それを提出してもらうことになります。提出が不十分な学生は成績対象から外す。）。 ○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておいて下さい。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておいてください。また、履修する学生の皆さんには本講義用に１冊ノートを作成してもらいます。そのノートに上記、予習や新聞等の切り抜き等を貼り付けるなど利用して下さい（まとめかたは自由）。※ノートは提出してもらうこともあります。
科目学習の効果（資格）	（１）高等学校教諭１種免許状　　（２）中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション　教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：教科書の第１章、第２章の要約。
3	教師と子ども	「教師－生徒の関係性」という視点から学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：教科書の第３章、第４章の要約。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題（体罰等）が発生する背景や要因について考える。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
5	いじめ	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにする。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
6	不登校	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題：教科書の第７章の要約。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
9	国の教育政策：海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行う。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事後課題：教科書の第９章、及び事前に配布する論文資料を読み、要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：教科書の第10章の要約。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『〔教師教育テキストシリーズ５〕教育社会学』	久富善之・長谷川裕編	学文社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	出席・授業参加度、試験、課題・ノートにより総合的に評価（予定） ※欠席が 80%に満たない場合は成績評価の対象外とします。			
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、学校現場での活動経験（学習支援、授業支援、部活指導等内容は問わない無償・有償ボランティア活動）をしている（過去に長期間にわたり経験したことがある）ことが望ましい。活動経験のない者、現在、学校等において活動していない者は活動することを義務づけることがあるのでよく考えて履修することを決めること。			
担当者の 研究室等	７号館３階(大野順子研究室)			
備考				

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいのか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」６単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	＿＿＿＿＿
2	教育を支える認知機能１	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第８章、第９章を読む
3	教育を支える認知機能２	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第７章の１、第８章、第９章を読む
4	教育を支える認知機能３	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第９章の２、第11章を読む
5	教育を支える認知機能４	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能５	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第４章、第５章を読む
7	教育を支える認知機能６	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第４章、第５章を読む
8	こどもの学び１	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第１章を読む
9	こどもの学び２	様々な学習(2)……道具的条件付け、観察学習	テキスト第１章を読む
10	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第２章、第３章を読む
11	学習を支える動機づけ２	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第２章、第３章を読む
12	学習を支える動機づけ３	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第２章、第３章を読む
13	学習を支える動機づけ４	学習意欲を育むために ……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第０章の２、第２章、第３章を読む
14	個に応じた教育１	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第０章の３，第６章を読む
15	個に応じた教育２	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目	心理学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論、理論を実践―	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト30%　期末試験70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	

科目名	教育相談	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える.
到達目標	教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	――――――
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第１章、第２章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	――――――
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第 12 章、第 13 章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動１	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動２	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	――――――
8	問題の理解と対応１	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第３章を読む
9	問題の理解と対応２	ストレス、欲求不満，葛藤	テキスト第３章、第４章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際１	不登校……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第５章を読む
12	相談援助活動の実際２	いじめ……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第６章を読む
13	相談援助活動の実際３	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第７章を読む
14	相談援助活動の実際４	反社会的行動……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第８章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために，教員への対応	テキスト第 14 章を読む

関連科目	教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学校教育相談	一丸藤太郎・菅野信夫	ミネルヴァ書房
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ発表 50%　期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　茂樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	(1) 自己の被教育体験を出発点に、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を経て、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。 (2) 生徒の生活背景を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しつつ、教室を学びの場に変えていくことをめざす授業を構想、構成する。 (3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師の専門性を向上させることだけでなく、相互に学び合うことを可能にする同僚性を構築すること、及び教育学研究の新しい知見を摂取し続けることが重要であることを理解する。
到達目標	(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、チーム内での協議を踏まえて指導案を改善することができる。 (2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる力を養う。
授業方法と留意点	講義が中心となるが、インタラクティブな授業となるよう努める。また、学習指導案の作成に向けて、個人ワーク、グループワーク、グループ討議を適宜織り交ぜる。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育方法の実践的探求にむけて	学習観・授業観・学校観の問い直し、教育方法学の学際的性格、多様な学びのあり方、学校教育における教師の役割	教科書第１章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
2	学校とは何か	学校観の変遷、教室の観察、授業の会話分析、なぜ勉強するのか、現代社会における学校の役割	教科書第２章及び配布プリントを読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
3	学習の再定義	学習の理論、新しい学力観、学びのメカニズム、学習の方法、客観主義的知識観と構成主義知識観	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
4	教室という空間	教師・生徒関係、授業のルール、授業のめあてと流れ、隠れたカリキュラム、生徒の生活背景・文化的背景を視野に入れる	第５章、第８章４以下をよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
5	カリキュラムの編成	学習指導要領と教育課程、カリキュラムの構造と類型、教科学習と総合的な学習、トラッキングと社会的再生産	教科書第３章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
6	情報化社会と教育	デジタル教材、ICT を活用した授業、情報活用能力の育成、情報リスクへの対応、校務事務処理の情報化	教科書第４章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
7	学習の組織化	学習のスタイル、教授のスタイル、教材とメディアの活用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
8	授業の設計	生徒の実態把握、目標の設定、授業方法の決定、指導案の作成、授業、評価活動	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
9	学力調査と学力の構造	学力低下論争、学力調査の実施、学力格差の拡大、キー・コンピテンシー	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
10	教育評価	教育測定、相対評価と絶対評価、診断的評価、形成的評価と総括的評価、指導と評価の一体化、授業評価アンケート	教科書第６章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
11	対話的･協同的な学びと学級づくり	学習意欲低下の背景、授業崩壊、不登校・高校中退、関係づくり、学び合い	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
12	教育思想の歴史と教育方法	コメニウスからエンゲストロームまで近代学校に影響を与えた教育思想を振り返る	教科書第８章３までを読んでおく。学習内容を整理する。
13	授業研究の現状と課題	公開授業・研究授業、授業観察、校内授業研究、校種間連携、キャリア・アップ	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
14	教員間の協力協働	課題意識と実践の共有、協同的同僚性、バーンアウト、教員文化・学校組織文化の変革	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
15	学び続ける教員像	教師のライフサイクル、情報技術の革新、反省的実践家、学びの専門家、各種研修	教科書第７章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。

関連科目：教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育の方法・技術	岩川直樹編	学文社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	子どもに向き合う授業づくり	生田孝至	図書文化
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験（50%）、レポート（30%）、コメントペーパー（20%）により総合的に評価する。
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の 研究室等	７号館３階(林研究室)
備考	

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教職の意義等に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・教職の意義及び教員の役割　・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）　・進路選択に資する各種機会の提供等　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これを基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 課題提示・レポート提出をするほか、掲示版機能を使用しディスカッションもします。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）・進路選択に資する各種の機会の提供等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要・「未来ポートフォリオ」の使用について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	「未来ポートフォリオのリマインダ設定」 本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	テキスト第１章
3	教師教育と教職の専門性（１）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	テキスト第１０章
4	教師教育と教職の専門性（２）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	テキスト第４章・第１２章
5	教師教育と教職の専門性（３）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	テキスト第３章
6	教師教育と教職の専門性（４）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料 テキスト第１１章
7	さまざまな教師像（１）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	テキスト第２章・終章
8	さまざまな教師像（２）	「不良教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像（３）	「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像（４）	「人間教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像（５）	「プロ教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務（１）	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第５章・第８章
13	教員の役割・職務（２）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第７章 教職員の構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務（３）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（４）	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	テキスト第９章

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版　教職論―「よい教師」への扉を開く―	佐島群巳・小池俊夫編	学文社
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1		適宜指示します。	
2			
3			

評価方法	定期試験を実施します。その他、レポートの内容、受講に係る積極的態度も成績判定の資料とします。

（基準）	
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしておきましょう。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Civic Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	本授業は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、意欲と責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な知識を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い授業実践力をつける。 （3）地授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力がつく。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践的・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果（資格）	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。 ※該当するテキスト部分の要約
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※該当するテキスト部分の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（3）	模擬授業の実践と指導（3）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（4）	模擬授業の実践と指導（4）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※該当するテキスト部分の要約
15	総括ー社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	出席（全 15 回出席することを目指すこと。成績評価については少なくとも 80%以上は必要）、レポート（レポート提出の締め切りは厳守すること）、平常点（授業への貢献度、模擬授業等）、及び、最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席とする。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　大野順子研究室
備考	授業計画は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	本授業は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、意欲と責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な知識を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い授業実践力をつける。 （3）地授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力がつく。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。 ※該当するテキスト部分の要約
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※該当するテキスト部分の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（3）	模擬授業の実践と指導（3）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（4）	模擬授業の実践と指導（4）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※該当するテキスト部分の要約
15	総括ー社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法１、社会科・公民科教育法２は連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	出席（全 15 回出席すること。成績評価については少なくとも 80%以上は必要）、レポート（レポート提出の締め切りは厳守すること）、平常点（授業への貢献度、模擬授業等）、及び、最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席とする。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　大野順子研究室
備考	授業計画は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	井上　正英
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	学習指導要領を元に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。全員が模擬授業を実践し将来の教員として必要な授業技術の向上を目指す。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中学・高校教員免許（社会科、地歴科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	学習指導要領歴史的分野の内容等の確認。	歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する
2	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	世界と日本の地理的分野での基礎的事項の確認	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する
3	各個人による模擬授業実践発表と批評　１	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
4	各個人による模擬授業実践発表と批評　２	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
5	各個人による模擬授業実践発表と批評　３	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
6	各個人による模擬授業実践発表と批評　４	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
7	各個人による模擬授業実践発表と批評　５	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
8	各個人による模擬授業実践発表と批評　６	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
9	各個人による模擬授業実践発表と批評　７	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
10	各個人による模擬授業実践発表と批評　８	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
11	各個人による模擬授業実践発表と批評　９	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
12	各個人による模擬授業実践発表と批評　１０	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
13	各個人による模擬授業実践発表と批評　１１	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
14	授業実践発表の年間総括　１	後期授業全体についての総括と反省点を討論する。	事前　全員の授業計画案を再度確認 事後　レポート作成、提出
15	授業実践発表の年間総括　２	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後　レポート作成、提出

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の研究室等	１１号館　１階　教務課
備考	

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Geography and History Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	井上　正英
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が果たすそれぞれの使命と責任を理解する。そのうえで具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、積極的な発言が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中学・高校教員免許（社会科、地歴科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前　既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。 事後　授業終了時に指示する。
2	近代学校教育制度の変遷と社会科教育　1	江戸末期から明治の学制の発布について学ぶ。	事前　江戸末期から明治期の教育問題について調べておく。 事後　授業終了時に指示する。
3	近代学校教育制度の変遷と社会科教育　2	明治期の教育制度の変遷ついて学ぶその1。	事前　明治期教育の大まかな変遷について調べておく。 事後　授業終了時に指示する。
4	近代学校教育制度の変遷と社会科教育　3	明治期の教育制度の変遷ついて学ぶその2。	事前　明治期教育の大まかな変遷について調べておく。 事後　授業終了時に指示する。
5	近代学校教育制度の変遷と社会科教育　4	大正自由教育から国民科の成立について学ぶ。	事前　大正期から昭和初期の教育について調べておく。 事後　授業終了時に指示する。
6	近代学校教育制度の変遷と社会科教育　5	戦時下教育から占領下での民主化、および社会科の成立までを学ぶ。	事前　戦時下教育から占領下での教育の変遷を調べておく 事後　授業終了時に指示する。
7	学習指導要領について　1	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前　中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後　授業終了時に指示する。
8	学習指導要領について　2	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前　中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後　授業終了時に指示する。
9	学習指導案の作成と活用を学ぶ　1	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前　学習指導案とは何かを調べておく。 事後　授業終了時に指示する。
10	学習指導案の作成と活用を学ぶ　2	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前　与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。 事後　授業終了時に指示する。
11	学習指導案のプレゼンテーション　1	グループ毎に同一テーマでの学習指導案を作成・発表し、問題点について討議する。	事前　グループ内で指導案を作成しておくこと。 事後　授業終了時に指示する。
12	学習指導案のプレゼンテーション　2	グループ毎に同一テーマでの学習指導案を作成・発表し、問題点について討議する。	事前　グループ内で指導案を作成しておくこと。 事後　授業終了時に指示する。
13	学習指導案のプレゼンテーション　3	グループ毎に同一テーマでの学習指導案を作成・発表し、問題点について討議する。	事前　グループ内で指導案を作成しておくこと。 事後　授業終了時に指示する。
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前　どのような授業記録方法があるかを考えておく。 事後　授業終了時に指示する。
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前　評価方法の種類について考えておく。 事後　評価は自己の教育技術の反映であることを考える。

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。

担当者の 研究室等	１１号館　１階　教務課
備考	

科目名	商業科教育法	科目名（英文）	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	河合　隆廣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	教育は、その時代の政治や経済に大きく左右される。本講義は『国際経済と我が国教育の変遷』をテーマとして、戦後の我が国の教育と国際社会の変化を歴史的に分析することにより、今回の学習指導要領の改訂に際し、どのような教育をめざしていくべきかを考察します。 前半は「不易流行」の「流行」の面に重点を置き、後半は「不易」の面に重点を置き、大局的な観点から教育の意義・在り方を追究し、現代社会にどのような教育が必要であるか、教育者としてどのような姿勢で教育に臨むべきかについて考察します。
到達目標	グローバル化が進む不透明な時代において、商業科教員として、時代の変化に対応するとともに、普遍の真理を追究する資質と能力を育成することを目標とします。 学習の成果として、高校の日本史や世界史で学ぶ機会の少ない「戦後の国際社会や日本の政治・経済」についての知識が広がり、現代の国際社会の政治や経済の動向を分析する力を身に付けることができます。 必ず、自己の新しい発見があります。 この授業で習得・向上できる社会で役に立つ能力 ①人間関係を形成する力　②問題を発見し解決する力　③教育の意義を理解する力
授業方法と留意点	一方的な教授法ではなく、経済、政治、教育などの理解を深めるために丁寧な解説を行い、学生の意見を尊重するとともに学生の疑問に的確に答え、調査研究成果を発表させるなどの対話型授業を行います。
科目学習の効果（資格）	「商業教育」は、教師と生徒とのかかわりが深く、大学で学んだ専門科目をそのまま活かせる魅力があります。 「公民」との“複数教科の教職員免許”を取得することは、自身の知識の幅が広がります。一方、教員採用側にとっても高く評価する要素となります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	(1)教育の意義と商業教育の魅力 (2)政治と経済の混乱と民主国家の創造	(1) 教育の意義と商業教育の魅力について考察する。 (2) 戦後初の学習指導要領の施行と民主主義教育導入の意義を考察する。	教職をめざす理由と心構えについて、レポート作成・発表をさせる。 日本国憲法における民主主義教育の意義について研究させる。
2	日本初の学習指導要領の教育理念（昭和 23 年）	デューイの経験主義的教授理論について学習し、「課題解決学習」が学習指導要領に活かされていることを考察する。	〔事前学習〕アメリカ教育使節団が日本の教育に与えた影響について研究させる。
3	国際社会の二極化と日本への影響	国際社会の二極化（資本主義と社会主義）が経済の復興をもたらした要因について考察する。	〔事前学習〕ブレトンウッズ体制とマーシャルプラン、中華人民共和国の樹立について研究させる。
4	東西冷戦と日本経済の復興	国際社会の二極化が日本の政治、経済、国民生活に及ぼした影響について考察する。	〔事前学習〕ＧＨＱの占領政策転換、朝鮮特需について研究させる。
5	経済復興期の学習指導要領と商業教育（昭和 25 年）	経済復興期の学習指導要領と商業教育への期待について考察する。	〔事前学習〕経済復興期に望まれた教育について研究させる。
6	日本の独立と高度経済成長	日本の独立と高度経済成長初期（神武景気）に向かう社会的背景について考察する。	〔事前学習〕高度経済成長初期に望まれた教育について研究させる。
7	高度経済成長初期の学習指導要領と商業教育（昭和 31 年）	試案から国家主導の教育に転換した社会的背景について考察する。	〔事前学習〕教育経験主義的学習と知識重視の教育との違いについて研究させる。
8	高度経済成長中期の日本経済と社会的背景	高度経済成長中期（岩戸景気）における技術革新と国民生活などの社会的背景について考察する。	〔事前学習〕高度経済成長中期の学習指導要領と商業教育について研究させる。
9	高度経済成長中期の学習指導要領と商業教育（昭和 35 年）	高度経済成長中期（昭和 35 年）の学習指導要領と商業教育について考察する。	〔事前学習〕高度経済成長中期の学習指導要領と商業教育について研究させる。
10	高度経済成長後期の日本経済と社会的背景	高度経済成長後期（いざなぎ景気）と教育の現代化に向かう社会的背景について考察する。	〔事前学習〕教育の現代化に向かう社会的背景について研究させる。
11	高度経済成長後期の学習指導要領と商業教育（昭和 45 年）	高度経済成長後期の学習指導要領と商業教育について考察する。	〔事前学習〕「４６答申」の経緯とその影響について研究させる。
12	国際経済の混乱と日本の高度経済成長の終焉	国際経済の混乱（ブレトン・ウッズ体制の崩壊、オイル・ショック等）と日本の高度経済成長の終焉について考察する。	〔事前学習〕経済成長終焉期と教育の混迷について研究させる。
13	高度経済成長終焉期と教育の混迷	高度経済成長の歪み(公害、教育現場の混乱)と教育の転換について考察する。	〔事前学習〕経済成長終焉期と教育の混迷について研究させる。
14	高度経済成長終焉期の学習指導要領と商業教育（(昭和 53 年）	高度経済成長終焉期の学習指導要領と教育の混迷について思考し、どのように教育が転換したかを考察する。	〔事前学習〕経済成長終焉期と教育の混迷について研究させる。
15	教育転換期の社会的背景	国際社会が変動為替相場制に移行し、日本経済が混乱に陥る状況を考察する。	〔事前学習〕変動為替相場制の移行と日本経済の混乱について研究させる。
16	教育転換期の学習指導要領と商業教育(平成元年)	教育の転換期の学習指導要領と商業教育について考察する。	〔事前学習〕ゆとり教育が必要とされた要因について研究させる。
17	社会主義国家の崩壊と国際社会の混乱	国際社会の混乱（社会主義国家の崩壊）と日本国内の混乱について考察する。	〔事前学習〕国際社会の混乱と日本国内の混乱について研究させる。
18	バブル経済の崩壊と新しい教育への転換	バブル経済の崩壊と日本社会の混乱、教育の混迷について考察する。	〔事前学習〕日本社会の混乱と教育の混迷について研究させる。
19	ゆとり教育期の学習指導要領と商業教育（平成 11 年）	ゆとり教育期の学習指導要領と商業教育について考察する。	〔事前学習〕総合的な学習の時間と商業教育について研究させる。
20	新学習指導要領改訂のねらい	新学習指導要領改訂の趣旨と目的について考察する。	〔事前学習〕新学習指導要領改訂の趣旨と目的について研究させる。
21	「確かな学力」育成のための工夫	新学習指導要領改善点と「確かな学力」育成のための工夫について考察する。	〔事前学習〕新学習指導要領改善点と「確かな学力」育成のための工夫について研究

				させる。
	22	新学習指導要領と商業教育（平成 21 年）	新学習指導要領と商業教育について考察する。	〔事前学習〕新学習指導要領と商業教育について研究させる。
	23	「教育の現代的課題の分析	現代の教育的課題を協議させ、問題行動について考察する。	〔事前学習〕各自の経験に基づいた教育的課題について研究させる。
	24	人格形成と自立に向けた教育手法	人格形成と自立に向けた教育手法について考察する。	〔事前学習〕発達段階と自立について研究させる。
	25	アイデンティティの確立	心理社会的発達理論分析により、教育の大切さを考察する。	第 25 回 〔事前学習〕学生自身のアイデンティティの確立について研究させる。
	26	意欲を高めるための学習環境	脳科学による行動分析により、学習環境の大切さを考察する。	〔事前学習〕よい学習環境をどうつくるのかを研究させる。
	27	商業教育研究	商業教育研究成果のプレゼンテーションを行う。	〔事前学習〕インターネットを活用して、商業高校の教育課程や新しい取り組み等を研究させる。
	28	教材研究	模擬授業を行う科目の教材研究を行う。	〔事前学習〕模擬授業科目について教材研究させる。
	29	学習指導案作成	模擬授業の学習指導案を作成する。	〔事前学習〕模擬授業のための、板書、授業展開について研究させる。
	30	模擬授業	模擬授業と評価を行う。	模擬授業後に、お互いに評価をさせることにより、授業の取り組み方や教育姿勢について考察させる。

関連科目	経営学部や経営情報学部の専門科目は、商業科の専門科目として活かす魅力がある。 例えば、簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておこう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	商業科教育法　学習指導要領の変遷～国際経済といかに関わるか	河合　隆廣	
2	アイデンティティ	河合　隆廣	
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説　　商業編	文部科学省	
2			

評価方法（基準）	小テスト・レポート 40% 、 授業への参加度（学習意欲、発表等） 60%とし、 総合的に判断して評価します。
学生へのメッセージ	教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定２級程度の問題が出題されるので、在学中に取得してください。
担当者の研究室等	連絡があれば、経営学部事務室に申し出てください。
備考	

科目名	情報科教育法	科目名（英文）	Instruction Method for Information and Communication Science
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木　紀哉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	高等学校普通教科「情報」の教員免許を取得するために必修となる講義である。「情報科」成立の経緯および教科内容について理解し、情報教育のあり方について、学習目標、指導方法、評価方法などの視点から考え、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、指導案の作成、模擬授業の実施を通して、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	高等学校の共通教科「情報」の目標や授業方法についての理解を深め、授業研究、教材設計、指導計画、評価方法について、ディスカッションや模擬授業などの演習を行いながら、実践的な教育方法を習得する。
授業方法と留意点	テキストおよび配付資料を中心に、プロジェクターを用いて講義を行う。教員免許に関する科目であり、指導案の作成、模擬授業などを行いながら進めるため、無断欠席は厳禁とする。
科目学習の効果（資格）	教科「情報」の免許科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、情報の科学	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
2	新学習指導要領における情報教育	「情報科」とはどのような教科か、情報科について	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
3	教科「情報」の構成	普通教科「情報」の内容構成、専門教科「情報」の内容構成、指導の条件	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
4	普通教科「情報」の指導方法（1）	年間指導計画書の作成、学習目標の明確化	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
5	普通教科「情報」の指導方法（2）	課題分析の方法、進め方	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
6	普通教科「情報」の指導方法（3）	評価の目的と対象、評価対象の具体化	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
7	普通教科「情報」の指導方法（4）	学習課題に応じた評価方法の種類と特徴	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
8	魅力ある授業の展開(1)	学習意欲を高める方法、内発的動機づけと外発的動機づけ	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
9	魅力ある授業の展開(2)	学習者の協同と活動、ワークショップとプロジェクト学習	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
10	魅力ある授業の展開(3)	ICT 活用の実際、授業の記録・分析の方法	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
11	情報教育の実践例（1）	情報とコンピュータの指導法	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
12	情報教育の実践例（2）	アルゴリズムとプログラムの指導法	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
13	情報教育の実践例（3）	モデル化とシミュレーションの指導法	課題に基づいて教材設計を行う 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
14	情報教育の実践例（4）	問題解決の指導法	課題に基づいて教材設計を行う 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
15	前期のまとめ	----------	前期の内容を整理する 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
16	授業構想の検討	学習目標の明確化	次回の内容の予告をする 配付資料の該当箇所を読んでおく
17	模擬授業の展開（1）	教育目標の設定、指定された題材による指導案の作成１	学習指導案を作成する 配付資料の該当箇所を読んでおく
18	模擬授業の展開（2）	評価方法の設定、指定された題材による指導案の作成２	学習指導案を作成する 配付資料の該当箇所を読んでおく
19	模擬授業の展開（3）	学習指導案の説明と修正	学習指導案を修正する 配付資料の該当箇所を読んでおく
20	模擬授業の展開（4）	講義ノート、配付資料の作成１	講義ノート、配付資料の準備をする 配付資料の該当箇所を読んでおく
21	模擬授業の展開（5）	講義ノート、配付資料の作成２	講義ノート、配付資料の準備をする 配付資料の該当箇所を読んでおく
22	模擬授業の展開（6）	講義ノート、配付資料の自己分析・評価	講義ノート、配付資料を見直す 配付資料の該当箇所を読んでおく
23	模擬授業の展開（7）	模擬授業の相互評価	相互評価の結果を振り返る

				配付資料の該当箇所を読んでおく
	24	模擬授業の展開（８）	各自で設定した題材による指導案の作成１	模擬授業の題材を決める 配付資料の該当箇所を読んでおく
	25	模擬授業の展開（９）	各自で設定した題材による指導案の作成２	指導案を作成する 配付資料の該当箇所を読んでおく
	26	模擬授業の展開（１０）	講義ノート、配付資料の作成１	講義ノート、配付資料の準備をする 配付資料の該当箇所を読んでおく
	27	模擬授業の展開（１１）	講義ノート、配付資料の作成２	講義ノート、配付資料を作成する 配付資料の該当箇所を読んでおく
	28	模擬授業の展開（１２）	指導案に基づく模擬授業	模擬授業の準備をする 配付資料の該当箇所を読んでおく
	29	模擬授業の展開（１３）	模擬授業の相互評価	模擬授業の準備をする 配付資料の該当箇所を読んでおく
	30	全体のまとめ	まとめ、これからの教師に求められる授業力	全体の内容を整理しておく

関連科目	情報関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説　情報編	文部科学省	開隆館出版販売
2	情科 302　最新情報の科学	山極隆　監修	実教出版
3	情科 302　最新情報の科学学習ノート	実教出版編修部　編	実教出版

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法 （基準）	レポート課題、授業中の成果物等（30%）、模擬授業（30%）、小テスト（20%）、授業への参加状況（20%）をもとに総合的に評価する。 演習が中心となるため、欠席・遅刻は授業内容や成績評価に影響します。
学生への メッセージ	学習者に対して授業を行うためには、周到な準備が必要になります。目的意識を持ち積極的に講義に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階（栢木准教授室）
備考	必要に応じて資料を配布する場合がある。

科目名	職業指導	科目名（英文）	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	水野　武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　工業）【施行規則に定める科目区分】「職業指導」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果（資格）	工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	本科目のシラバスを熟読すること。
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	職業指導に関する資料を熟読すること。
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	欧米の職業指導に関する資料を熟読すること。
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	日本の産業史に関する資料を熟読すること。
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	日本の戦後の教育改革についての資料を熟読すること。
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	日本型雇用の見通しについて考えること。
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	高卒労働市場に関する資料を熟読すること。
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	職業指導の事例を調査すること。
9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	授業後は自らの労働観を持つようにすること。
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	職業指導領域に関する資料を熟読すること。
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	模擬授業の準備をすること。
14	模擬授業①	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	模擬授業の準備をすること。
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	前期のレポートを提出できるようにすること。
16	オリエンテーション	・後期授業概要の説明	本科目のシラバスを再度熟読すること。
17	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導について	商業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
18	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導について	工業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
19	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	提示する資料を熟読すること。
20	フリーターとニートについて	・グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	フリーター・ニート問題に関する資料を熟読し、ディスカッションできるよう準備すること
21	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	発表の準備をすること。
22	高校生の就業力について	・新規高卒者が求められる就業力について	就業力育成のための企画を考えること。
23	職業適性とは何か	・職業適性、各種アセスメントについて	自らの適性の活かし方を考えること。
24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	配布資料を精読すること。
25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来においての働き方を考える	配布資料を精読すること。
26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	発表の準備をすること。
27	就業力向上企画を立案②	・２６回目で考えた内容を発表する	発表の準備をすること。
28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	配布資料を精読するおと。
29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	配布資料を資料を精読すること。
30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	自らの労働観について考えること。

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 また、前期最終時に中間レポートを実施します。
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室（水野）
備考	

科目名	職業指導Ⅰ	科目名（英文）	Vocational Guidance Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】職業指導　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	本科目のシラバスを熟読すること。
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	職業指導に関する資料を熟読すること。
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	欧米の職業指導に関する資料を熟読すること。
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	日本の産業史に関する資料を熟読すること。
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	日本の戦後の教育改革についての資料を熟読すること。
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	日本型雇用の見通しについて考えること。
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	高卒労働市場に関する資料を熟読すること。
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	職業指導の事例を調査すること。
9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	授業後は自らの労働観を持つようにすること。
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	職業指導領域に関する資料を熟読すること。
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	模擬授業の準備をすること。
14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	模擬授業の準備をすること。
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	レポート提出の準備をすること。

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 また、前期最終時にレポートを実施します。
学生へのメッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室（水野）
備考	

科目名	職業指導Ⅱ	科目名（英文）	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　商業）　【施行規則に定める科目区分】職業指導　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明	本科目のシラバスを熟読すること。
2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	商業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	工業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	・提示する資料を熟読すること。
5	フリーターとニートについて	グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	フリーター・ニート問題に関する資料を熟読し、発表できるよう準備
6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	発表の準備をすること。
7	高校生の就業力について	・新規高卒者に求められる基本的な能力	就業力育成のための企画を考えること。
8	職業適性とは何か	・職業適性、アセスメントについて	自らの適性の活かし方について考えること。
9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	配布資料を精読すること。
10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	配布資料を精読すること。
11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	・発表の準備をすること。
12	就業力向上計画立案②	１１回目で考えた内容を発表する	・発表の準備をすること。
13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	配布資料を精読すること。
14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	配布資料を熟読すること。
15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	自らの労働観について考えること。

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。
学生へのメッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室（水野）
備考	

科目名	生徒指導論	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counceling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・生徒指導の理論及び方法　・進路指導の理論及び方法【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐってのディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要・「未来ポートフォリオ」の使用について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	「未来ポートフォリオ」のリマインダ設定 テキスト pp. 3-10
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論（１）	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論（２）	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方（１）	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方（２）	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方（３）	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	中間試験	これまでの授業内容についての試験	前回までの復習
9	学級経営の進め方（１）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
10	学級経営の進め方（２）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
11	学級経営の進め方（３）	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
12	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
13	進路指導の意義と課題	進路指導の意義と課題 進路指導に関する諸理論	テキスト pp. 135-159
14	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井眞治・熊谷信順編	ミネルヴァ書房
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1		適宜指示します。	
2			
3			

評価方法（基準）	中間試験、定期試験の得点の他、レポートの内容、受講に係る積極的態度により、総合的に成績を判定します。定期試験を受験しなかった場合、成績判定はしません。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7号館3階　朝日研究室
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしましょう。

科目名	道徳教育の研究	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　裕樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・道徳の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】必修　　【科目】教科又は教職に関する科目（高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教科又は教職に関する科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	この授業では、日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道徳教育の歴史、道徳教育の内容を構成する諸概念、道徳性の発達理論、等）について解説を加えたうえで、実際に学校でどのように道徳教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付けながら、道徳教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳教育をどのように考えるか	①現在、道徳教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②読み物教材の分析を通して、道徳教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道徳教育がどのようなものだったか思い出しておく。
2	日本の道徳教育の歴史①：戦前の道徳教育	①明治から昭和初期にかけての道徳教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道徳教育の歴史②：戦後の道徳教育	道徳教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きとについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道徳教育の歴史的変遷を整理する。
4	日本の道徳教育の歴史③：現代の道徳教育	①近年の道徳教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道徳教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道徳教育	①諸外国の道徳教育の状況について概観する。 ②諸外国の道徳教育を事例として、道徳教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道徳教育と自分の受けてきた道徳教育とを比較検討し、共通点と相違点とを整理する。
6	道徳教育の内容①：自我	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」（＝「私」）について道徳教育の視点から考える。	普段の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道徳教育の内容②：他者	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として他の人とのかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「他者」との関わりのなかで「私」を捉え直す。	普段の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道徳教育の内容③：自然	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育（とりわけ「いのちの教育」）の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践例について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道徳教育の内容④：美と崇高	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育をいわゆる「情操教育」との関わりのなかで考える。	自分が受けてきた「情操教育」について思い出しておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」の可能性について再考する。
10	道徳教育の内容⑤：社会	①学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会とのかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「社会」との関わりのなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲に生じた「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道徳性の発達	①コールバーグおよびギリガンによる道徳性の発達理論を検討する。 ②道徳性の発達理論を応用したいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道徳の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道徳教育の位置づけを確認する。 ②教科教育のなかで行われた道徳教育の実践例をもとに、道徳教育の幅広い可能性について考える。	各教科教育と道徳教育との関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道徳教育の「要」とされている「道徳の時間」の位置づけについ	授業時に指示する。

			て考える。 ②「道徳の時間」を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。	
	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳の時間」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説：道徳編	文部科学省	日本文教出版
2	その他の参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。		
3			

評価方法 （基準）	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館３階(小山研究室)
備考	

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林　茂樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・特別活動の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	(1)学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事についての指導目標や内容に関する基礎的・基本的な知識を整理する。(2)学校現場では、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割をも果たしていることについて理解を深める。(3)「学級づくり」に焦点をあてて、教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくりが課題の解決にどのように作用しているかについて、事例をもとに考察する。
到達目標	学級担任として、集団活動を育て、教育諸課題に対応するとともに、安心して学校生活を送ることができる学級をつくる実践的な方法を身に付ける。
授業方法と留意点	テキストやプリント教材、視聴覚教材をもとに講義をすすめる予定である。特別活動は「自主的実践的な態度を育む場づくり」を目標とし、「為すことによって学ぶ」スタイルが求められている。そのことを踏まえ、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」の充実を図るために、グループワークやグループ討議への積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 特別活動の意義と課題	特別活動とは何か、特別活動の教育的意義、社会の変貌と子どもたちの状況、学級担任の役割	教科書第1章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
2	特別活動と学級づくり	学級づくりとは何か、なぜ学級づくりなのか、「いじめ」「子どもの荒れ」「学級崩壊」「進路の壁」について	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	特別活動の歴史、領域、方法	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
4	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
5	学級活動	学級活動の目標・内容、年間計画、課題、実践的手法	教科書第4章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	生徒会・学校行事	生徒会活動の歴史・目標・内容、学校行事の歴史・種類・内容・観点	教科書第5・6章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
7	学習指導要領における位置づけと改定の要点	教育課程における位置づけ、現行学習指導要領における課題、改定の要点、言語能力の重視について	教科書資料編をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
8	特別活動の評価	評価の対象、機能、方法、評価結果の活用	配布プリントをよく読んでおく。
9	特別活動と総合的な学習の時間・道徳教育	総合的な学習の時間・道徳教育との関連とそれぞれの教育的意義	教科書第7・8章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
10	特別活動と教育課題①いじめ・不登校	事例をもとにグループワーク、グループ討議を行う。	当該教育課題に関する報道内容等をチェックしておく。ミニレポートを作成し提出する。
11	特別活動と教育課題②体罰・非行	同上	同上
12	特別活動と教育課題③ジェンダー・マイノリティ	同上	同上
13	特別活動と教育課題④キャリア教育・進路選択支援	同上	同上
14	指導計画・指導案の作成	全体計画・年間指導計画の作成と内容の取り扱い、配慮事項等、指導案の作成	配布プリントをよく読んでおく
15	まとめ～子どもの自尊感情を高めるということ	集団的な自尊感情を育むことの重要性について	全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の特別活動	相原次男・新富康央・南本長穂	ミネルヴァ書房
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	担任力をみがく！	磯野雅治	雲母書房
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(50%)、レポート(30%)、コメントペーパー及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。
担当者の研究室等	7号館3階(林研究室)
備考	